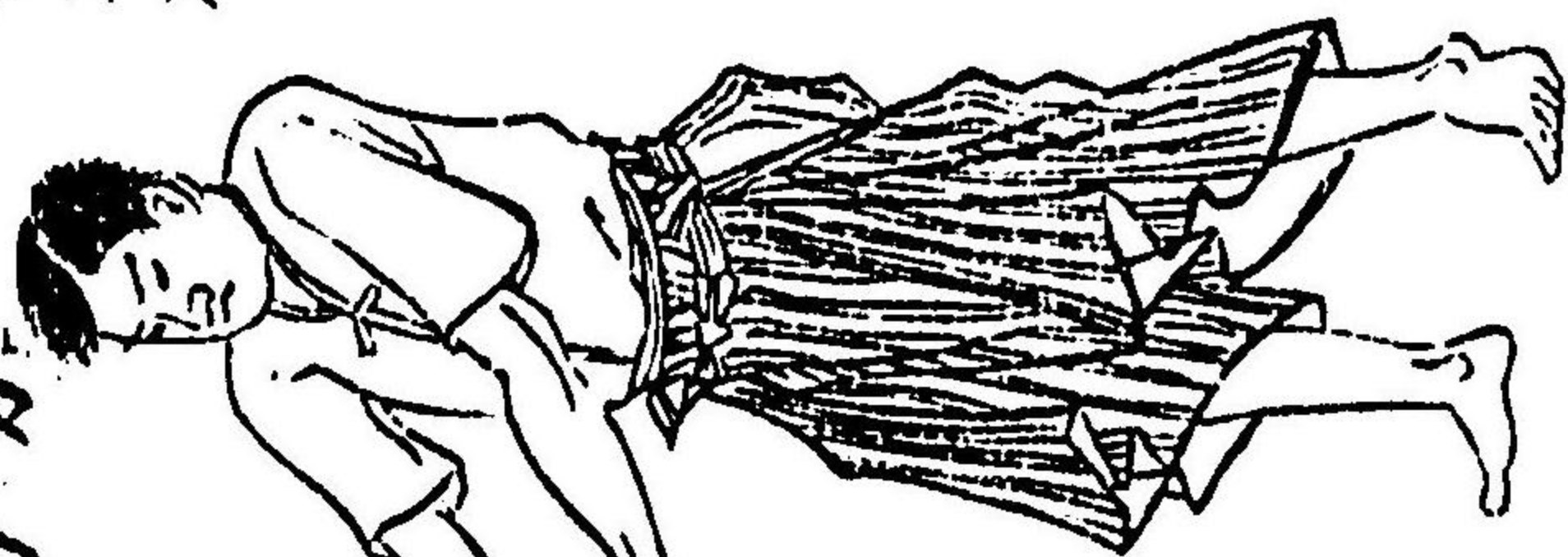


鐵破進退 三本目 第三圖

仕太刀



打太刀
仕太刀
進み来
て相精眼
を付るを
氣合ふて
竹刀先を
ぐひと押
は此業ハ
非を入る
ともサレ
ともいふ
也

仕太刀ハ打太刀
からひと竹刀先
を押しより早く
上段を取り直し
打太刀の面上を
打てば第三圖の
姿勢に至る

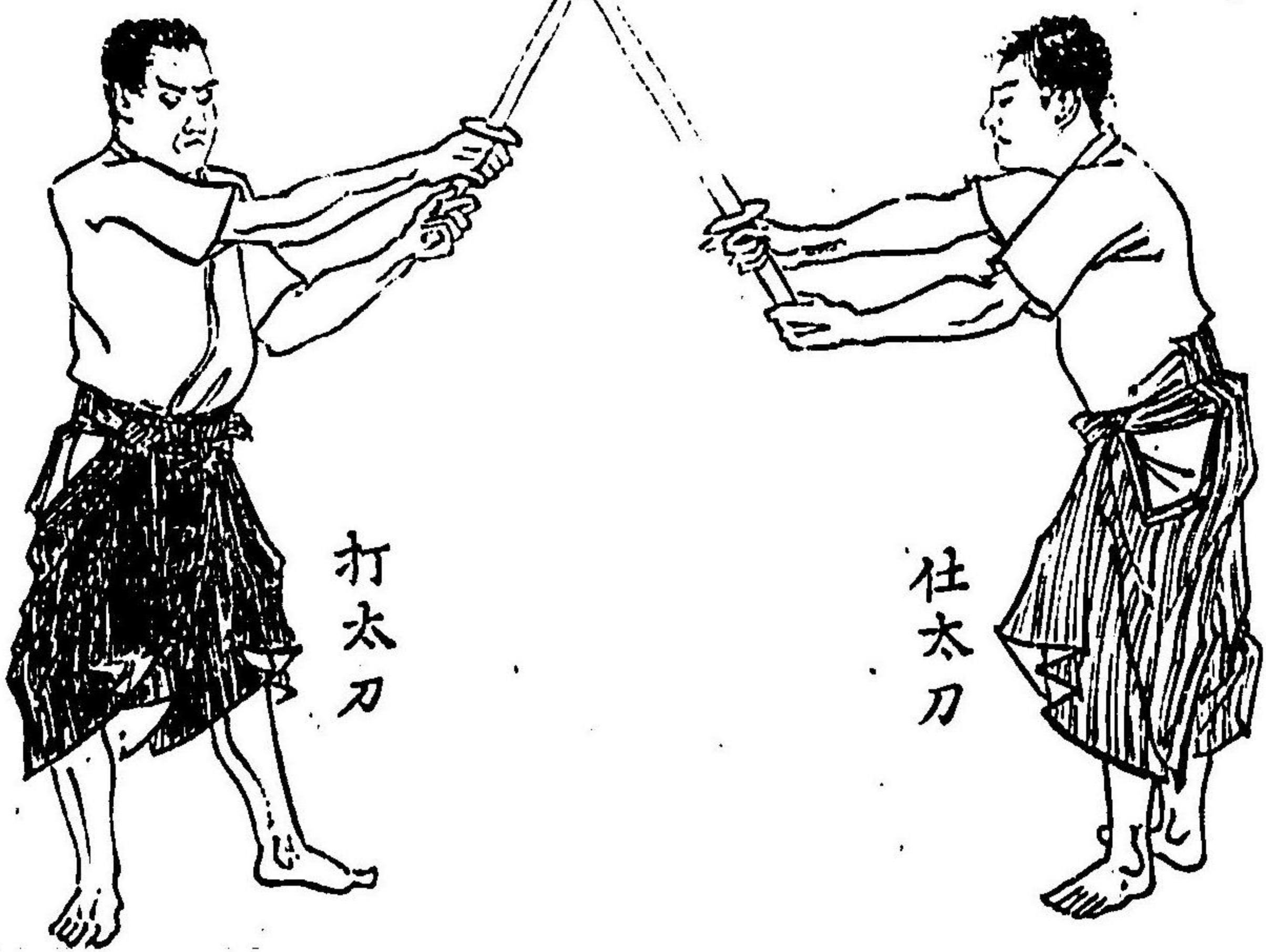
打太刀



鐵破進退 三本目 第三圖

仕太刀ハ(エイ)と聲掛け面
上も目掛け竹刀を打出し
左りの足を後へ引おろし上
段を取る

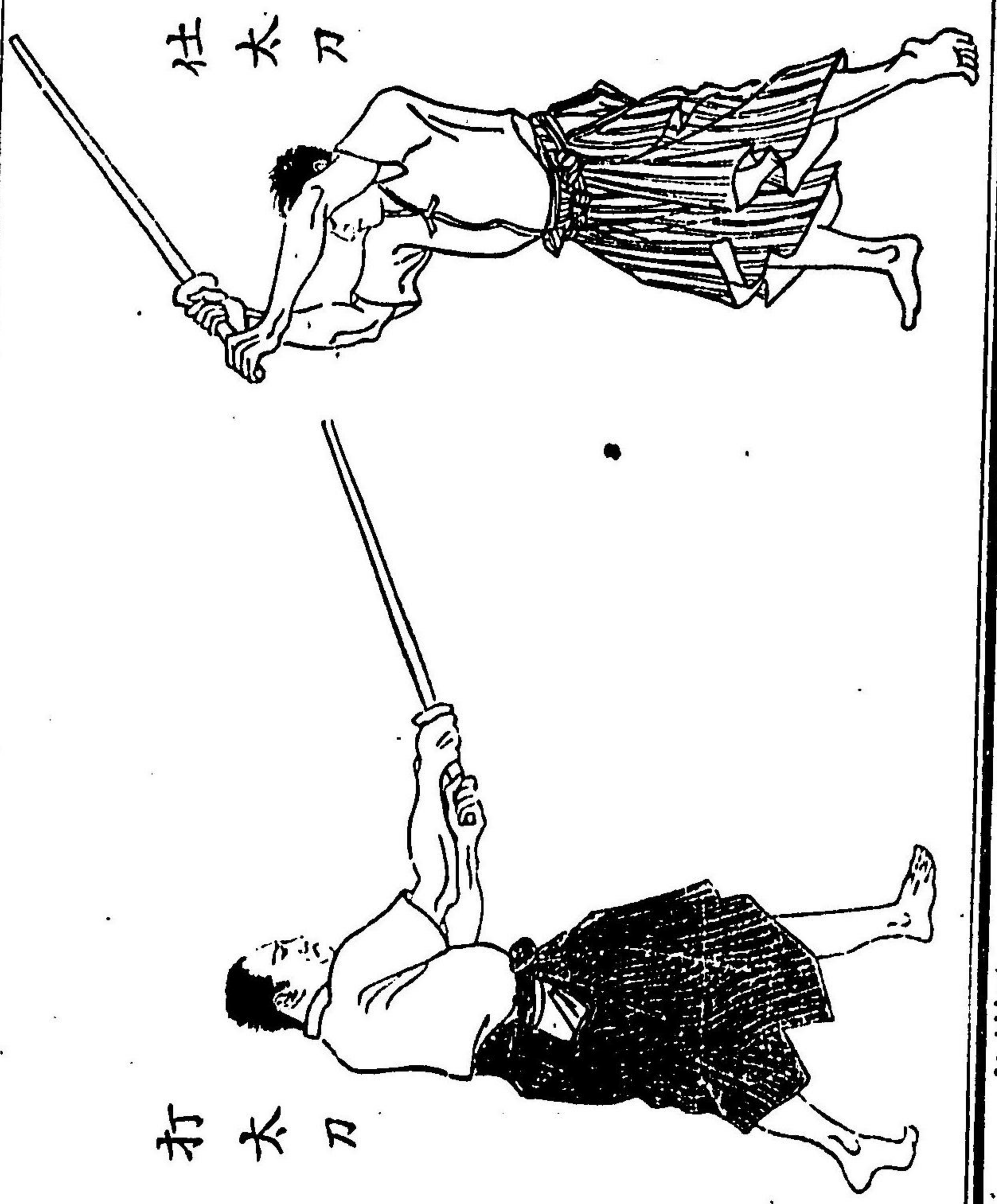
打太刀ハ仕太刀の竹刀を止め
る仕太刀が上段を取ると同時
に右の足を踏込み精眼を付
れハ打太刀の仕太刀の第四圖
の姿勢に至る



打太刀

仕太刀

鐵破進退三本目第四圖



打太刀

仕太刀

鐵破進退三本目第五圖



仕太刀

打太刀

仕太刀

は上段

又取り

みる竹

刀を右

の足を

左に比

足へ引

付おが

ら精眼

一脚す

此時打

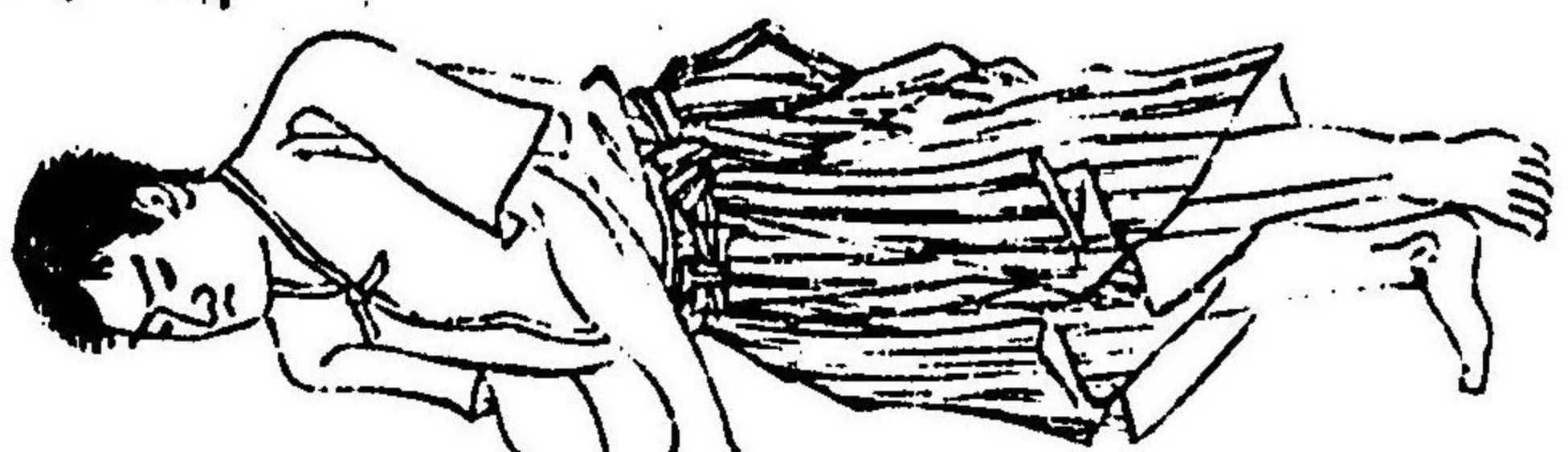
太刀ハ

右の足

を左に

へ引付る事

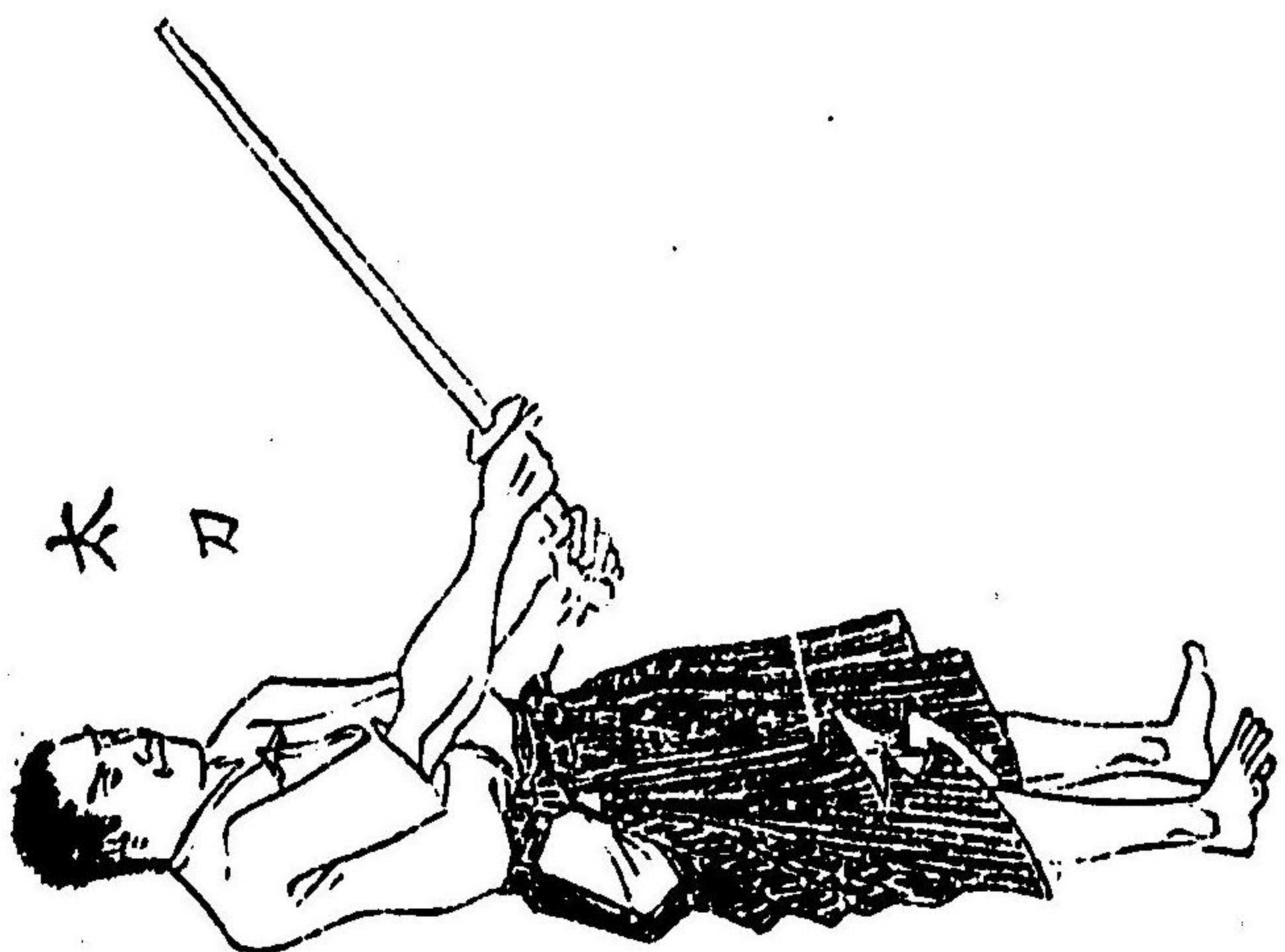
とあり、場合よみて、左の足を右へ寄る事
とあり、打太刀に能く場合を計るゝあり



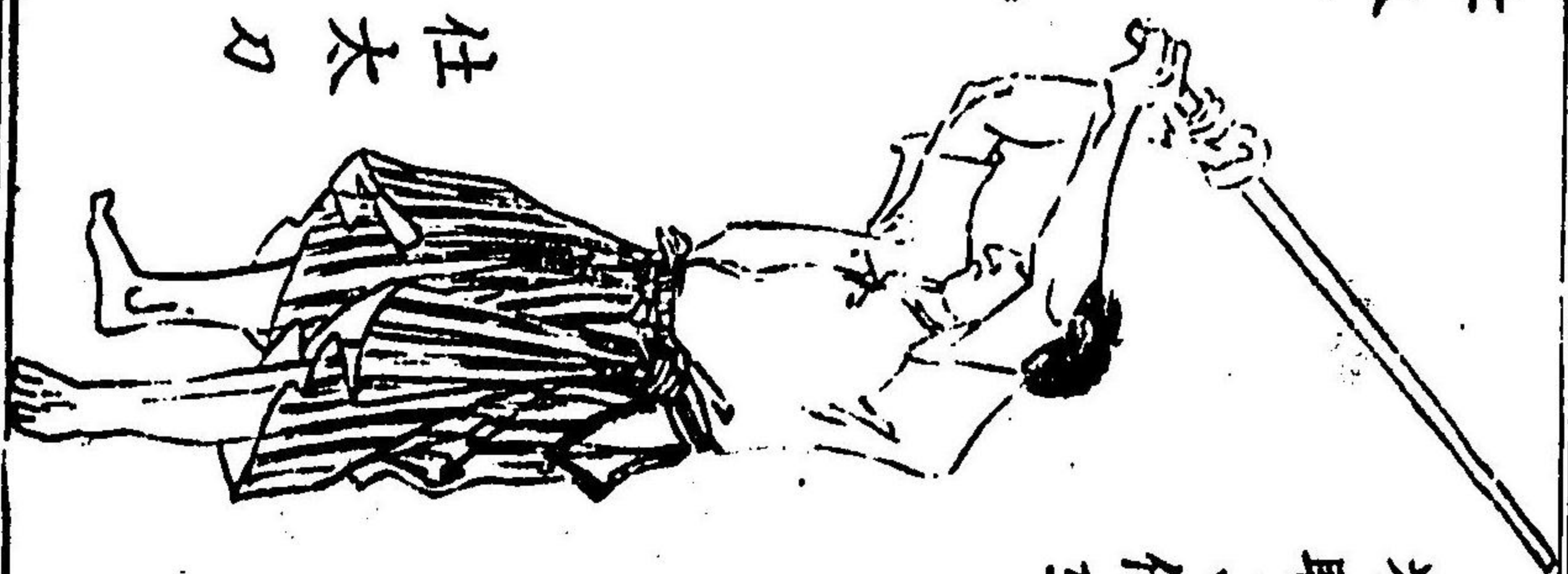
仕太刀

鐵破進退

三本目
第六圖



打太刀



仕太刀



打太刀

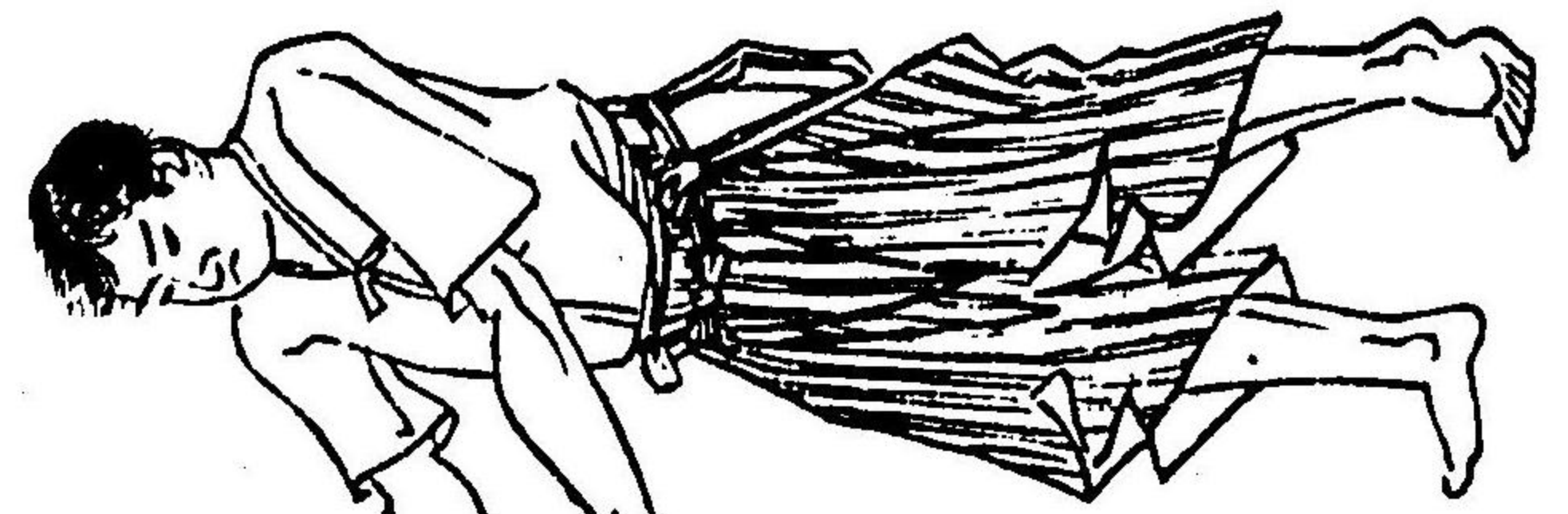
鐵破進退四本目第一圖

打太刀ハ右の足を少し踏出一竹刀を
精眼を付る

仕太刀ハ
竹刀を上
段を取り
右左に右
と三足踏
込へ相精
眼を付る
と第二圖
の姿勢カ
至る

鐵破進退四本目第二圖

仕太刀

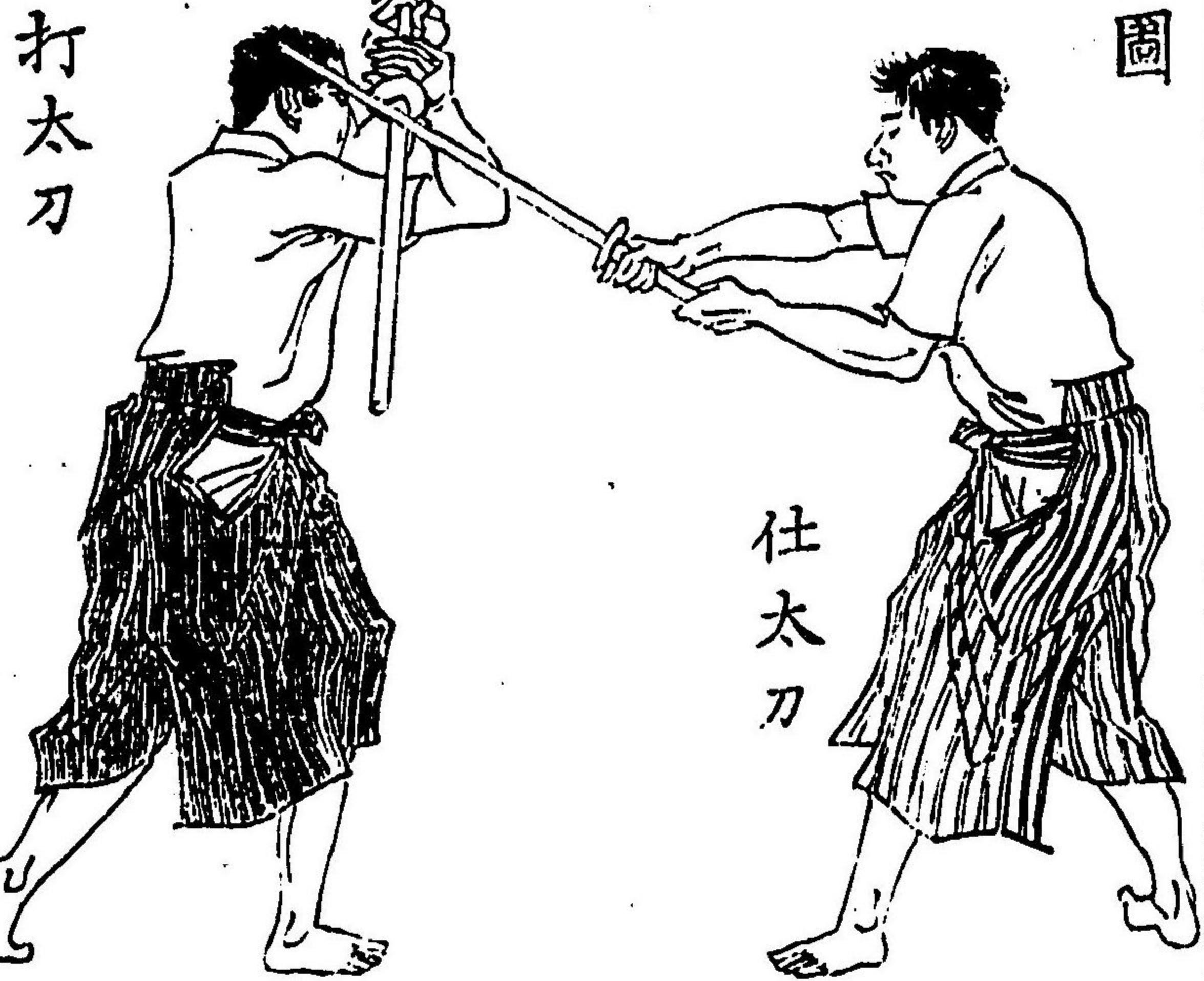


打太刀の相精竹の眼を上に取らんとするは仕太刀の左足を踏込らる竹刀の鐮ぎを押へる也

打太刀

鐵破進退四本目第三圖

打太刀ハ左りの足を
左りへ寄せあつら押
らぬ竹刀投きハ
ヤエと聲かけ仕太
刀の面を打ては第
四圖の姿勢に至る



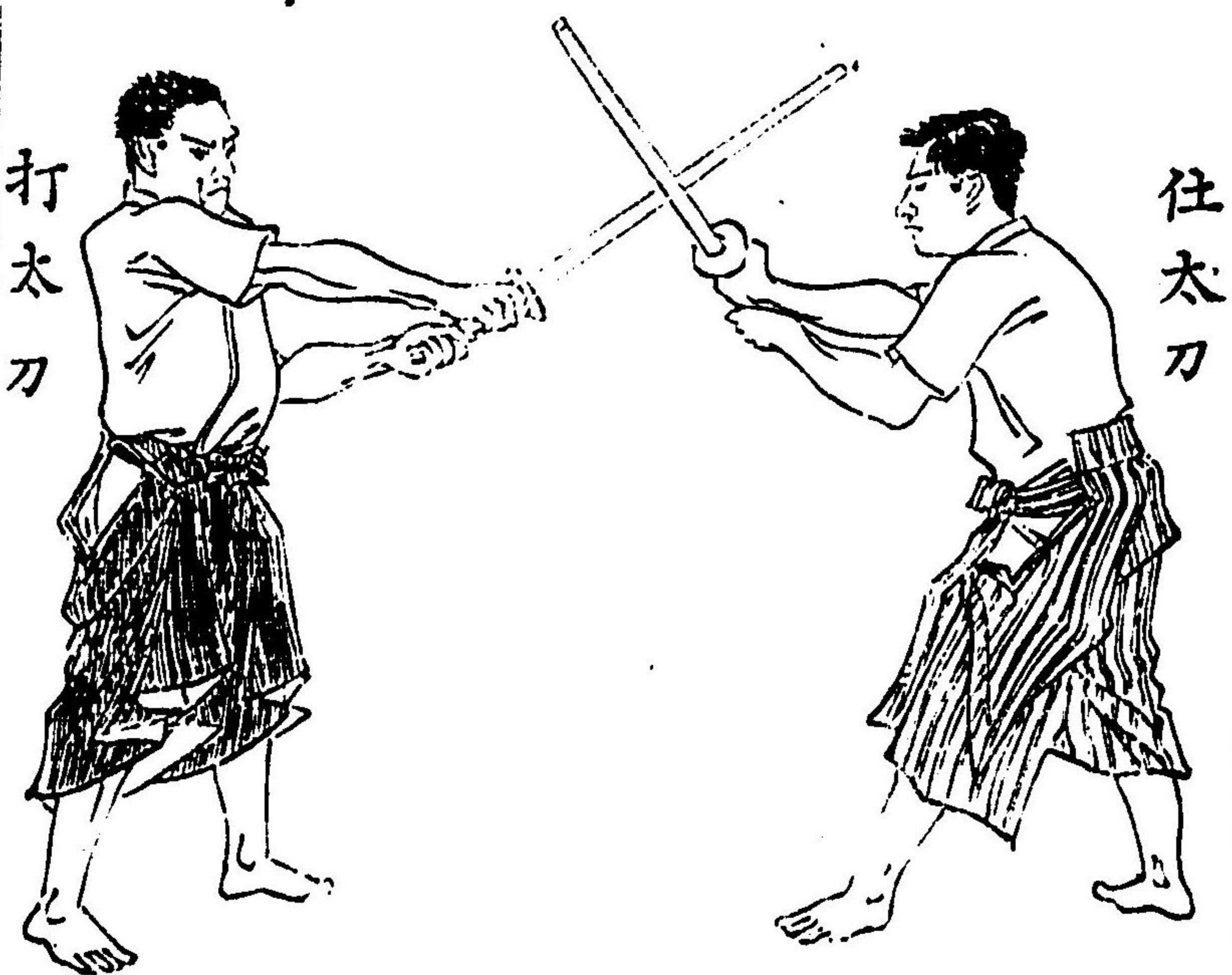
打太刀

仕太刀

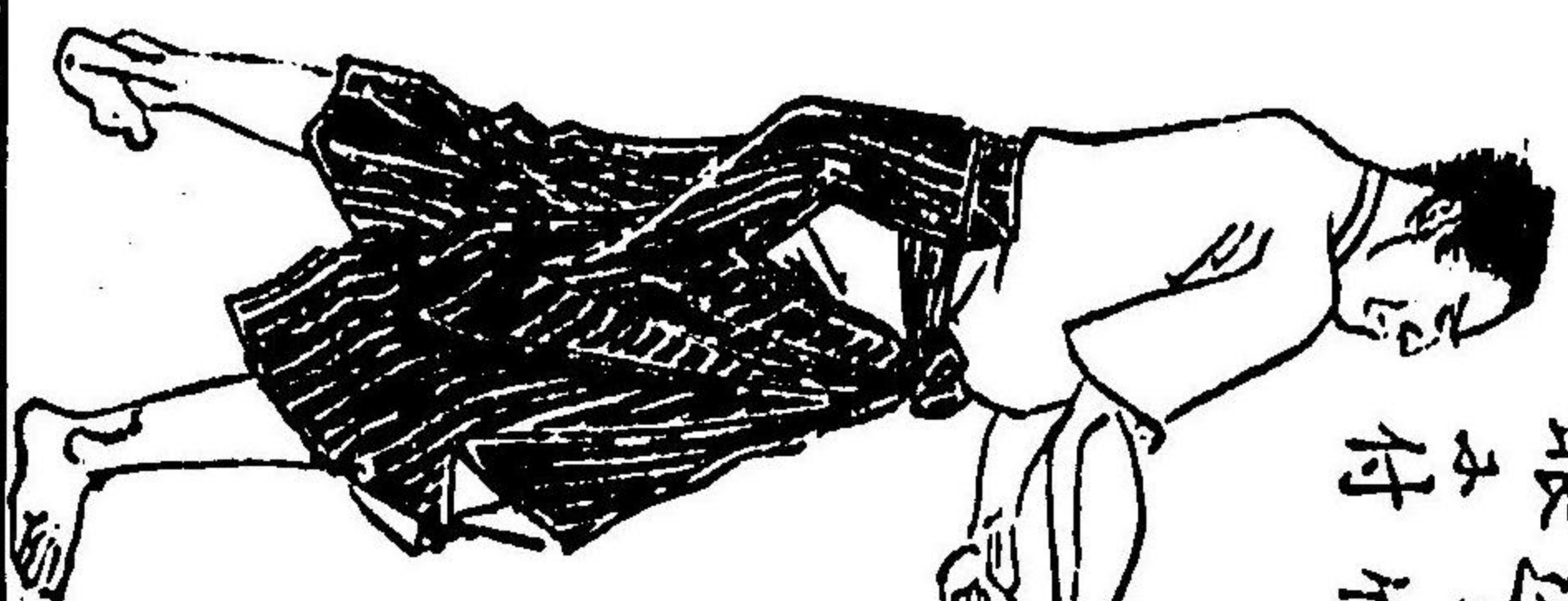
鐵破進退

四本目第四圖

仕太刀ハ打太刀
ガ打つ竹刀をハ
ヤツ」と止め直
是を（エイ）と聲
うけ打返し左
の足を後へ引
から上段又取れ
第五圖の姿勢
至る

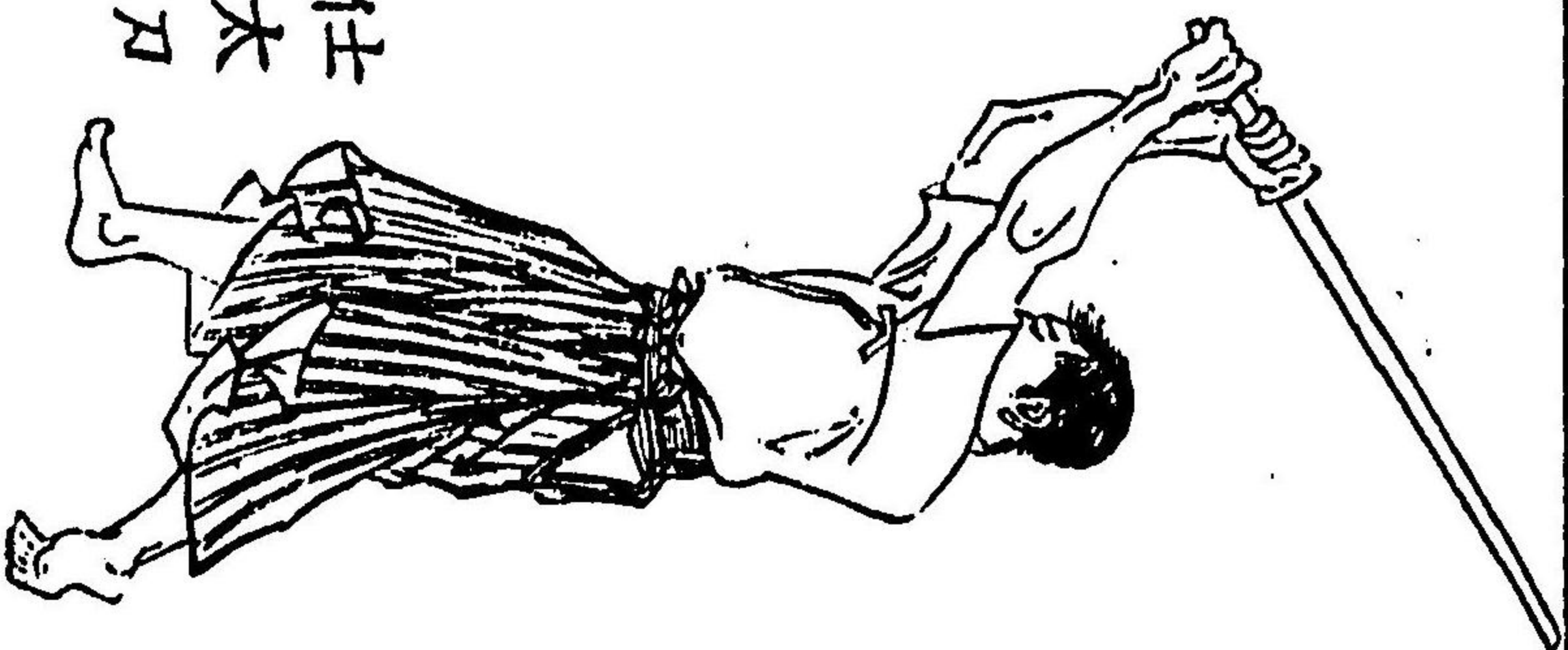


打太刀



打太刀ハ仕太
刀が上段又取
ると同時に右
足を踏込竹
刀を精眼ヲ付
る

仕太刀



鐵破進退
四本目第五圖

鐵破進退四本目第六圖



仕太刀

へ右の

足ま左

りへ引

付ちが

ら竹刀

を精眼

み卸す

打太刀

へ場合

を見て

右足を

へ左り

へ引り

付又

へ左の足を右足へ揃へて

相精眼は付る

仕太刀

打太刀

鐵破進退四本目第七圖終



打太刀

と直る

元の位置

仕太刀

打太刀

仕太刀

松風左右左ノ一本目

打太刀ハ精眼の構
 たり左りの足を踏
 込ニ半身ハ成りて
 圖の如ク竹刀を頭
 上ハ揚る是を猿
 回の構と云

仕太刀ハ打太刀
 が後回ハ構ゆる
 と同時ハ上段ハ
 取り右左り右と
 三足踏込ニ竹刀



仕太刀

を精眼ハ付直ハ是
 を逆斜ハ返せば圖
 の如クの姿勢カ至
 3

此形の名ハ禪坊語
 ハ秋風琴といふ事

有リ此意を取リて

名ト一たる也譬ハ夜更ニ松の大樹の下ハイ梢をうか
 ぐハば木々の木の葉ハ動ラぬ程の風ハふき時といへども必ず
 松風の音ありて少しハ透間ホキ處を己ガ心ハ持テ勝負
 せよといふことを教へざる業ニ則此第一圖の仕太刀の姿
 勢ガ松風の心也



打太刀

松風 左右 左ノ一本目 第二圖

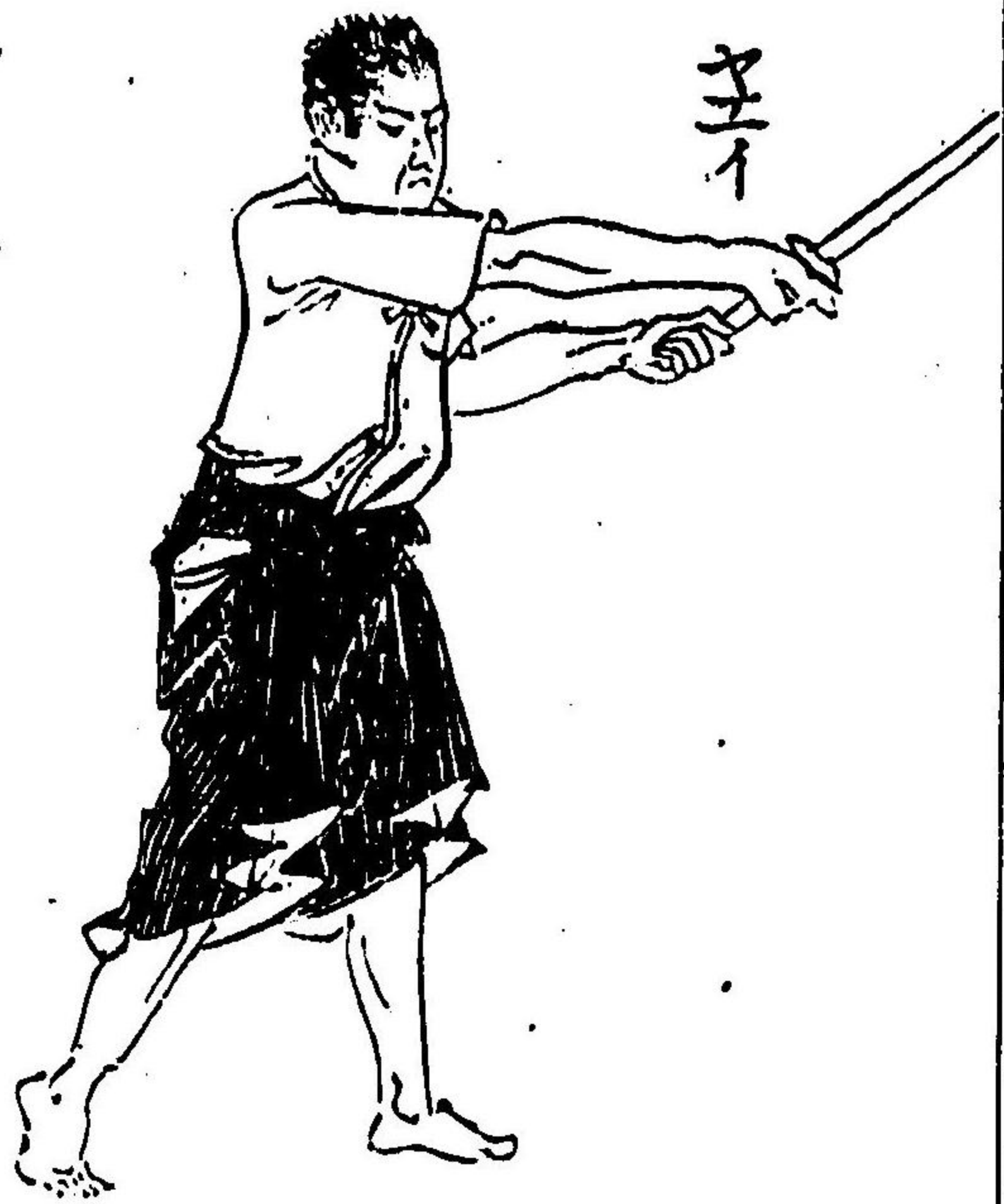
打太刀ハ右の足を左りの足の處迄踏込是と踏違ひふ左り此足を引ながら仕太刀の面上を（ヤエイ）と聲掛けながら打

仕太刀

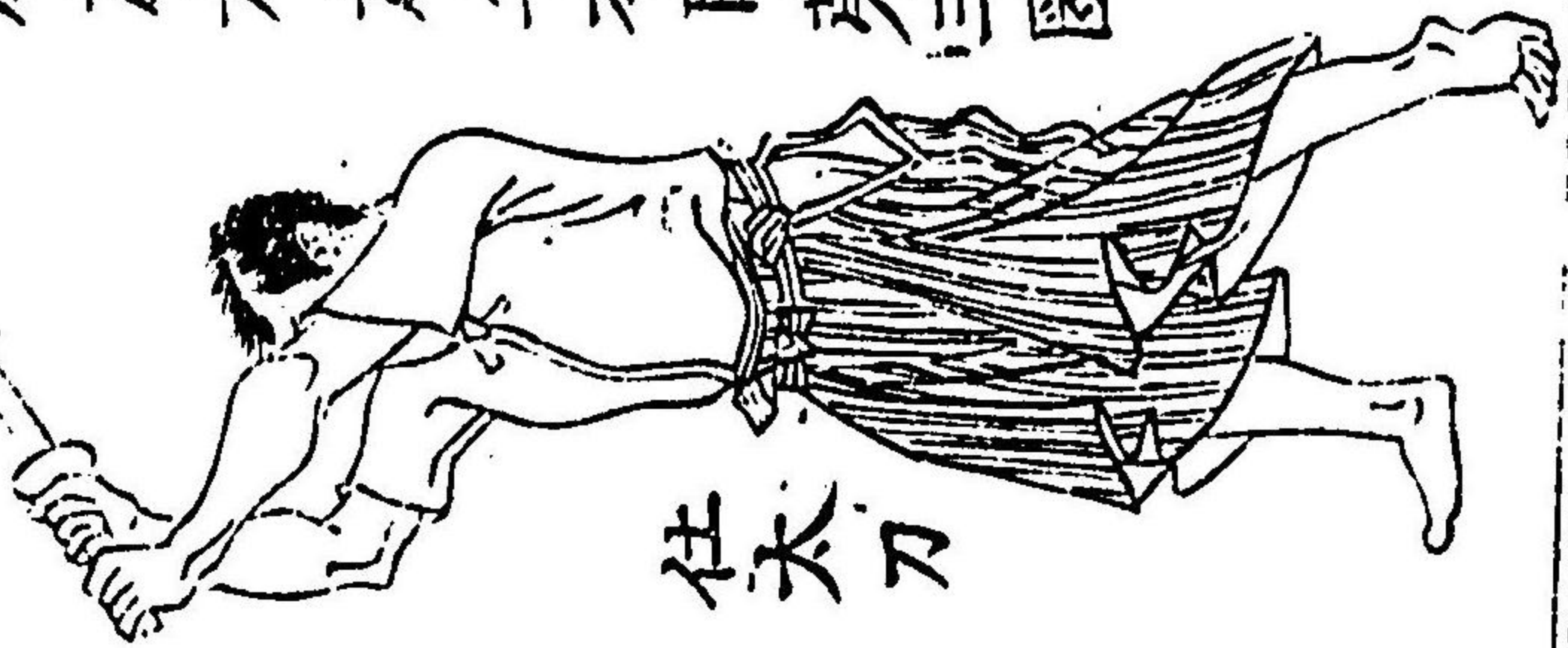


仕太刀ハ打太刀が面上を打来るを右りの足を踏込ながら後の先を打太刀の面へ打込は圖の如く姿勢み至る

打太刀



松風左右左一本目第三圖



仕太刀

打太刀ハ圖の如

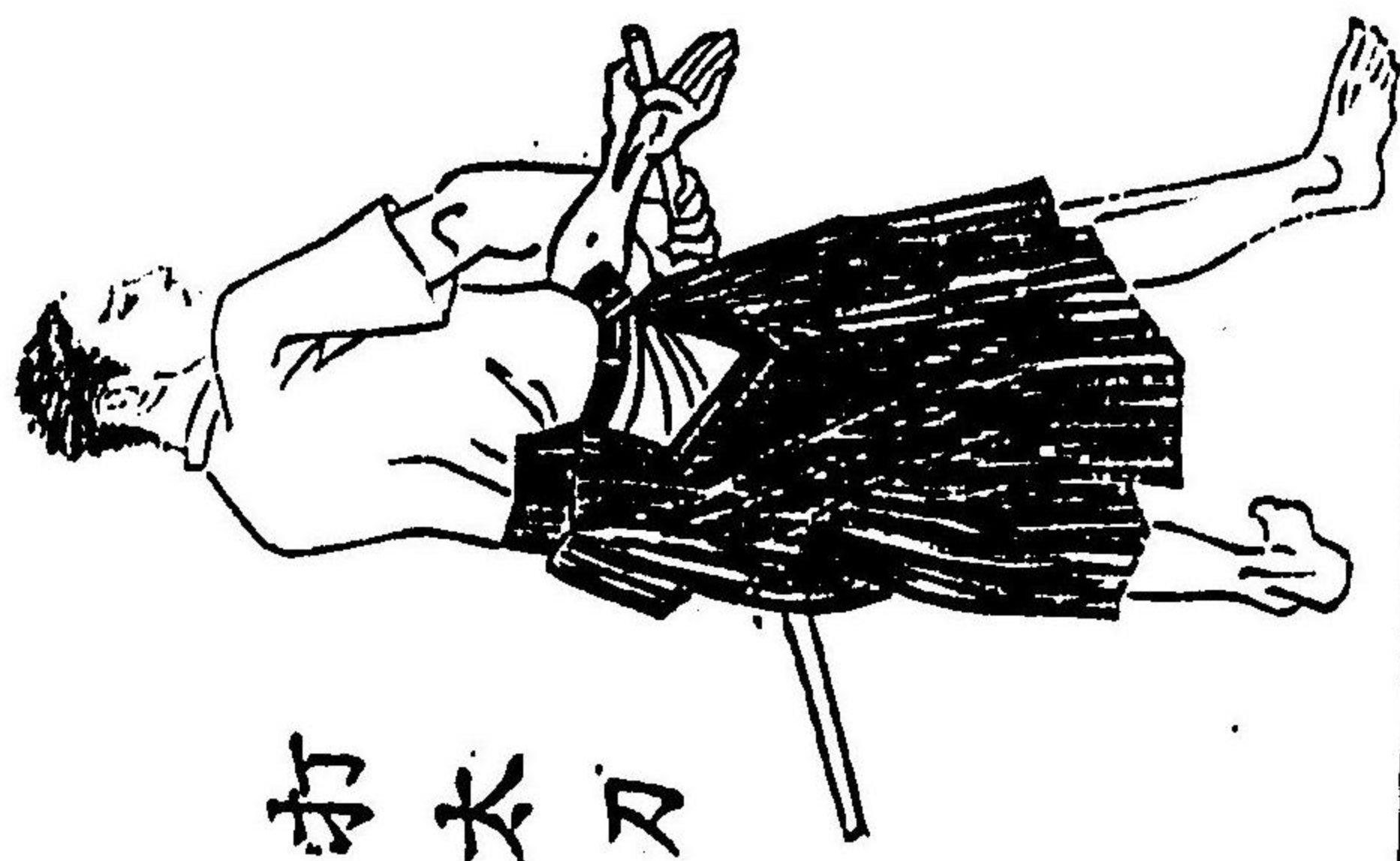
く逆斜引

仕太刀ハ右の足

を踏込ながら圖

の如く上段を取

る



打太刀

松風左一本目第五圖

打太刀ハ仕太刀比左りの甲手

を右手

仕太刀

にて下

に切り

り上る

仕太刀

ハ打太刀

カが左

りの甲

手を切る

り来る

を上段

と聲

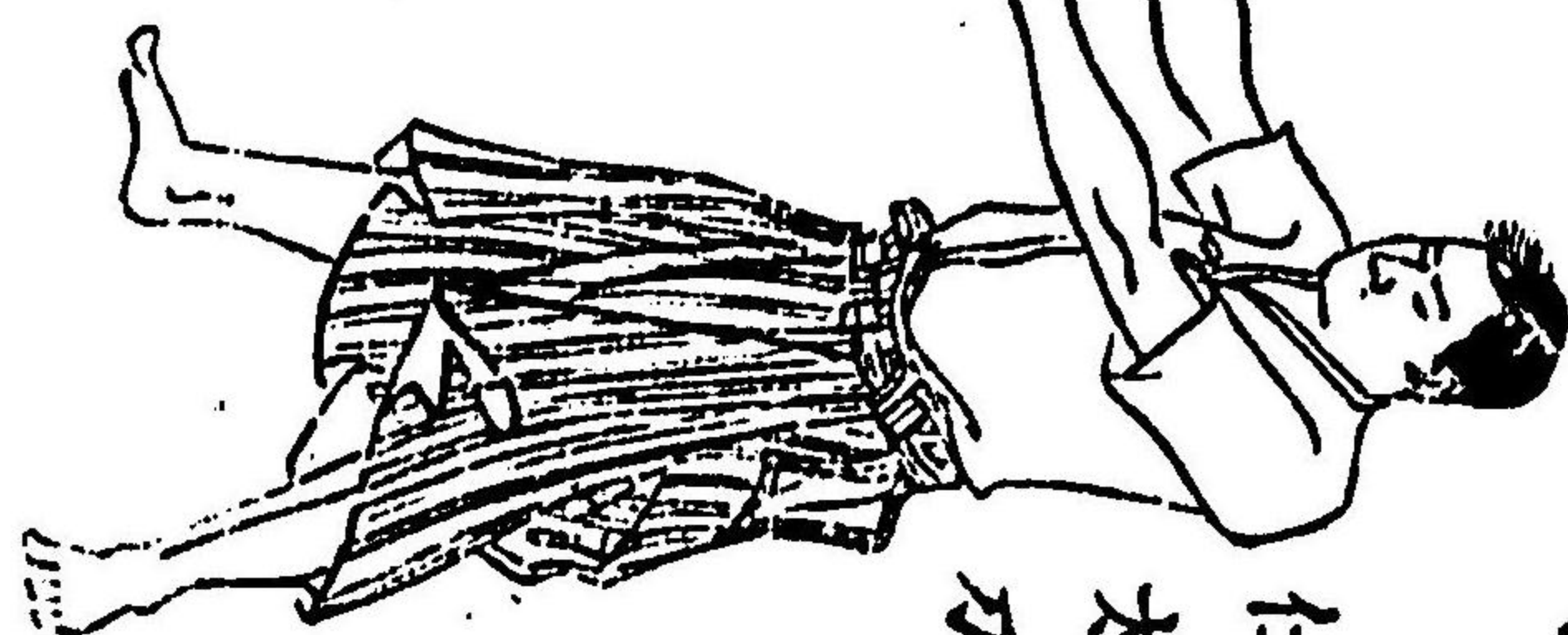
掛け切り

落し左りの

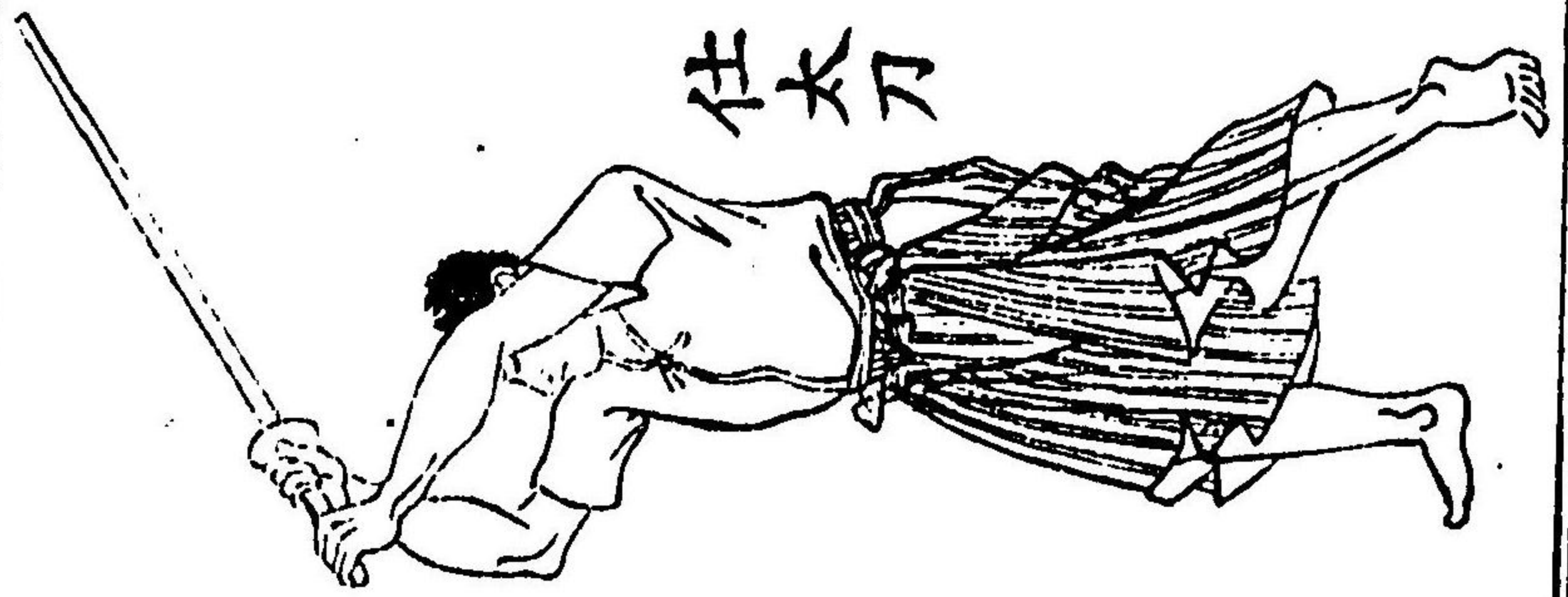
打太刀

足を後へ引ながら又上段に毀れハ第

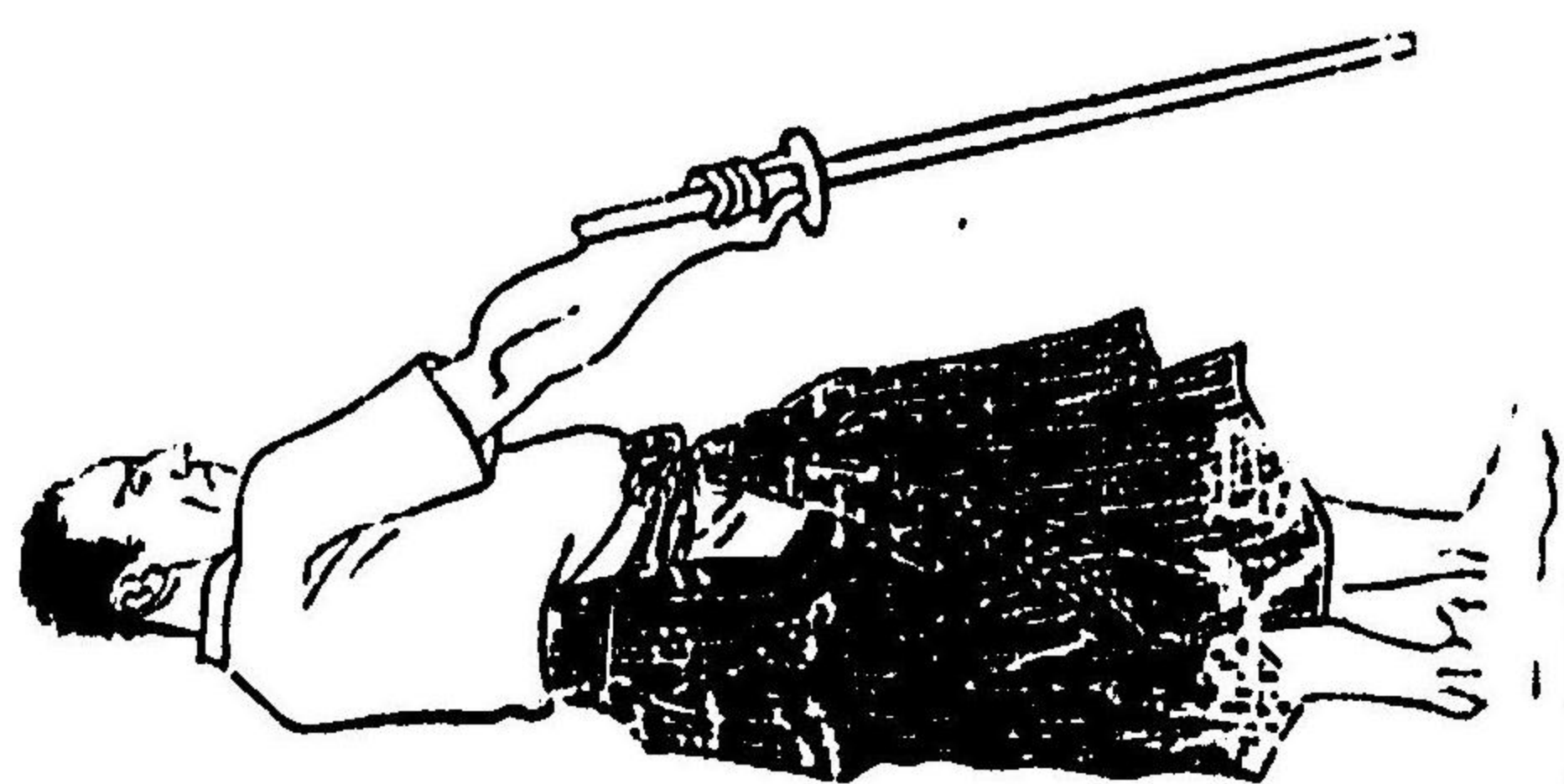
六圖の姿勢小至る



松風左、一本目第六圖

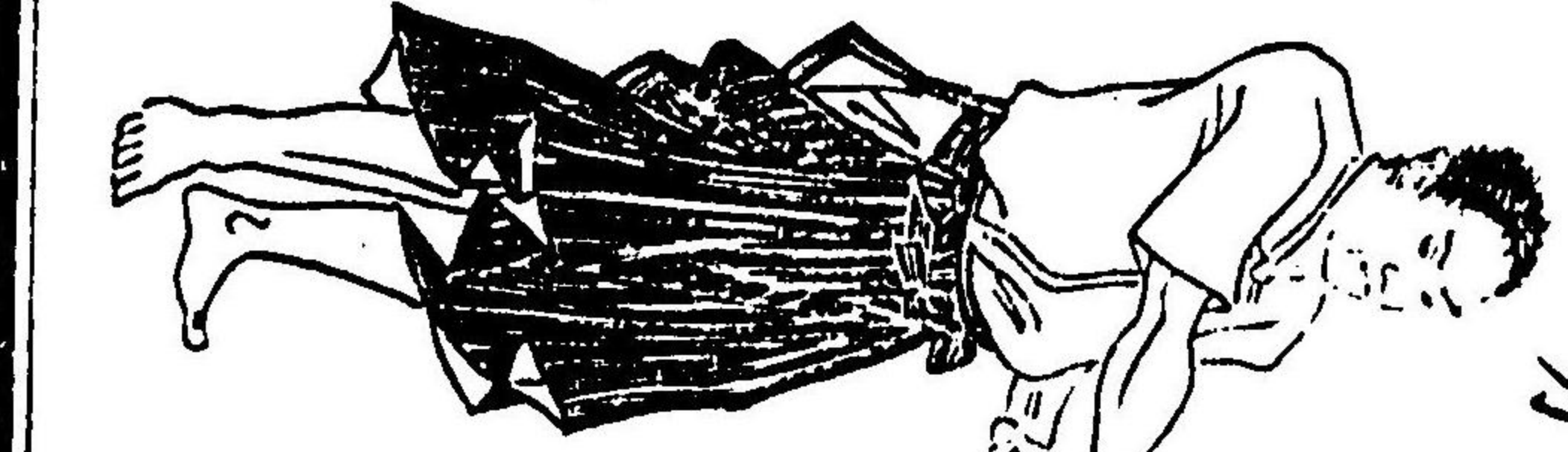


仕太刀



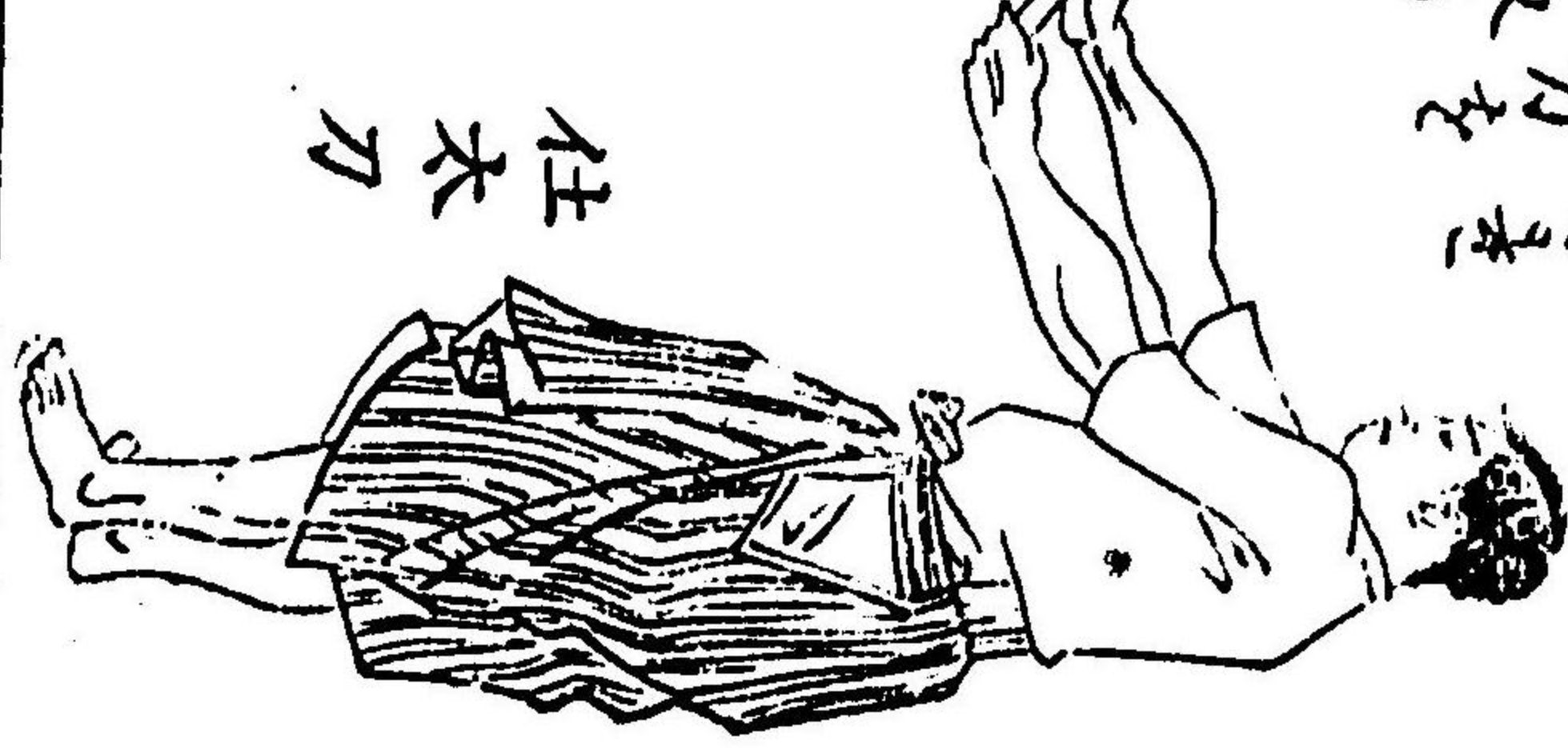
打太刀

松風左、一本目第七圖



仕太刀
ハ上段ヲ
取り
取る竹刀
を精
眼
御

ふざら足を引揃る 打太刀



打太
刀初
り落さ
たる竹刀を
精眼ヲ取
直す

仕太刀



仕太刀

松左ノ一本目

風

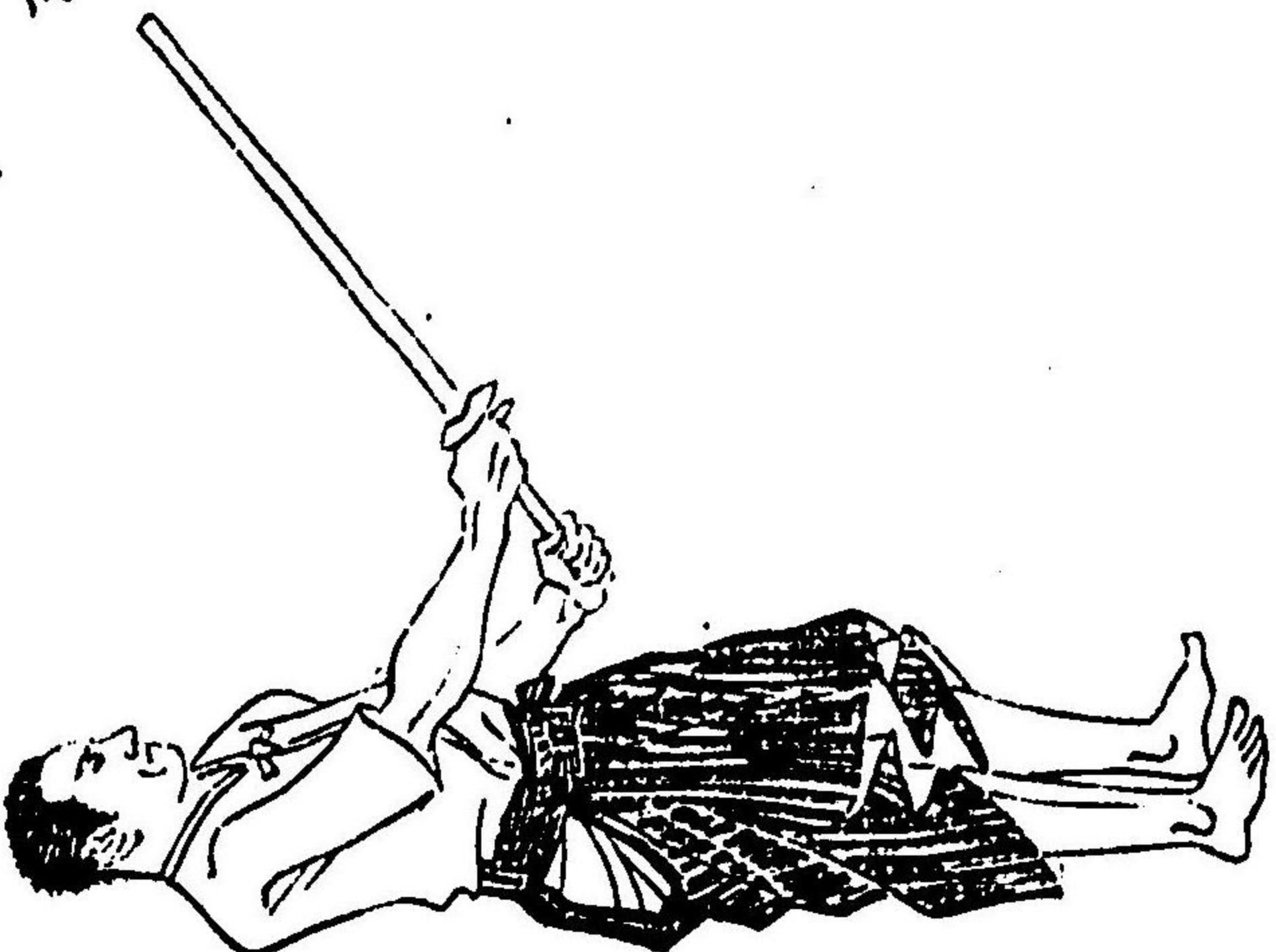
第八圖

打太刀も

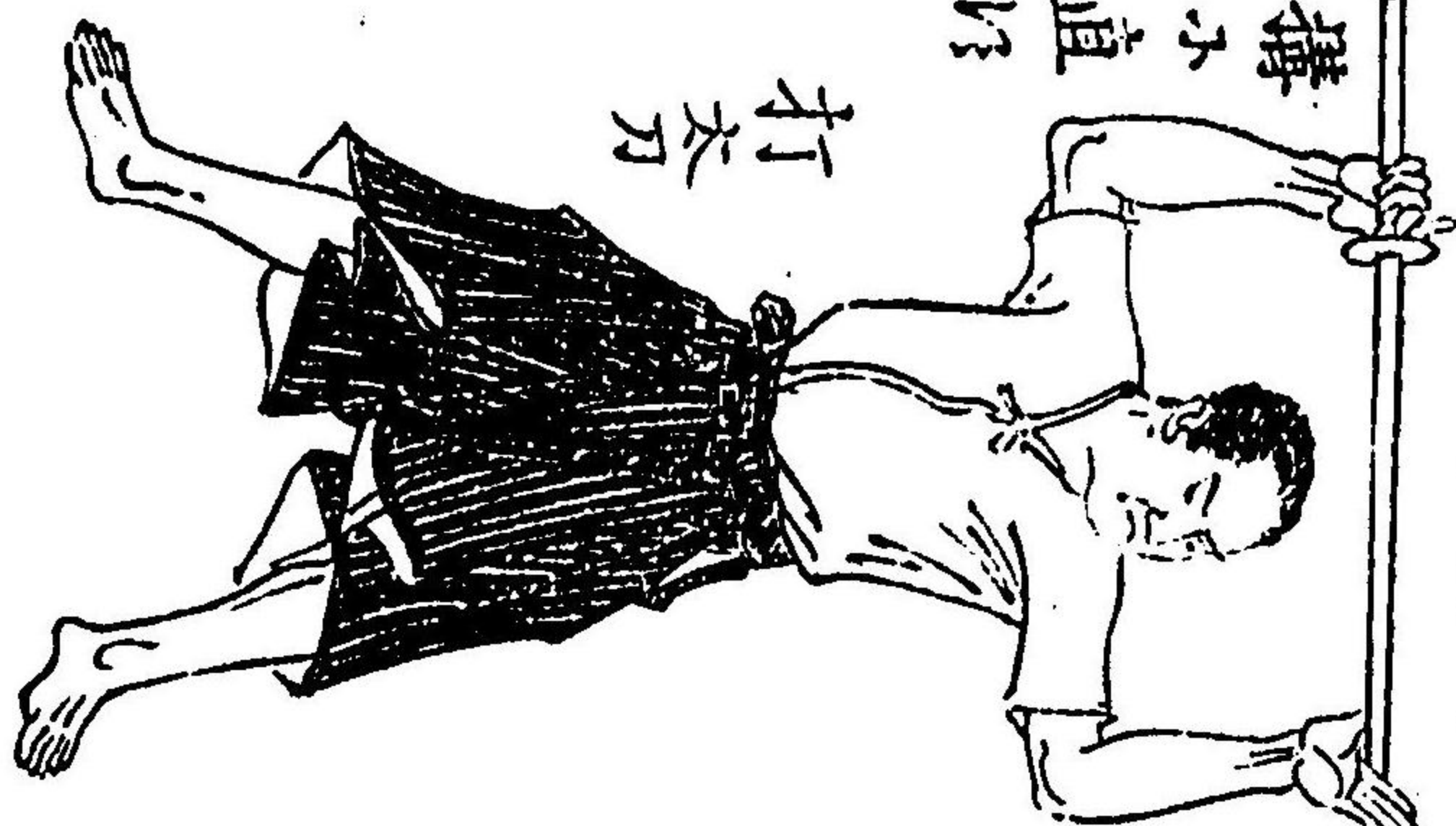
仕太刀も

元の位地

小直る



打太刀



打太刀

構小直

斜の

是を

一直

眼を卸

刀を精

込に竹

足踏

りと三

左より右

上段を取

同時小竹刀を

猿回しに構ゆると

仕太刀ハ打太刀ガ

り

目の通

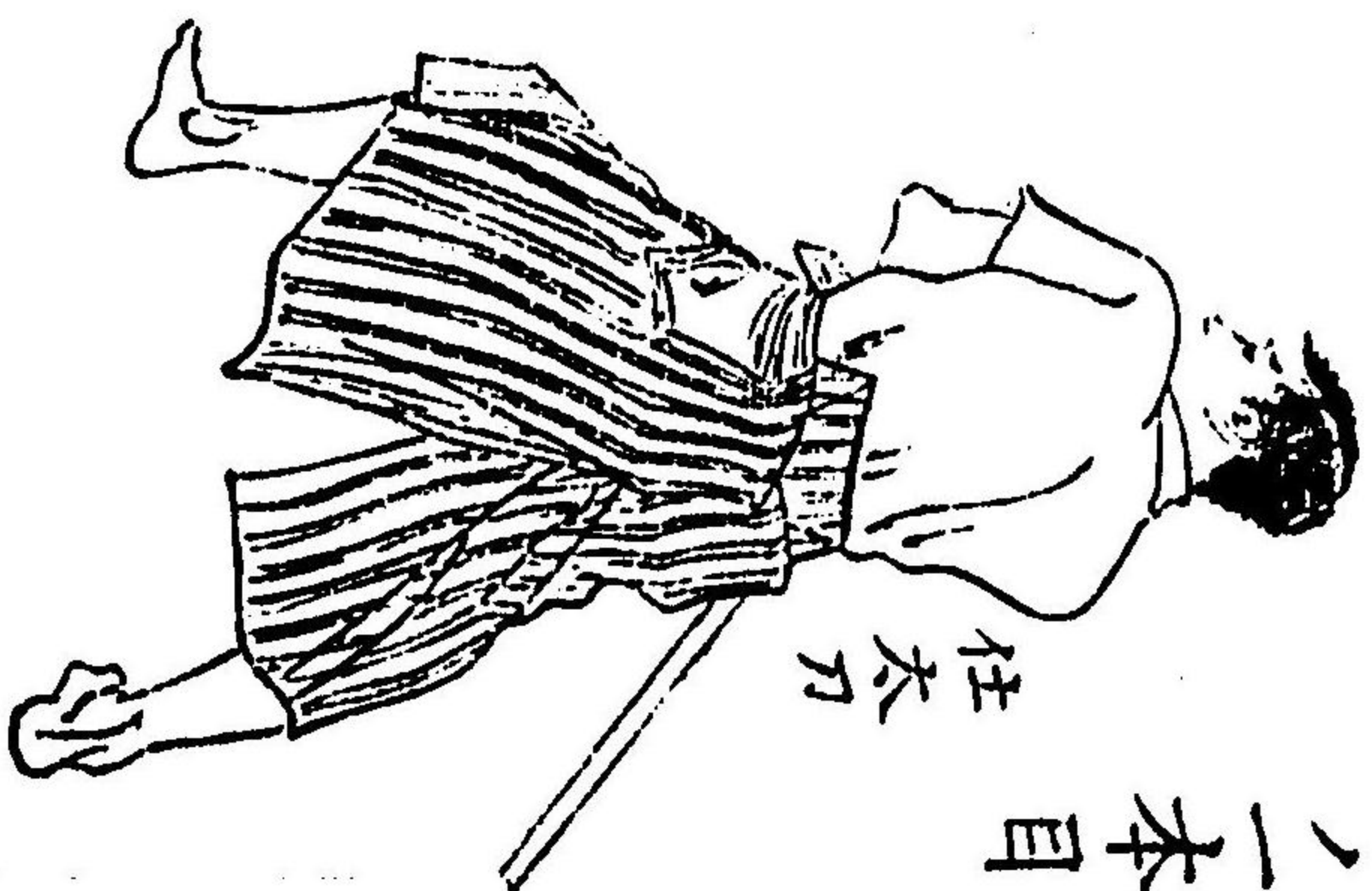
風一本

如く松

ハ圖の

打太刀

仕太刀

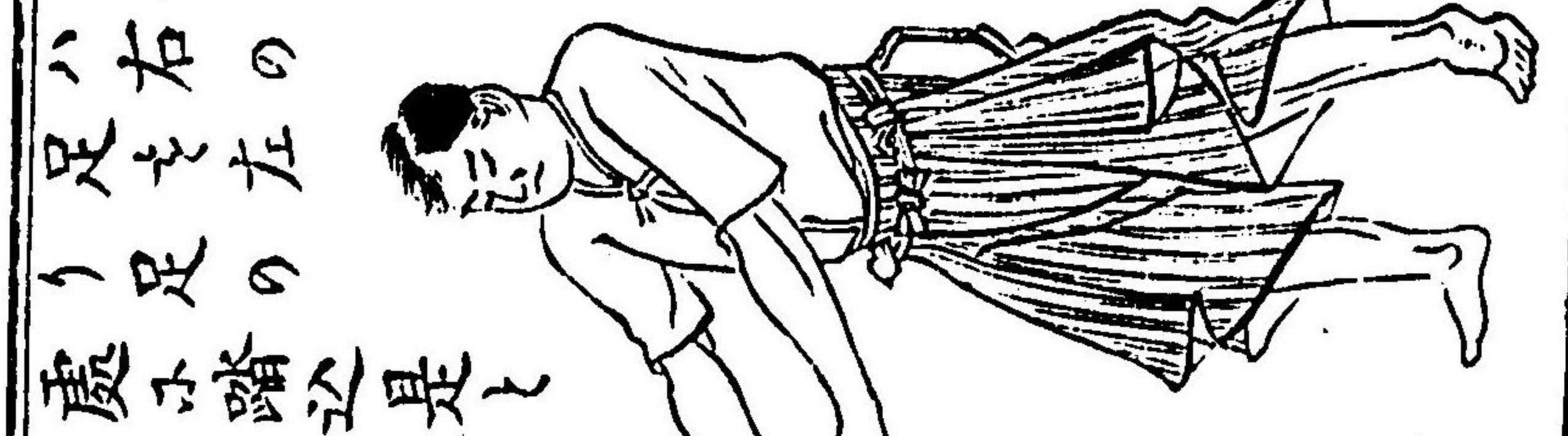


松風右ノ一本目

松風右ノ一本目第二圖

仕太刀

打太刀

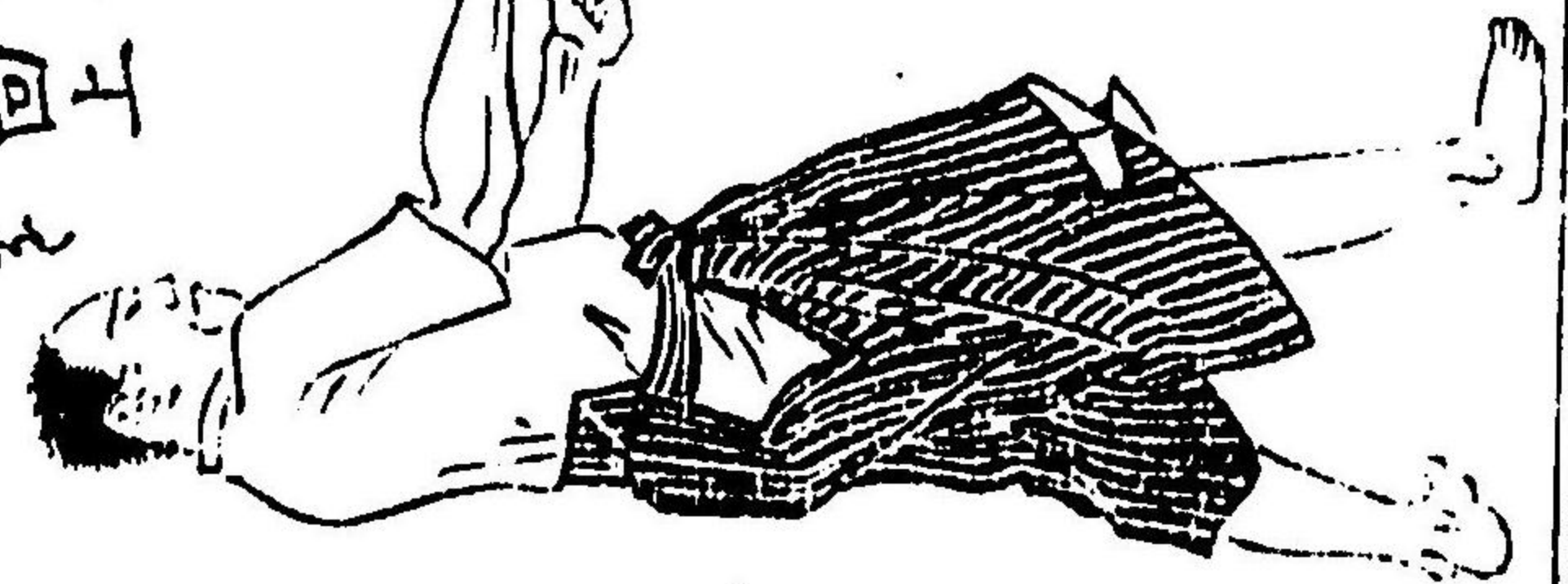


ハ右の
足を左
り足の
處ハ踏込是と
踏違ひハ左り
の足を引ふら
ら仕太刀
の面上を
(ヤエ)と
声掛けて打

仕太刀ハ打太
刀が我が面上
へ打来るを
右の足を
踏込ハ

がら後の先ハ打太刀の面へ
打込ば圖の如くハ至る

打太刀



松風右ノ一本目第三圖

仕太刀

刀

打太刀右の足を後へ引ふら
竹刀を斜ハ取る

仕太刀ハ打太刀が

竹刀を斜

ハ引る付

込にて左

りの足を

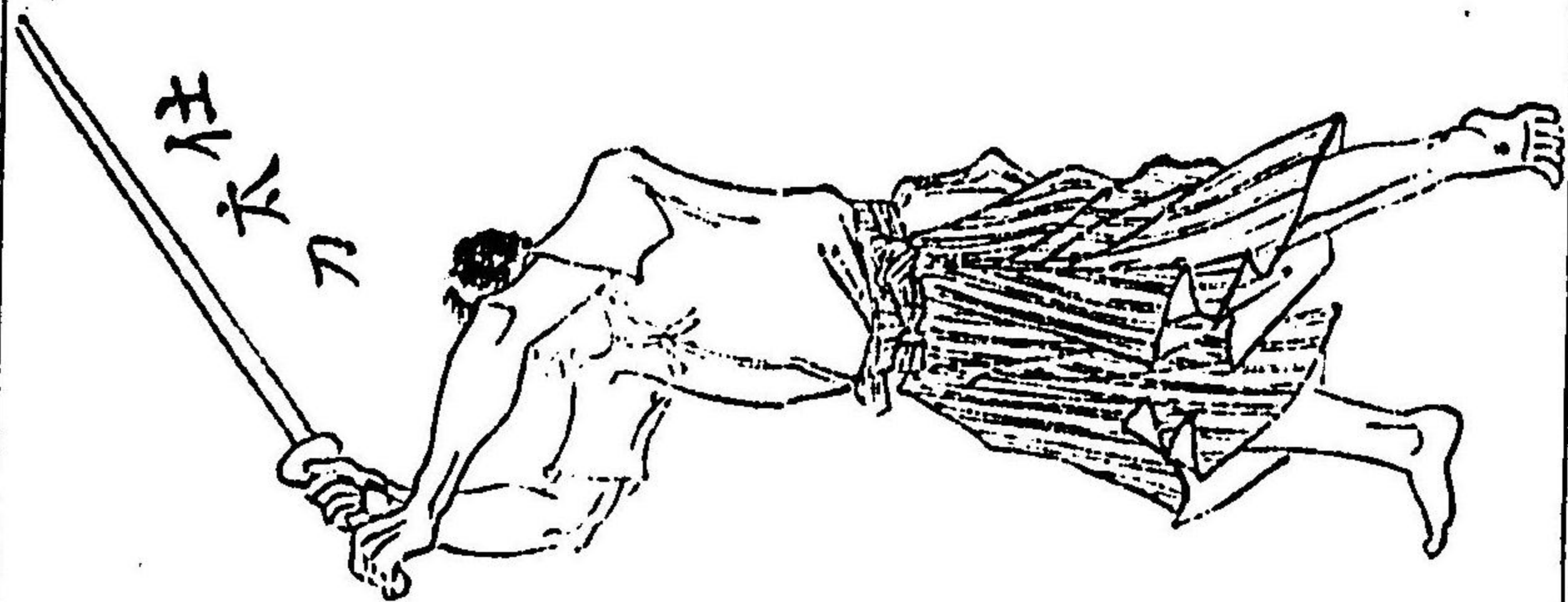
踏込ハ竹

刀を上段ハ取る

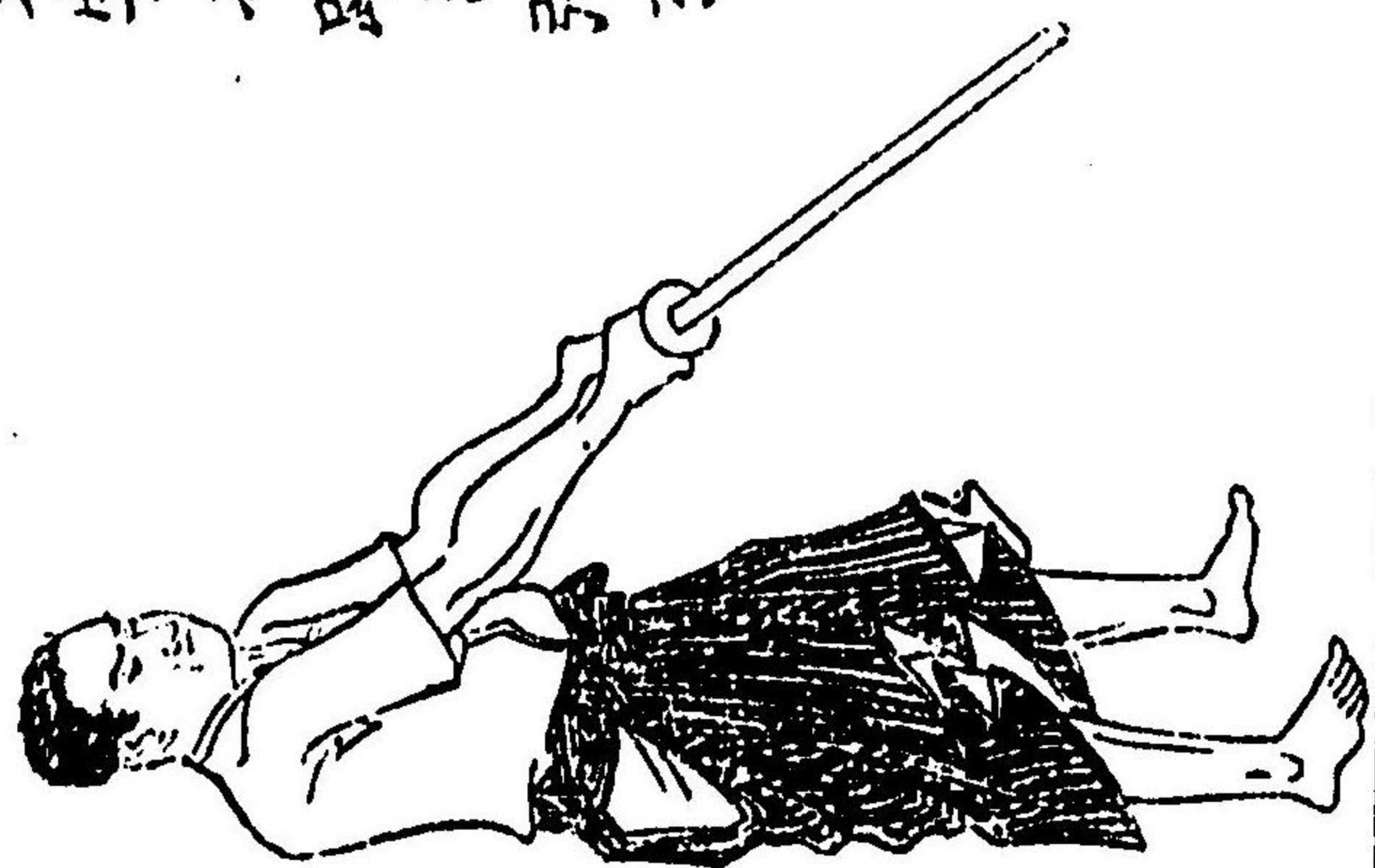
打

刀

松風右ノ一本目茅四圖



打太刀ハ右の足を踏込おらら
仕太刀の左りの足を拂ふ
仕太刀ハ打太刀が拂ふ左り足
を引ハ文字ふ踏ミ張る



打太刀

松風右ノ一本目茅五圖

打太刀ハ仕太刀の左りの甲手を右の

手マテ

下ミヨ

切り上る

仕太刀ハ

打太刀が

切り上る

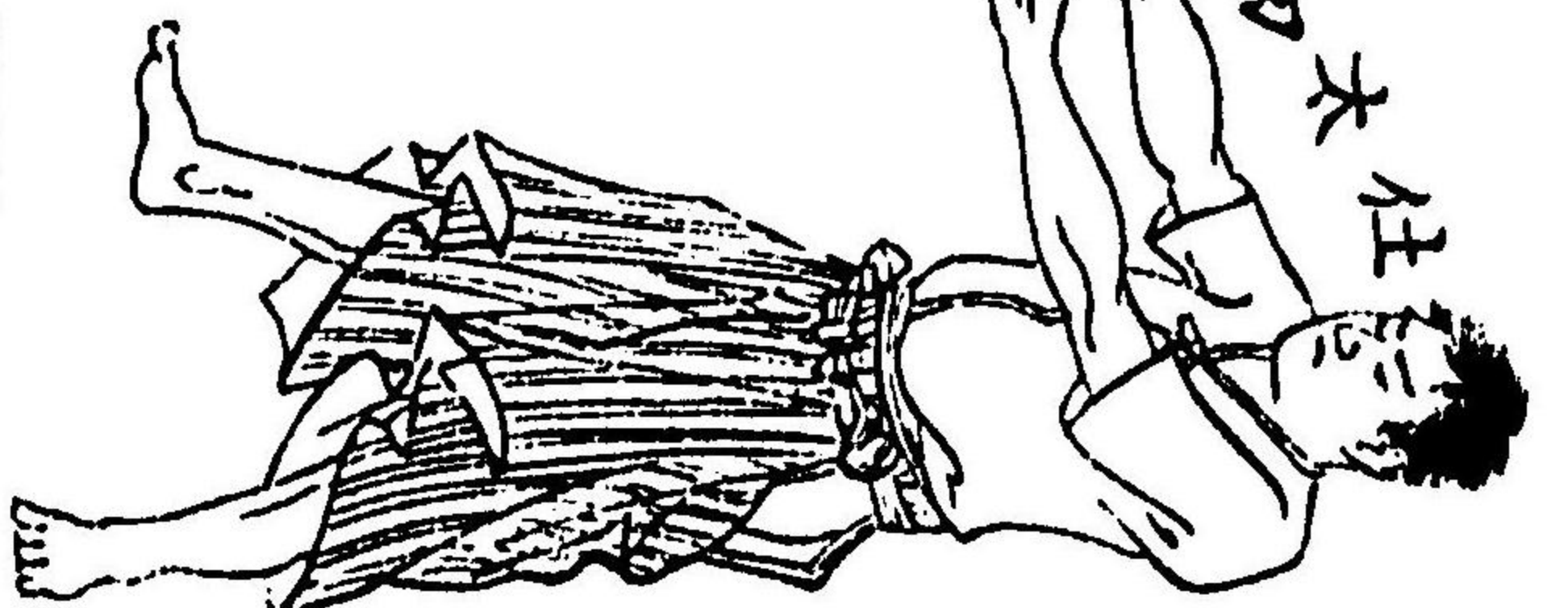
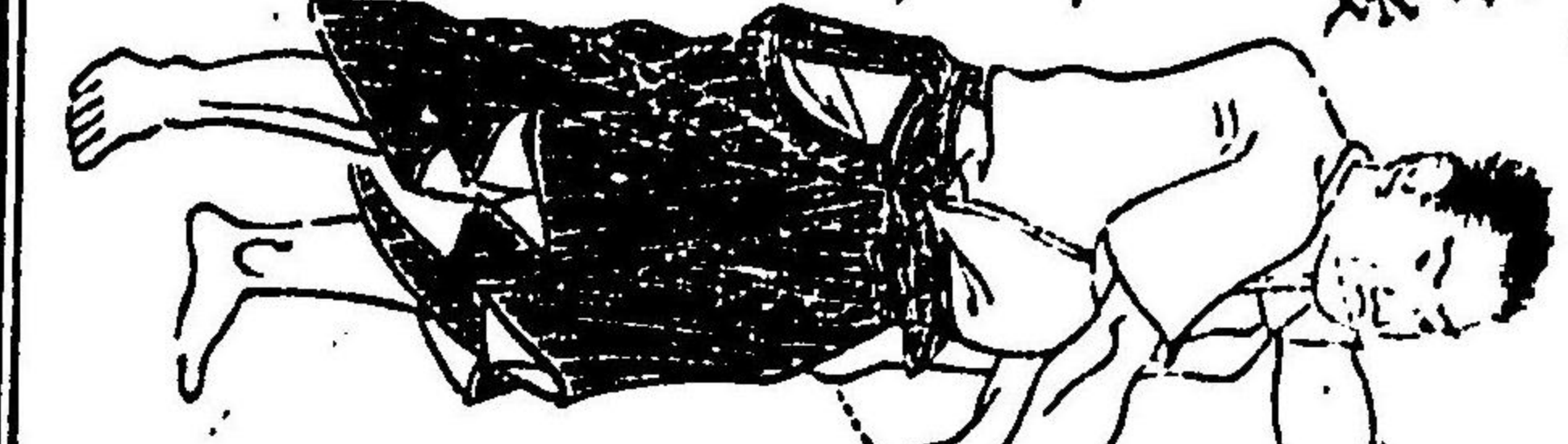
竹口も

(エト)

切り落

左の足を後

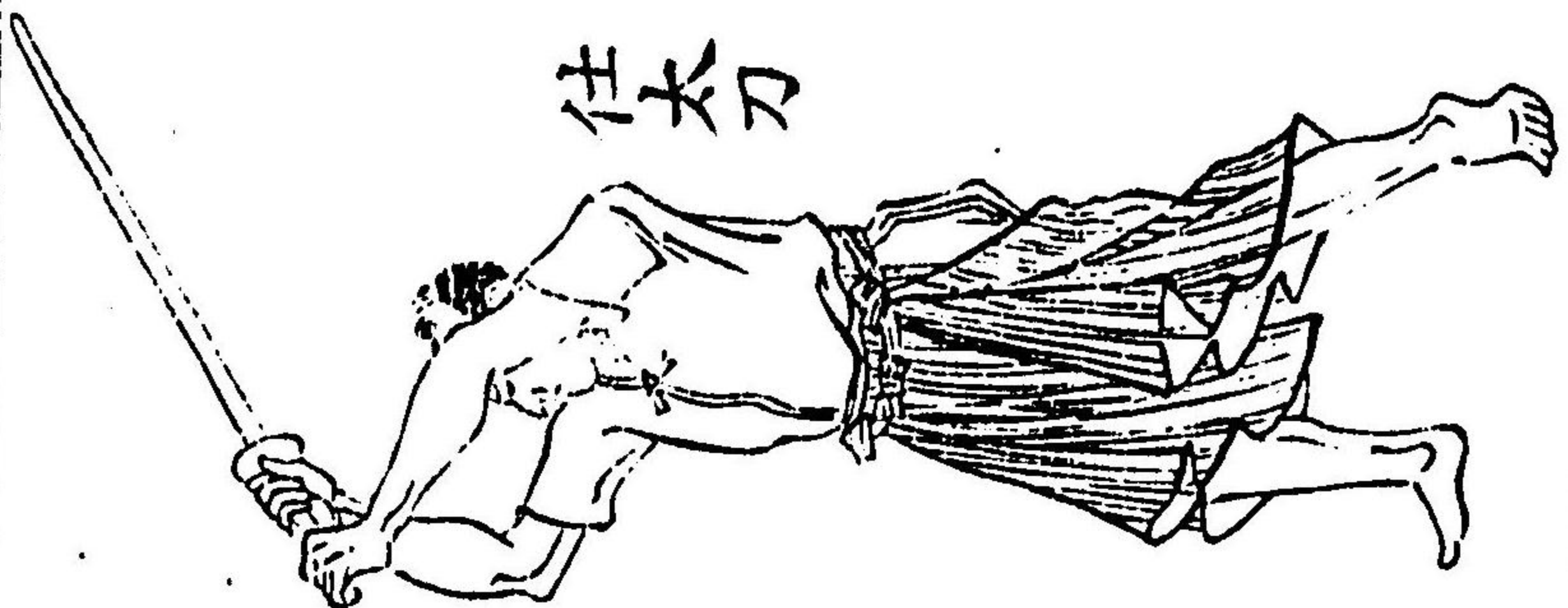
打太刀



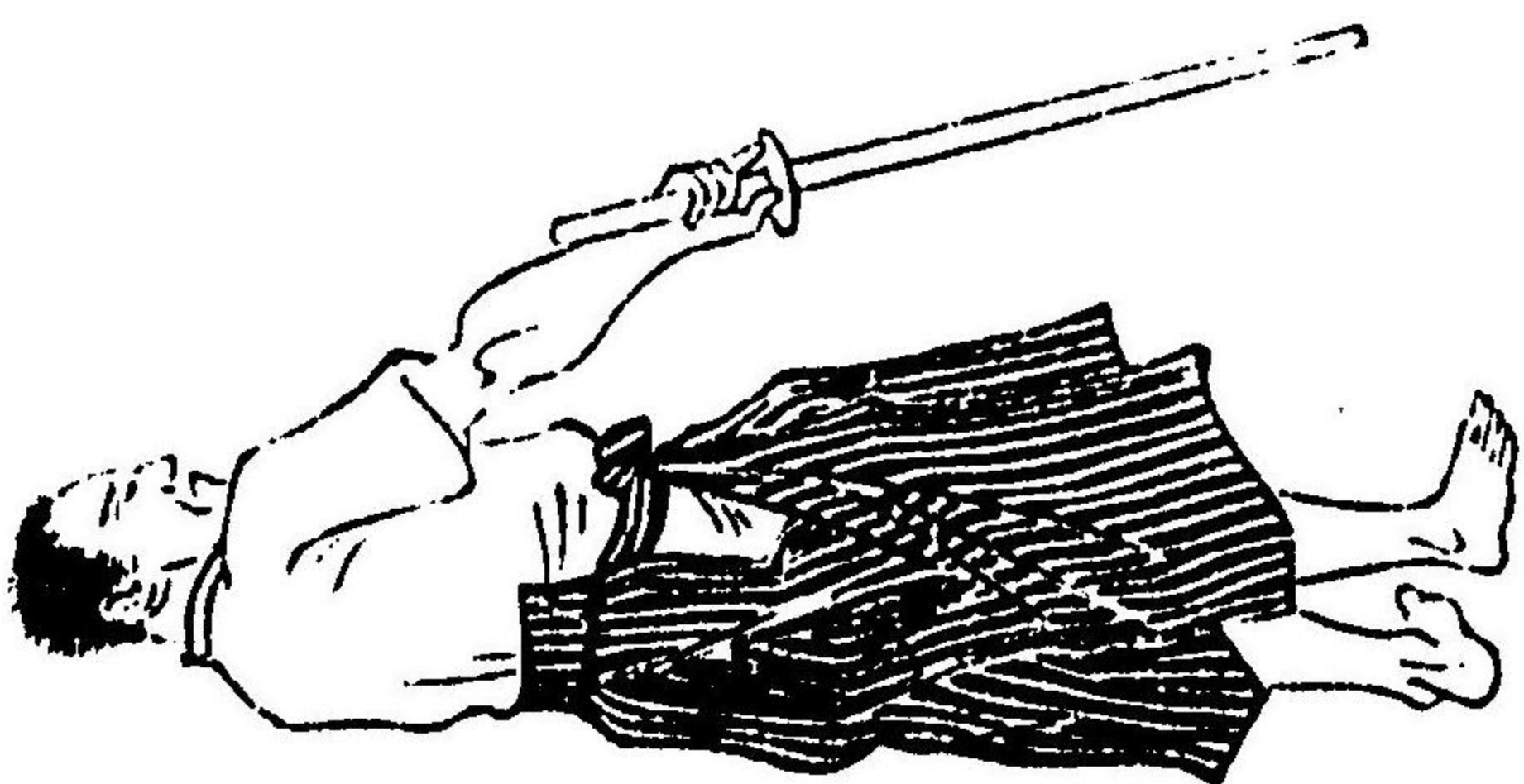
へ引おら又竹刀を上段お取れハ第六

圖の姿勢お至る

松風右、一本目第六圖

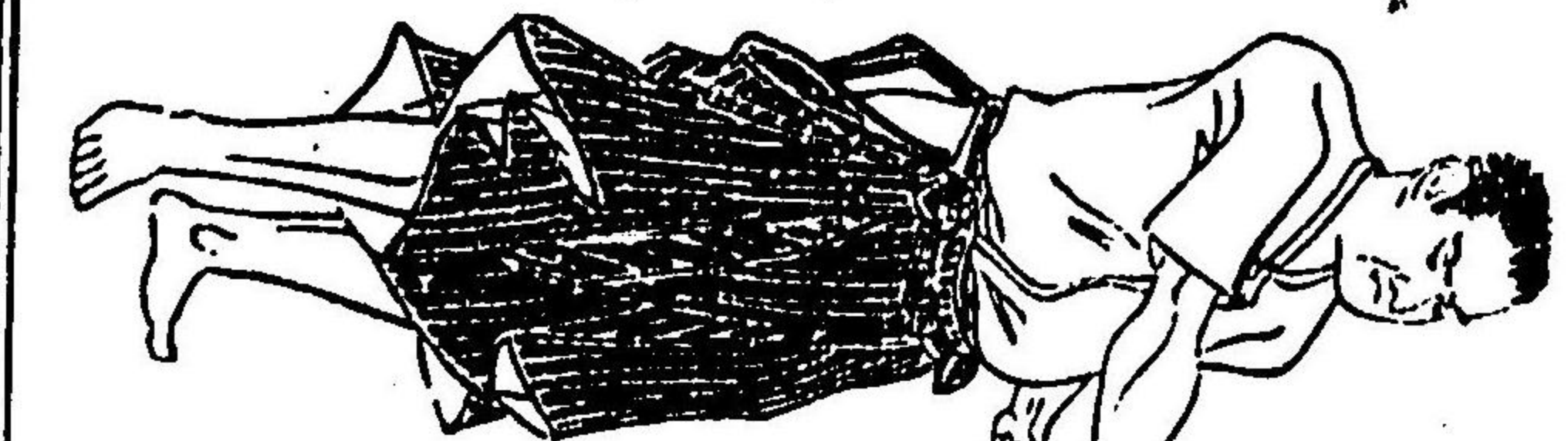


仕太刀

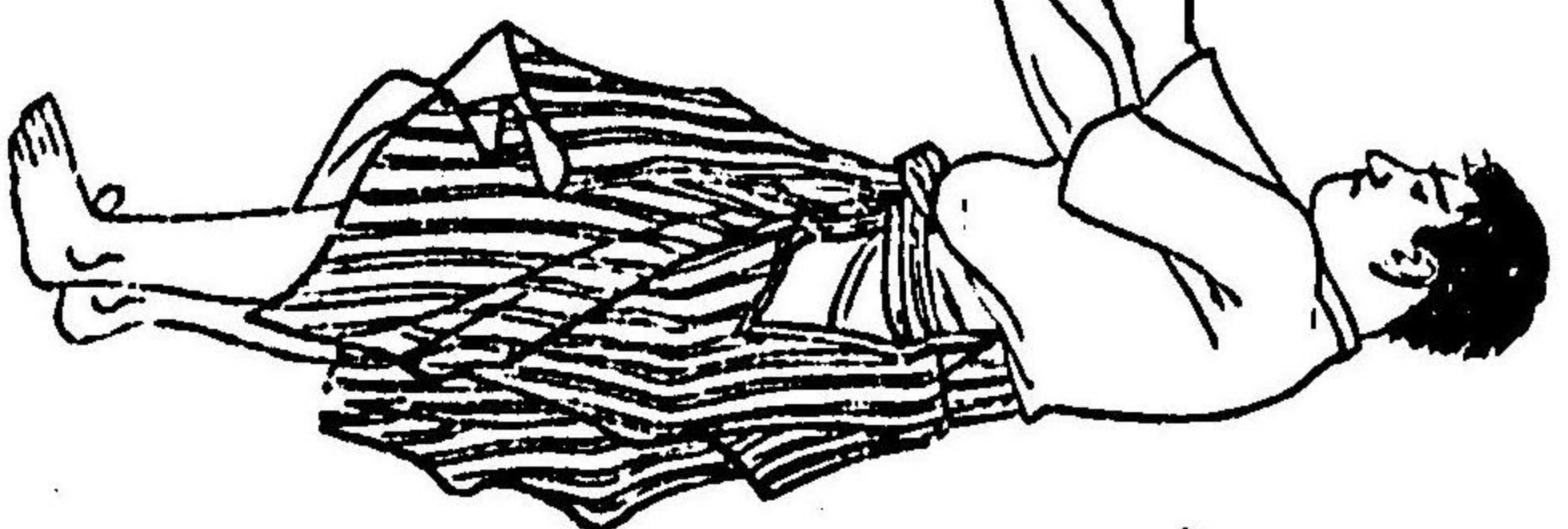


打太刀

松風右、一本目第七圖



打太刀



仕太刀

落さねる

山打

打太刀

才

眼お卸

刀を精

から竹

揃へを

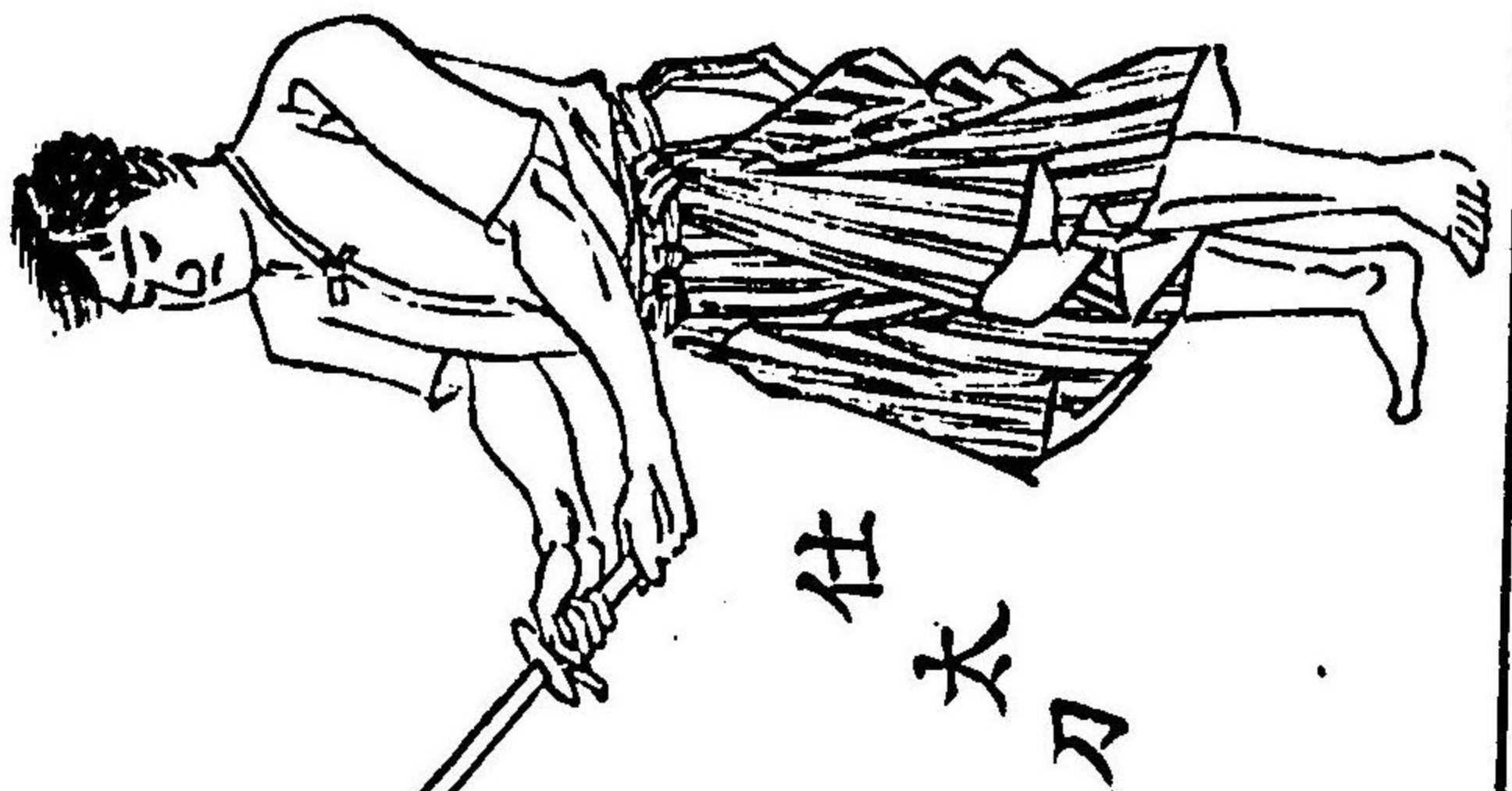
足を引

ハ右の

仕太刀

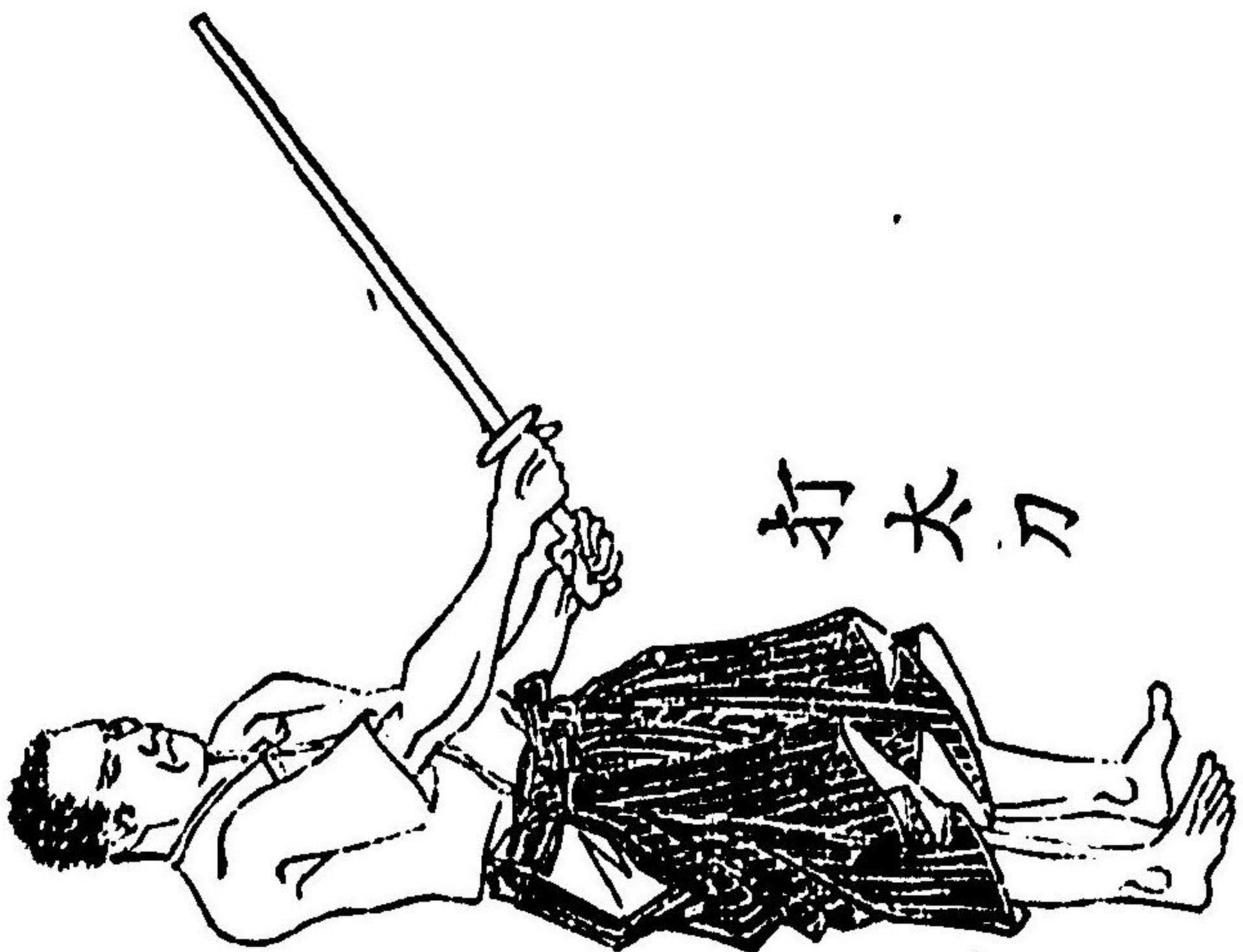
竹刀を精眼お取り直す

松風右ノ一本目第八圖



侍太刀

打太刀
仕太刀
元の位置
み直る



打太刀

松風の形の理歌

明信

ねつときつ

己かこゝろに

透なくは

いかなも敵も

まつかせの聲

早船左右
左ノ一本目第一圖

仕太刀

打太刀ハ精眼の構と
り左りの足を踏出し
竹刀を斜み構ゆ
仕太刀ハ打太刀が斜み構ゆると同
時ニ竹刀を上段ニ取り右左り右と三足
踏込ミ圖の如く竹刀を下段ニ卸し



此早船といふは山川
の岩間行舟の木の根
岩角ニ當らむとを
るを船人が棹してか
あゝへふけこあたへ
とけし下り舟の早きを心
もち千變萬化して勝を得るとを
教へんが為ふ是を形の名とせ
し



打太刀

早船 左ノ一本目第三圖

打太刀は仕太刀から
下段は卸し切る

腰を右の
足を踏込

おぶら

仕太
刀の

面上
をへ

ヤエ

いしと聲掛

打を仕太刀

は是を受

止め切る

返しと打

太刀の面を(ヤエヤ

イ)と打てば第三圖の

姿勢に至る

仕太刀

打太刀



早船 左ノ一本目第三圖

打太刀ハ仕太

刀が切り返

し打来る

を止め又

是を切る

返す

ヤエ

仕太
刀の

太刀が又切

り返れを

(エ)と声

掛け切り

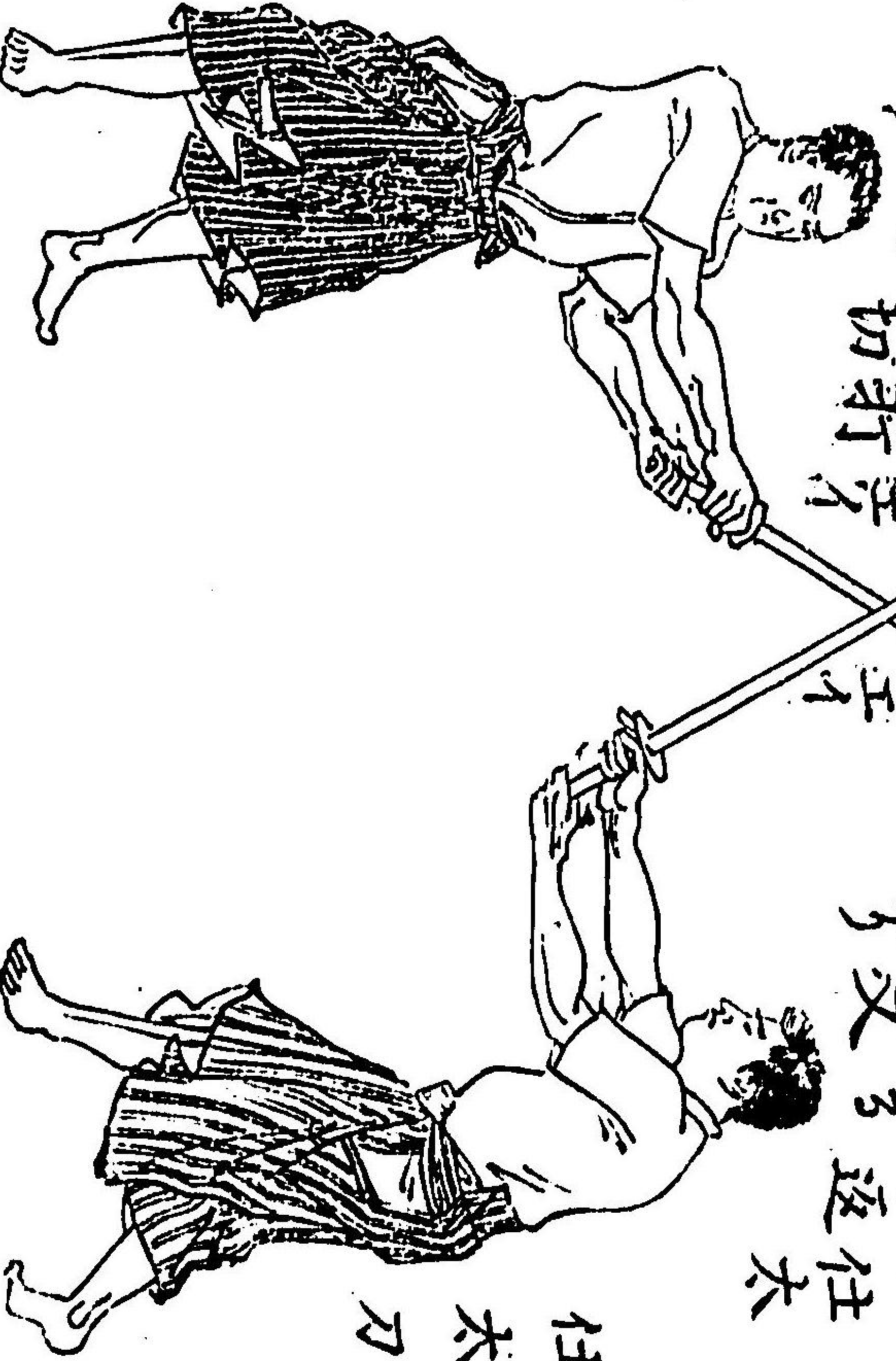
落し左りの足を

後へ引ながら竹刀を

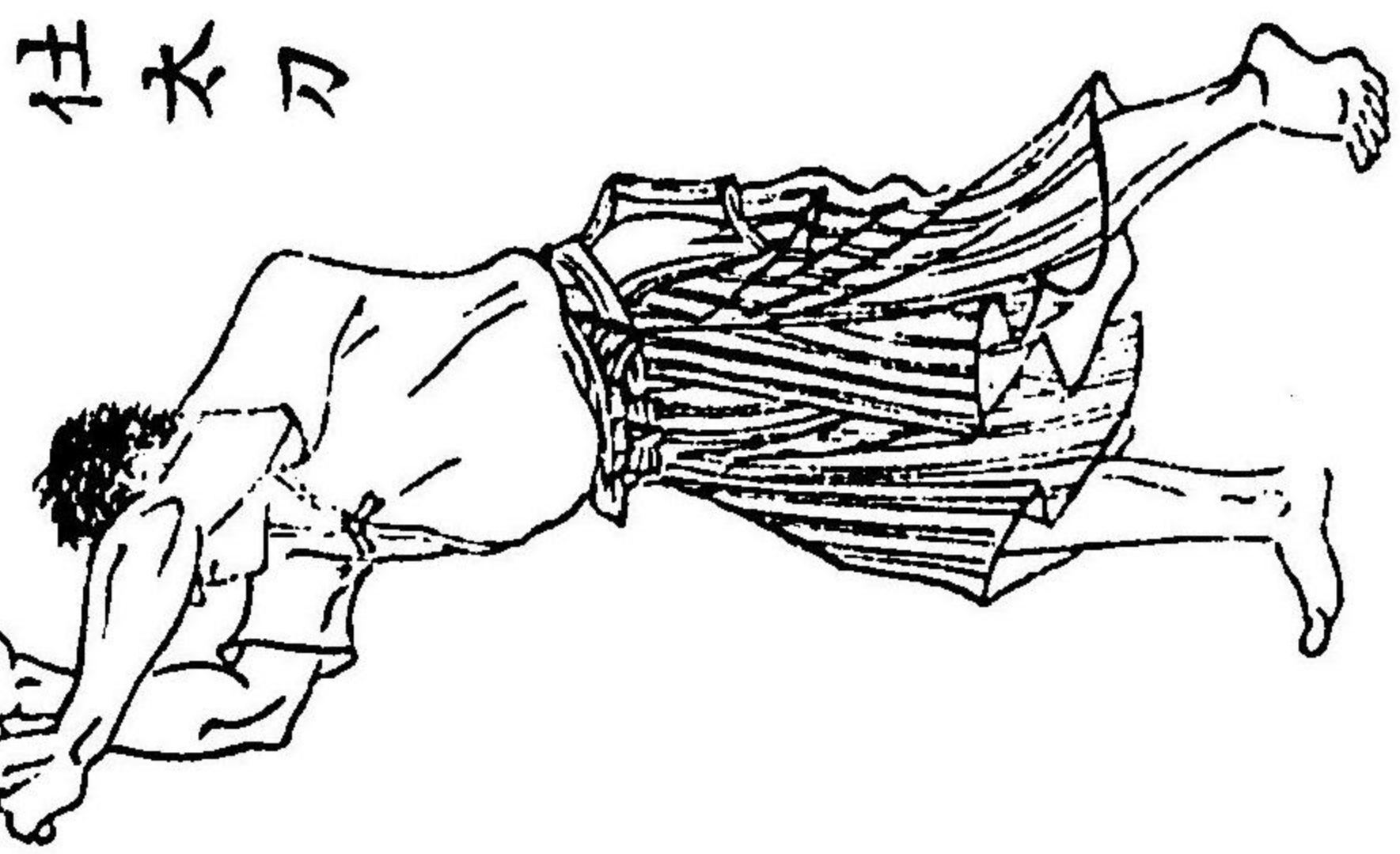
上段も取る

打太刀

仕太刀



早船 左、一本目 第四圖

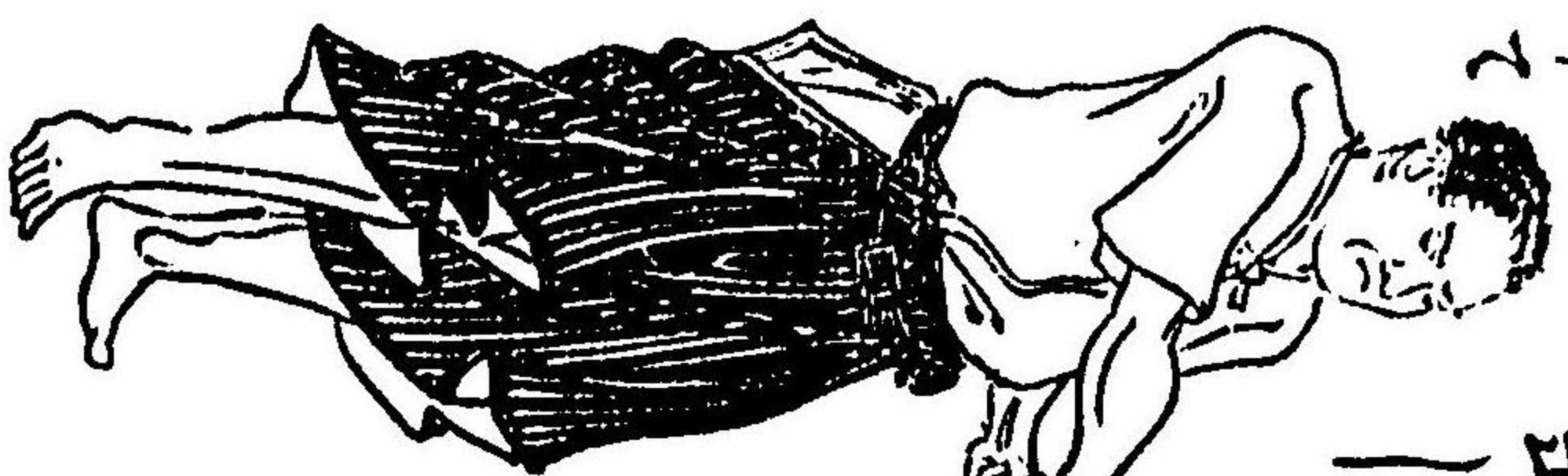
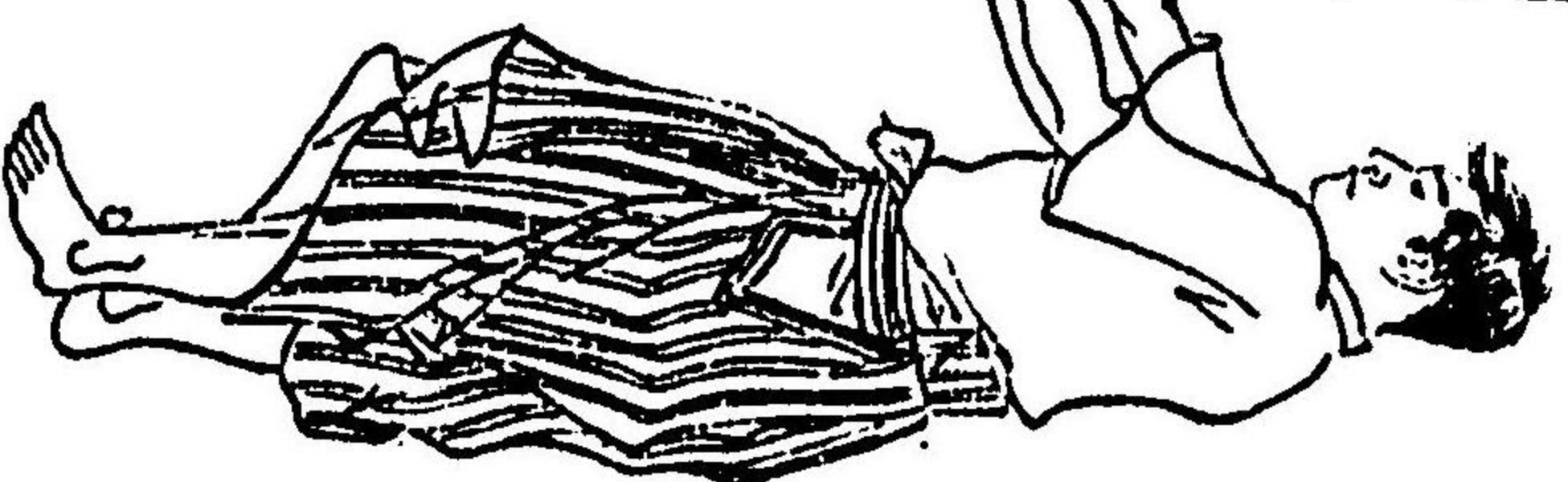


打太刀
仕太刀
竹刀を
取上段ハ
踏込竹
少く
右の足
同時
取上段ハ
踏込竹
少く
右の足
同時

打太刀

仕太刀

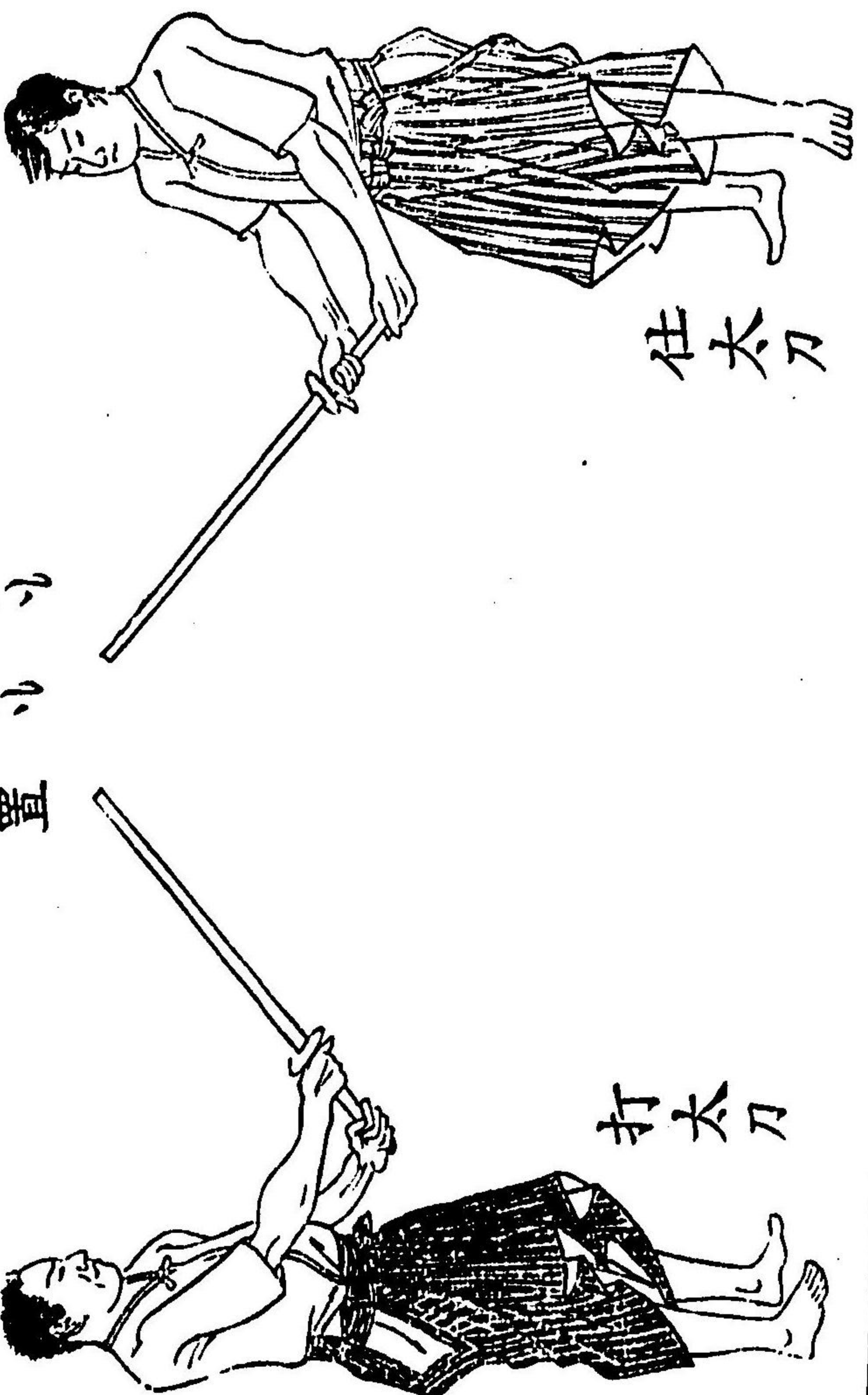
早船 左、一本目 第五圖



打太刀

仕太刀

仕太刀ハ
取上段ハ
踏込竹
少く
右の足
同時
取上段ハ
踏込竹
少く
右の足
同時
仕太刀
打太刀
竹刀を
取上段ハ
踏込竹
少く
右の足
同時



仕太刀

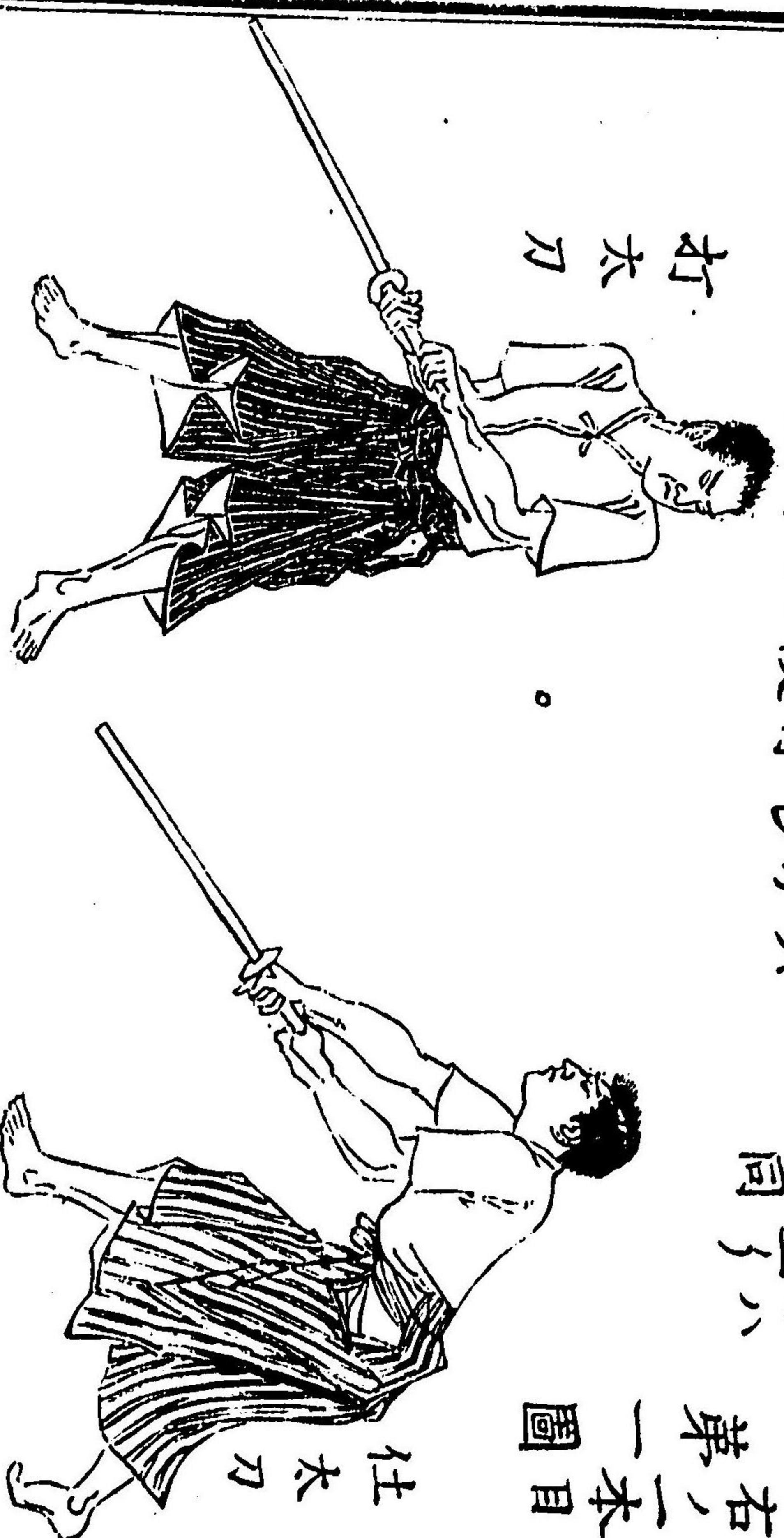
打太刀

早船左ノ一本目第六圖

打太刀
仕太刀
元の位置
を直る

打太刀ハ
早船左ノ
一圖ハ同

早船右ノ一本目第一圖



打太刀

仕太刀

仕太刀ハ
打太刀ガ
斜ニ構シ
同時ニ竹
刀を上段
ニ取リ左
ノ右左ノ
ト三足踏
込ニ竹刀
を下段ニ
卸シ

早船右ノ一本第二圖

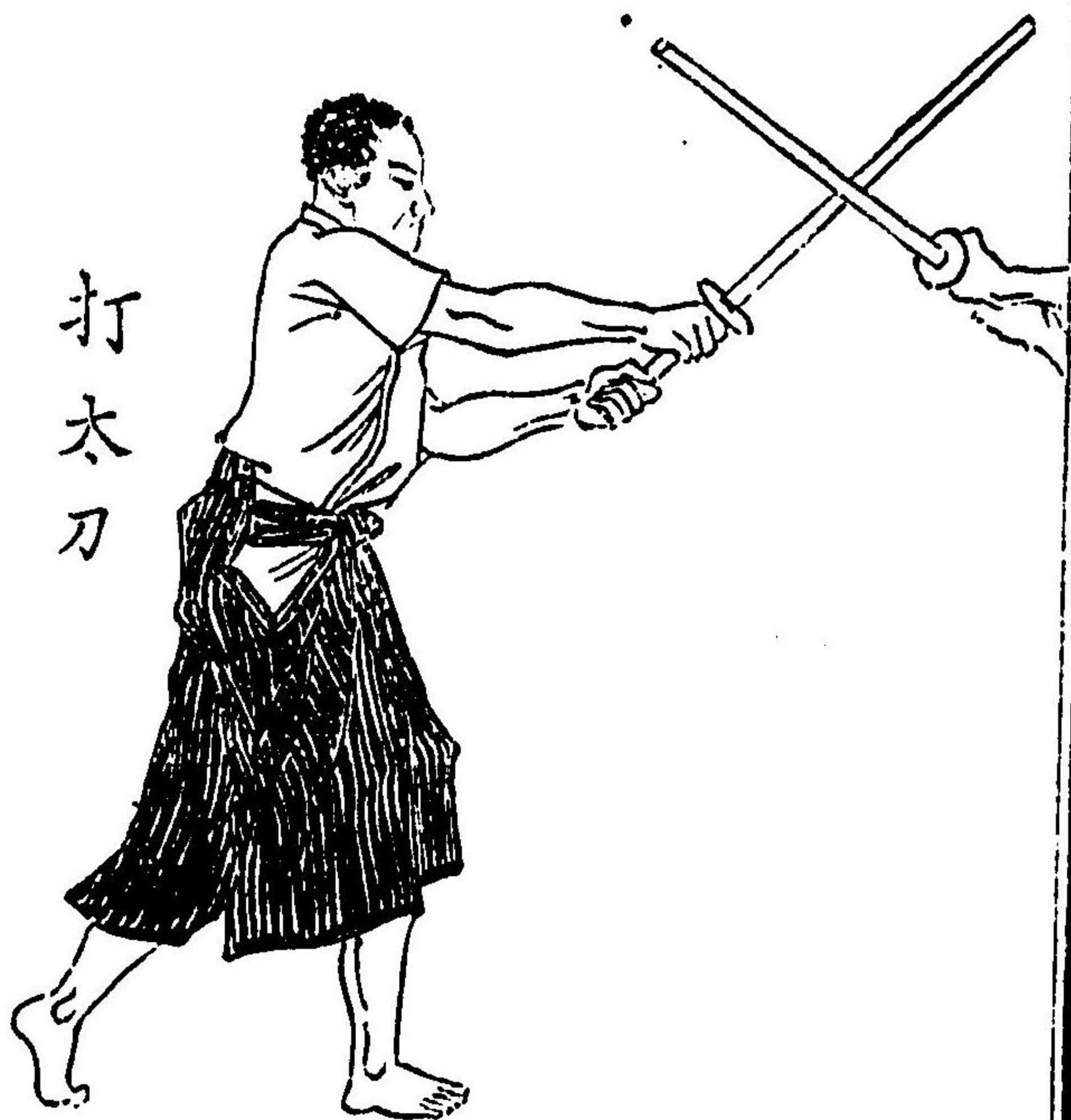
打太刀ハ仕太刀が竹
 刀を下段ニ卸しと
 る處を右の足を踏
 込ふがら仕太刀の面
 上を（ヤエイ）と聲
 掛けて打を

仕太刀

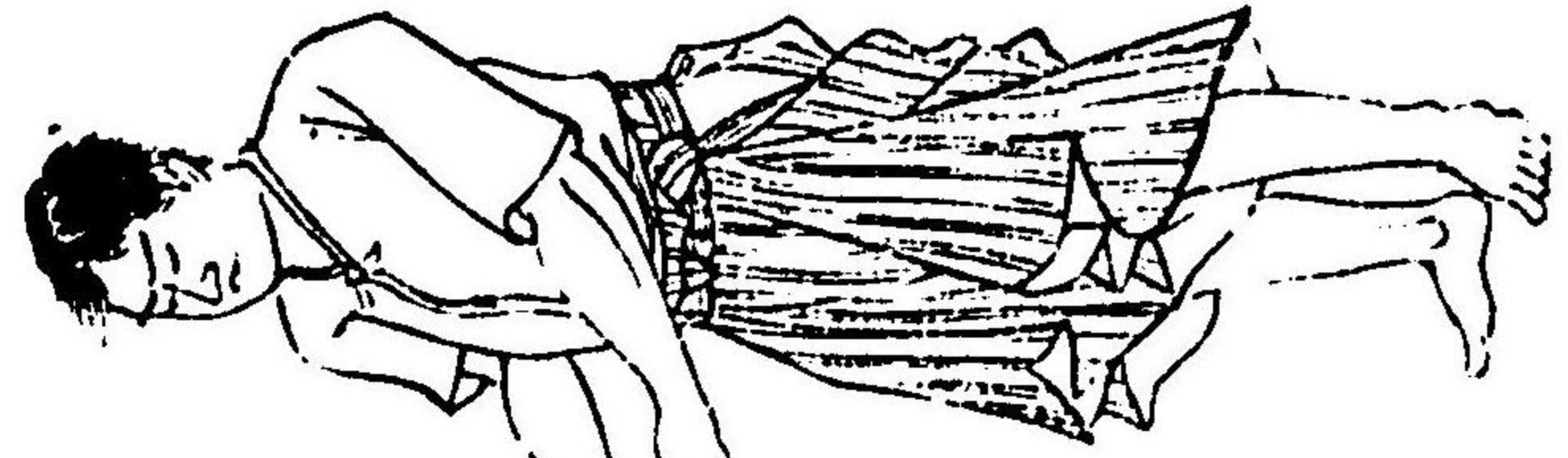


仕太刀ハ（ヤエヤ）と
 聲掛け是を止む（
 エイ）と聲掛打太刀
 の面上を打返し左の
 の足を後へ引ふがら
 竹刀を上段ニ取ルハ
 第三圖の姿勢に至
 る

打太刀

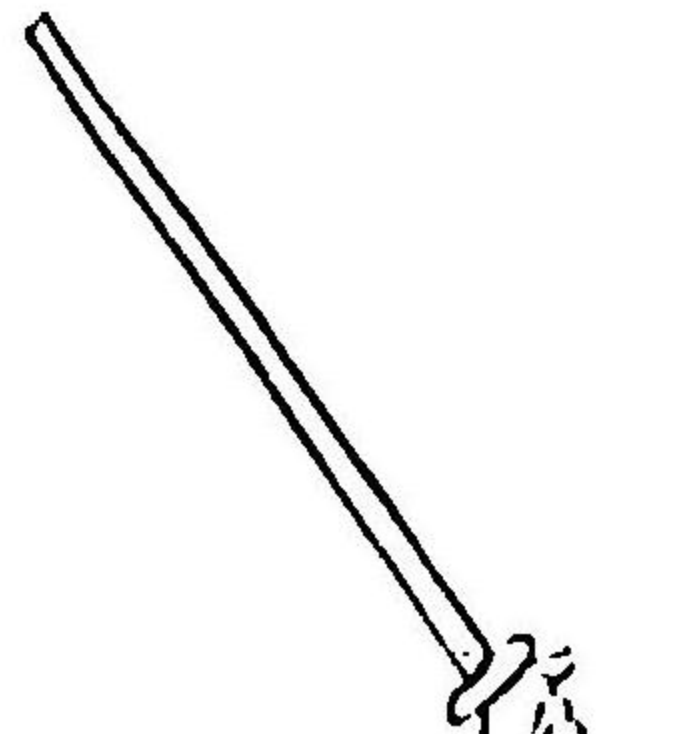


早稲右ノ一本目第五圖



仕太刀

打太刀
仕太刀
元の位地
を直了



打太刀

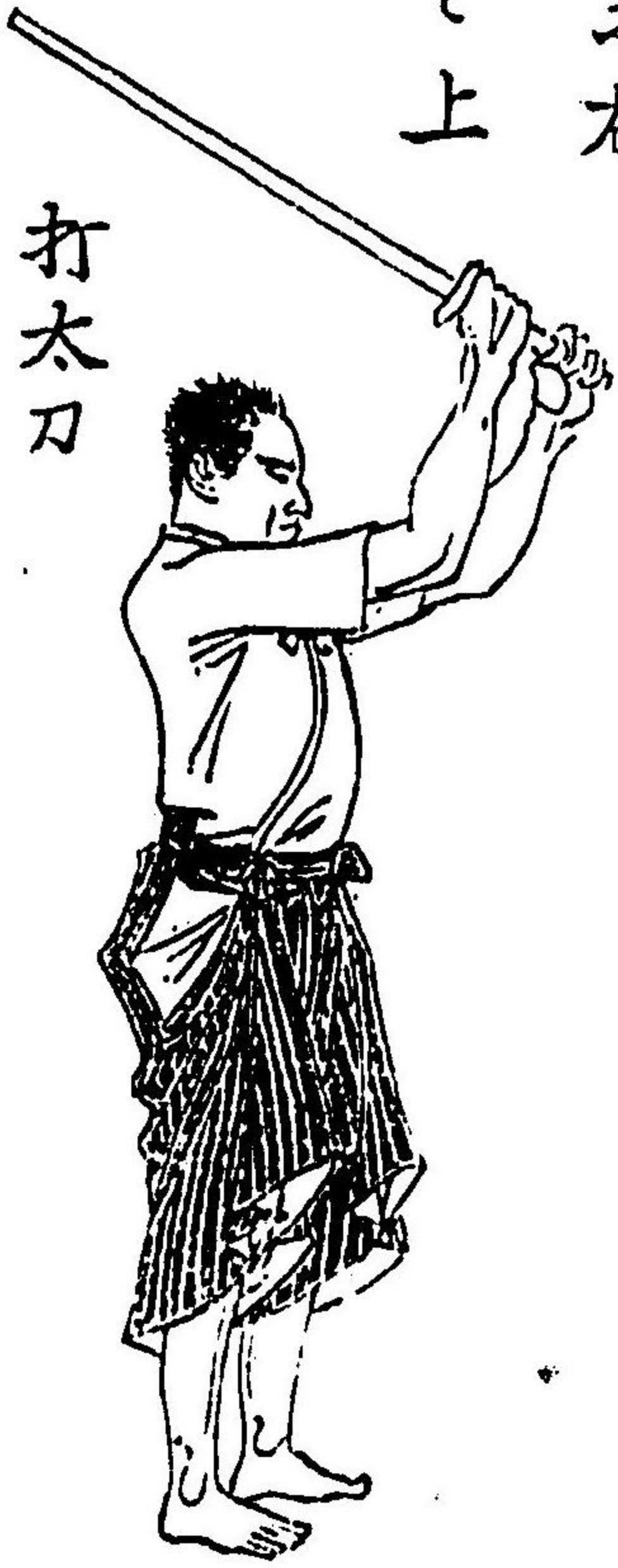
曲尺第一圖

打太刀ハ精眼ニ構
たる竹刀を上段ニ
取了



仕太刀

仕太刀ニ同時ニ右
踏出一竹刀を上
段ニ取了



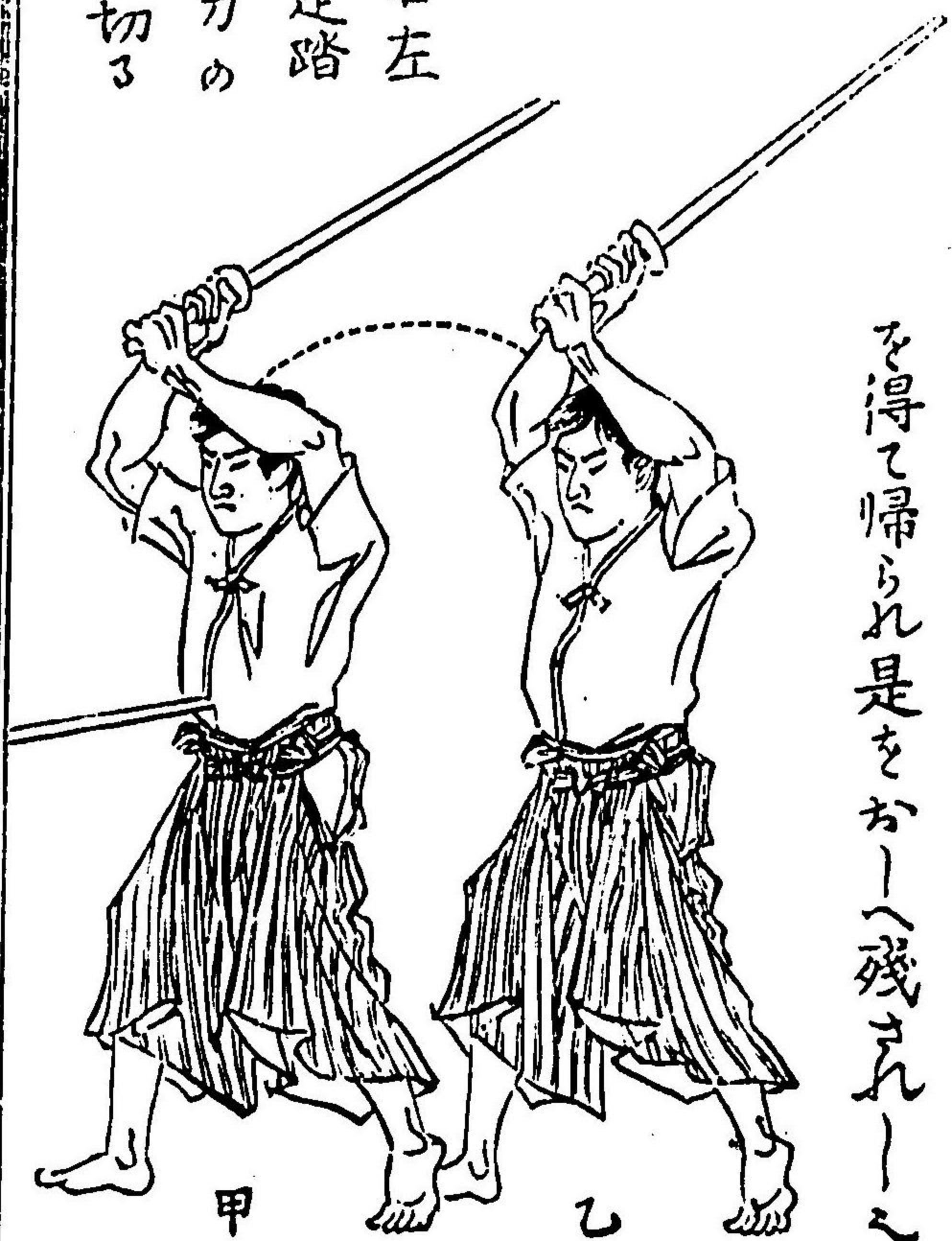
打太刀

曲尺第二圖

此一太刀は曲尺名所ニ是ハ源信齋
先生が入唐して張良年の術といふ傳
を得て帰られ是をわがへ残されしこ

仕太刀

打太刀ハ右左
り右と三足踏
込みて仕太刀の
左へ甲手を切る



甲

乙

打太刀

仕太刀ハ打太刀が
踏込みに来て我左へ
の甲手を打落さん
とさる其間ハ髪を
不入して八寸の開き
といふ體を其終後へ
飛去る打太刀が打物
打外きて空を打こ



曲尺第三圖

打太刀ハ竹刀を
逆斜ニ取り足を
右左リ右左リ引
き仕太刀ハ是ヲ附
込て左リ右左リ
右と足を踏込ニ竹
刀を上段ニ取る

仕太刀



打太刀



曲尺第四圖

打太刀が止れハ
仕太刀も止る爰
が曲尺ノ肝要ナ
る所ニ是を打太
刀が止るを仕太
刀ハかきおは踏込
ば直切らるるニ

仕太刀

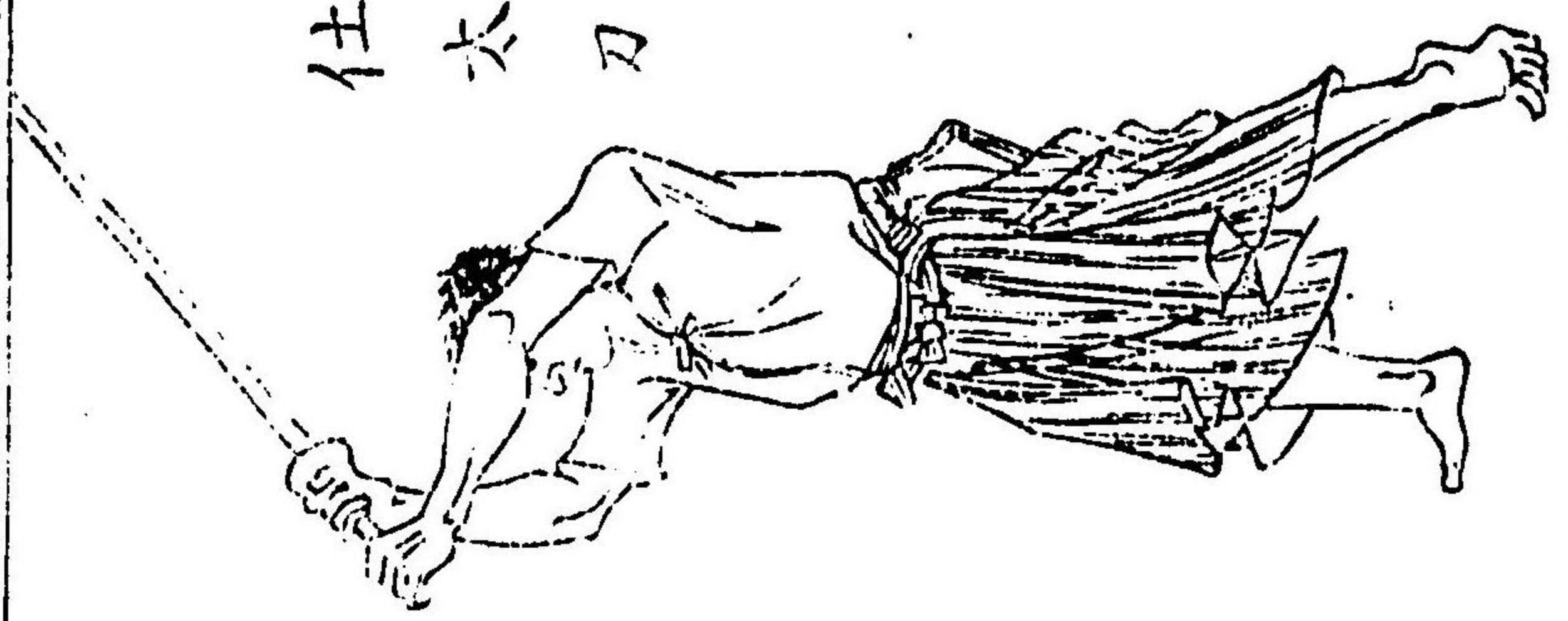


打太刀



曲尺第五圖

仕太刀



打太刀ハ左りの足を踏

出して仕太刀の右の足を

拂ふを

仕太刀

ハ打太

刀が拂ふ右の

足を引ハ文字ヲ踏張る

打太刀



曲尺第六圖

仕太刀

打太刀ハ

右手ヲ

仕太刀の

左りの甲

手を下

り(ヤエ)

と切上

仕太刀ハ

打太刀ガ

切り上

竹刀を

段より

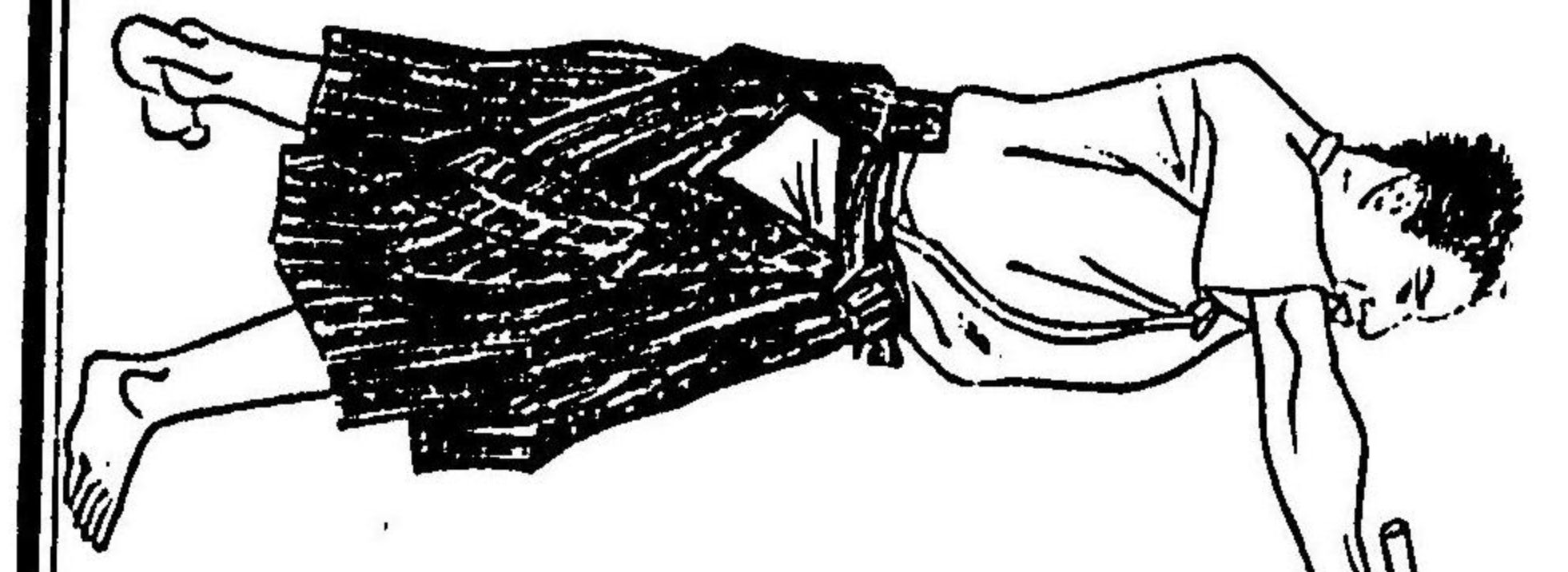
り落

左りの

を後引

かから竹刀を上段

打太刀



取れガ第七圖の姿勢ニ至

曲尺

第七圖



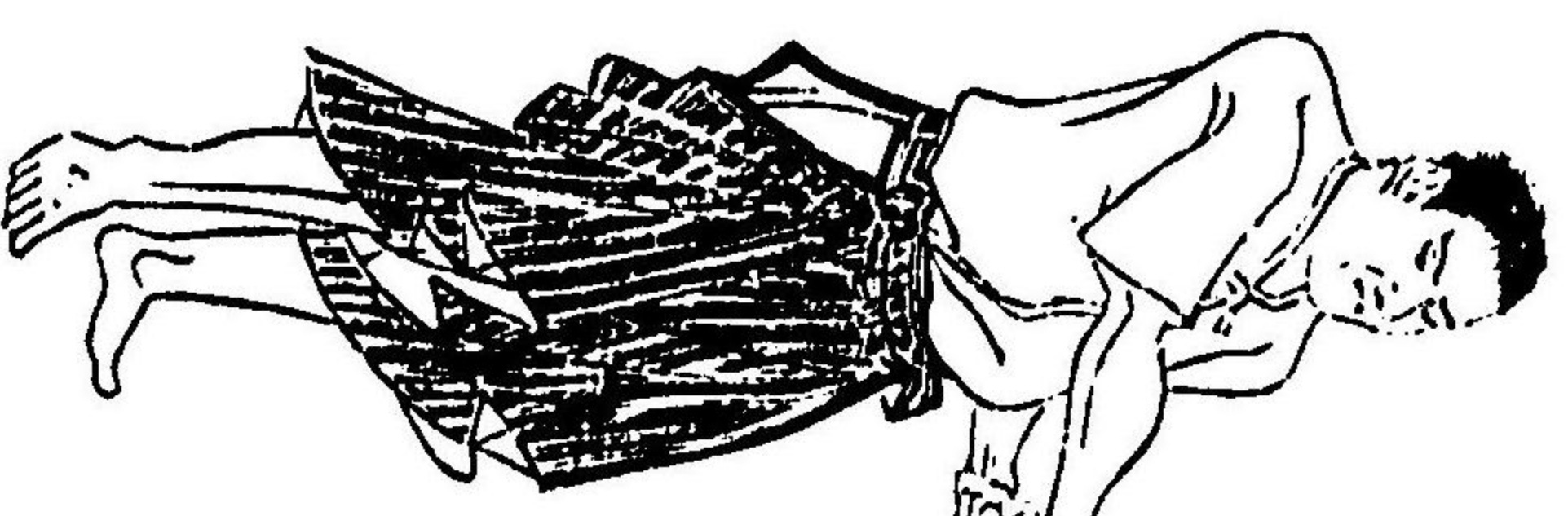
仕太刀



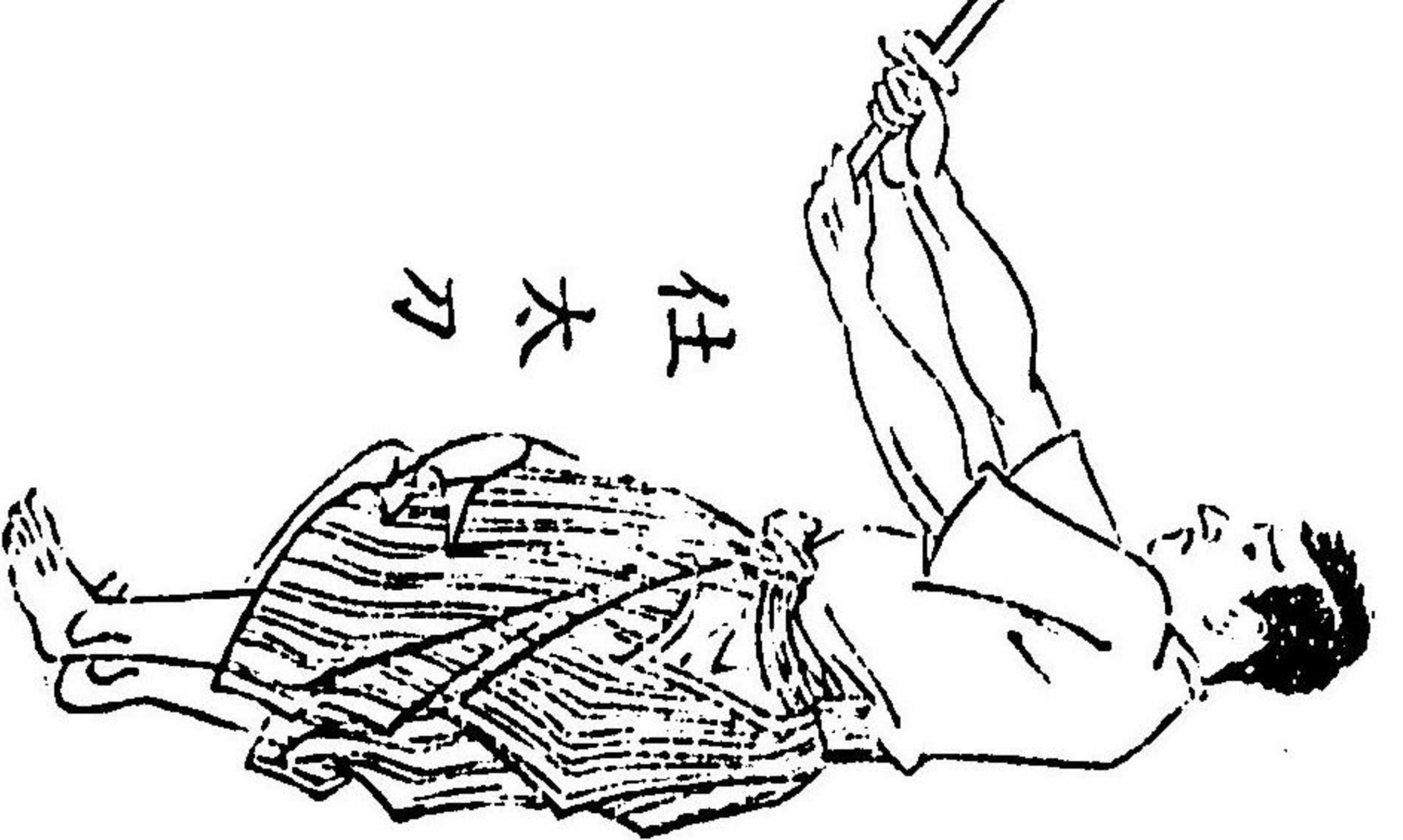
打太刀

曲尺第八圖

仕太刀
 右の足
 左の足
 の引付
 さら
 竹刀を
 精眼
 卸す
 打太刀
 の同時
 小竹刀
 を精眼
 へ取り
 直す打
 太刀の



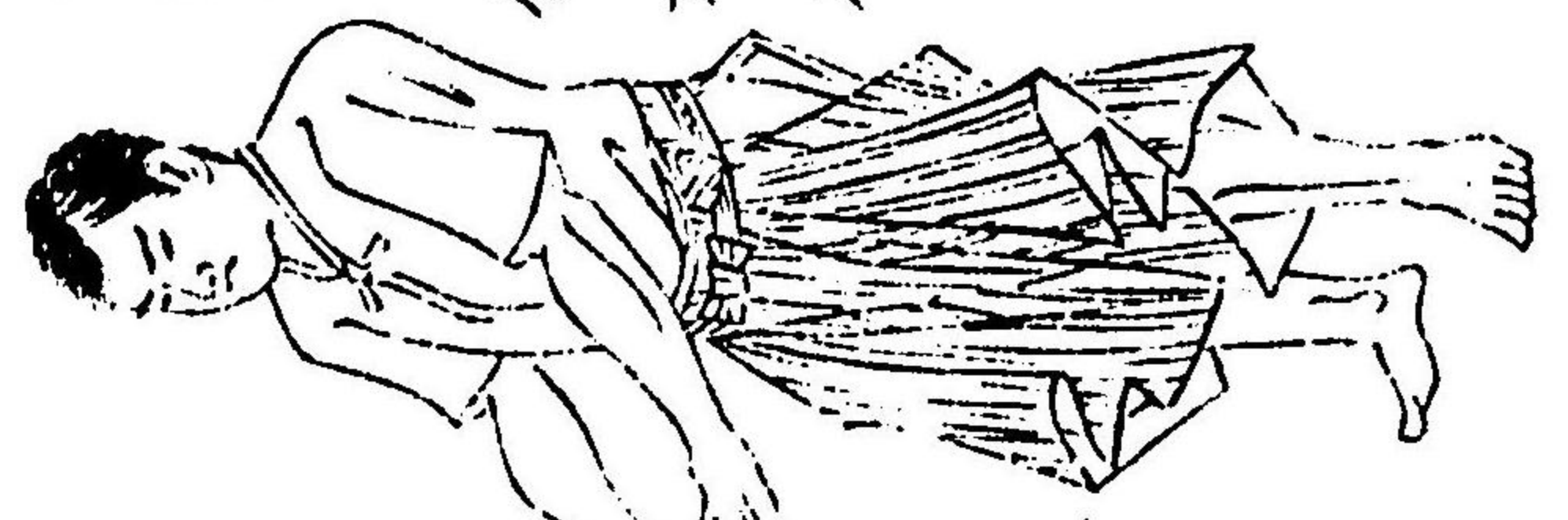
打太刀



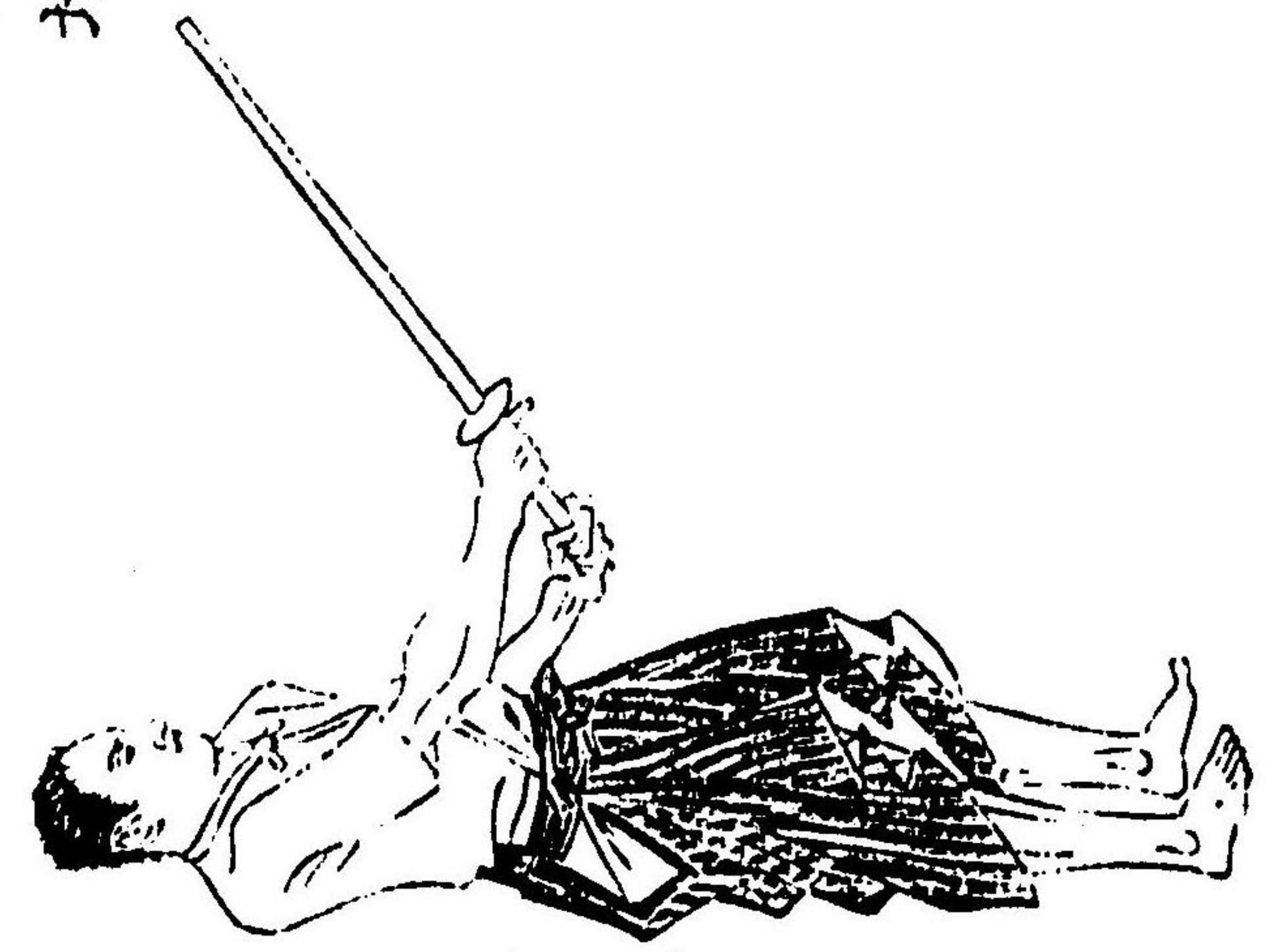
仕太刀

足ハ場合ふと踏出して揃へ或
 ハ引付て揃ゆる也

曲尺第九圖 仕太刀



打太刀心
仕太刀心
元の位地
直る



打太刀

圓連 刀連
第一圖

打太刀ハ精眼の竹
刀を上段ニ取

仕太刀右の足を踏
出—ちがら上段ニ
取

仕太刀



打太刀



圓連 體連 第二圖

打太刀ハ右左ウ右ト
 三足踏之(ヤエヤ)
 聲掛け仕太刀の
 面上を打ツ
 仕太刀ハ同時ホ
 右の足と斜ニ左ウ踏込
 ホカラ(ヤエヤ)と聲掛け竹
 刀を圓ク回ル心持テ圓
 の如ク仕太刀の打ツる竹刀
 止ルハ是則圓連也



圓連 體連 第三圖

仕太刀ハ打太刀の竹刀を止ル
 早ク左ウの足を踏込
 ホカラ(ヤエ)

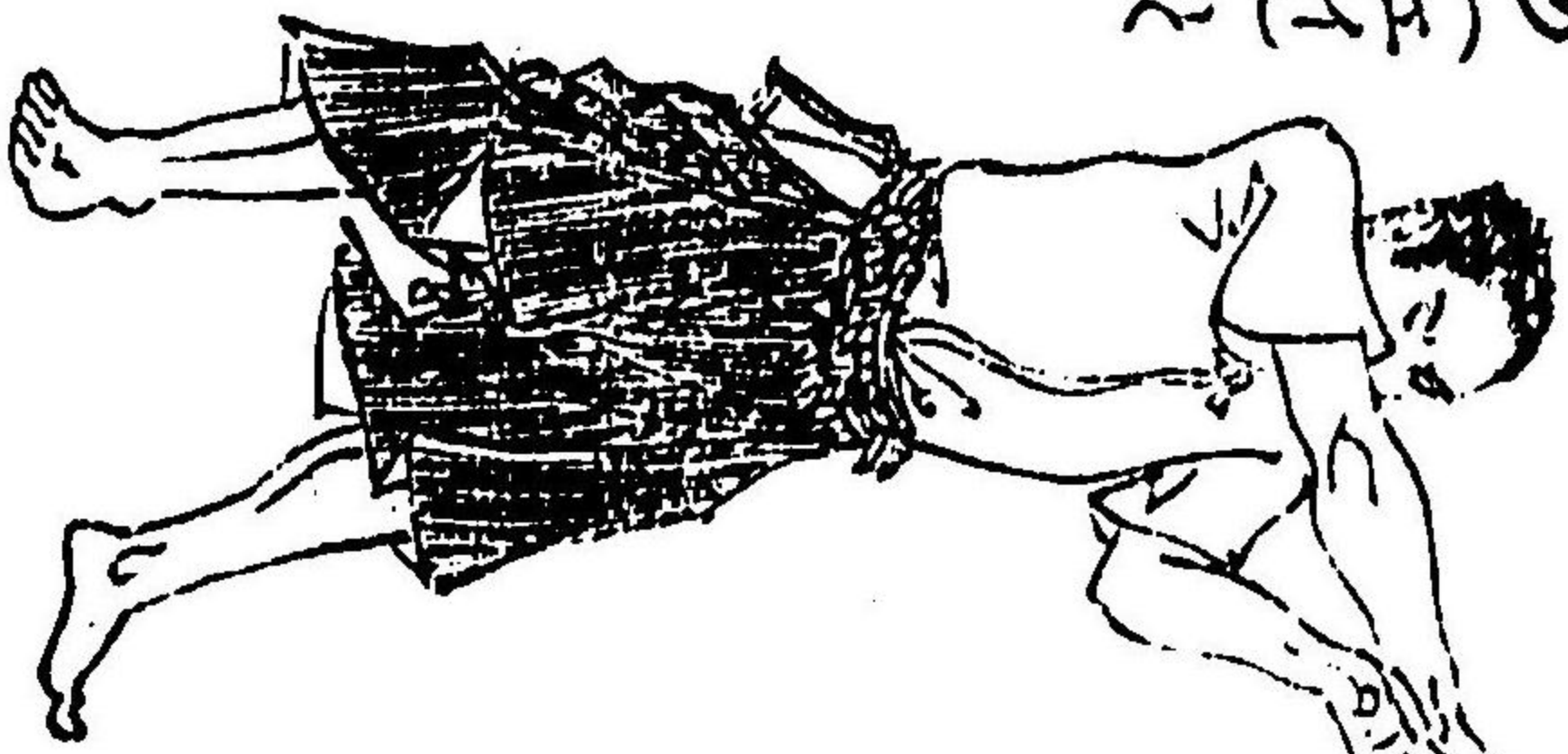


已ウ竹刀
 連ルテ打太
 刀の面打込
 勝
 取

是則刀

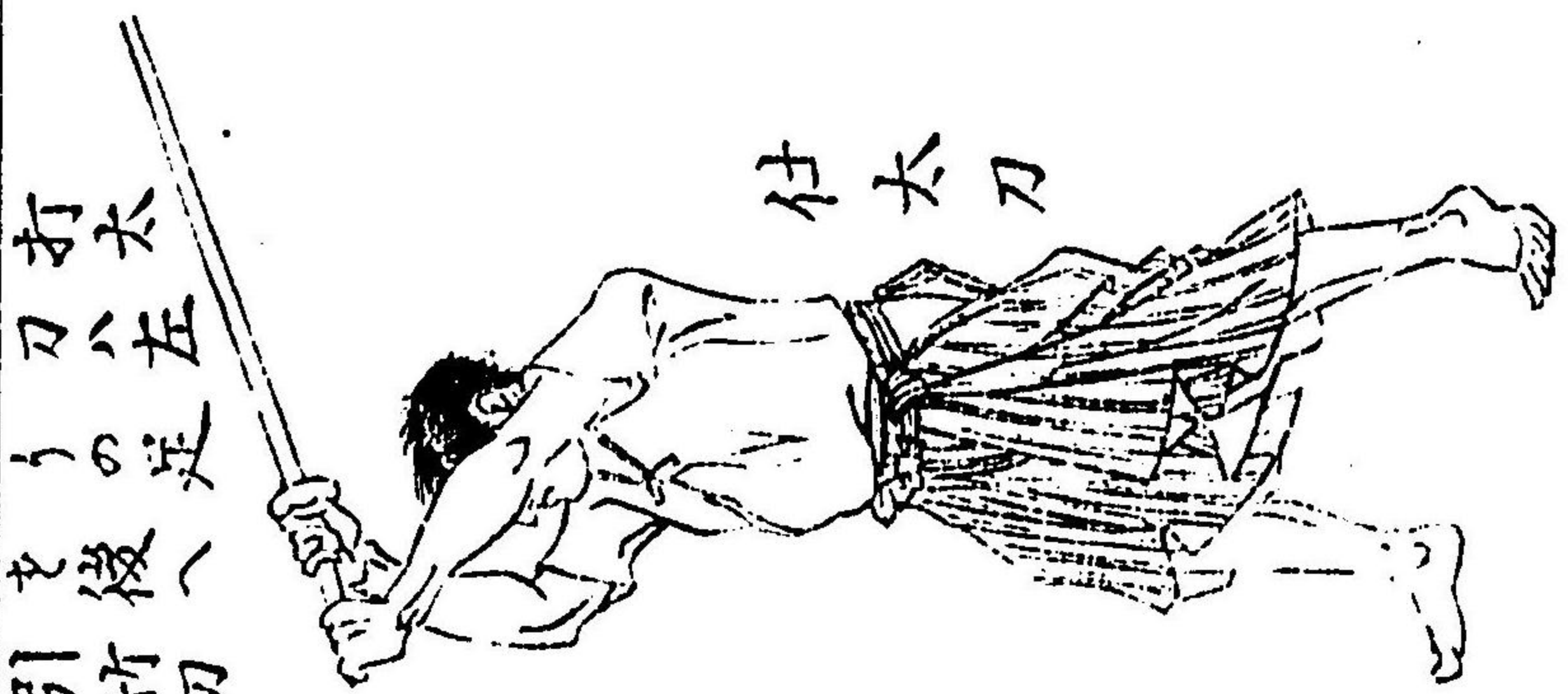
連也
 打太刀ハ
 踏込
 右の足
 を後引

返一ホカラ(ヤエ)
 聲掛け仕太刀の打
 込竹刀を止ル



打太刀

圖連刀連體第四圖

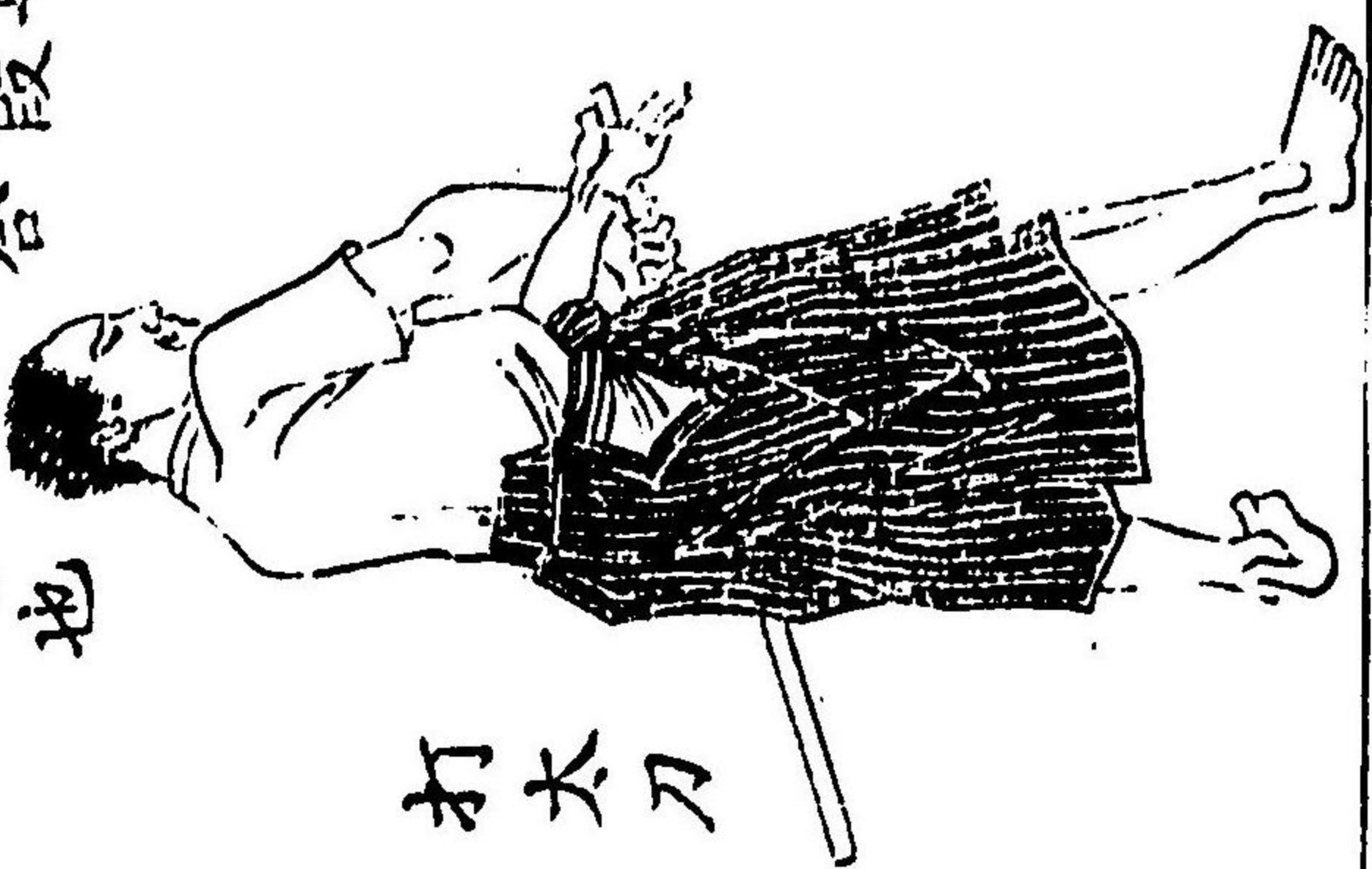


打太
刀ハ左
りの足
を後へ
引竹刀

を逆斜に取る
仕太刀ハ打太刀ら

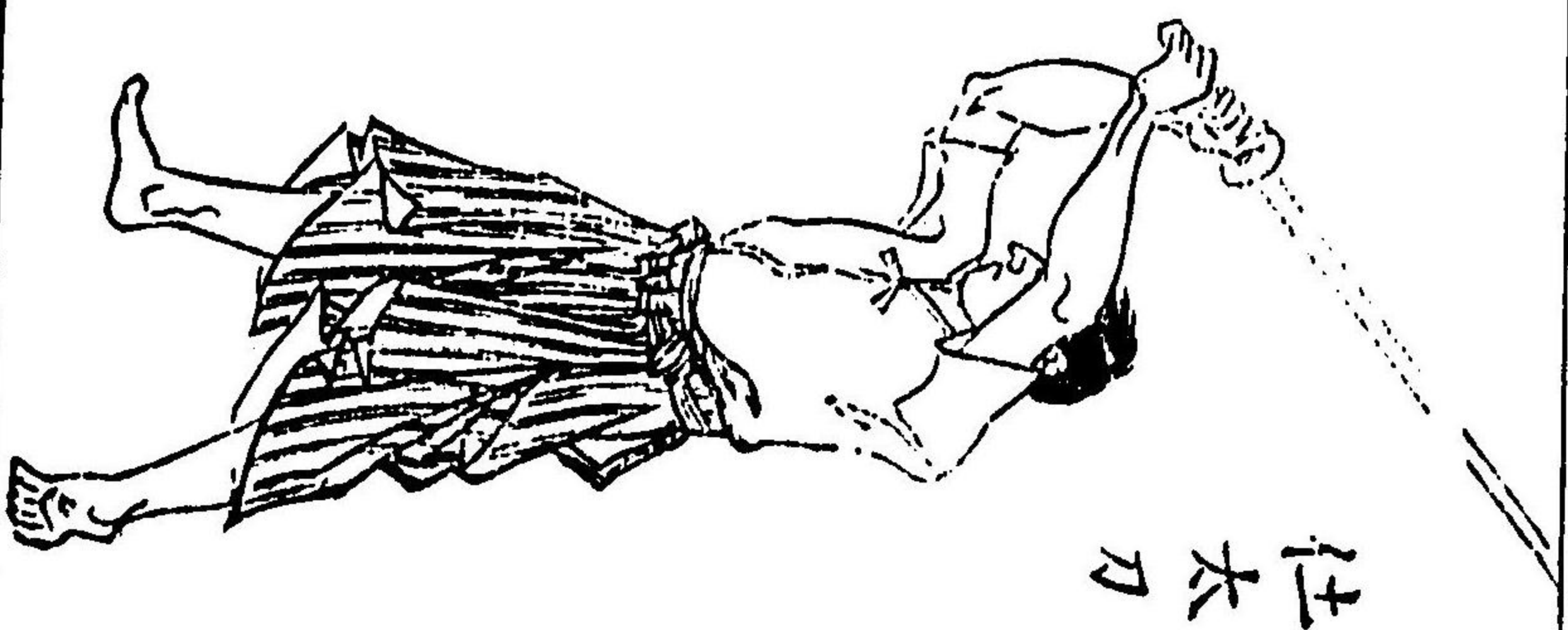
引を透さば
体は連れて右
の足を踏込
竹刀を上段
に取し氣合

みて攻込
敵へ也
是則體連也



打太刀

圖連刀連體第五圖



仕太刀

打太刀ハ左りの足踏出
仕太刀の右の足を拂ふ

仕太刀ハ

打太刀が

拂ふ右の

足を引へ

文字踏

打太刀

張る



打太刀



仕太刀

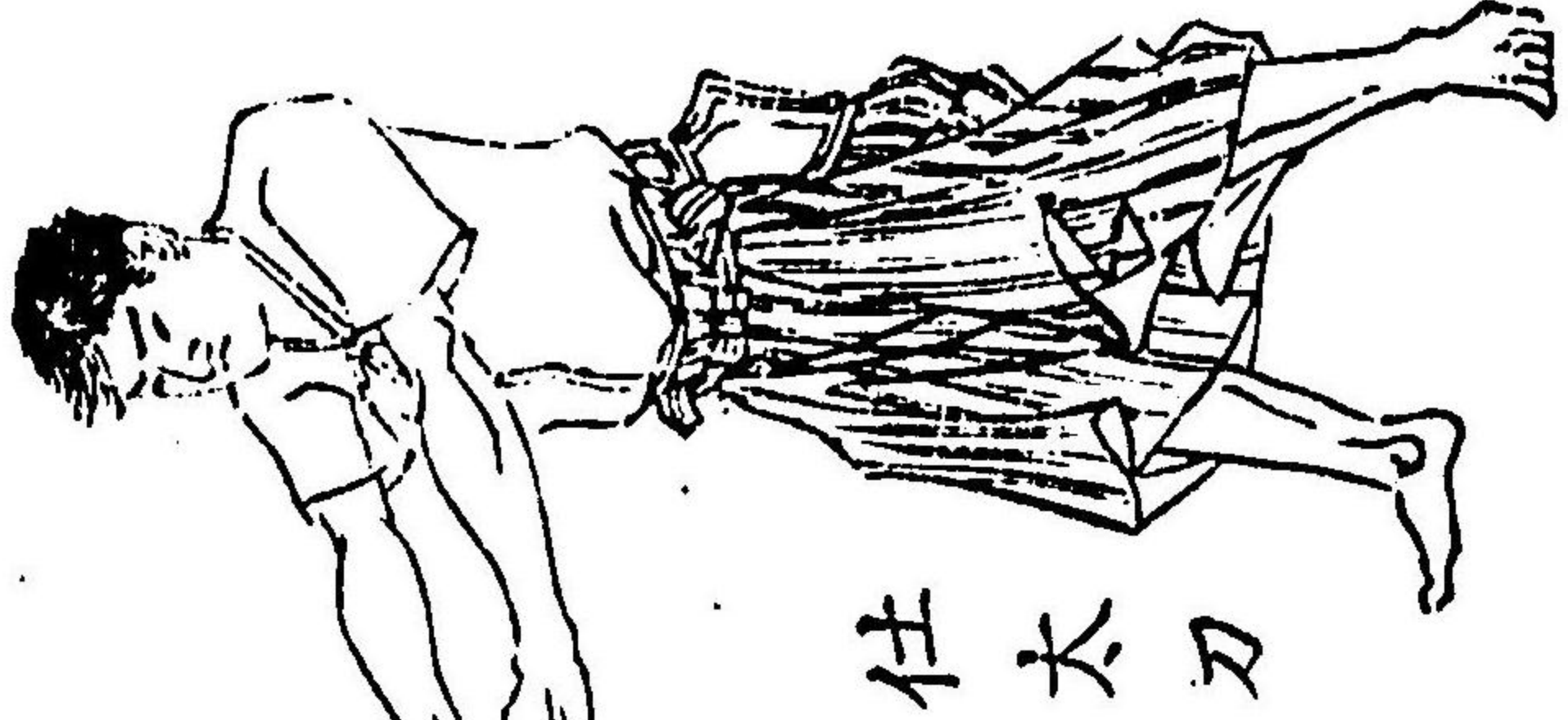
第七圖

圓連體刀連連

圖連體連第六圖

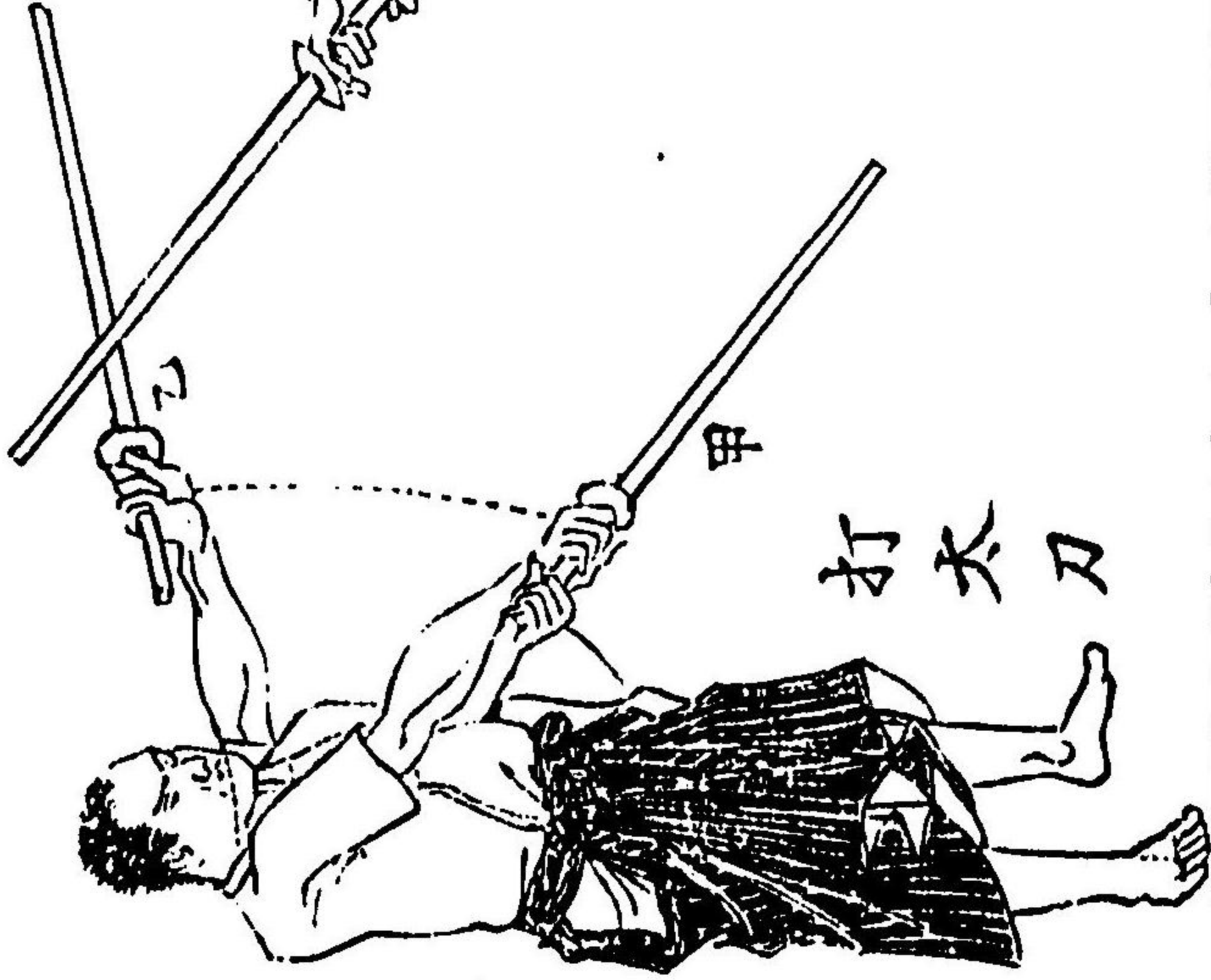
打太刀の右手みて仕太刀の左りの甲手

を下
を切り
上る



仕太刀

仕太刀
は打大
刀から切
り上る
竹刀を
(ヤエ)に
上段に

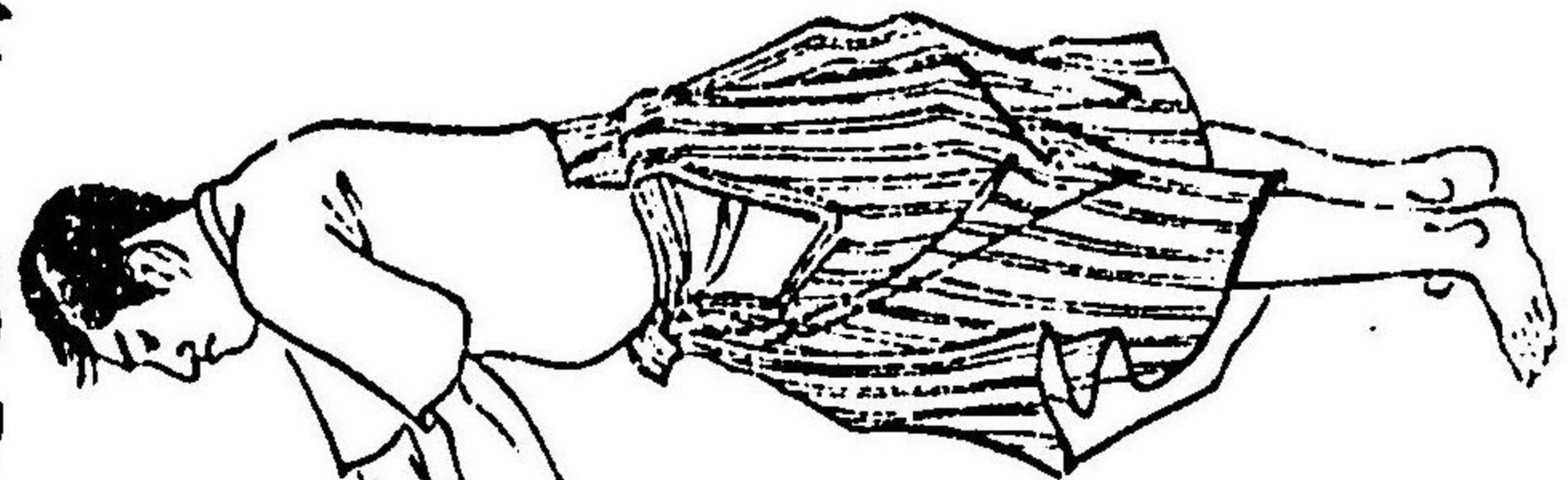


打太刀

り切り落しおら左りの足を後へ
引上段を取り直す

圓連刀體連第八圖

仕太刀



仕太刀

ハ右の
足を左

りの足
へ引付

あうら
竹刀を

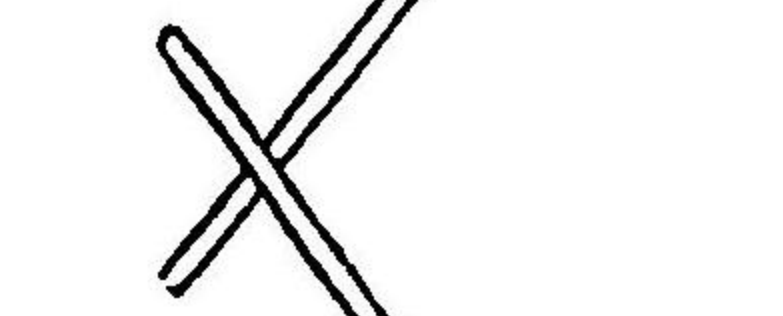
精眼ふ
卸す

ハ打
切く

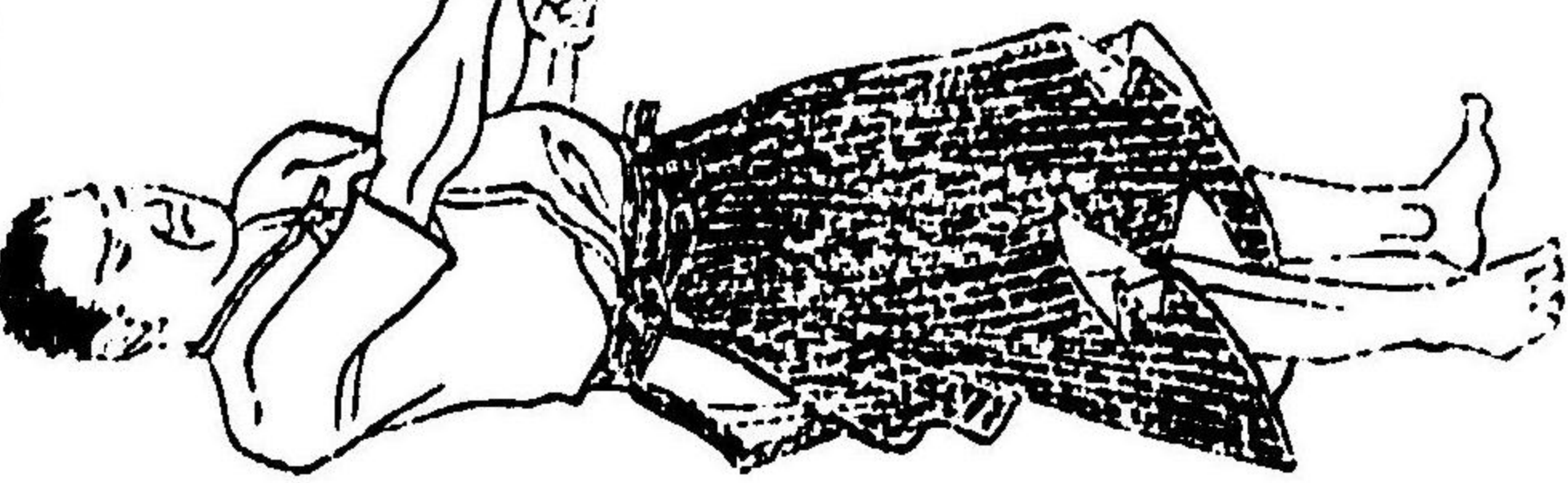
落さ
れ

竹刀
を取

進退 | 相精眼ふ付了足ハ場合ニ寄テ
直 | 揃ゆる也



打太刀



圓連

刀體連

第九圖

打太刀

仕太刀

元の位地

ヲ直了

打太刀



仕太刀

圓連

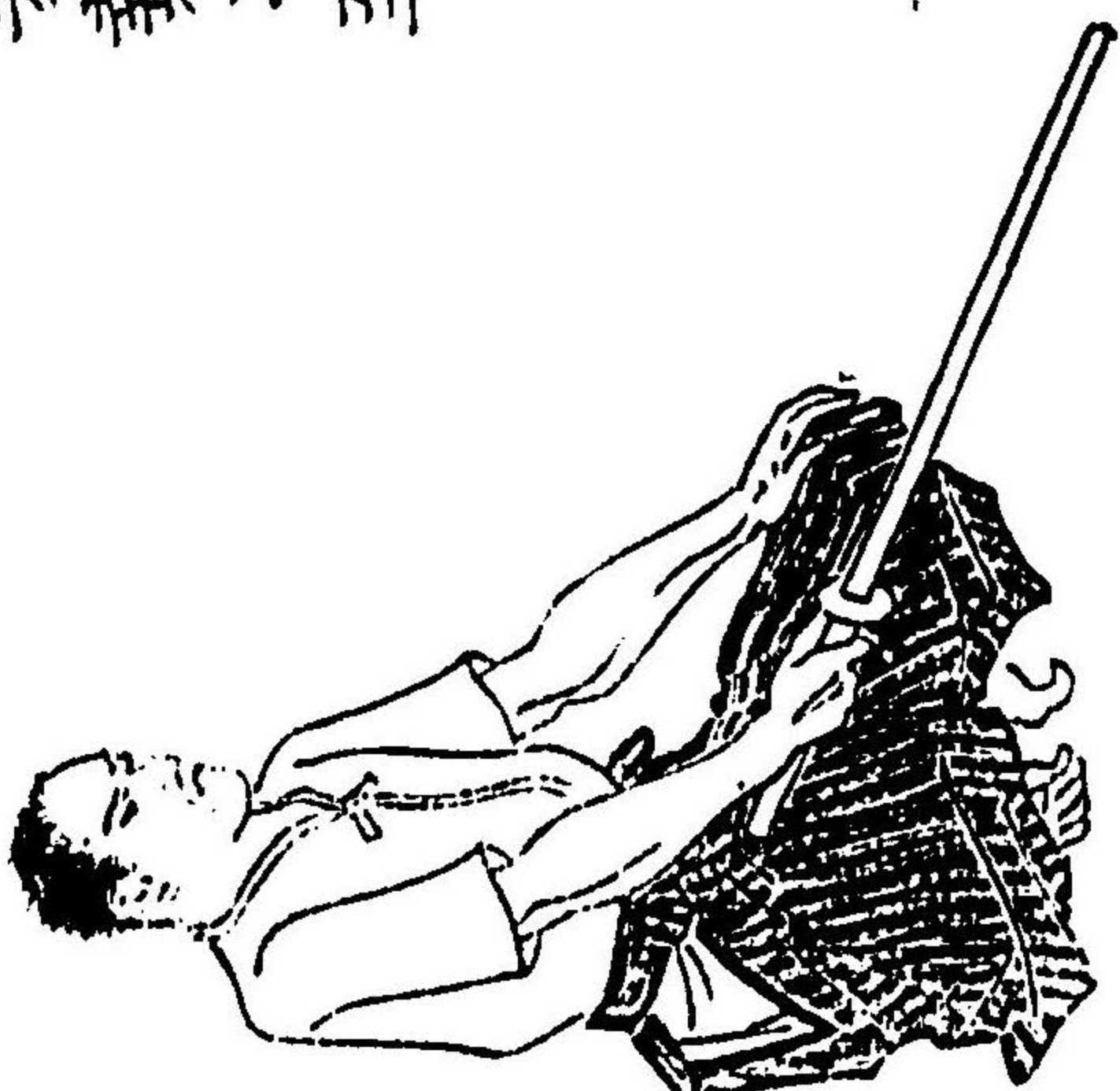
體連 第十圖

仕太刀

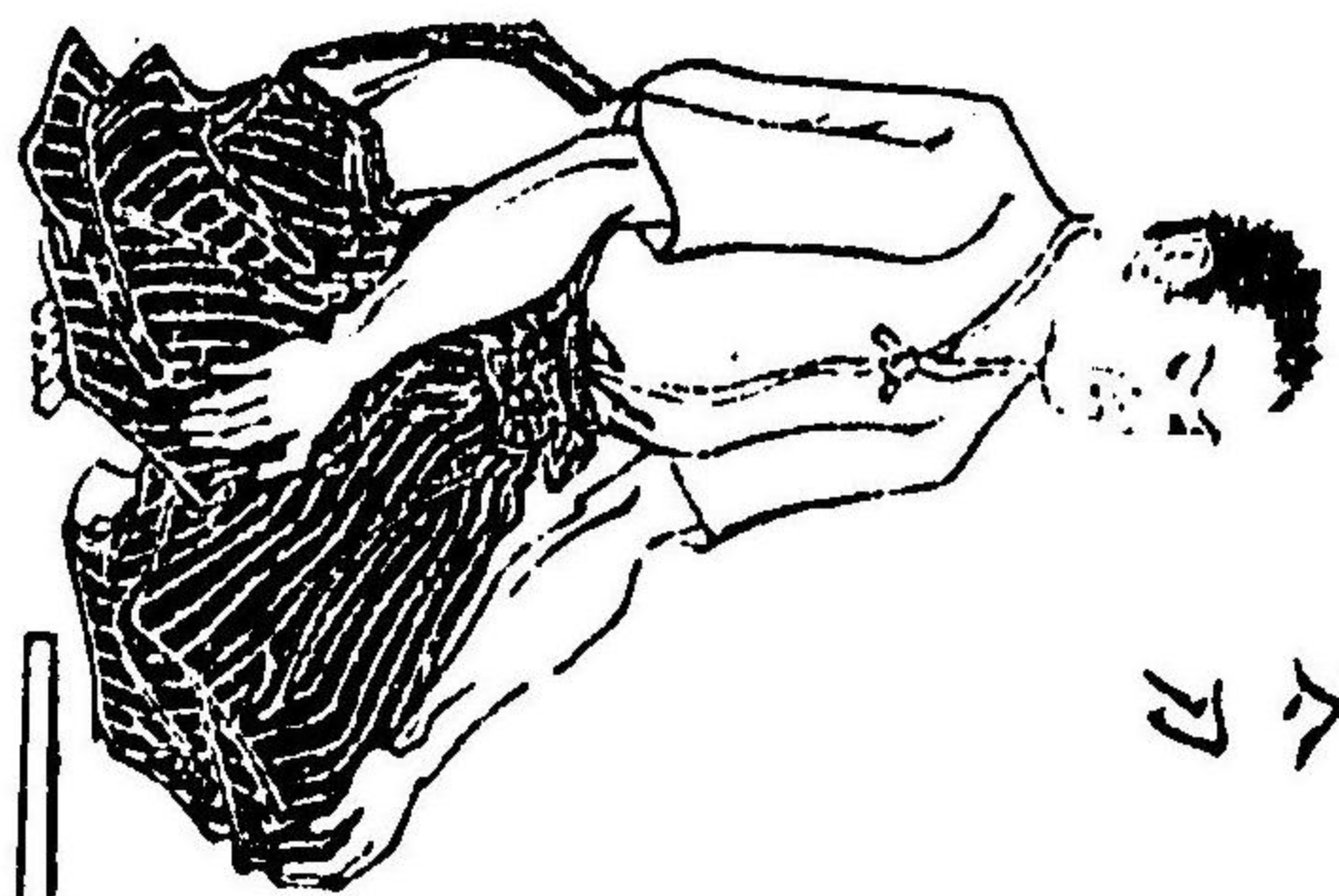


打太刀も仕太刀も
左りの手を放し屈
みて竹刃を下し置
きて次の姿勢に至
る

打太刀

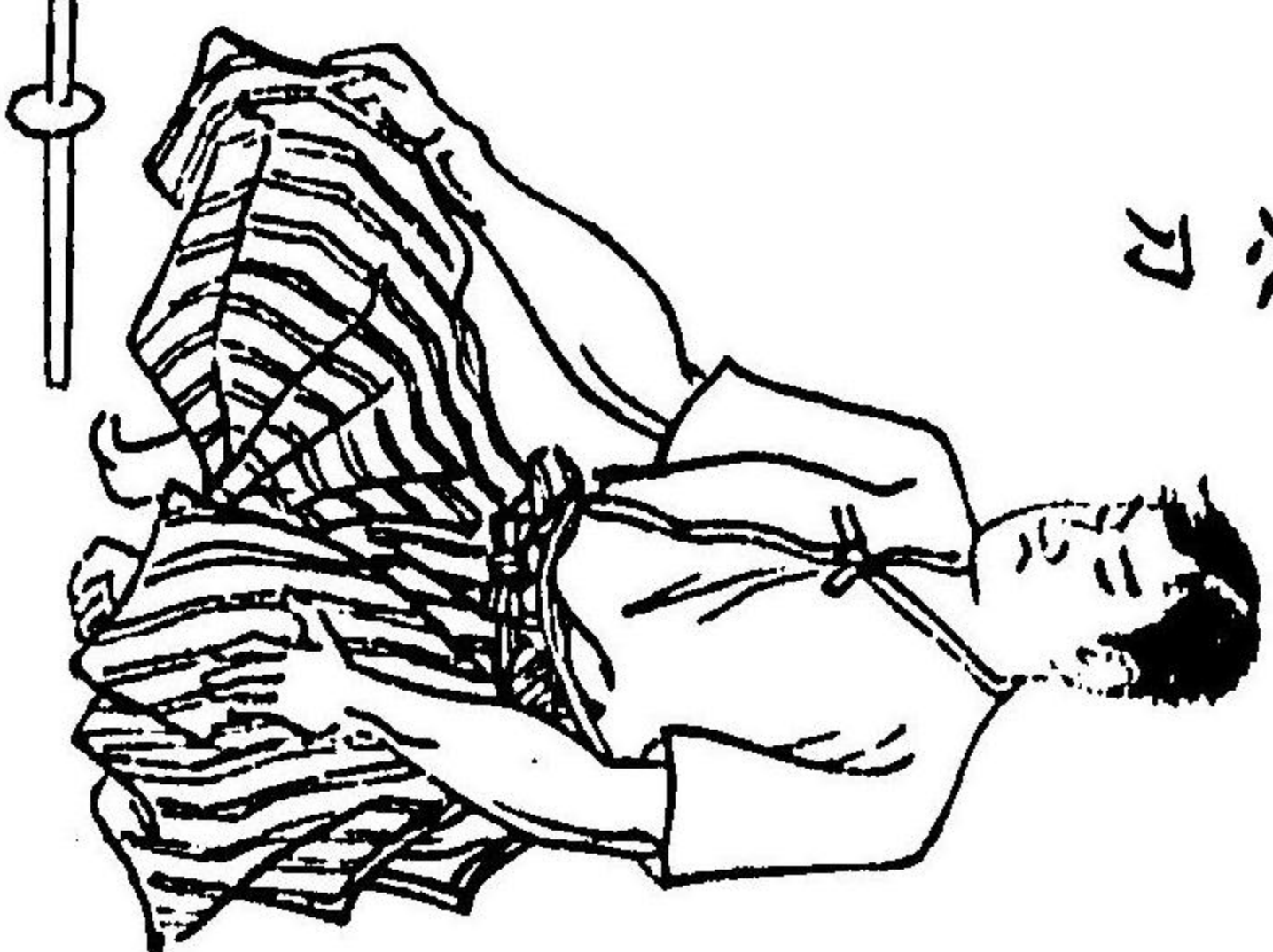


打太刀



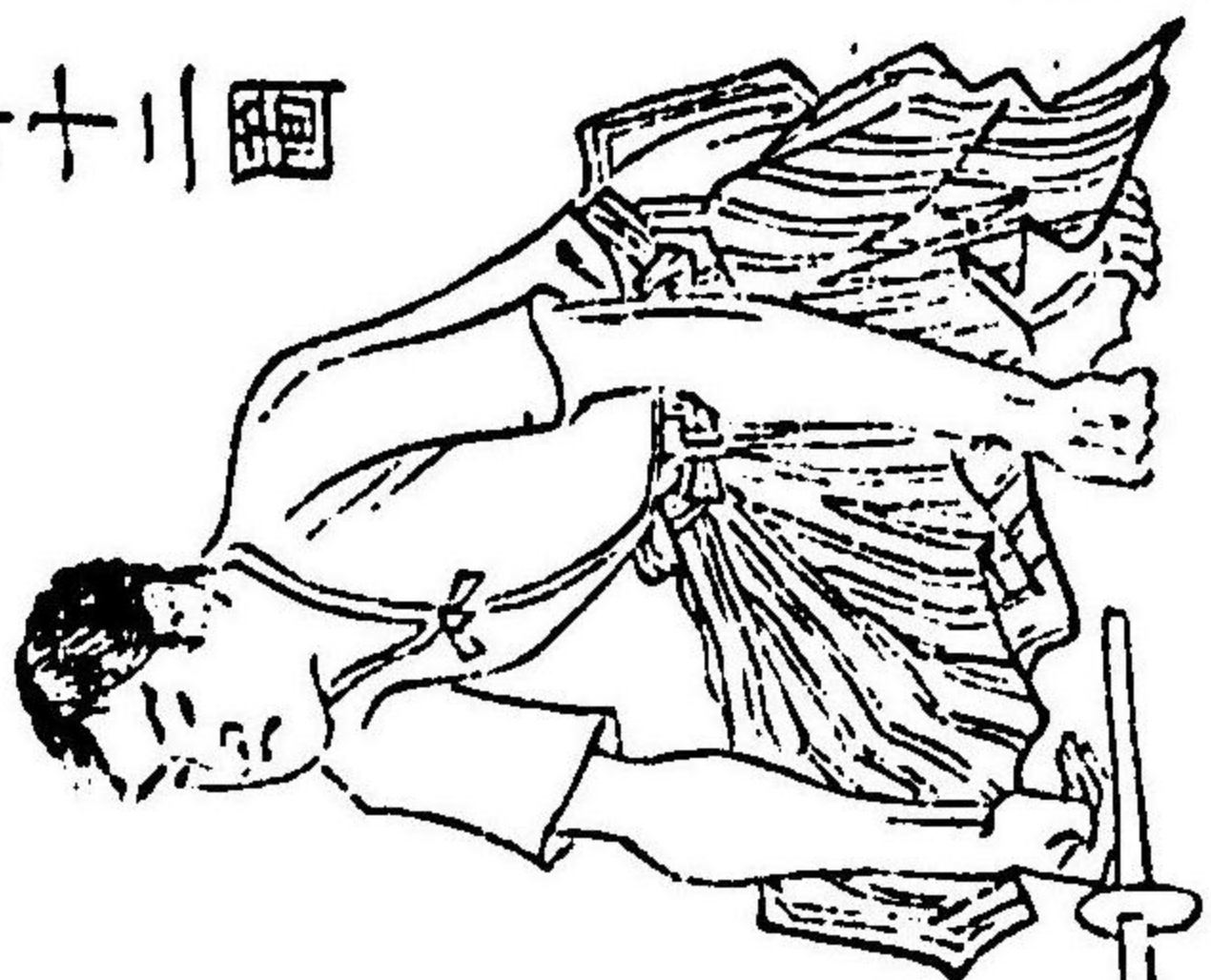
互ハ位を取

仕太刀



圓連 體連 第十一圖

圓連刀連體連第十二圖



仕太刀

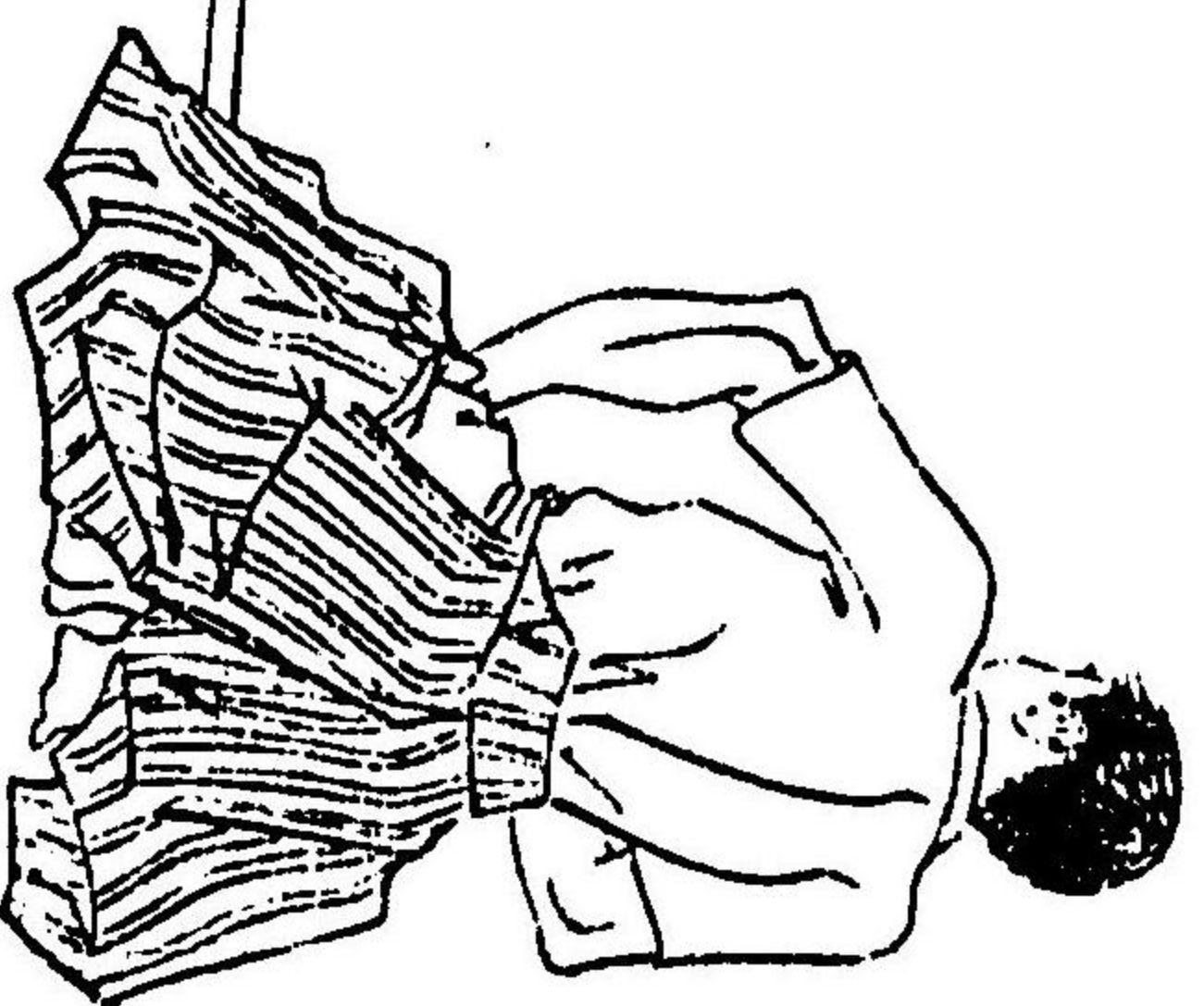
釋會一寸互く如の圖

至る圖の次の



打太刀

圓連刀連體連第十三圖



仕太刀

圖の如く互右を向

手を弓手見て袴の

だちを卸し夫と

竹刀の右脇へ寄

は叮嚀一禮を

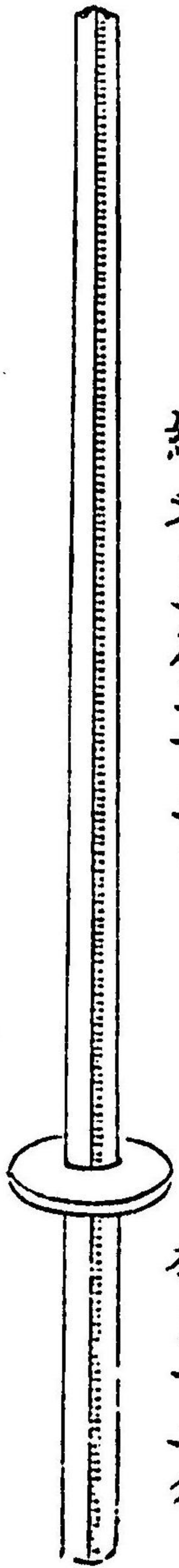
打太刀



袋韜之圖

總丈ケ三尺三寸五分

柄九寸五分



小韜之圖

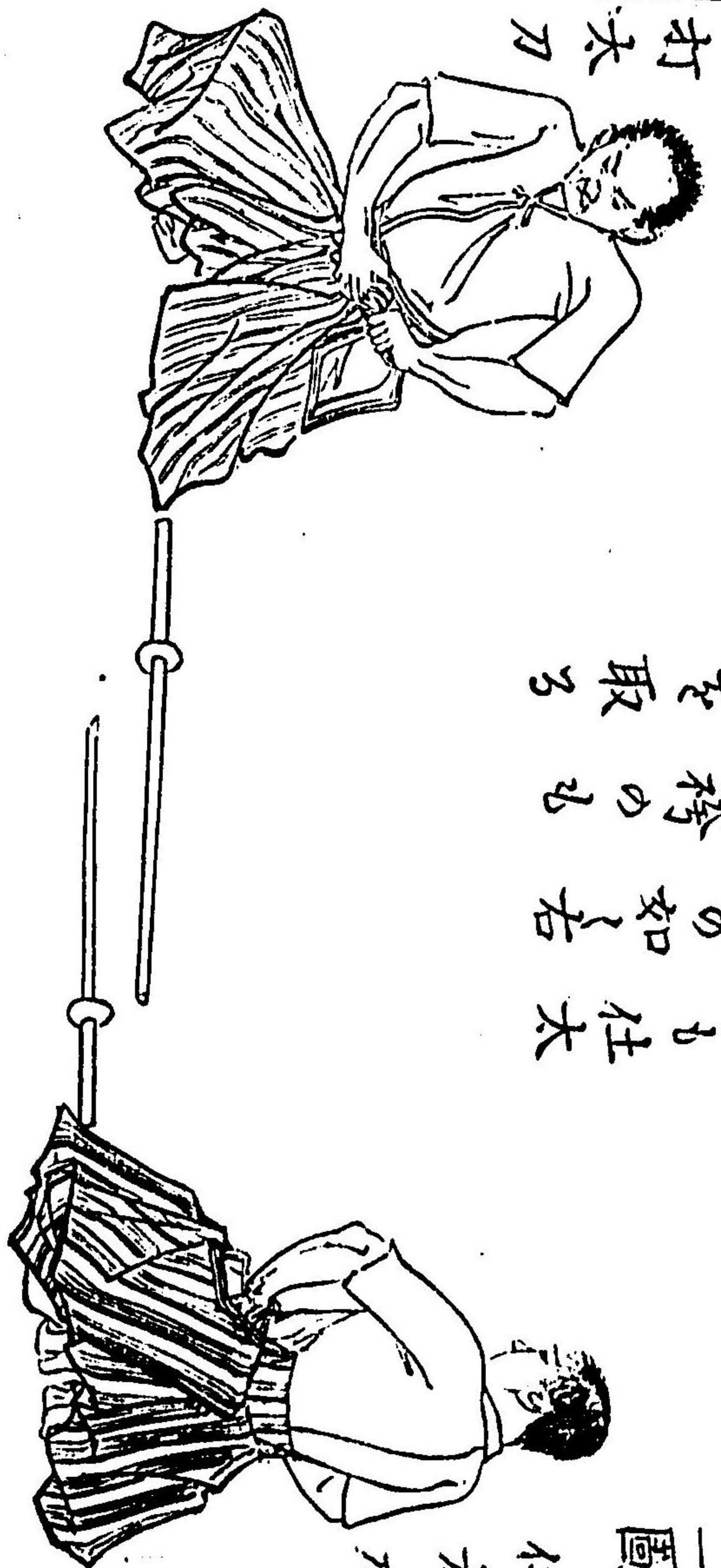
總丈ケ二尺六寸

柄五寸



風勢第一圖 仕太刀

打太刀も仕太
刀も圖の如く右
を向き袴の毛
もだちを取る
也



打太刀



仕太刀 風勢

第二圖

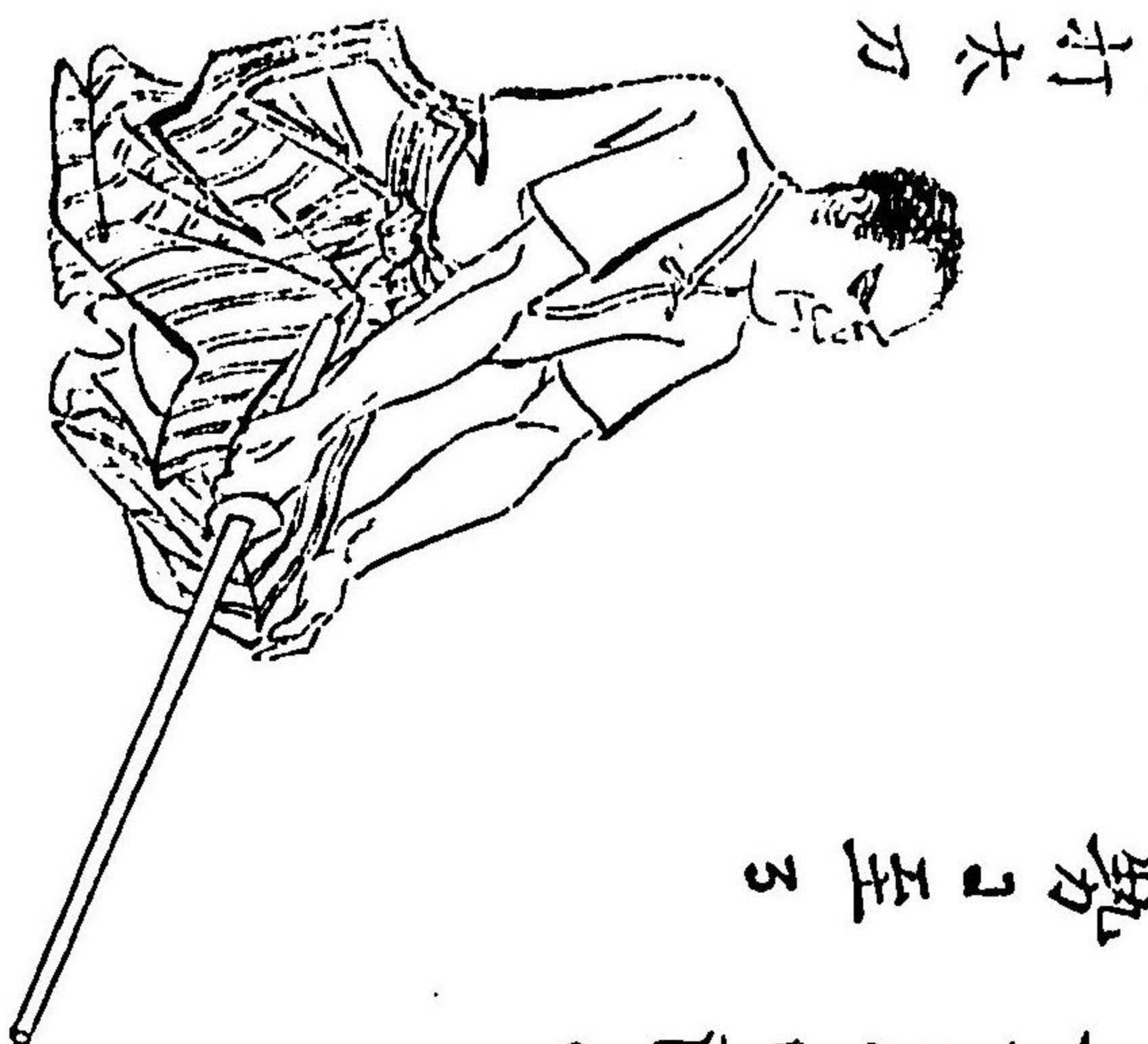
打太刀も仕太刀も

圖の如く正面を向

位とする



打太刀



打太刀

姿勢に至る

立ち等第四圖の

て竹刀を取りかぶ

も圖の如く右手に

打太刀も仕太刀



風勢 第三圖

仕太刀

風勢 第四圖

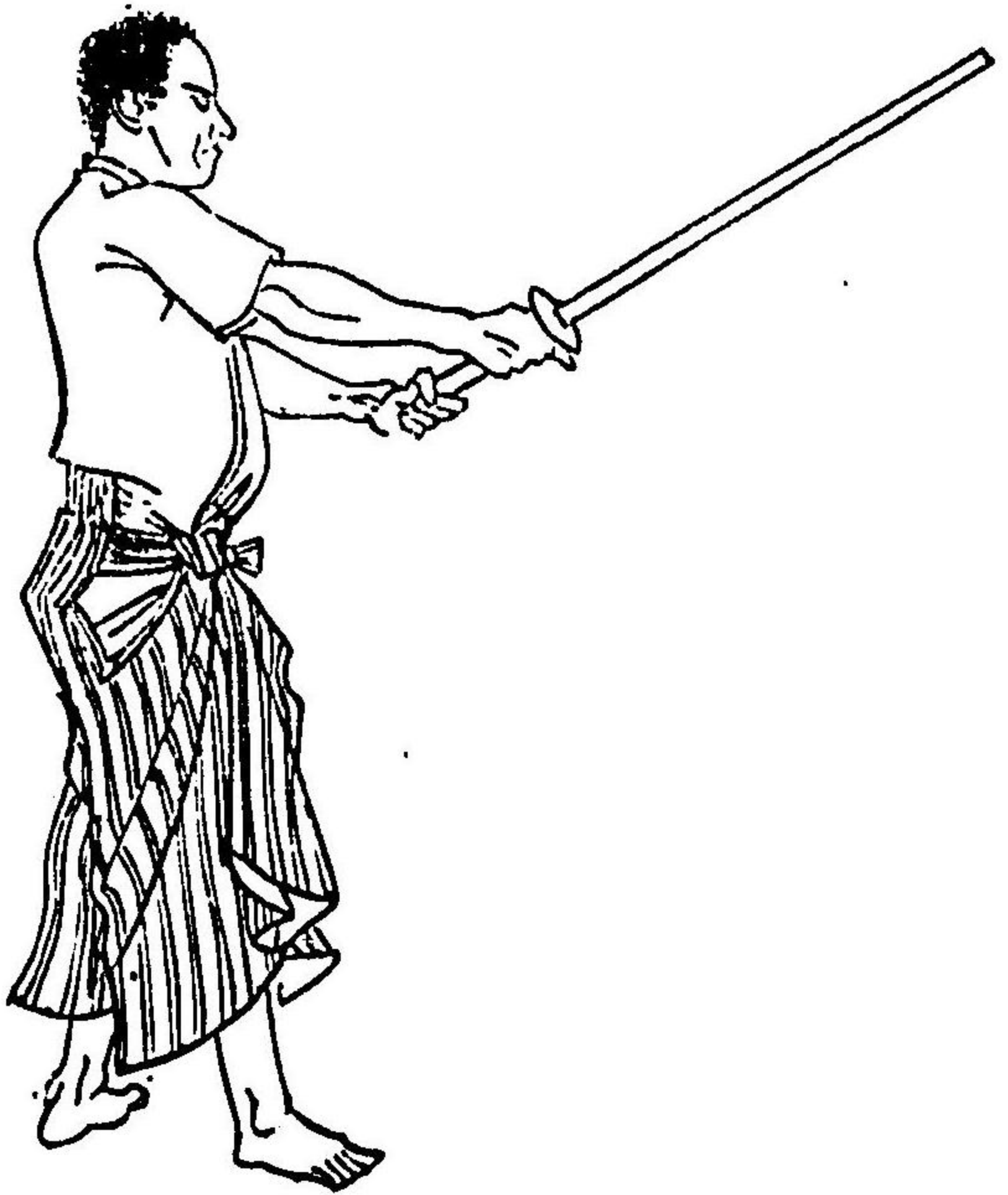
仕太刀

風勢と名附たる
形の意ハ次の五圖
の乙の姿勢體を以
つぞみよ延一たる
を竹刀の頸上迄下
り腹部ふ充分力の
入たる時打太刀を



見込と足を蹴返左
り右左りと進む時
大木をも吹倒れ烈
風の如き勢を以て
進むことをお
へたる

打太刀



風勢 第五圖

仕太刀ハ左りの
足ヲ踏込右を向
き左り手を放し
親指と人さし指
の間ハ切先の手前
を挟み是を水平
小腹部ハ當て静小
胸部を摺りて圖の
如く頭上へ高く揚げ
両足を爪立て腹を
透りせていつまゝ
小延びると同時小



仕太刀

甲



乙

下腹を張りながら體を落付らせ竹刀の頭上より少
上迄下りて乙下腹ハ充分力入たるとともふ打太
刀を見込進むまづみを付る為ふ左の足を圖の如
く内へ蹴返し左り右左りと三足踏込し第六圖に至る

打太刀は足を左り
右と踏出し揃へて
圖の如く八相の構と
いふて竹刀を
右肩の上より
取る



打太刀

風勢 第六圖

仕太刀ハ打太刀ケ
 打つ大刀を左り手を
 むらき、右手の握り下へ添
 へ打太刀と同音ふ（ヤエヤ）と
 声掛け圖の如く止る

打太刀ハ仕太刀三足
 踏込来る処を右の足
 を踏込ちうら面上を
 （ヤエヤ）と声掛けて
 打

打太刀



仕太刀

風勢 第七圖

仕太刀ハ止る直ぐ右
 手の小指をゆるめて
 打太刀の竹刀を受
 流し體を半身ふら
 とせハ足は扇の要の如
 く十文字よまう（エイ）
 と声掛け両手丸く開く

打太刀ハ受流されたる竹刀
 下段よ卸しちうら仕太刀と
 同音ふ（エイ）と声掛け猶右の
 足を少しく踏込む



仕太刀

打太刀

風勢第八圖

仕太刀

要の足

を直し

ふり

竹刀を

精眼

付る

打太刀

は右め

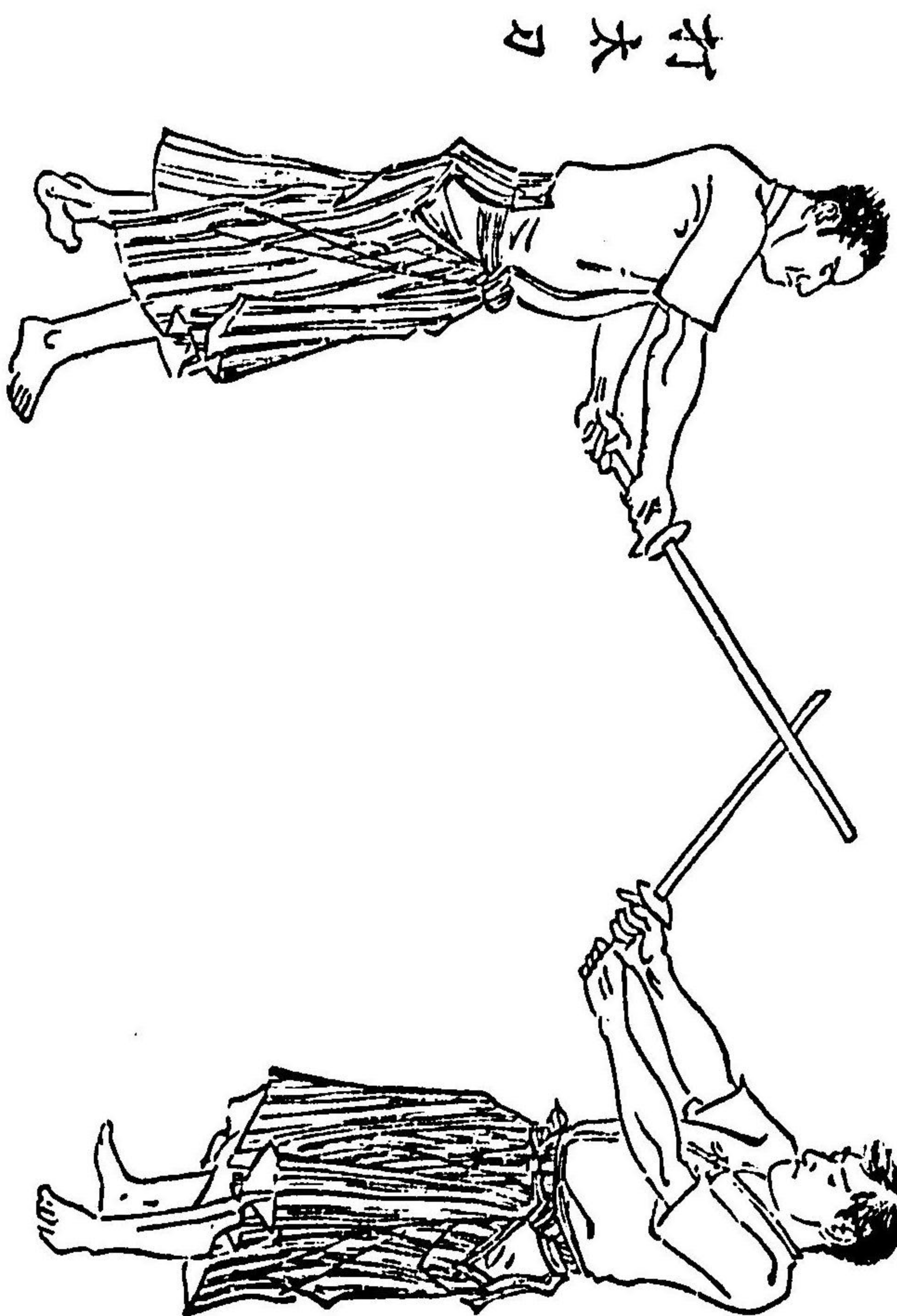
足を引

ぶら

竹刀を

精眼

付る



仕太刀

打太刀

風勢第九圖

仕太刀

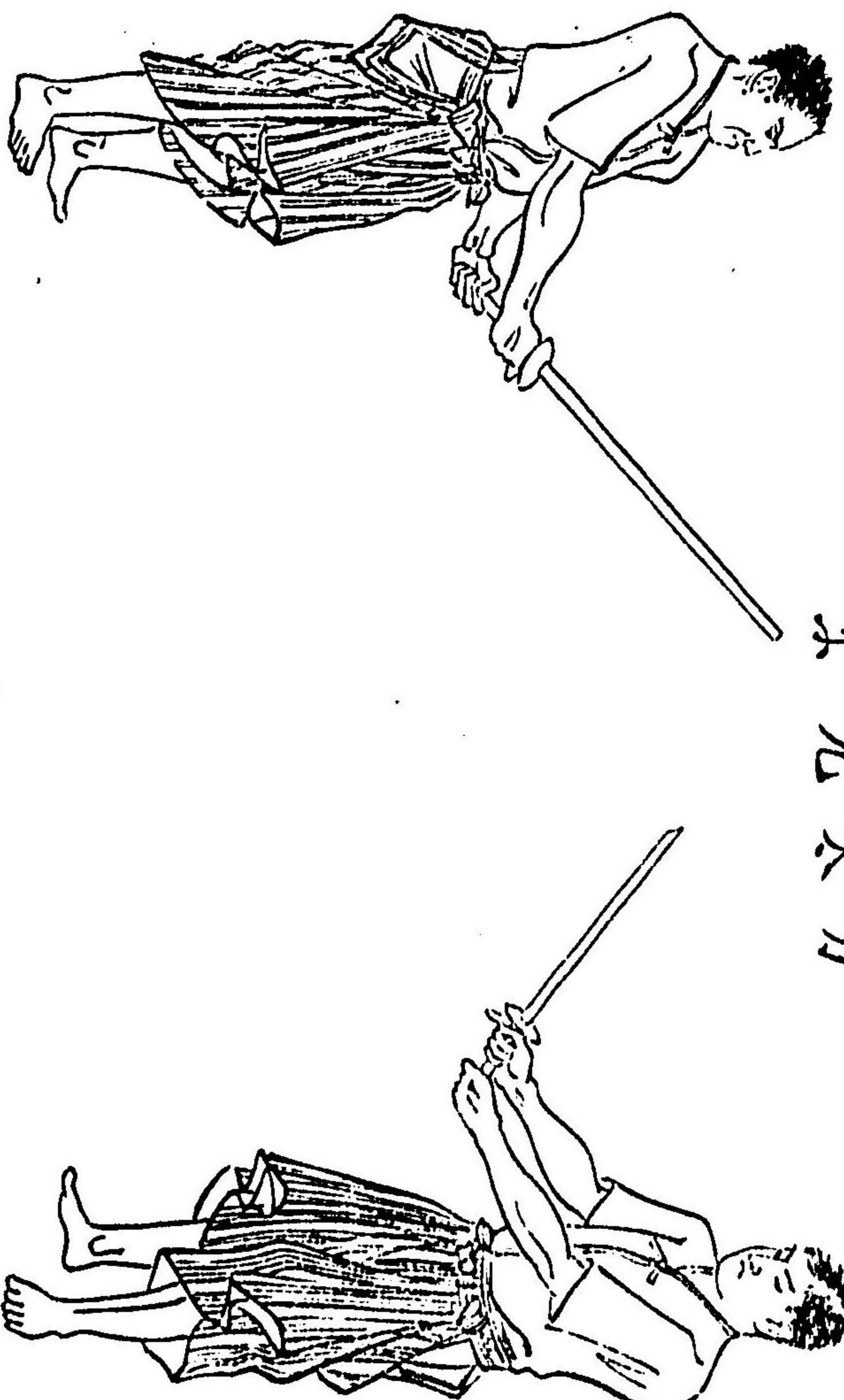
打太刀

心仕太

刀も元

の位地

直る



打太刀

水勢 第一圖

水勢と名附たる形の意ハ大水は蟻の一穴
より堤を崩す勢にて
踏込めといふかへち

仕太刀ハ打太刀ガ竹刀を
上段ニ取ると同時ニ左
の足を踏み込ミ右を向キ
右手を腰骨の上ニ置キ
左の手の親指と人さし指
ひの間ニ圖の如ク竹刀の峯を挟ミ左
の足を内へ蹴返シ左右左りと進みて
第二圖の姿勢ニ至る



仕太刀

打太刀ハ足を
左へ右と踏出
揃へ竹刀を
上段ニ取る



打太刀

水勢 第二圖

仕太刀ハ打太
 刀打竹刀を左りの
 手を開き右手の握り
 下へ添へ打太刀と同音ふ
 (ヤエヤ)と声掛け止る
 打太刀は仕太刀が三足
 踏込来る処を右の足を
 ぬみこみみちから(ヤエヤ)
 と声掛け面上を打



仕太刀

打太刀

水勢 第三圖

仕太刀ハ止る直く右
 の手の小指をゆるとん
 て打太刀の竹刀を受
 流し體を半身ふら
 りせば足ハ扇の要の
 如く十文字ふまをり
 (エイ)と声掛け両手
 を圓く開く
 打太刀ハ請流されたる竹刀を
 下段より卸しちうら仕太刀と同
 音ふ(エイ)と声掛け猶右の
 足を少しく踏こむ

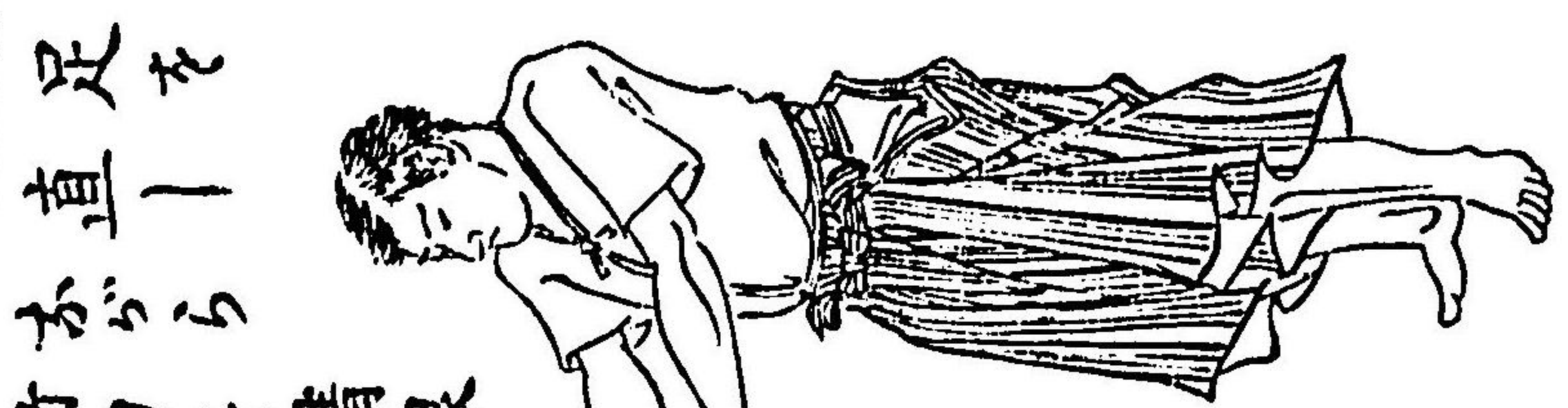


仕太刀

打太刀

水勢 第四圖

仕太刀は要の 仕太刀



足を
直し
おから
竹刀を精眼
こ付る

打太刀は右の

足を引おら

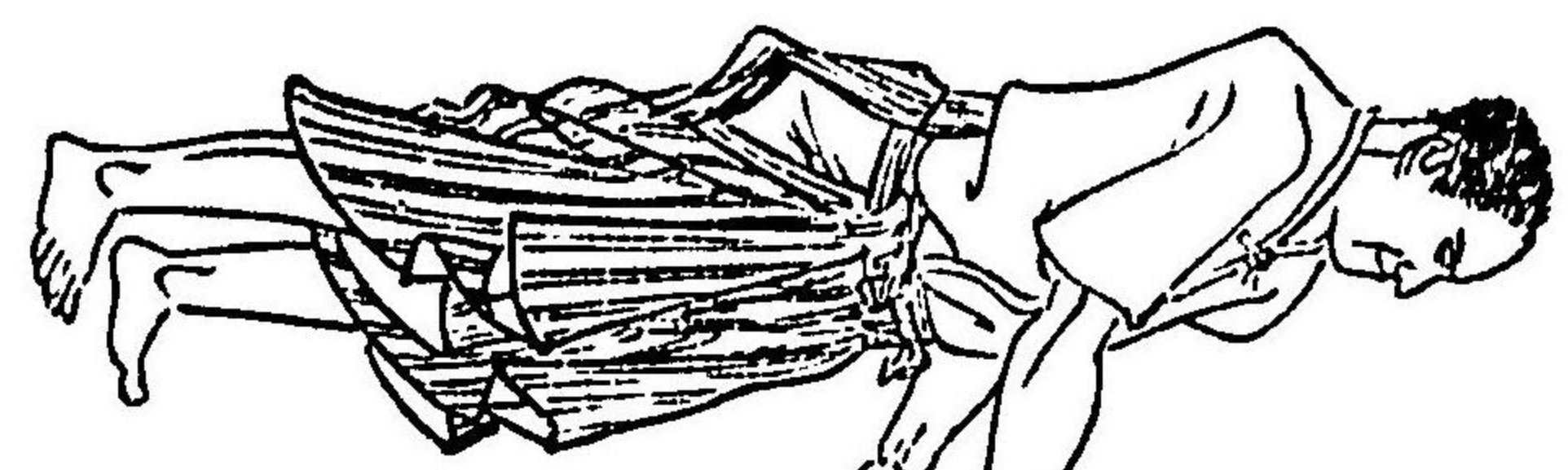
竹刀を精

眼ふ
る付

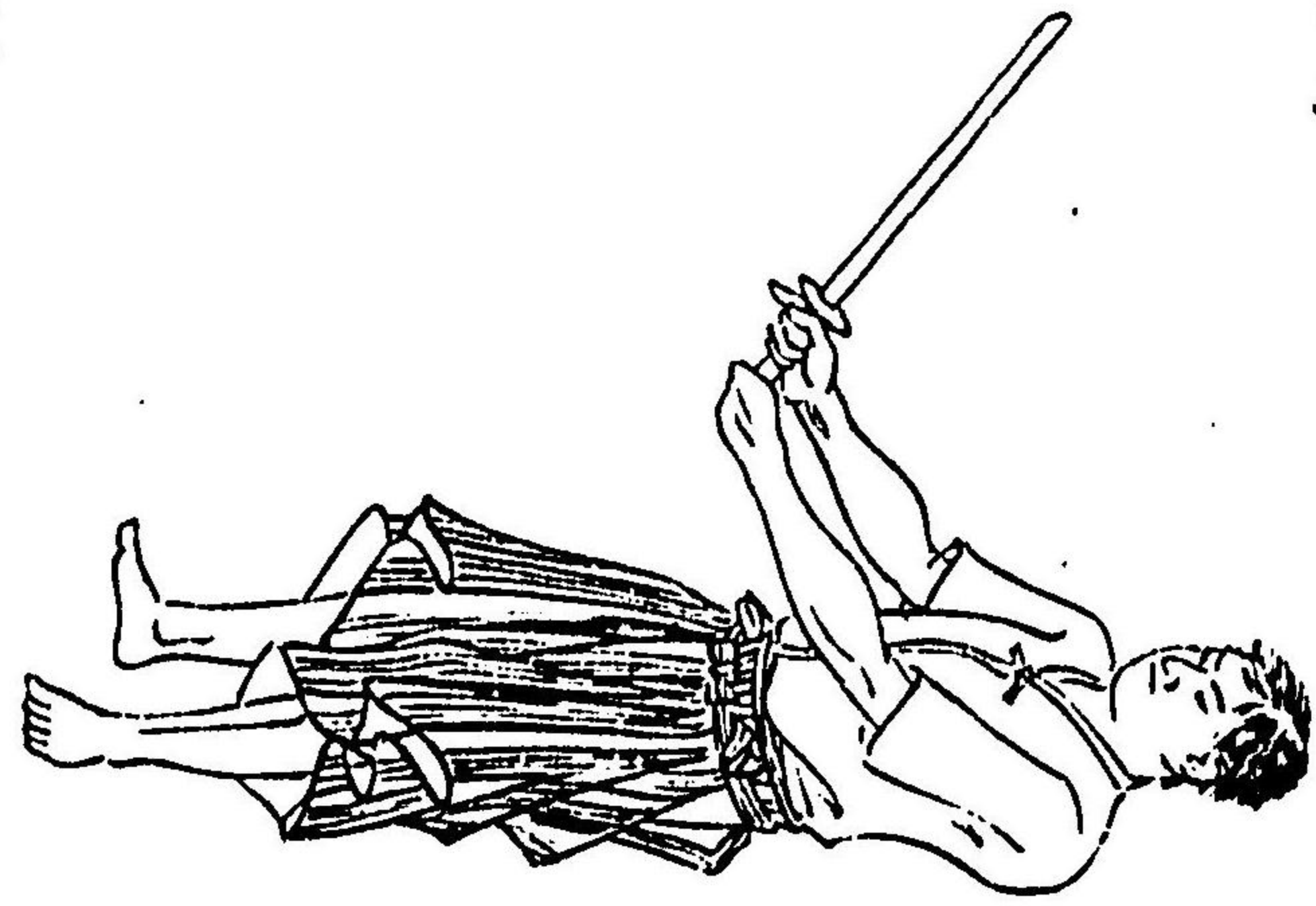


打太刀

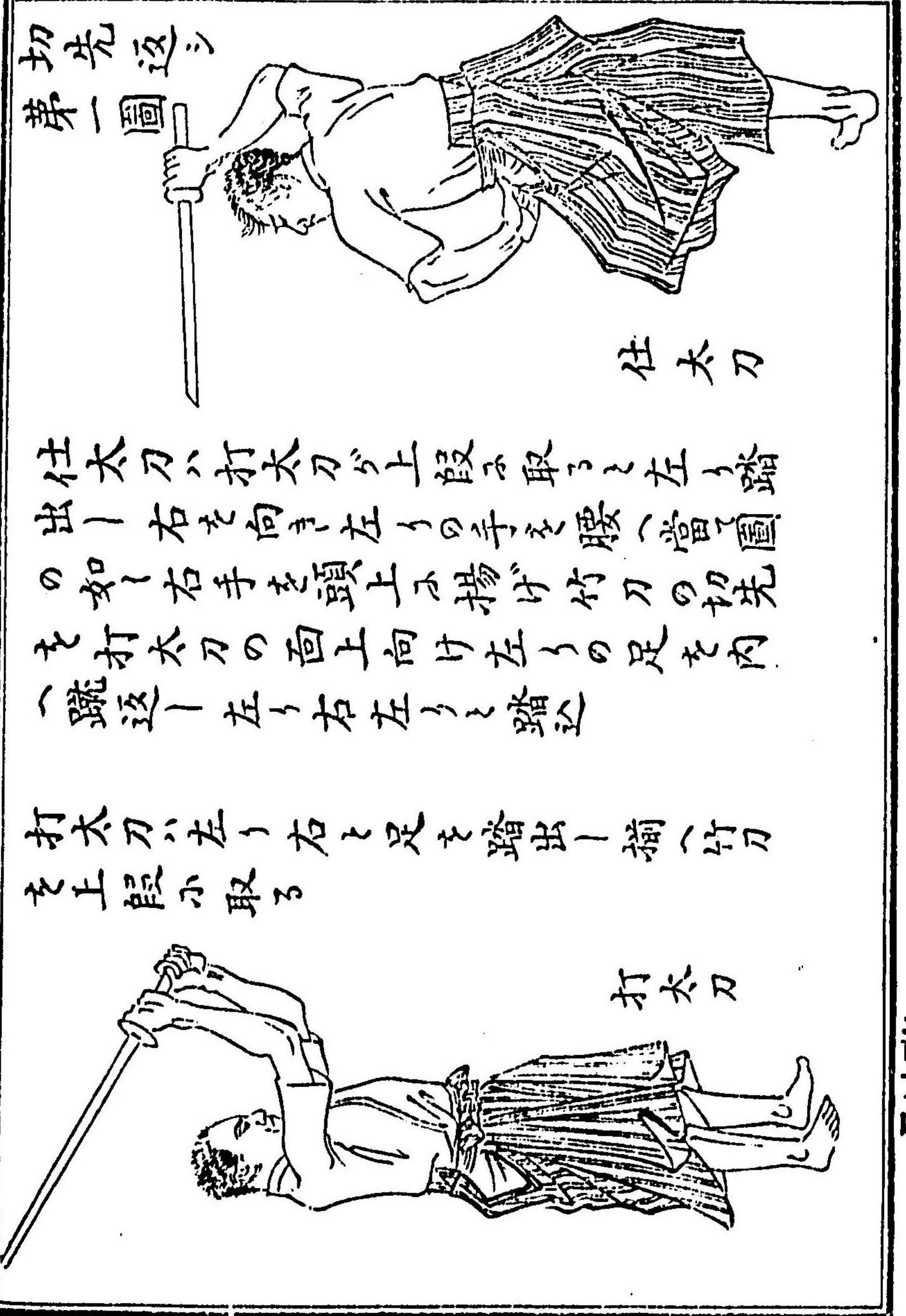
打太刀



打太刀
し仕太
刀元
の地位
し直る



水勢 第五圖 仕太刀



切先返シ
第一圖

仕太刀

仕太刀ハ打太刀が上段を取ると左に踏出し右を向き左りの手を腰へ當り圖の如く右手を頭上へ揚げ竹刀の切先を打太刀の面上向け左りの足を内へ蹴返し左に右に左に踏返す

打太刀ハ左に右に足を踏出し揃へ竹刀を上段亦取る

打太刀



切先返シ第二圖

此一太刀が切先返シの名とまゝ

仕太刀ハ打太刀が打込時踏返シの如く左に足を其終ニハミハル

圖の如く

両手を一文

字ハ返シの

上ハ打太刀の面

割付る

打太刀ハ仕太刀

が三足踏込來る

處を右の足を踏

込ら(ヤエ)と

聲掛け面上

を打

打太刀

仕太刀

物先返シ第三圖

仕太刀ハ透さば右左りと踏込ゝ左り手ふり
打太刀の右の臂を押へなうら
右の足を我が後へ開らき
(エイ)と声掛け打太刀の
咽を突んとさる構
をふすちう

仕太刀

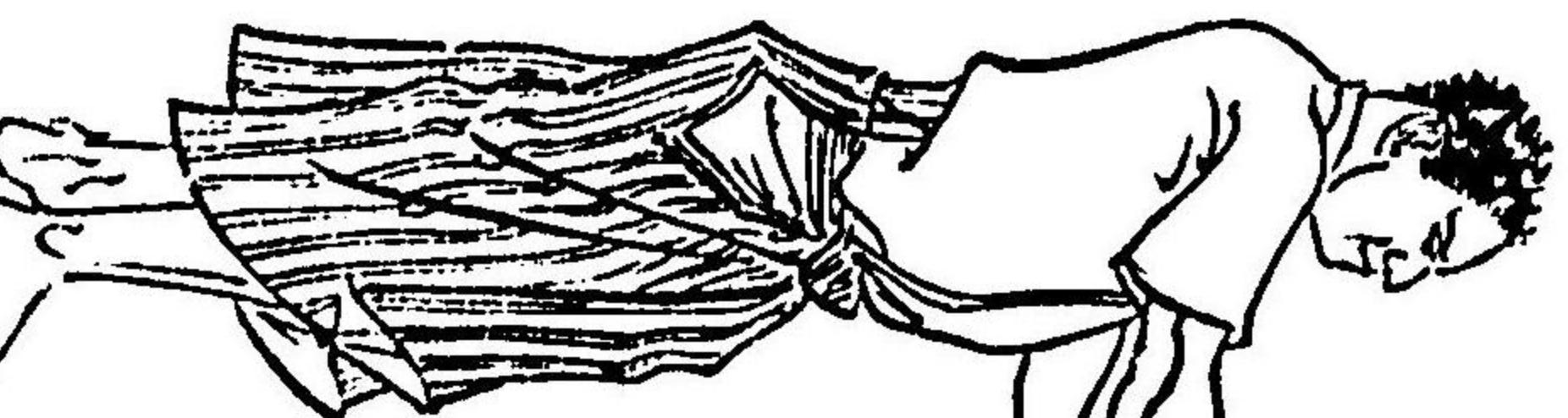


打太刀ハ打負けて竹刀
を上段ふ取るを

打太刀

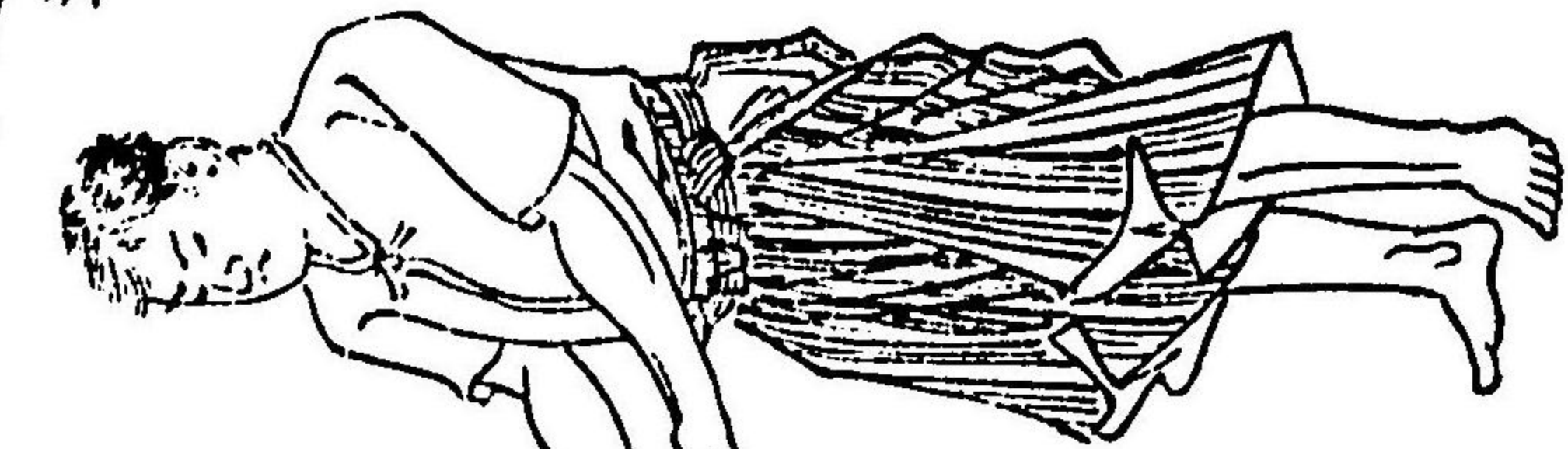
物先返シ第四圖

打太刀は足を揃へて上段の
竹刀を精眼み直さ



仕太刀

仕太刀ハ
左りの手
を放し
一足を右左
うへ正面へ寄
せ竹刀
を精眼
み付る

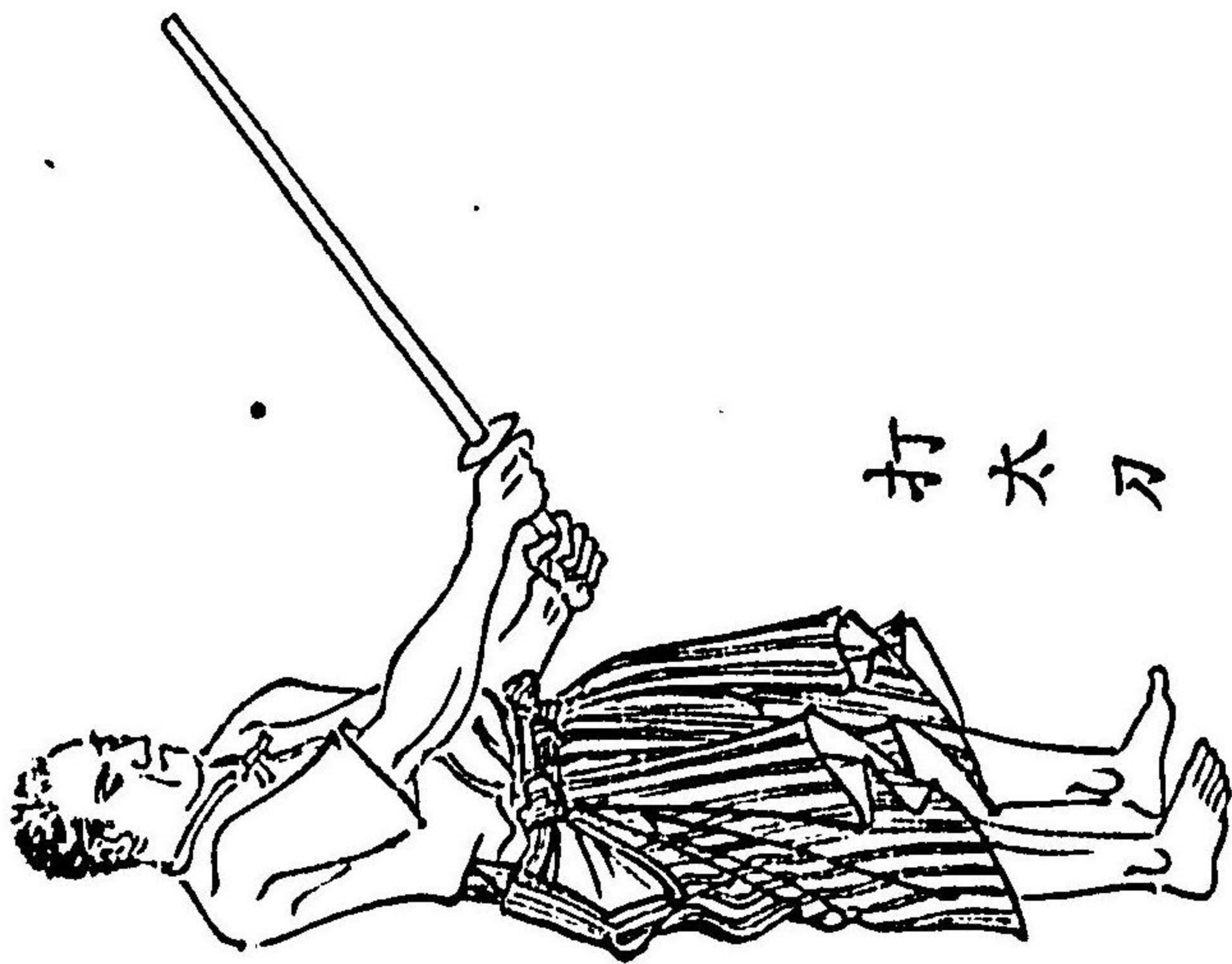


仕太刀

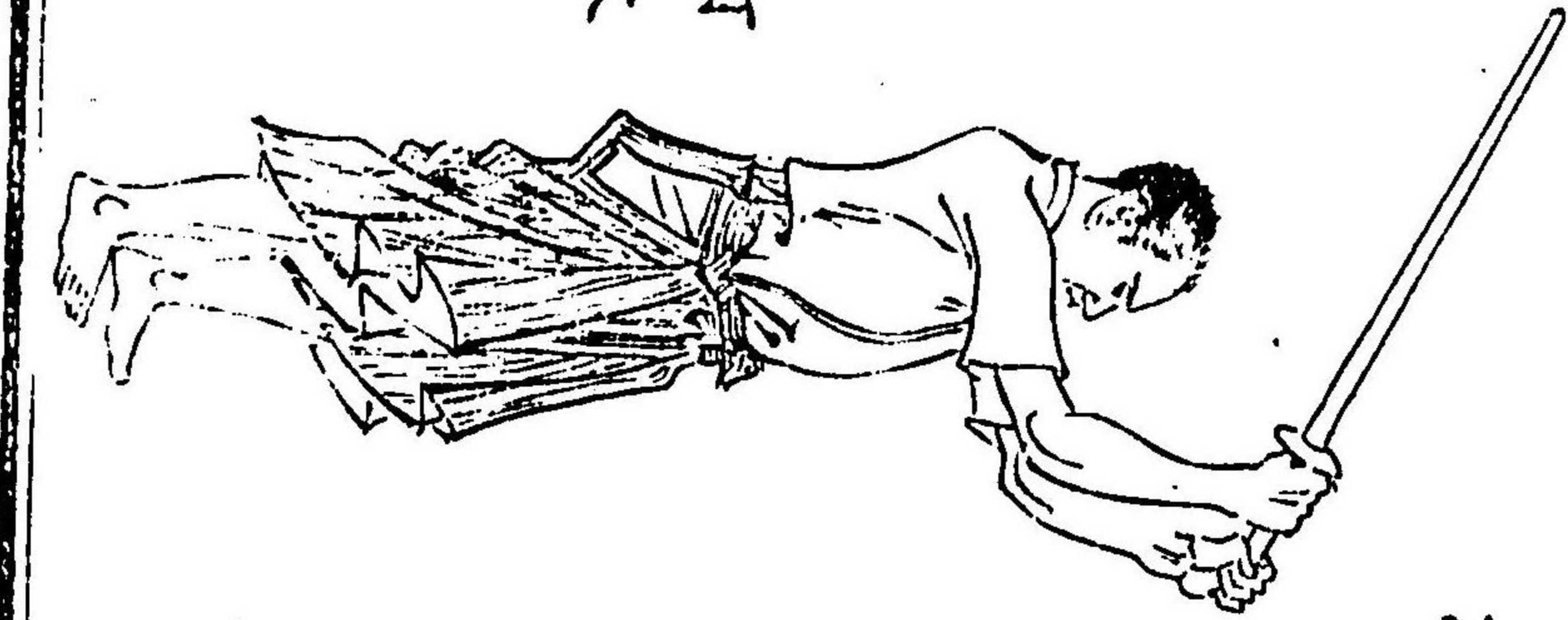
切先返シ
第五圖

打太刀心
仕太刀心
元の位地

小直



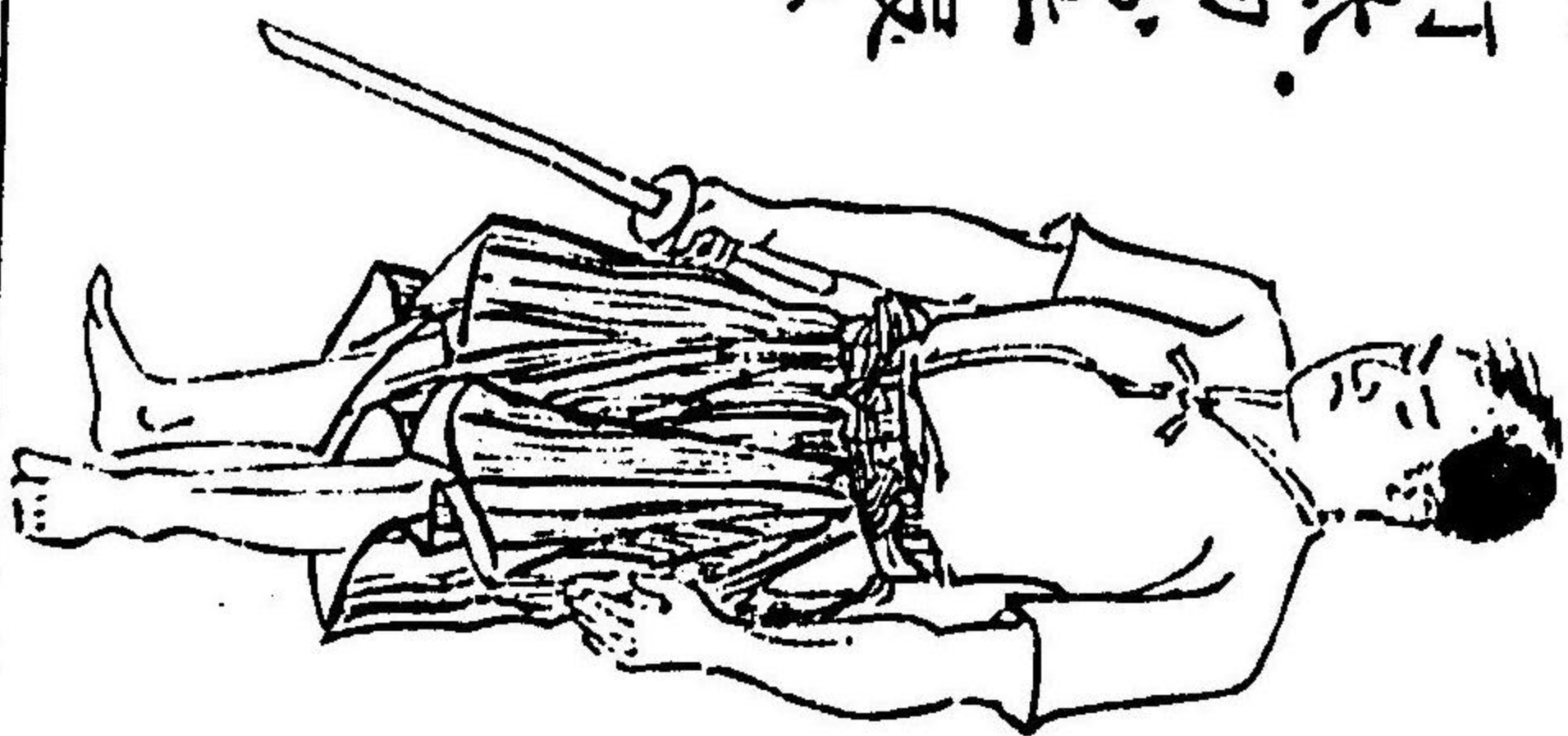
打太刀



打太刀

打太刀ハ左ノ右ノ足を踏
出シ揃ヘ竹ノ上段ヲ取
ル

仕太刀ハ打太刀ノ上段ヲ
取リ右手ノ竹ノ下ヲ
圖ノ如ク左ノ足ヲ安ク
ハ進ム行



鋤取第一圖
仕太刀

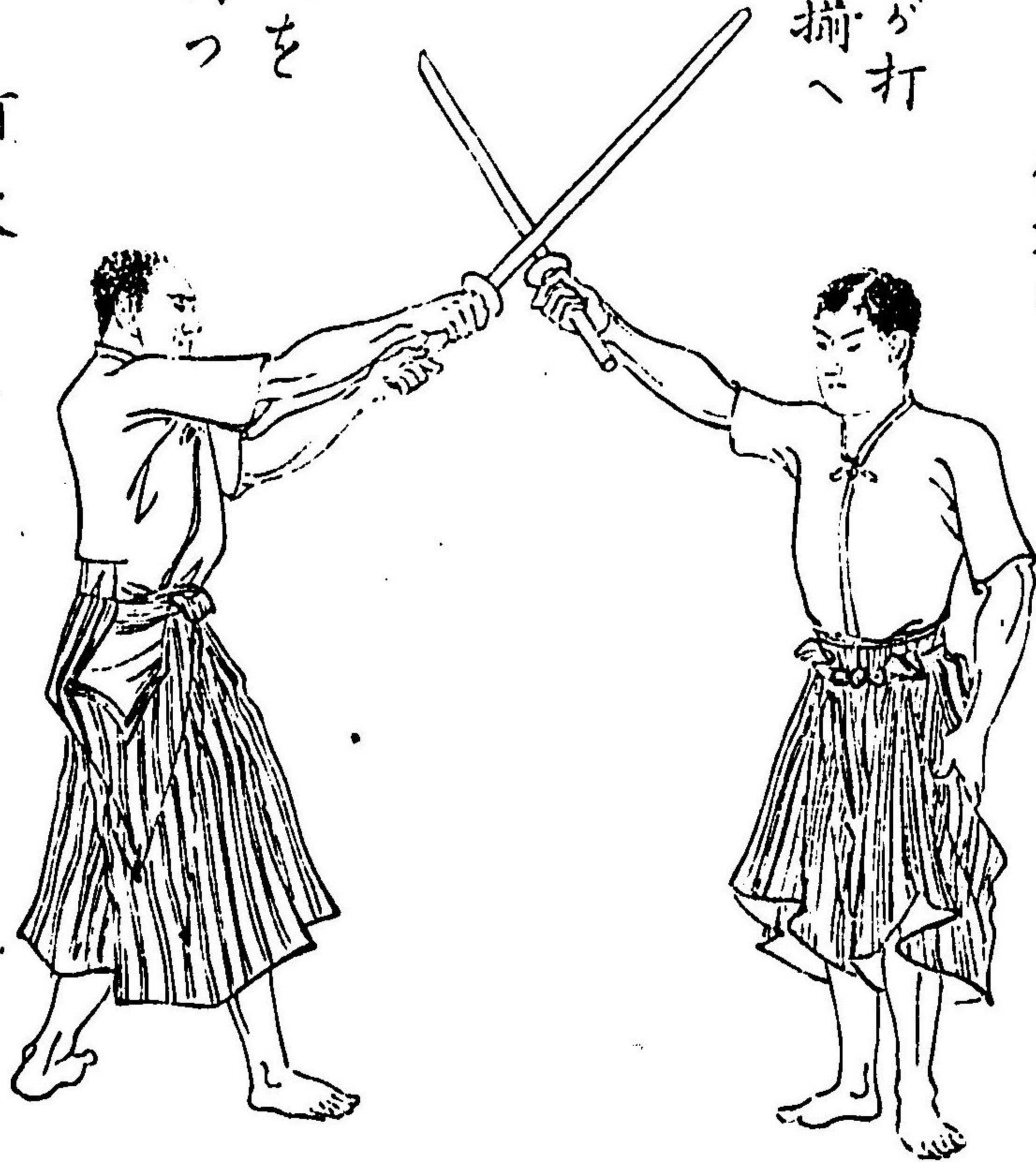
鐔取 第二圖

仕太刀

仕太刀ハ打太刀ガ打
竹刀を足を止め揃へ
て圖の如く止める

打太刀ハ右の足を
踏込で面上を打つ

打太刀



鐔取 第三圖

仕太刀

仕太刀ハ打太刀の竹刀
を受止ると同時は是を
鐔きハみて袷が落しお
りり打太刀の左り照へ
右左りと足を踏込
左り手みて打太刀の
柄中を握り左りの足
を打太刀の右足の照へ踏込
我が體と打太刀の體と向ひ合ふまゝ
押へる竹刀を逆ふ大きく袷ち返しおくり右の
足を我體の後へ引廻して第四圖に至る

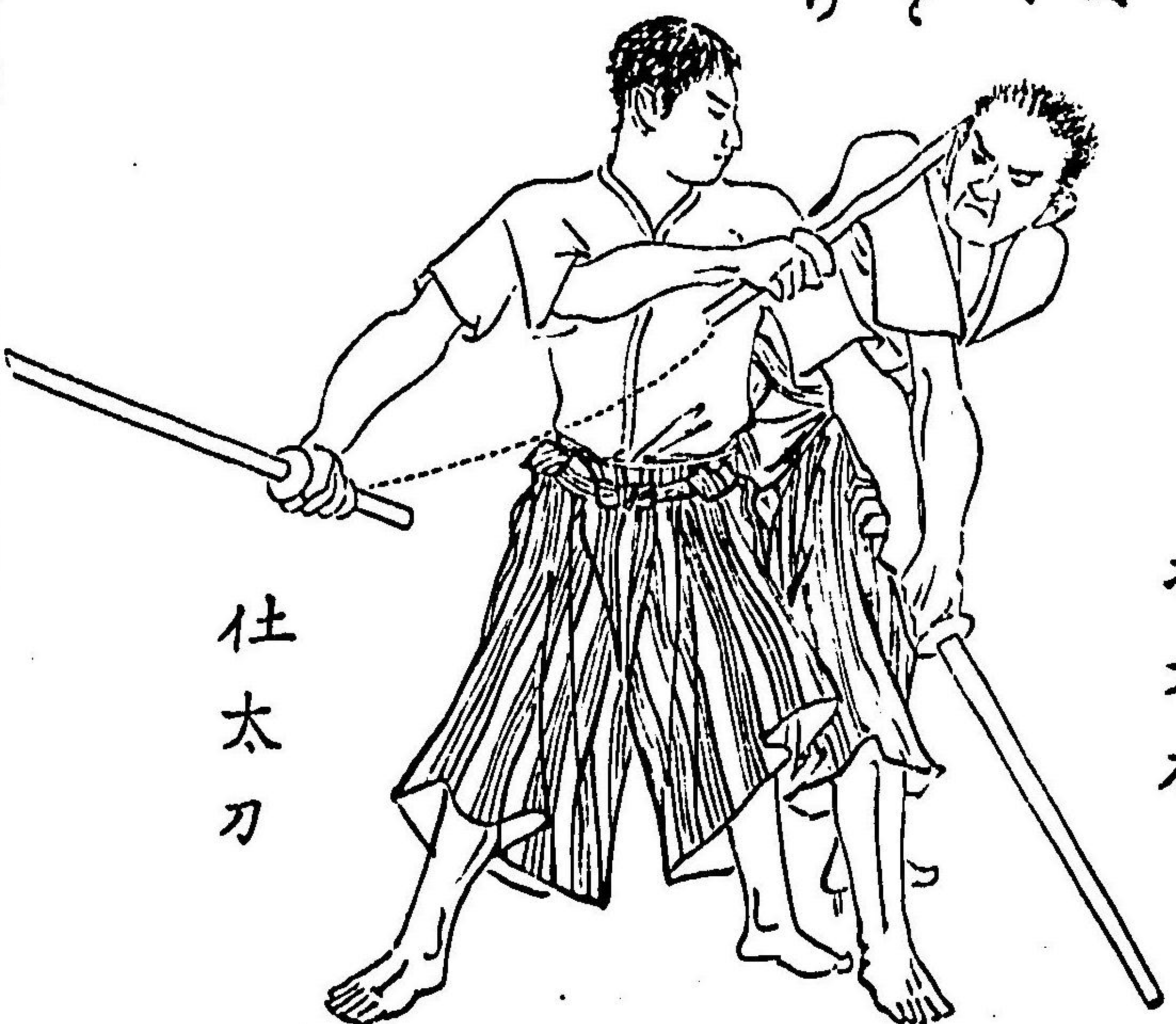


打太刀

鍔取り第四圖

仕太刀ハ圖の如く押へ
 くる竹刀を我右方へ
 以つゞぬみ開き是を
 返して(エイ)と声掛け
 打太刀の頭を切る

打太刀も仕太刀も
 同音ふ(エイ)と声
 を掛るこ



打太刀

仕太刀

鍔取り第五圖

仕太刀

は左

り手

を放

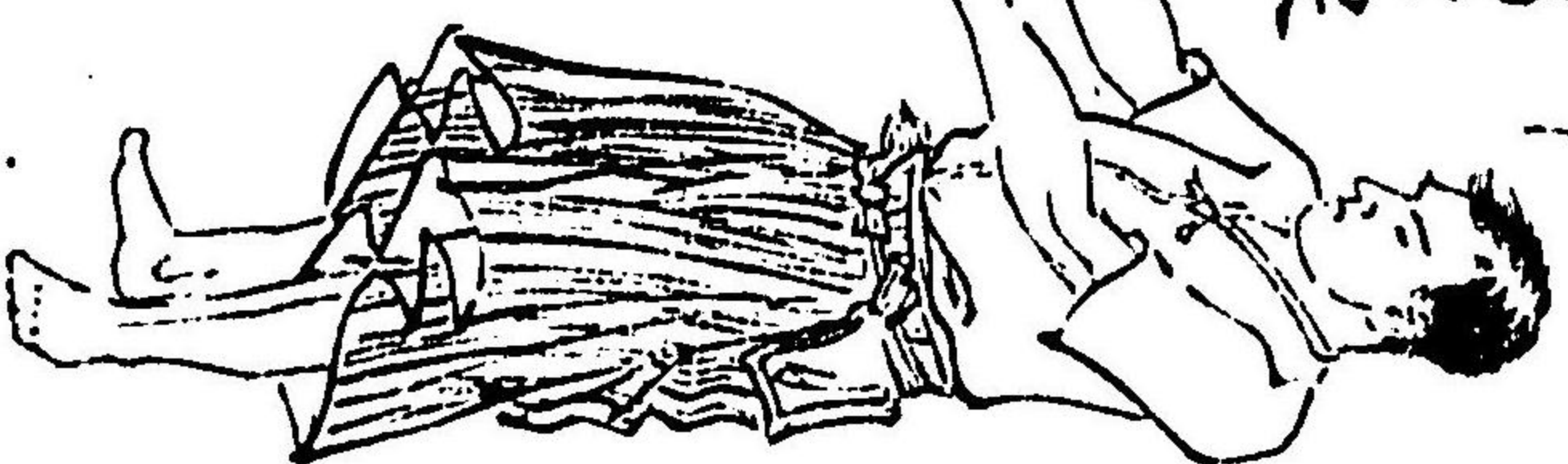
右左と足

を正面へ寄

せ竹刀

を精眼

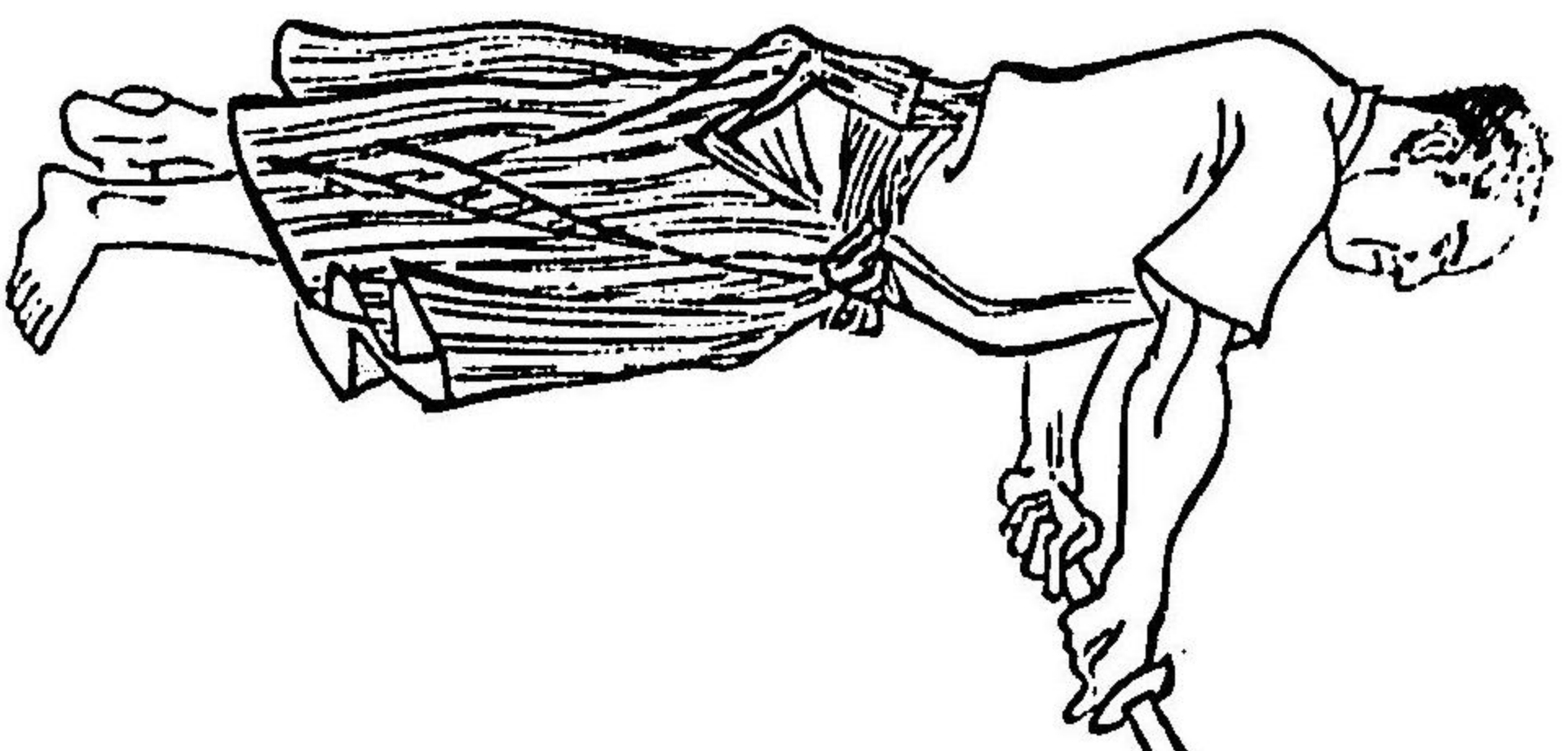
み付る

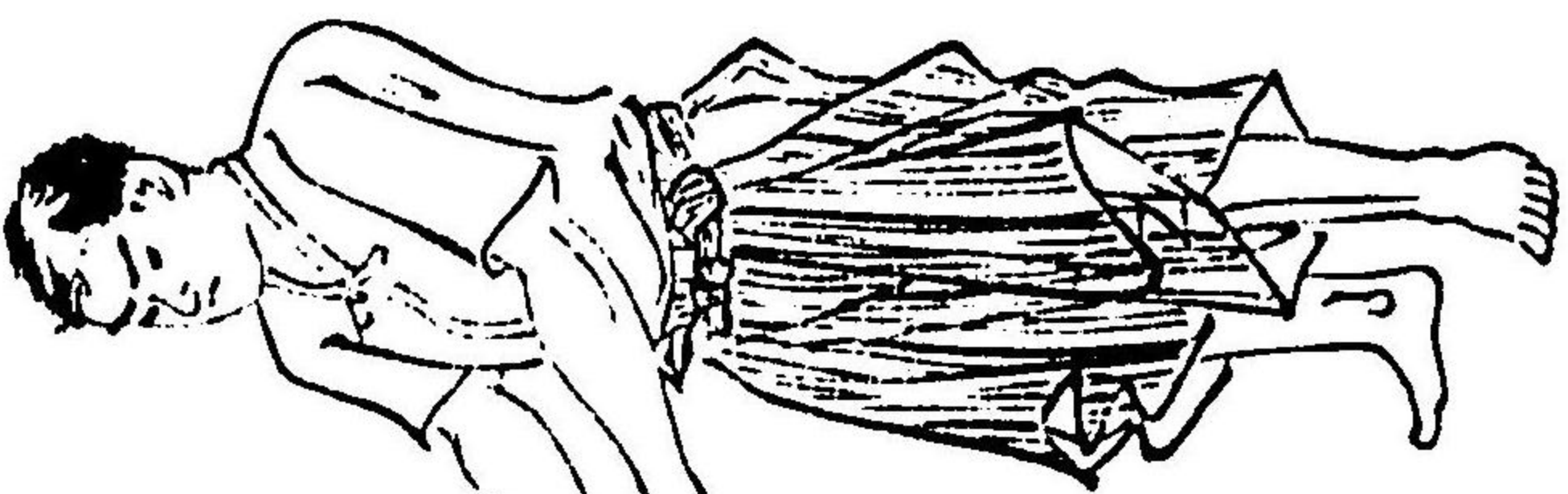


仕太刀

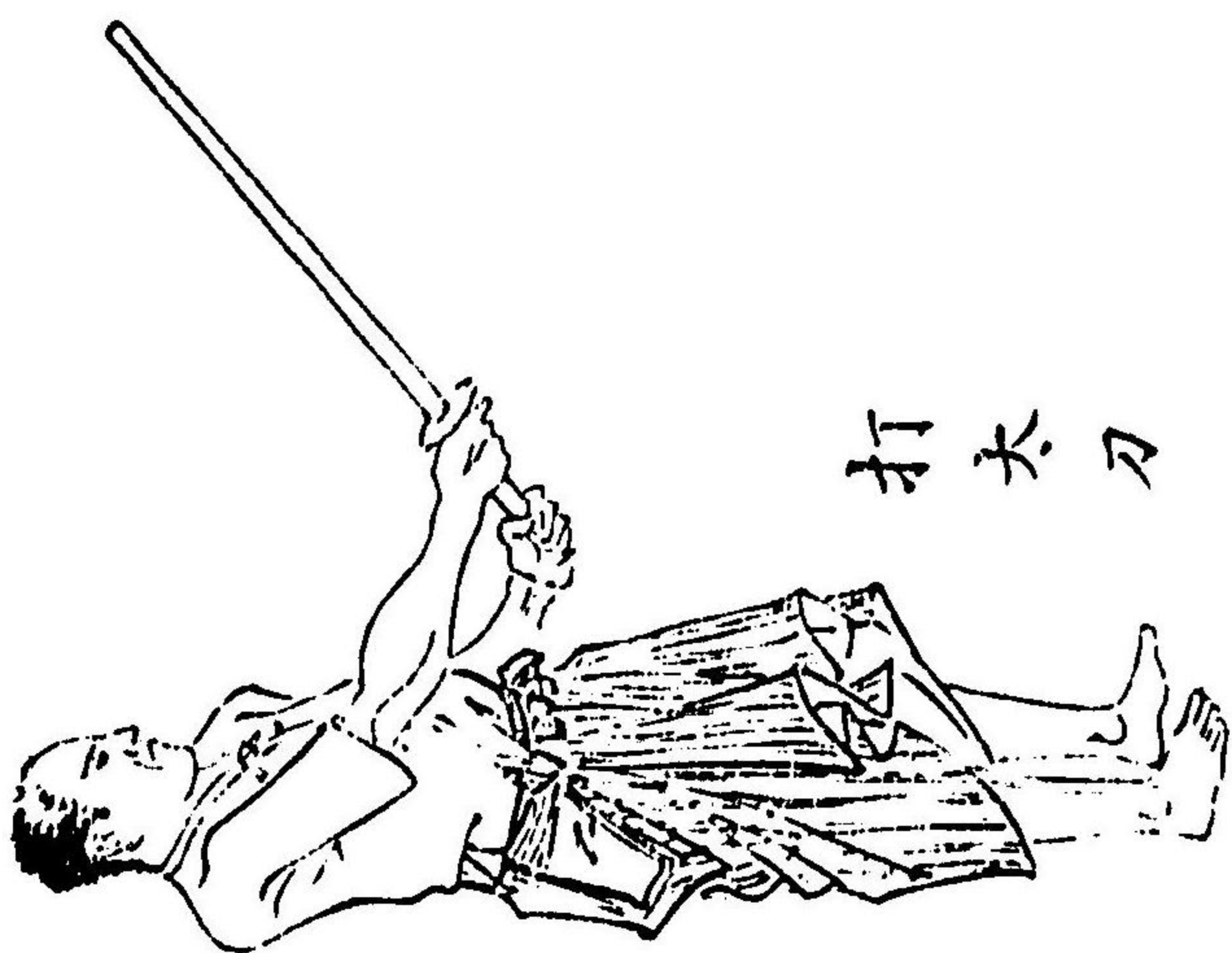
打太刀の竹刀を
精眼み付る

打太刀





侍太刀



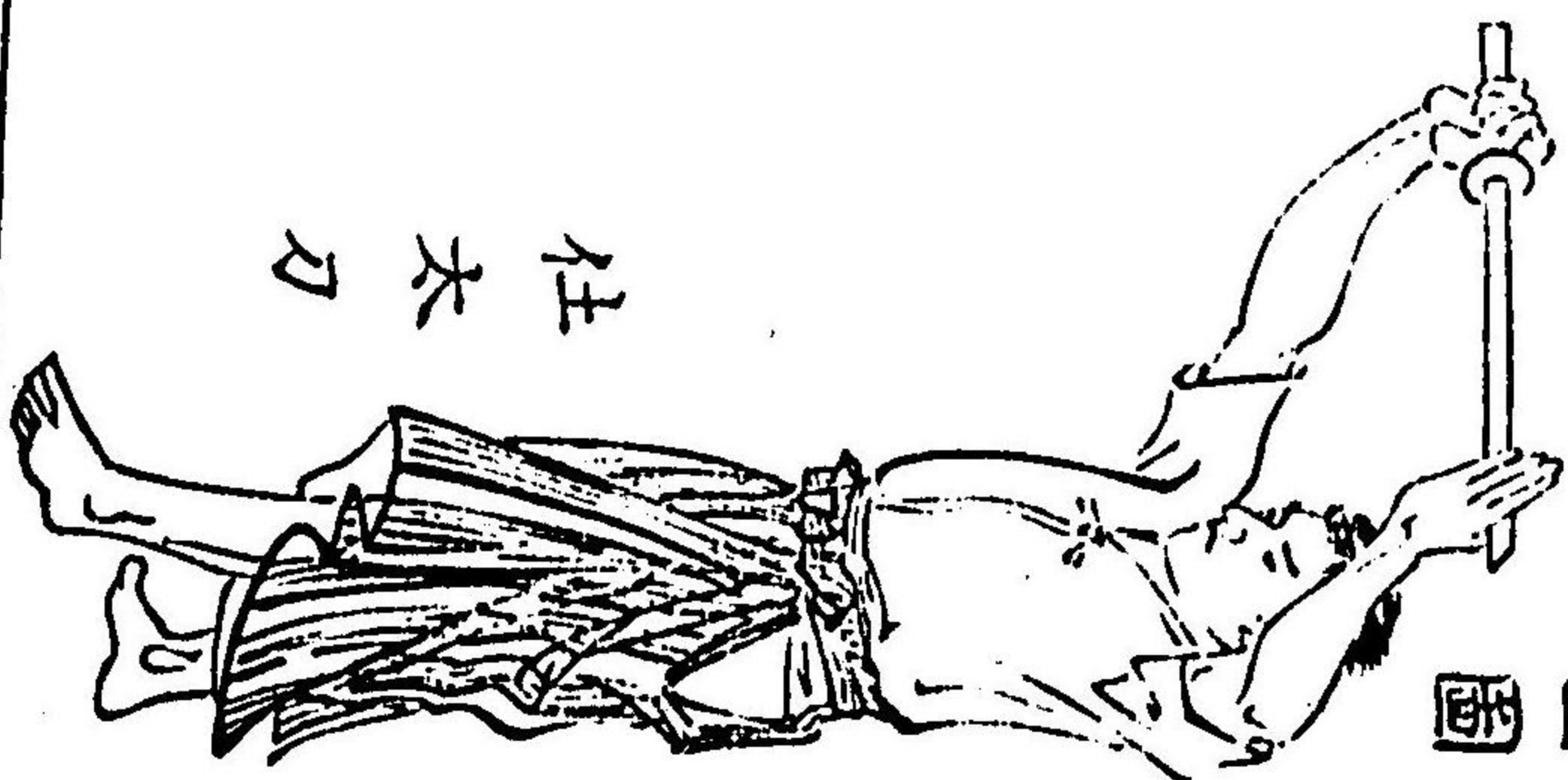
打太刀

第六圖 鈎取

小直る 地の位元 小太刀仕打

鈎取

突非押 第一圖



打太刀

仕太刀ハ右へ斜へ向
足をハ文字「踏張」
體ハ正面を向手ハ圖
の如くホチヒ之

打太刀ハ左へ斜
へ向キ圖の如く竹
刀を水平ニホチヒ
仕太刀の胴を突
んとする構をホチヒ



侍太刀

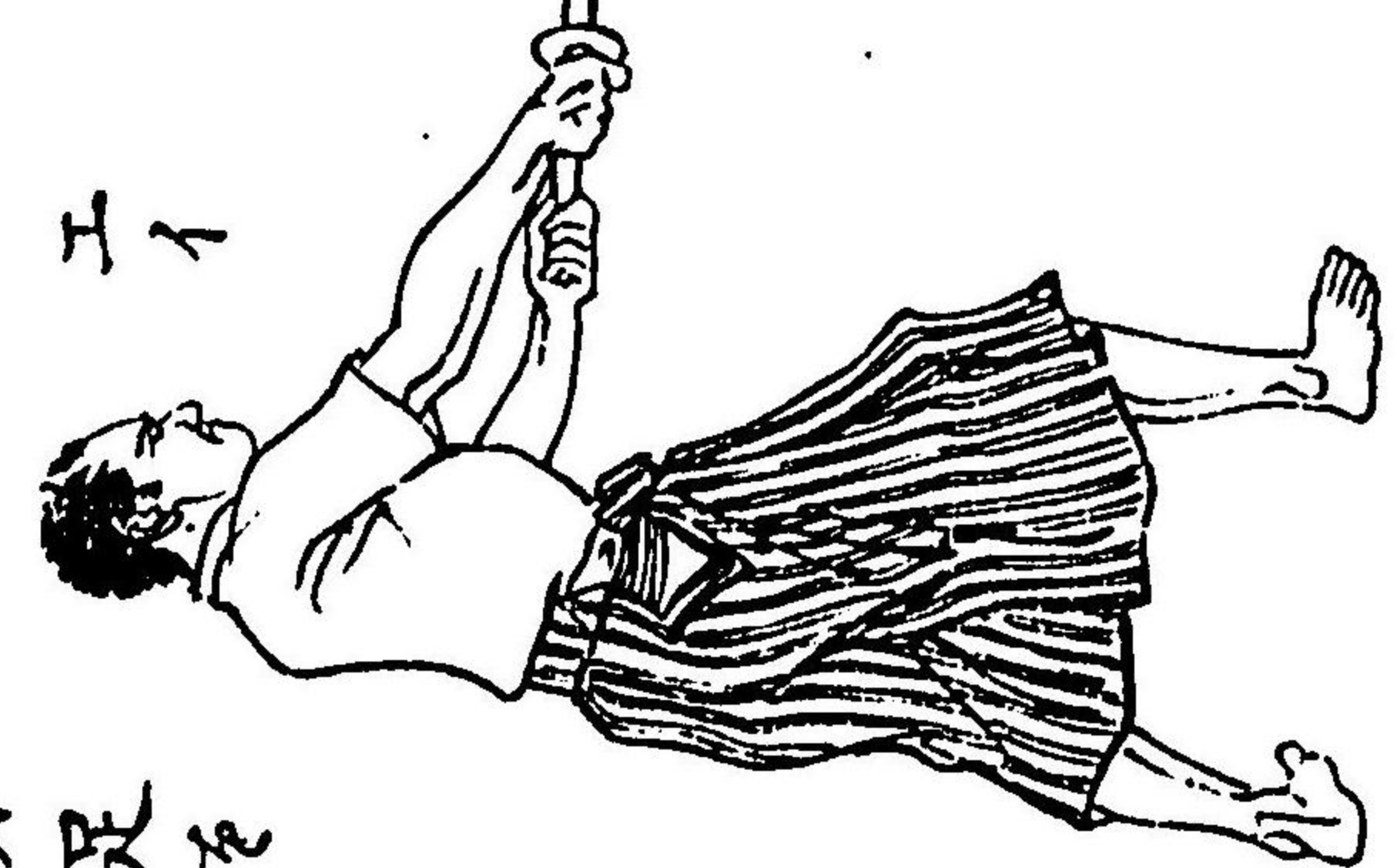
突非押非 第二圖

仕太刀ハ
打太刀の
突を
拂ふ

仕太刀



エイ



打太刀

打太刀ハ足を
右左右と三
足踏込圖の如く仕太刀の胴を突く

小髷の形の理歌

明
信

小竹刀は

手あしの業の

志けきゆ

なほこころとは

丹田にとけ

突非押非 第三圖

仕太刀ハ拂ふとる竹刀を返し
 打太刀の面上を打右足ふて圖
 の如く陰囊を蹴込乙ふ至るけ
 たる足を其俣下ふ置き左りの
 足を後へかり引圖の如く両手
 を両腰ふ當て、打太刀氣相を
 うかとふ

乙



打太刀ハ突出しとる
 竹刀を拂いさる直ふ
 右の足を引上段ふ取る



打太刀

仕太刀

突非押非第四圖

仕太刀

仕太刀ハ膝を立ふ
がら打太刀の竹刀を
受流一圖の如く竹
刀を返一第五圖
至る

打太刀ハ右の足を
踏込て面を打と



打太刀

理歌

あせりなは

打もどむるも

蹴もなふす

こゝろとすへよ

自在なるへし

明
信

突非押非 第五圖

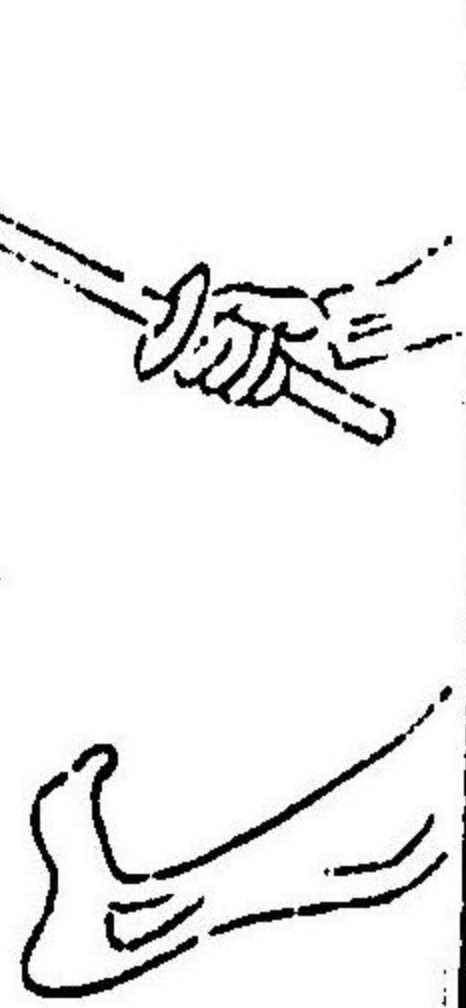
仕太刀ハ受流一返一ころ
 竹刀ホテ打太刀の面を打お
 ろり立左りの足を一寸おとら
 せ右の足みて又きんを蹴込
 ん其足を後へ折り
 引きての姿勢ホ至
 る

甲



乙

打太刀は受流さきころ
 竹刀を上段ホ取おつり
 右の足を後へ引



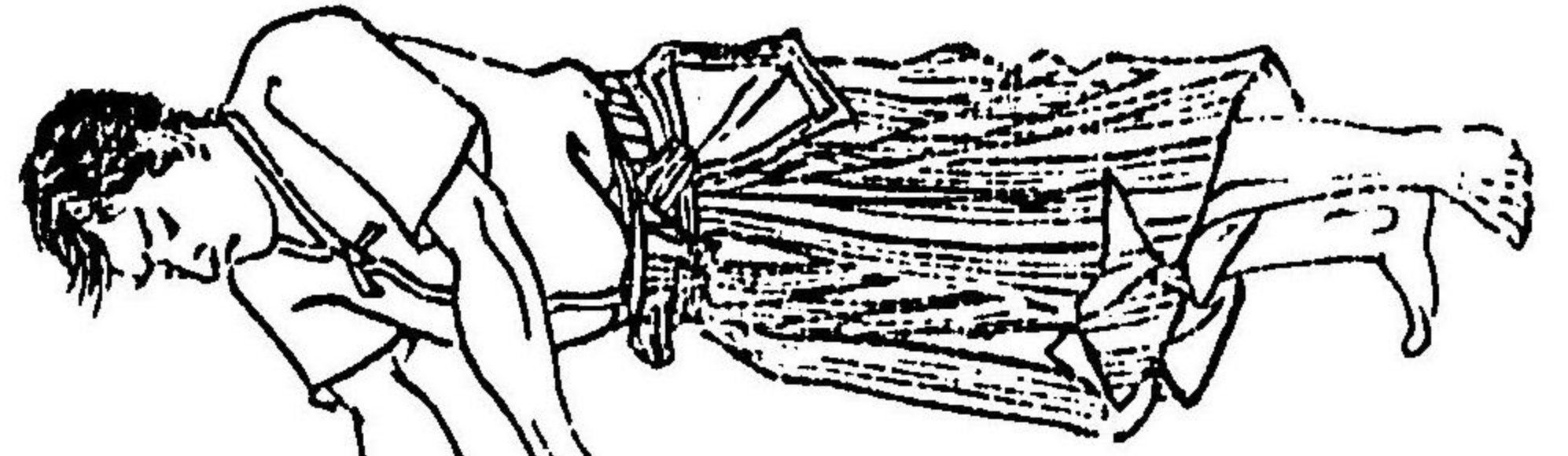
仕太刀



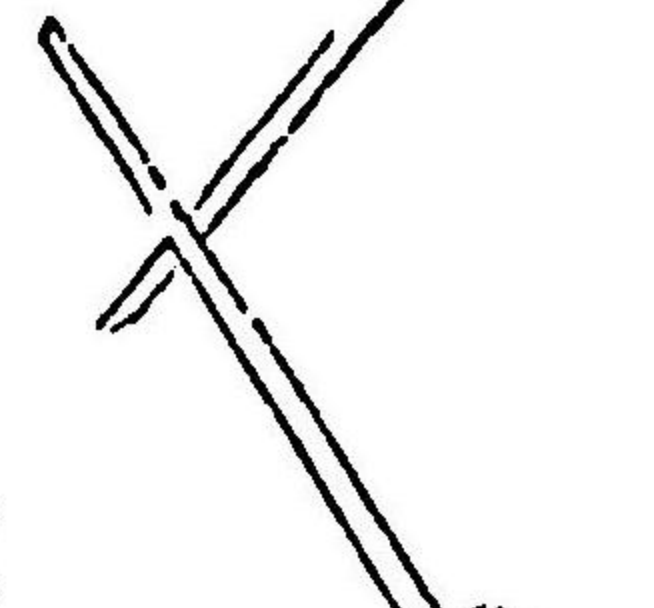
打太刀

突非押非 第六圖

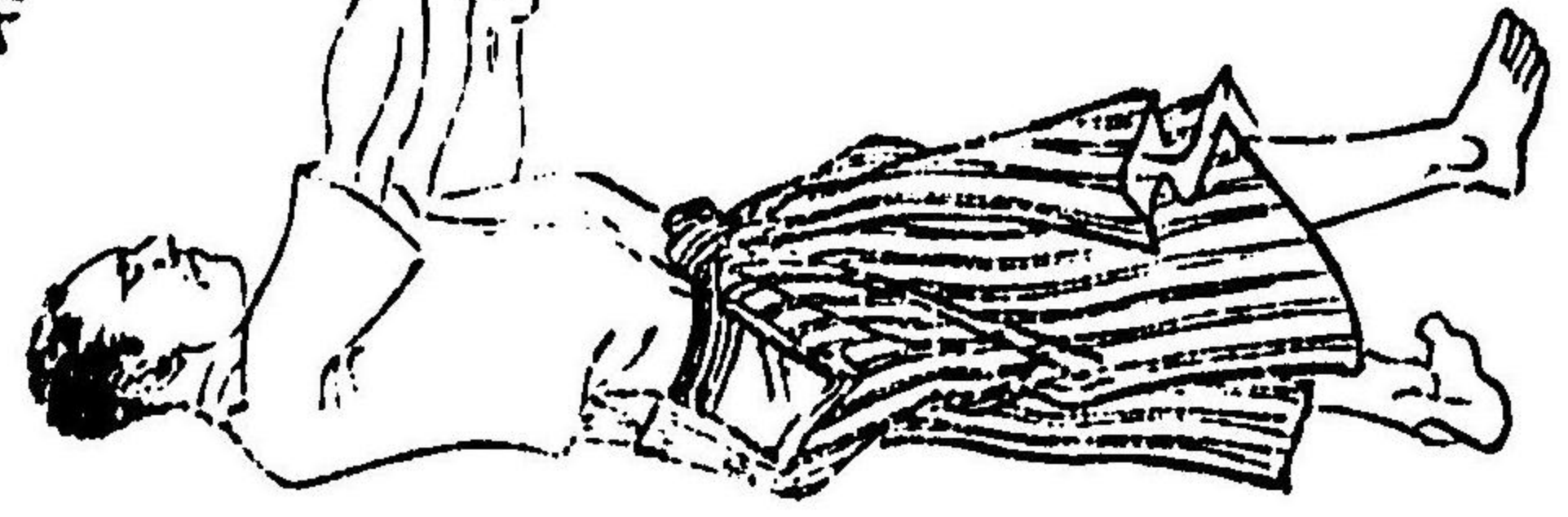
仕太刀ハ左ノ足を
體ふ 仕太刀



付眼ふ 引付
上立て 竹は



打太刀ハ
上段の 竹
刀を 精眼
直は



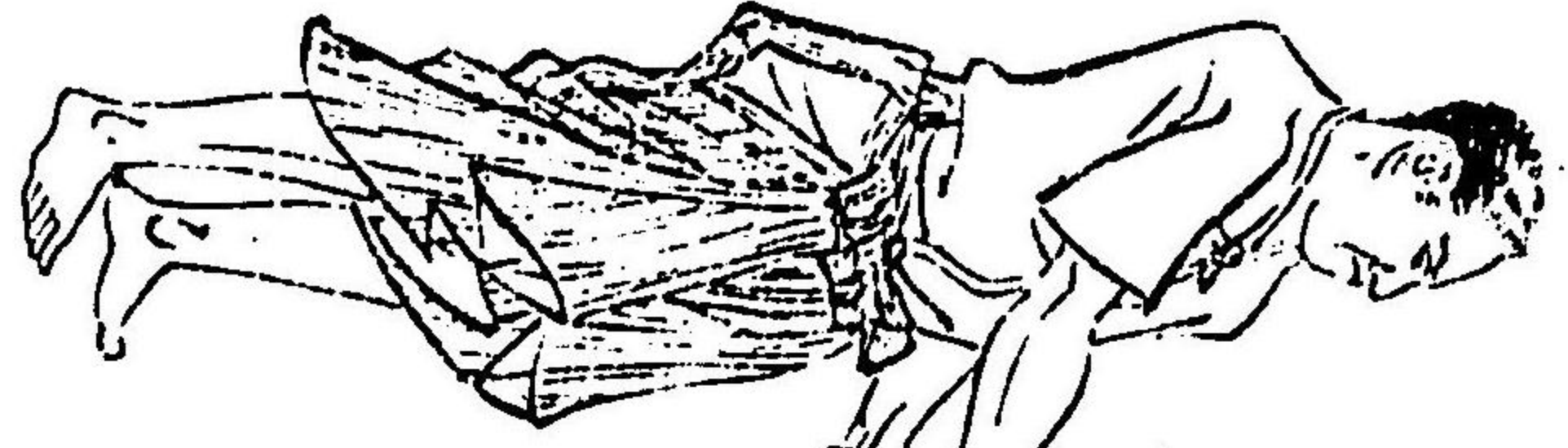
打太刀

突非押非 第七圖

打太刀ハ
元は 仕太刀
直は 地



仕太刀



打太刀

圓快第一圖

仕太刀ハ左ノ足を踏出
 一半身小なり圍の如く
 竹刀を頭の高さの霞
 左ノ足を内へ踏返一切
 先を打太刀の面へ突込
 勢ひて進む

打太刀ハ足を左ノ右
 踏出一揃へて竹
 刀を上段へ
 取る



打太刀

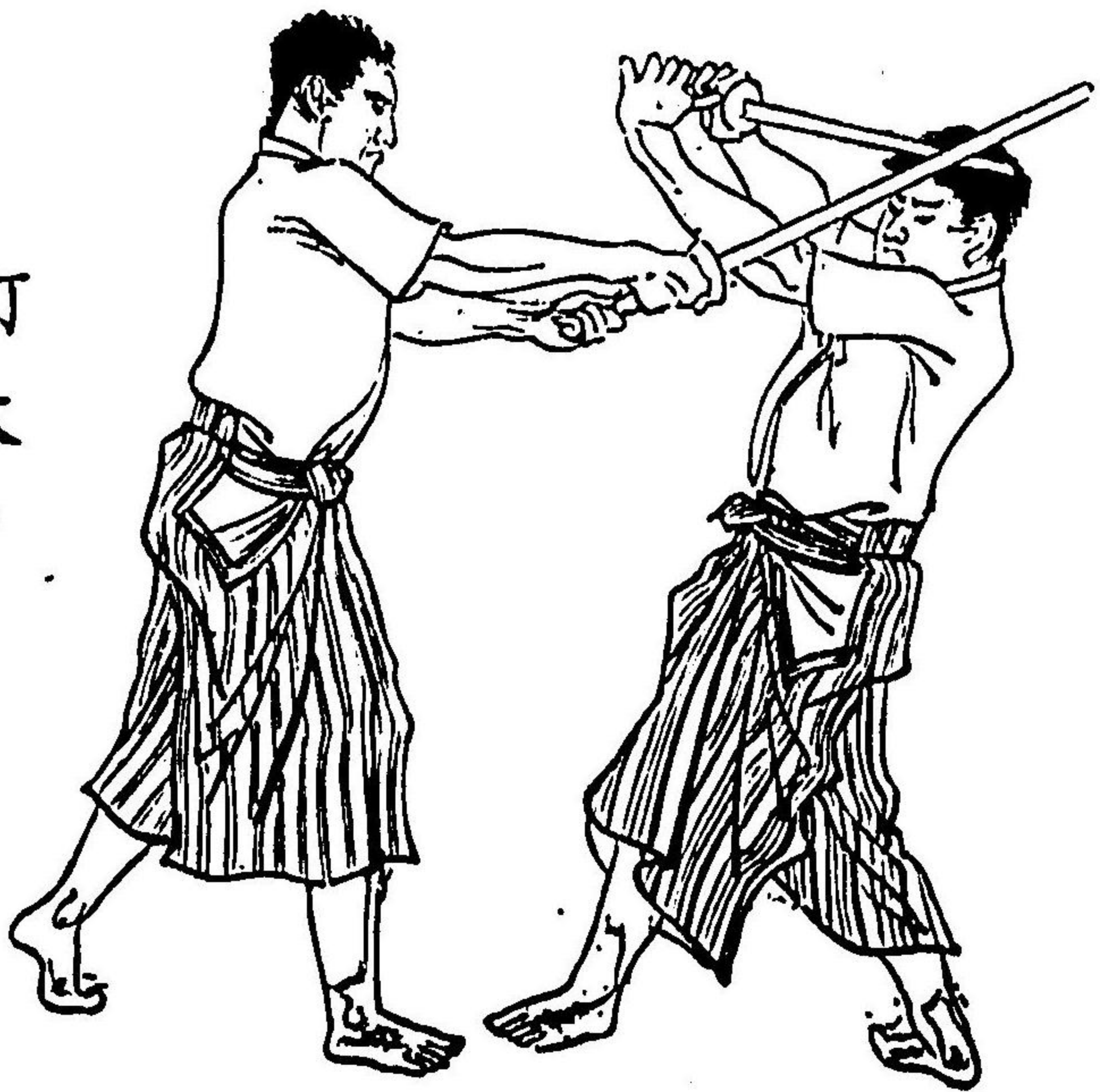


仕太刀

圓快第二圖

仕太刀進行處を打太
 刀が打込たる竹刀を圍の
 如く受流一打太刀が行
 過る處を體をむねに打
 太刀う一ろより頭上を
 打て勝を取る處第三圖
 小至る

打太刀ハ上段より充分
 打込む



仕太刀

打太刀

圓快第三圖

打太刀

仕太刀



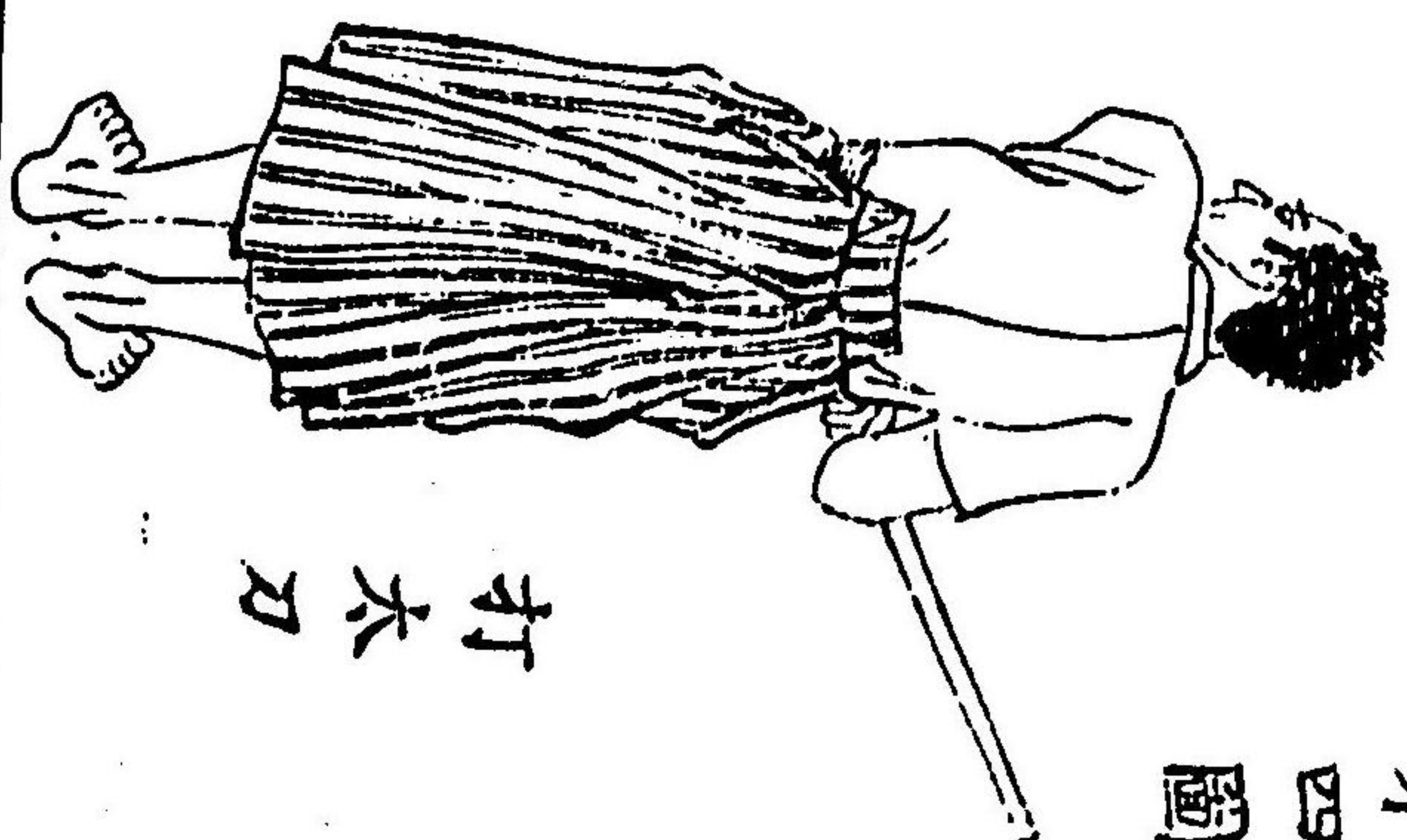
開
の如く両手を圓く
へ左へ右へ引付圓
打と同時に足を後
ろより頭上を

仕太刀

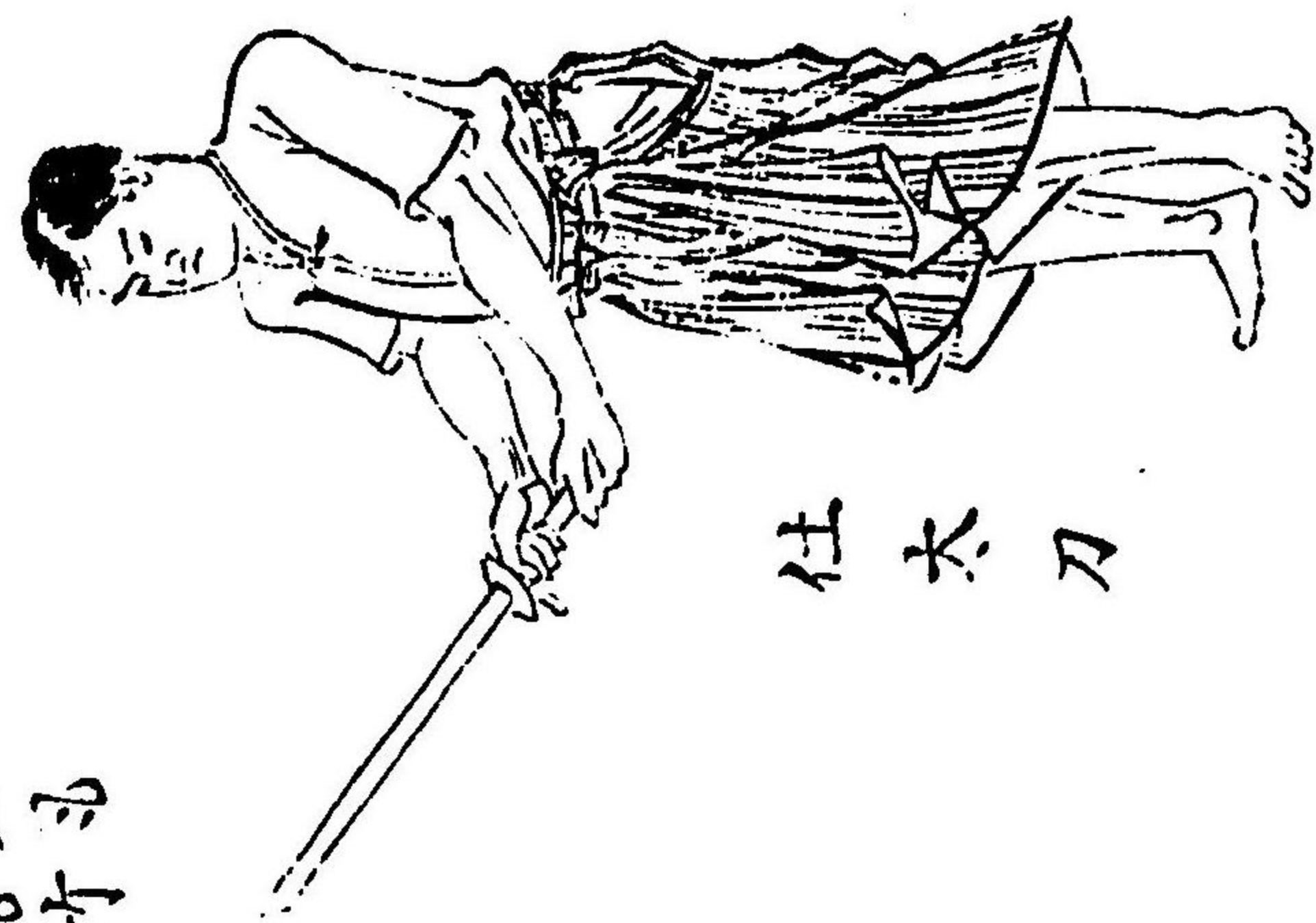


仕
刀を見返
の如く仕太
へ止る圖
水行過き
を受流さ
打込太刀
打太刀ハ

打太刀



圓快第四圖

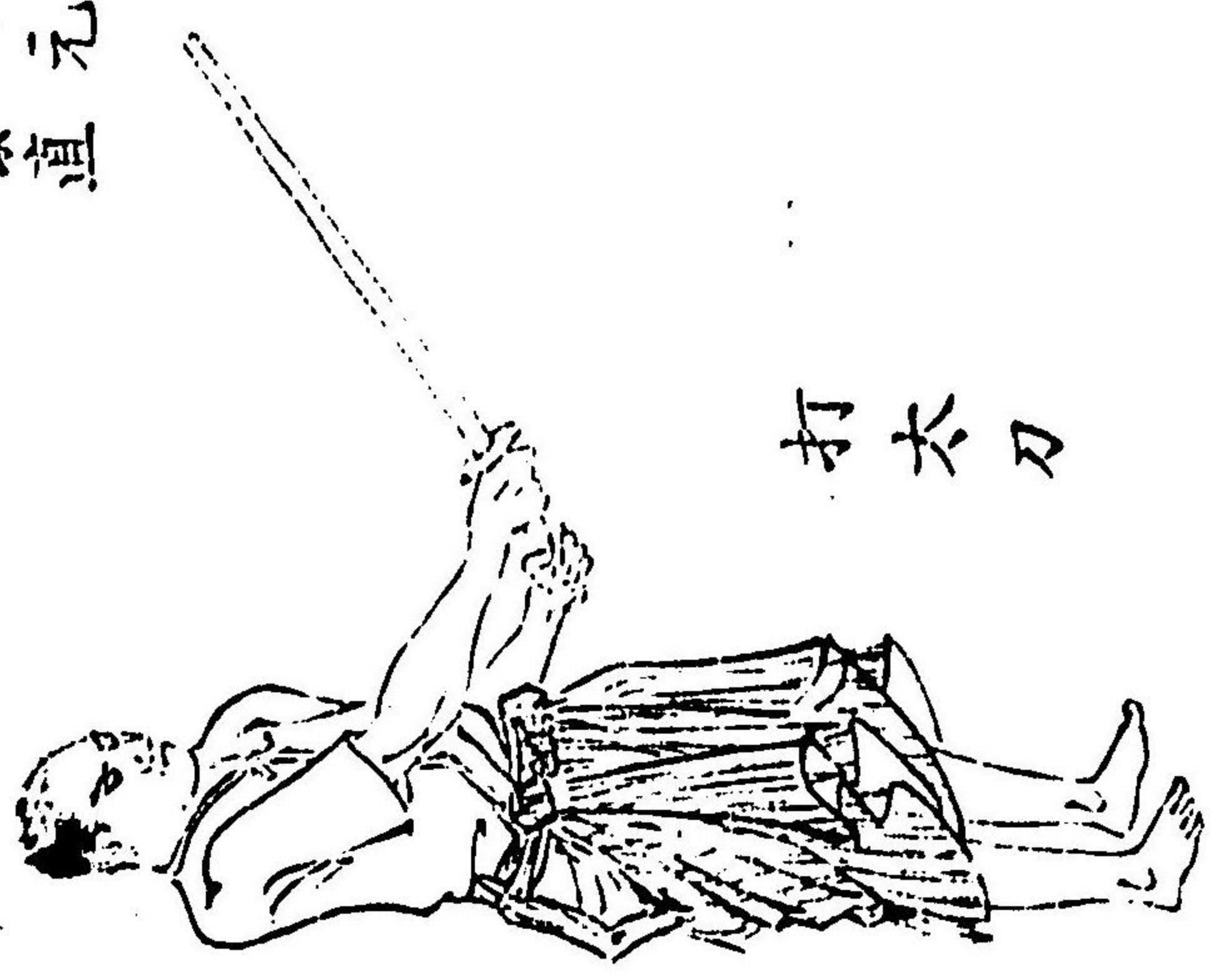


仕太刀

圓快

第五圖

打太刀も
仕太刀も竹
刀を精眼ふ
取直し互
小眼と眼を
見合て元
の位地ま直
る

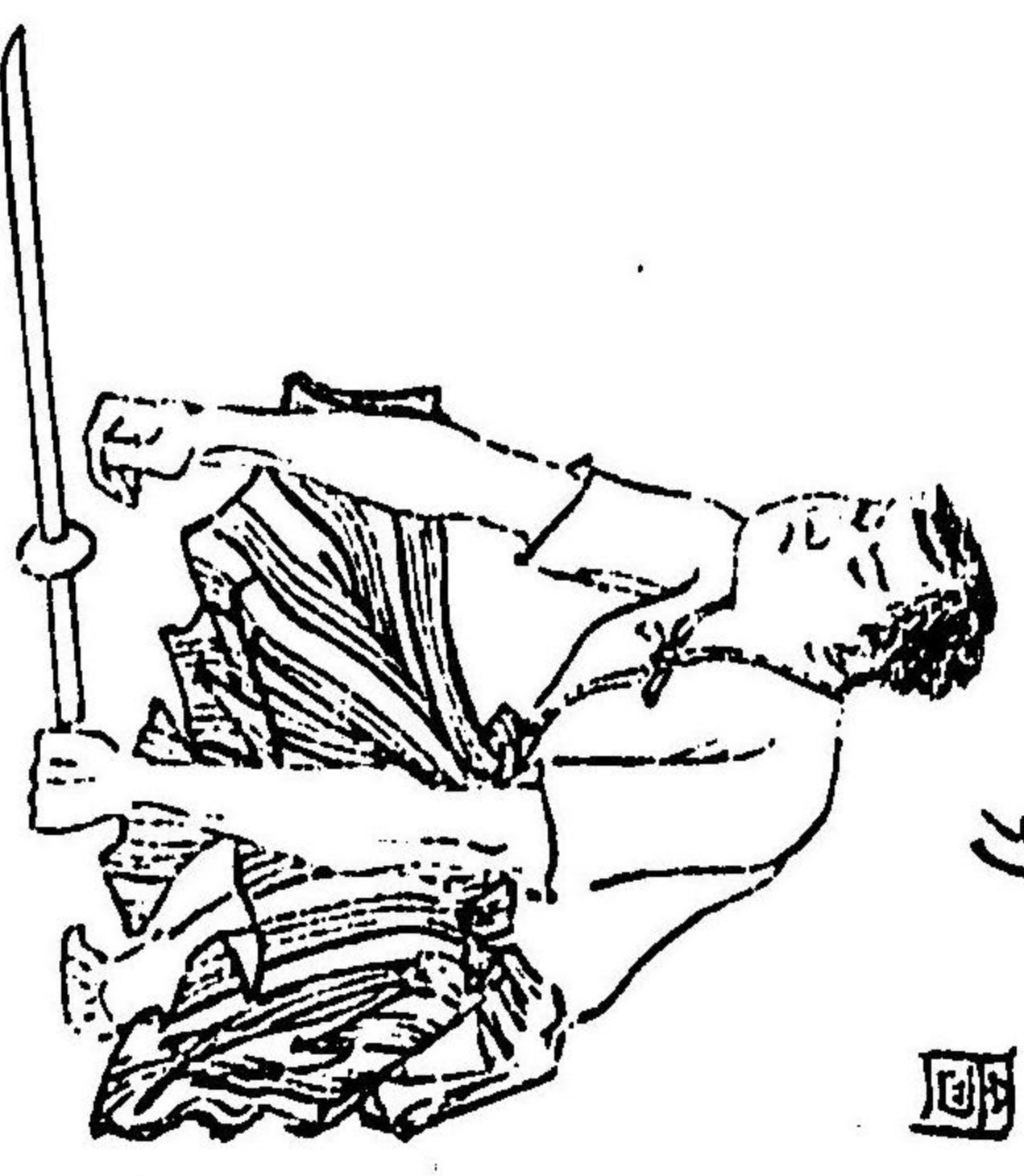


打太刀



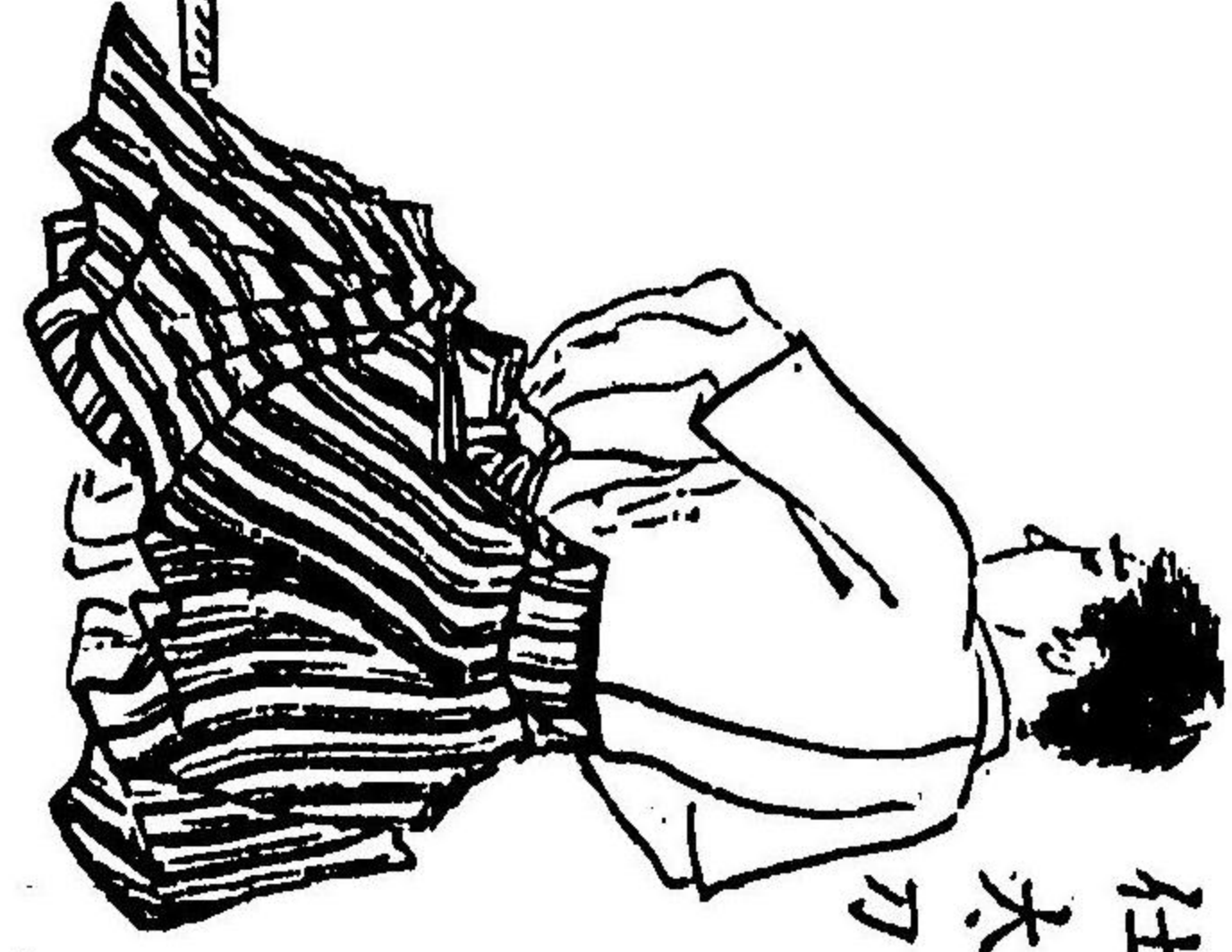
打太刀

是より以下の
禮ハ外の形の
終亦同じ



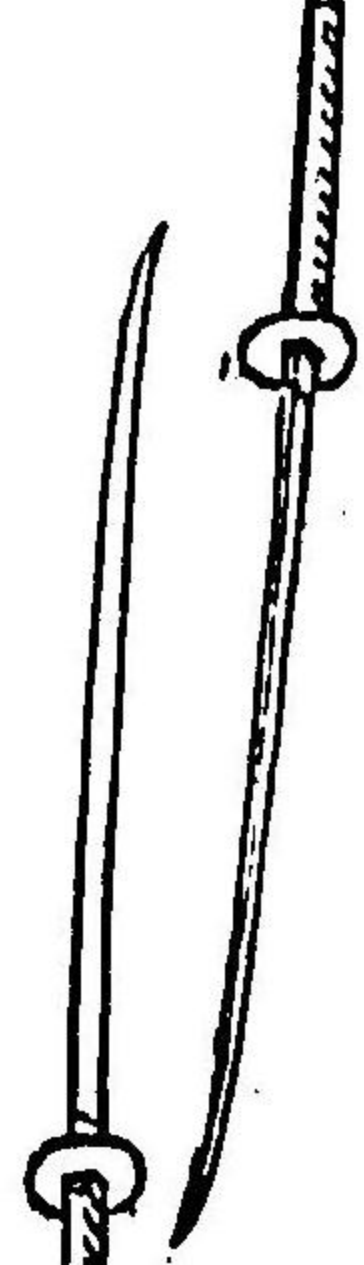
仕太刀

圓快 第六圖



仕太刀
一本目

打太刀も仕太刀
も右を向き袴の
も、たちを取る



打太刀

又

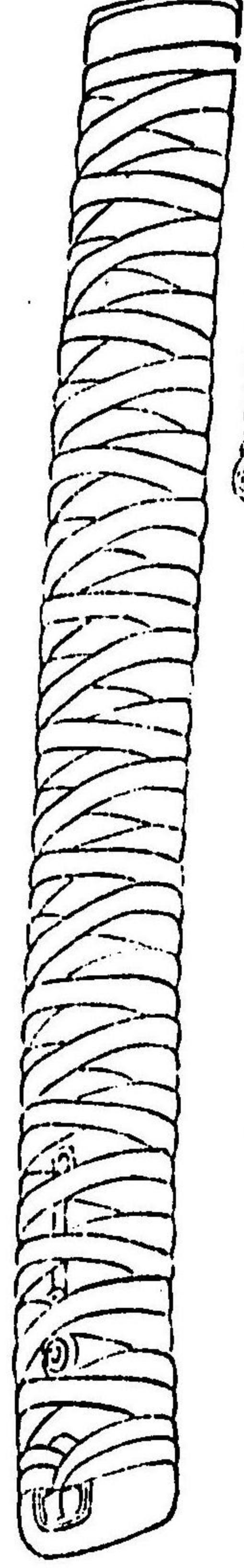
及挽之刀之圖



柄九寸五分

身長三寸五分

逆目貫二ツ目釘



柄平卷

裏目貫位置



仕太刀

又挽

第二圖

互小身仕度
出来て正面小
向ひ位を取る

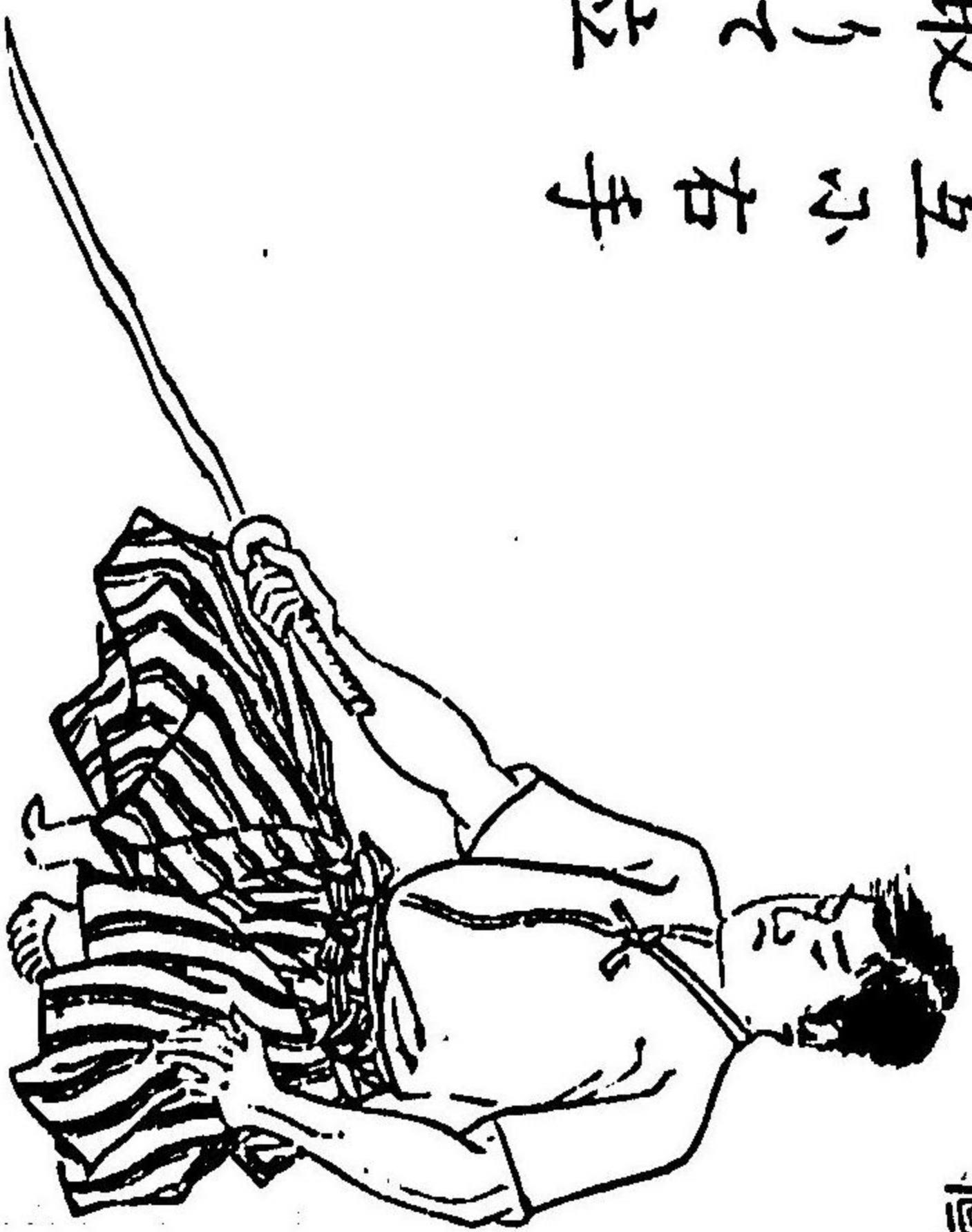


打太刀



打太刀

圖の如く互小右手
小て刀を取りて立
つて精眼小付る



仕太刀

又挽 第三圖

又挽 第四圖

仕太刀も同時小左
り右と足を踏出揃
へて八相と云て刀を右
肩の上小取る



仕太刀

打太刀ハ足を左
右と踏出揃へて上
段小取る



打太刀

又挽 第五圖

打太刀小

仕太刀

も左

足を摺

り足小

前へ進

め圖の

如く五

か千工

サ(と声

掛ケカ

を打合

せ右の

足小テ

陰震を

蹴込む



打太刀

仕太刀

及挽 第六圖

仕太刀



仕太刀、右の足を卸はくと同時に、小左りの足を

後へ引ながら（エイ）と声掛け圖の如く足を止る

打太刀、圖の如く蹴

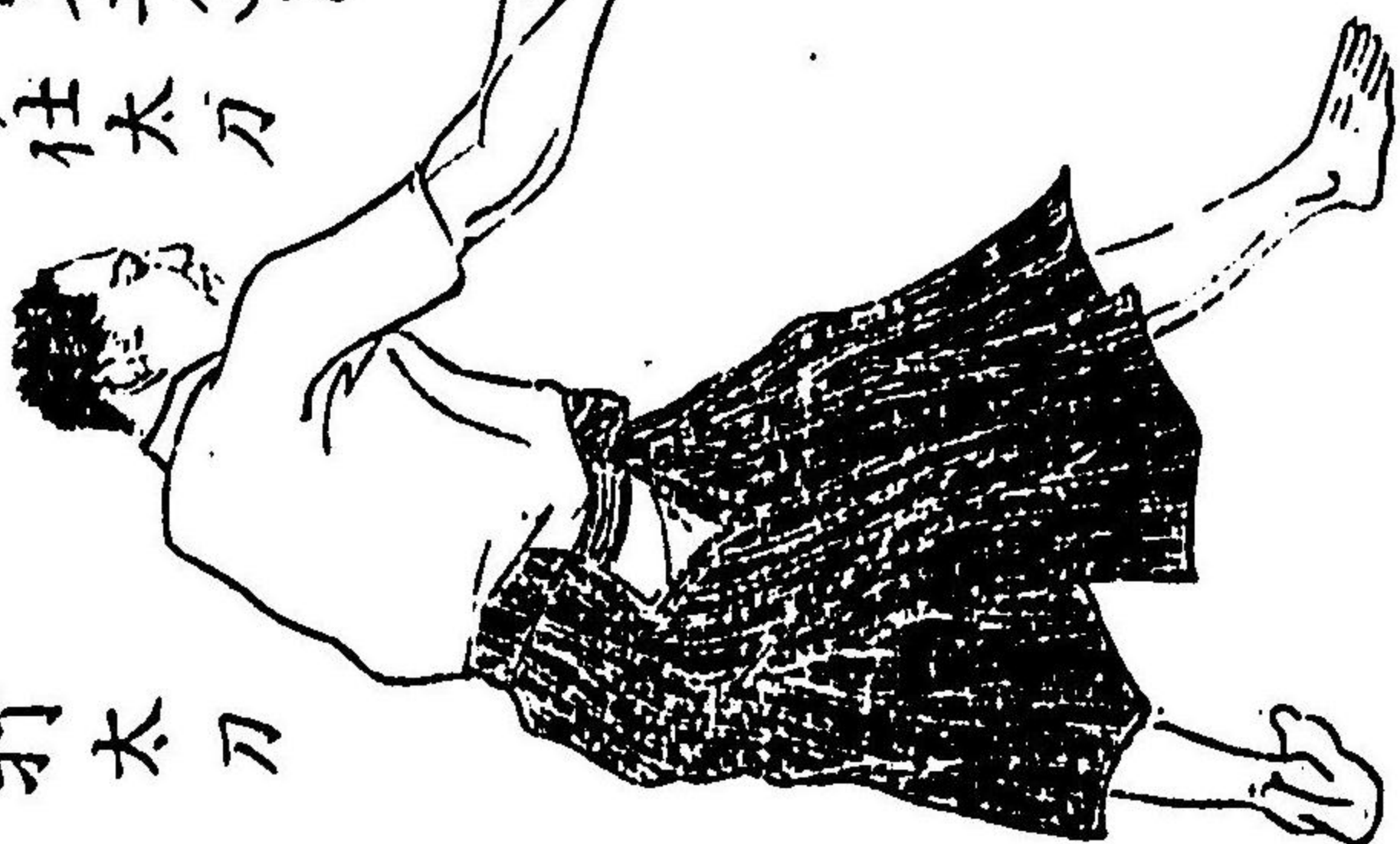
込くる右の足を踏

込ちら（エイ）と

声掛け仕太刀

の、エの足を切る

打太刀



及挽 第七圖

仕太刀、打太刀、押入る亦隨ひ圖の如く

右

の足

を引

猶左りの足を

小引付おらるゝ氣相を

掛る

打太刀、圖の如く左

の足を踏込、是小

右の足を

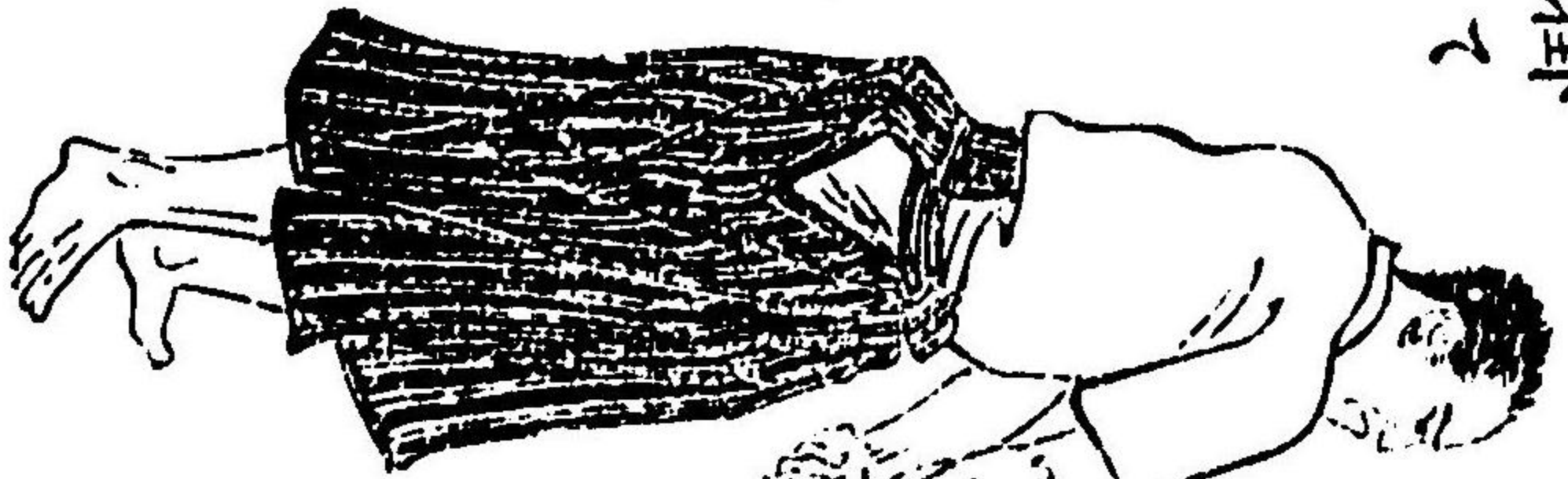
引付

おらるゝ氣

相を掛て

押入る

打太刀



双挽 第八圖

仕太刀



打太刀も仕太刀の
第七圖の姿勢より右
の足を以つぎの足へ
引猶左の足も是へ
引付ながら極静ふ刀
を上段へ取る

打太刀



双挽 第九圖

打太刀

刀の第

八圖の

姿勢より

左へ

を揃へ

足を進

め五圖

の如く面

掛けて

(や上へ)

と声掛

け刀を

打合右

足にて陰囊を蹴込む直足を御し

打太刀



仕太刀

第十圖 雙挽

仕太刀ハ

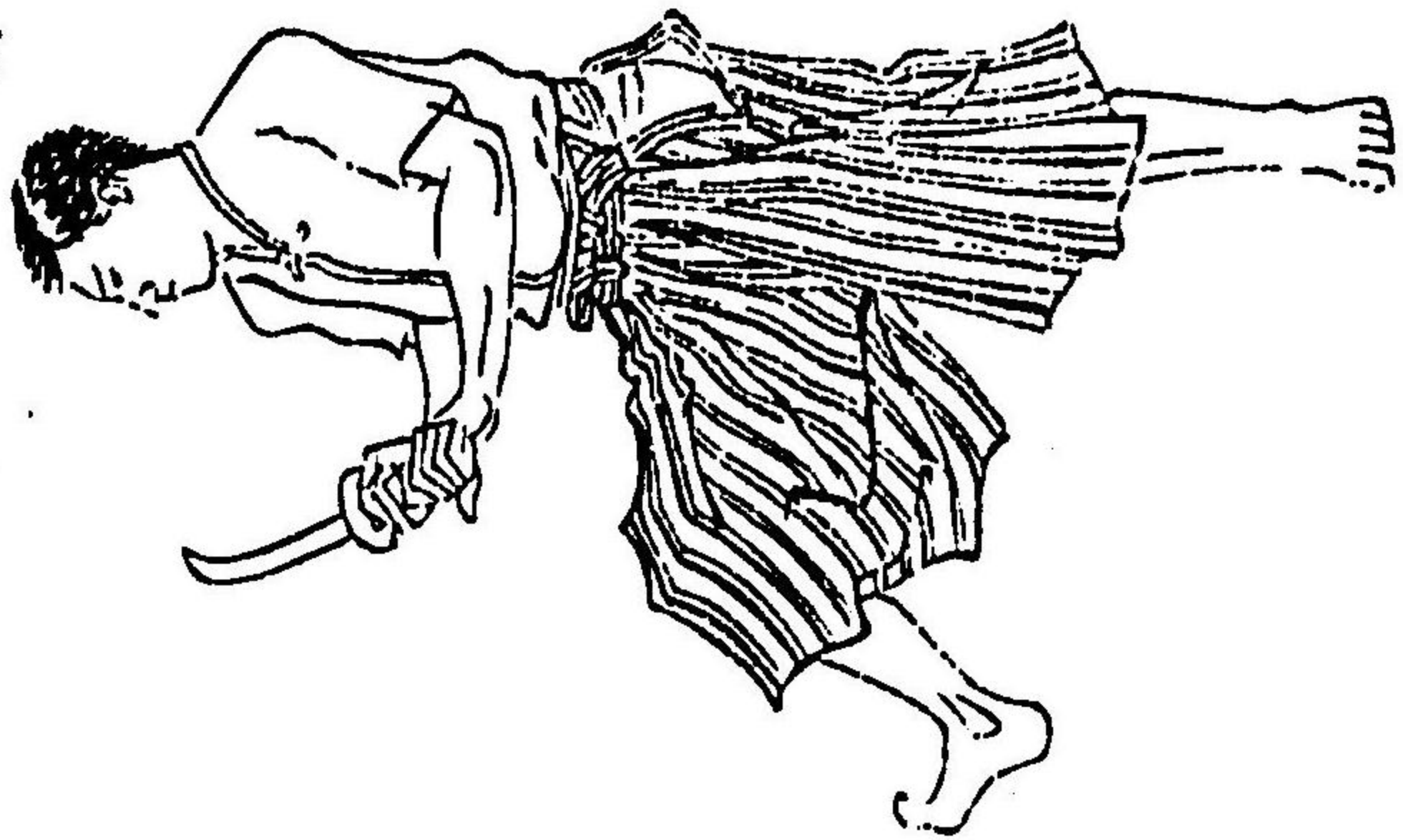
刃を順ハ

小横ハ

右足

を上

る



仕太刀

打太刀

ハ圖の

如く刀

を逆ハ

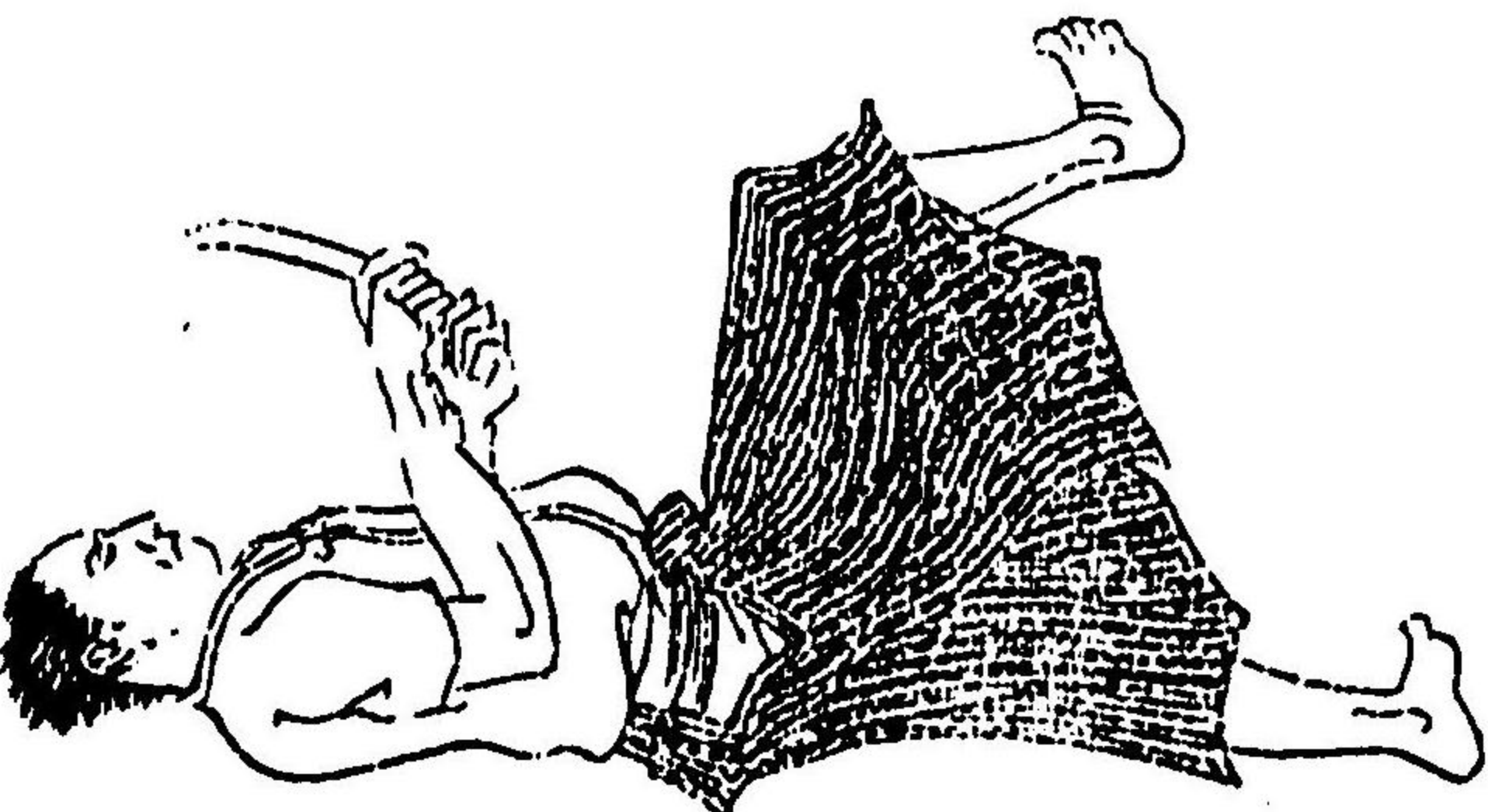
横ハ

右の

足を上

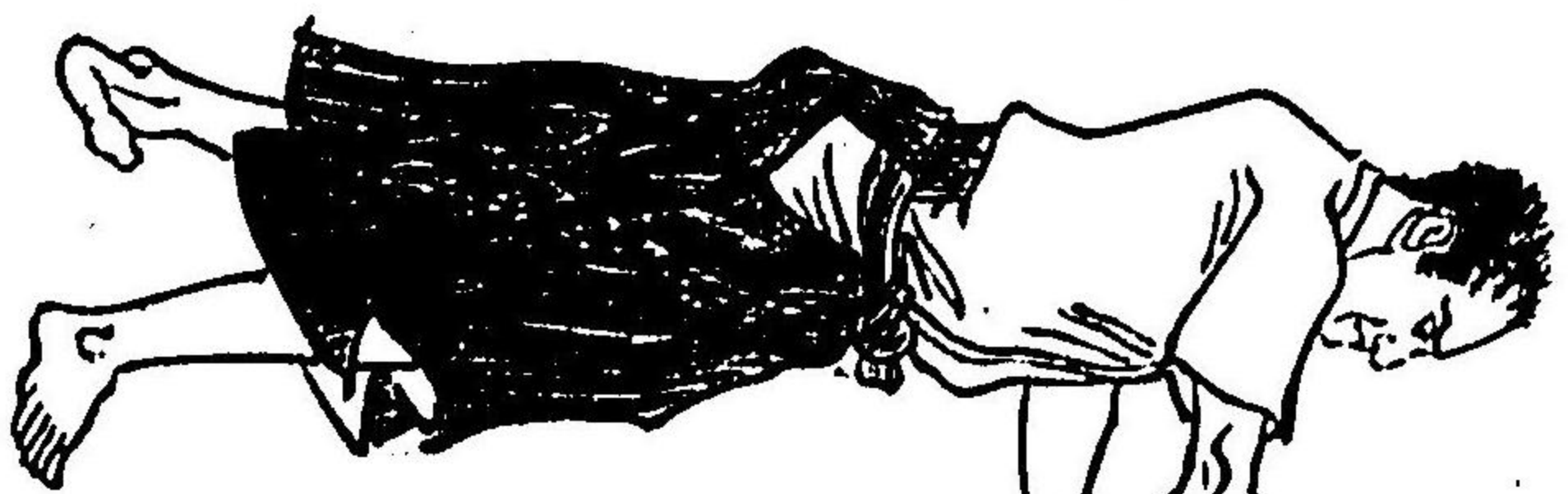
げ

る



打太刀

打太刀



才眼ハ直

刀を精

を却

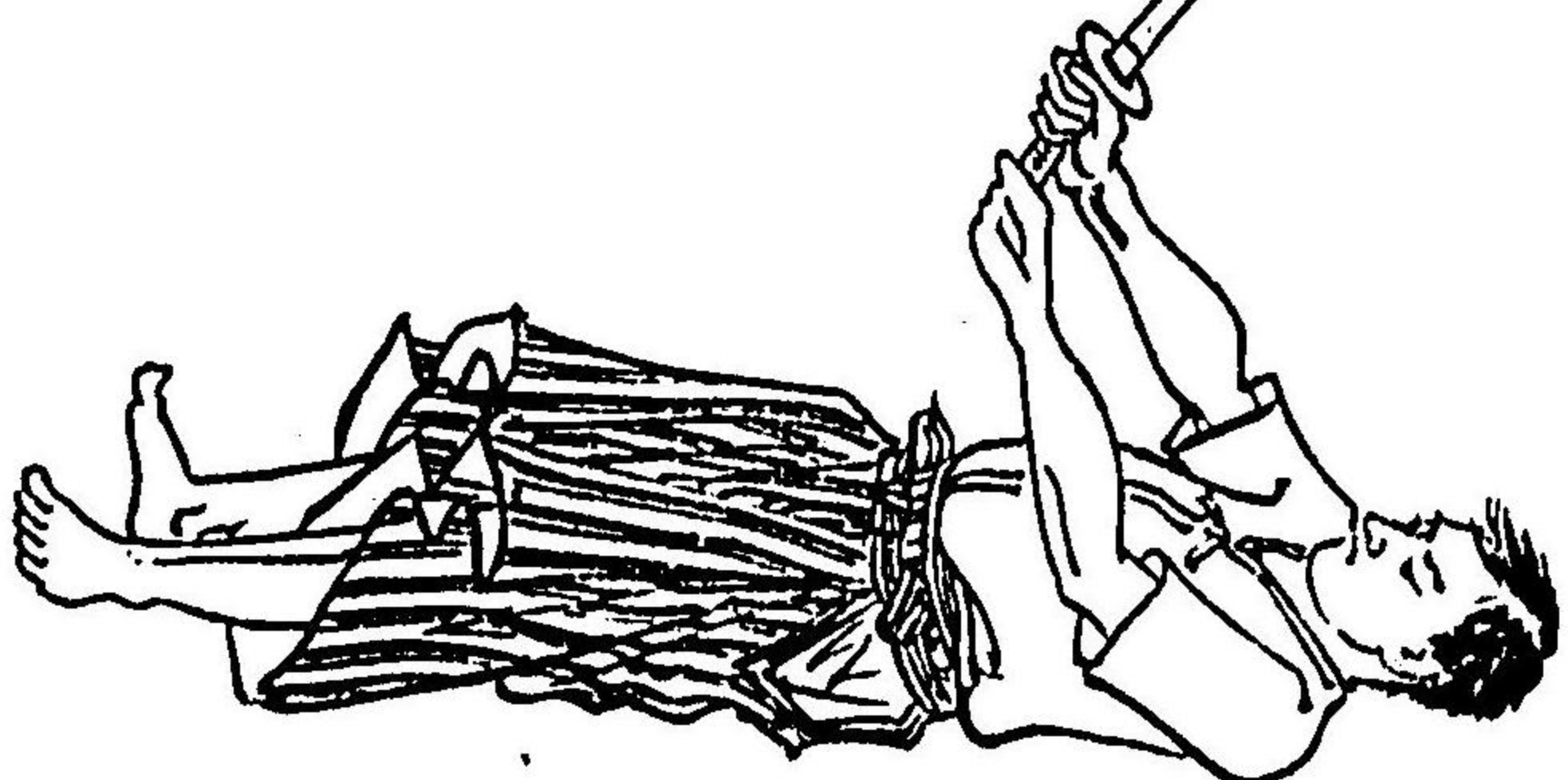
刀ハ足

也仕太

刀

打太

刀



仕太刀

第十一圖 雙挽

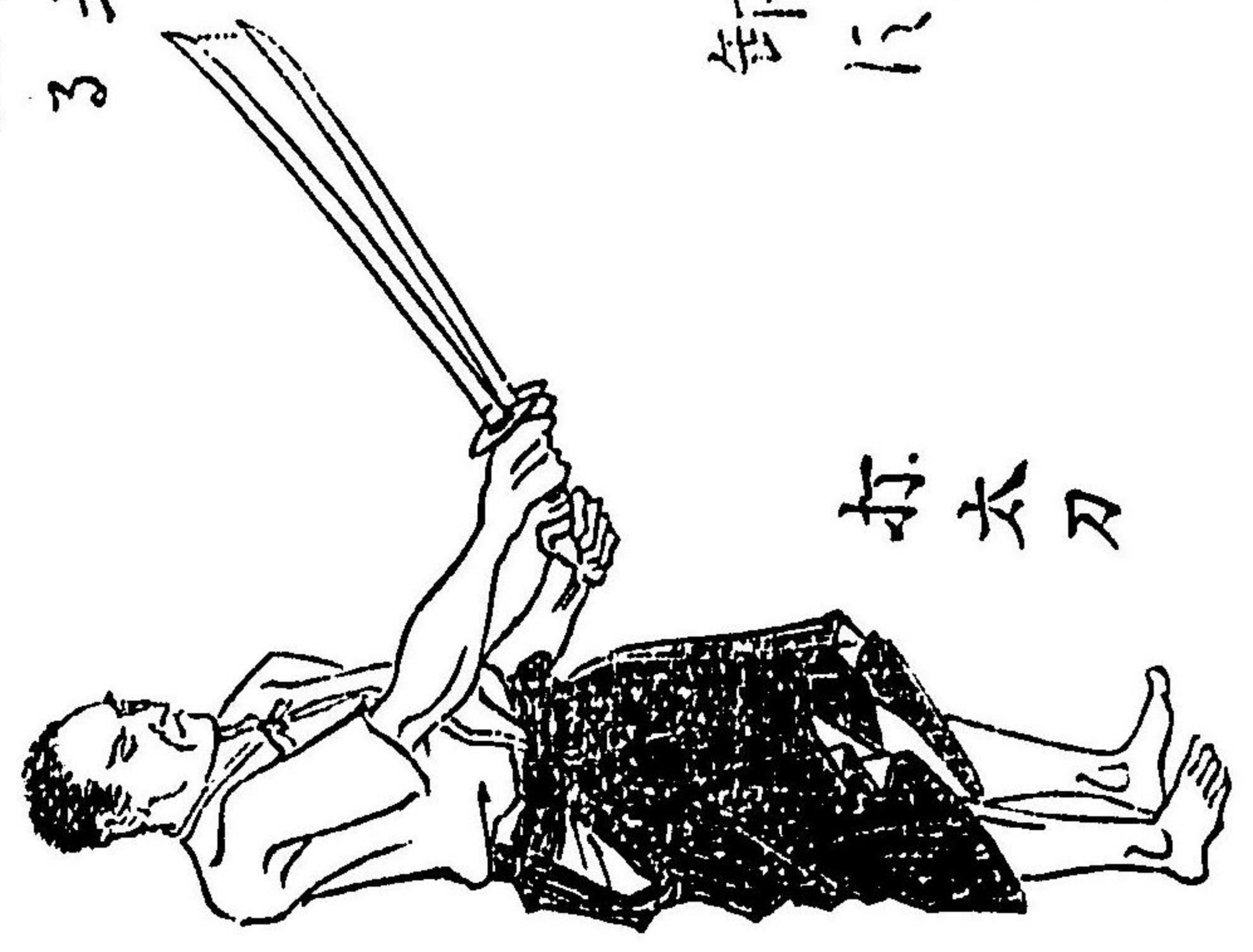
第十二圖 雙挽



仕太刀

二本目
三本目
前子
卸先
に
精
部
の
切
邊

打
も
の
直
位
る
太
も
仕
元
太
刀



打太刀

二本目
三本目
第一圖

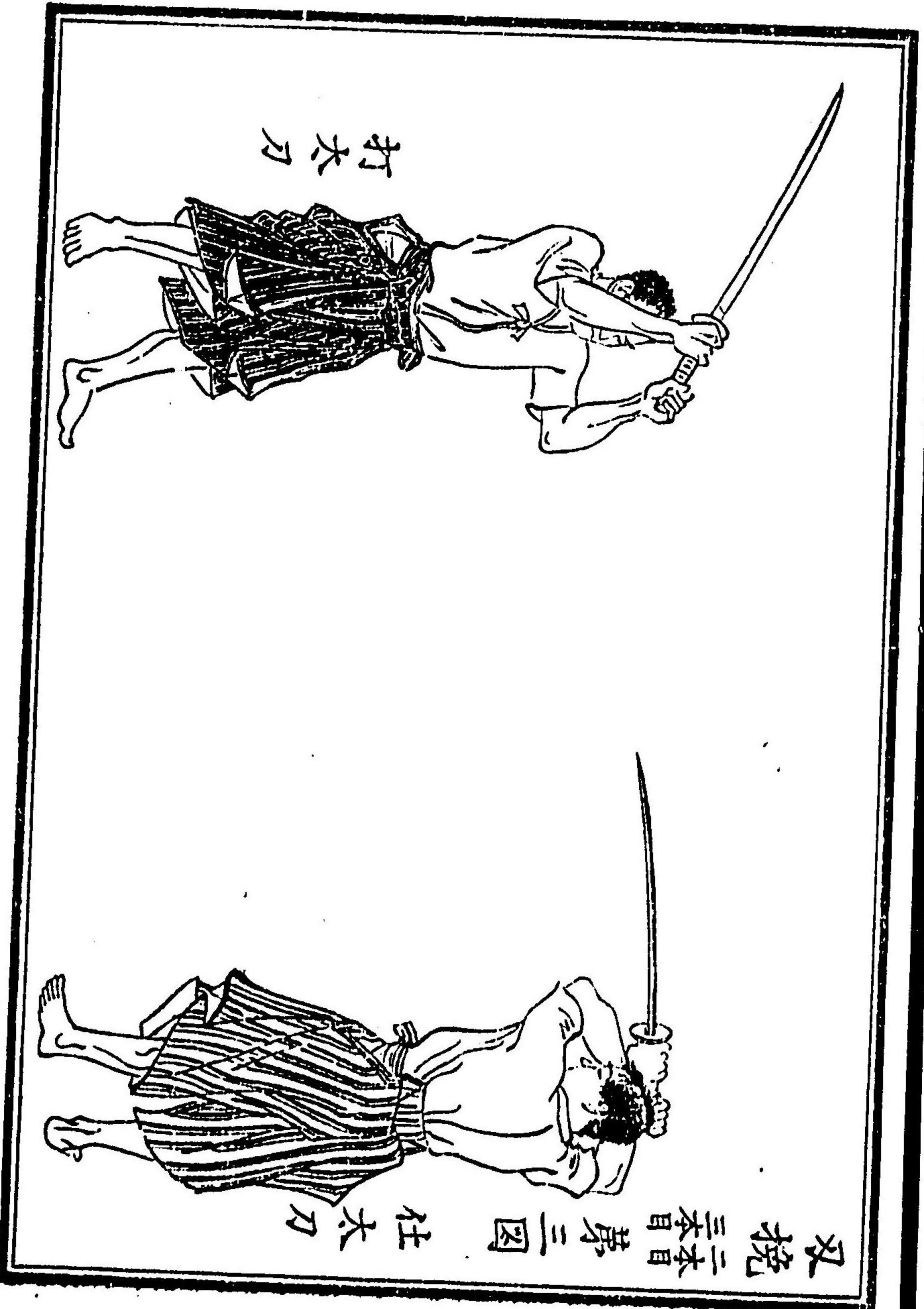
打太刀も仕太刀
も左も右も足を
踏出揃へて圖の
如く上段を取る



打太刀



仕太刀



又挽 三本目 第二圖

仕太刀の打太刀を引込付けにみこる足を
右左

と充分
小踏込

打太刀が八相
み取りと同時に
刃を霞むと云

て第三圖

の如くみ
おろなる

足を少しく
引込全く打太刀

も仕太刀も第

三圖に

至る

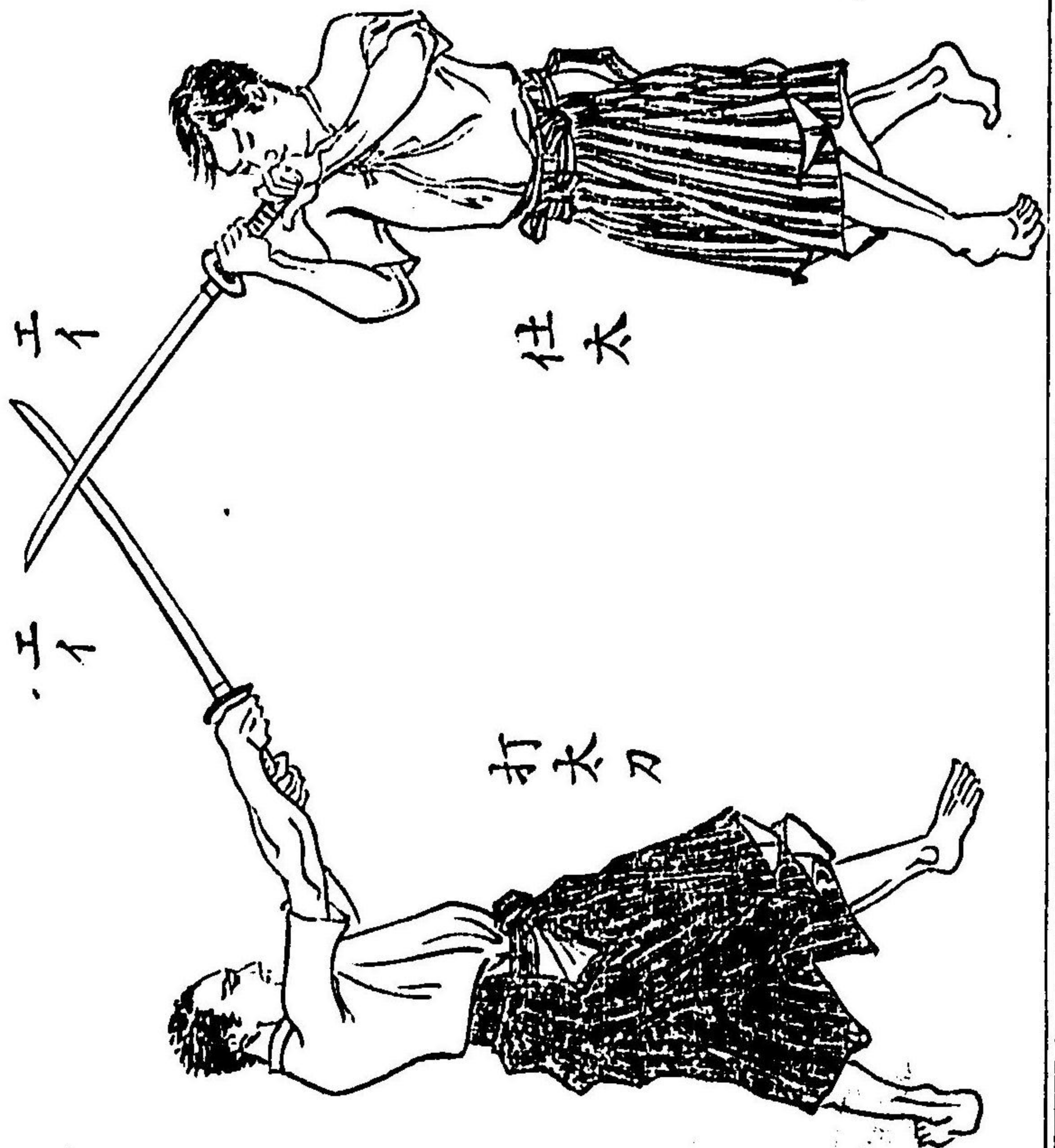
打太刀の

打合せしる刃を其儘みけおみこる足を
右左右と三足引て刃を八相と云て右
肩の上み取る



又挽三本目第四圖

仕太刀ハ足を其儘に體を左うへめく
らせむら圖の如く刀の峯よて拂ふ



打太刀ハ相の構より右の足を踏込
仕太刀の面上を打

又挽三本目五圖

仕太刀



を圖の如く
胸部に當り
足を扇の要
の如く十字字
か踏む

打太刀ハ

打こむ

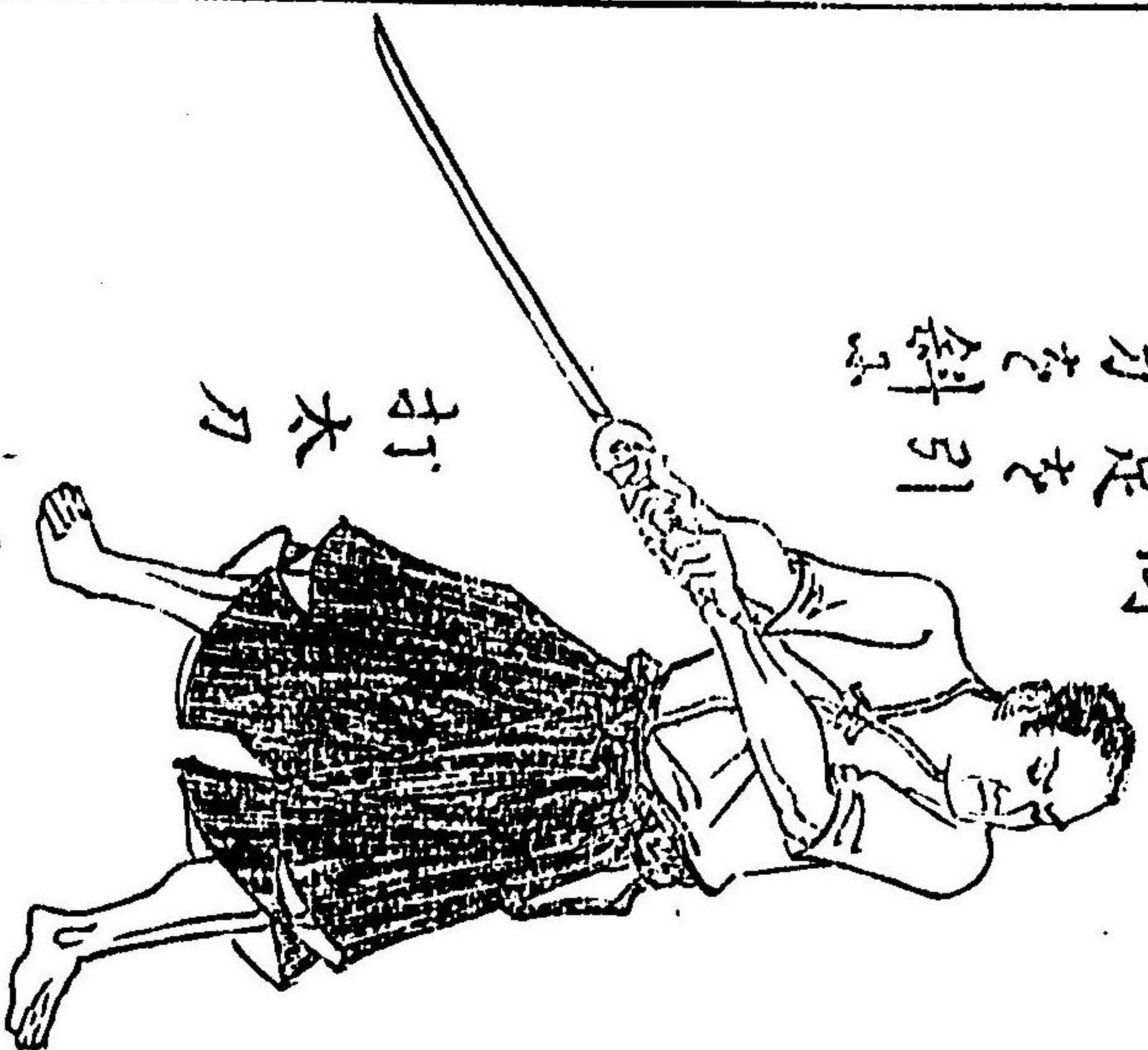
刀を拂

ハきると同

時ハ右の足を引

圖の如く刀を斜

取る



及挽 三本目 第六圖

仕太刀

仕太刀は

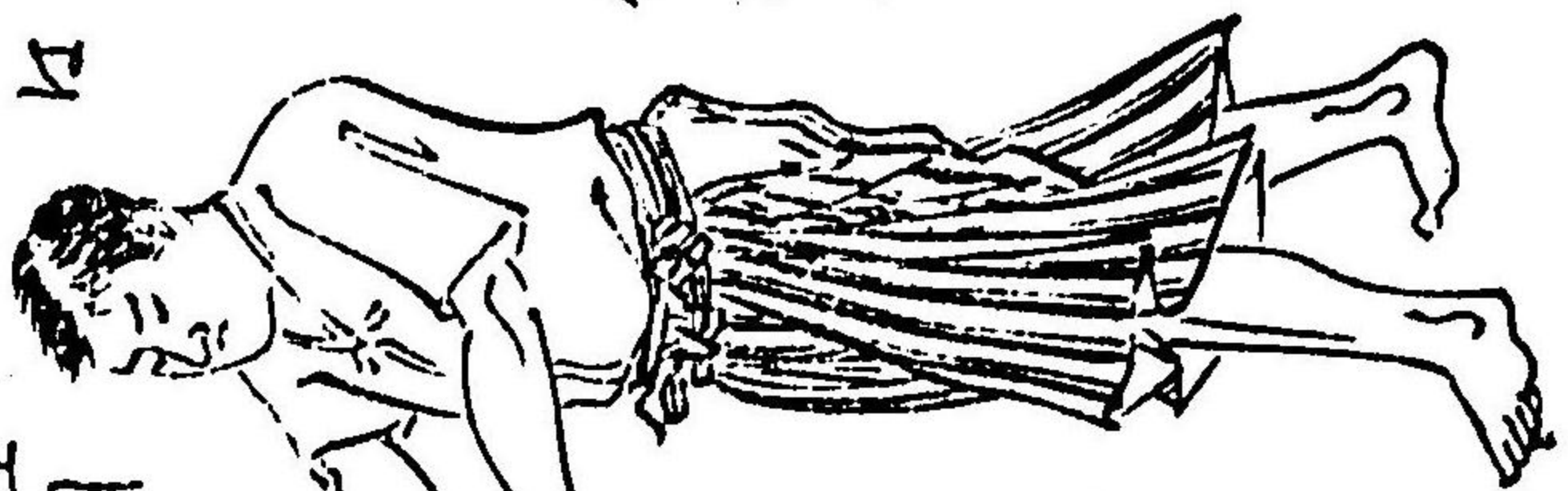
要み踏

こる足

を元へ直し

ならん精眼

を付る



打太刀の第五

圖の如し斜に取

りこる刀を右の

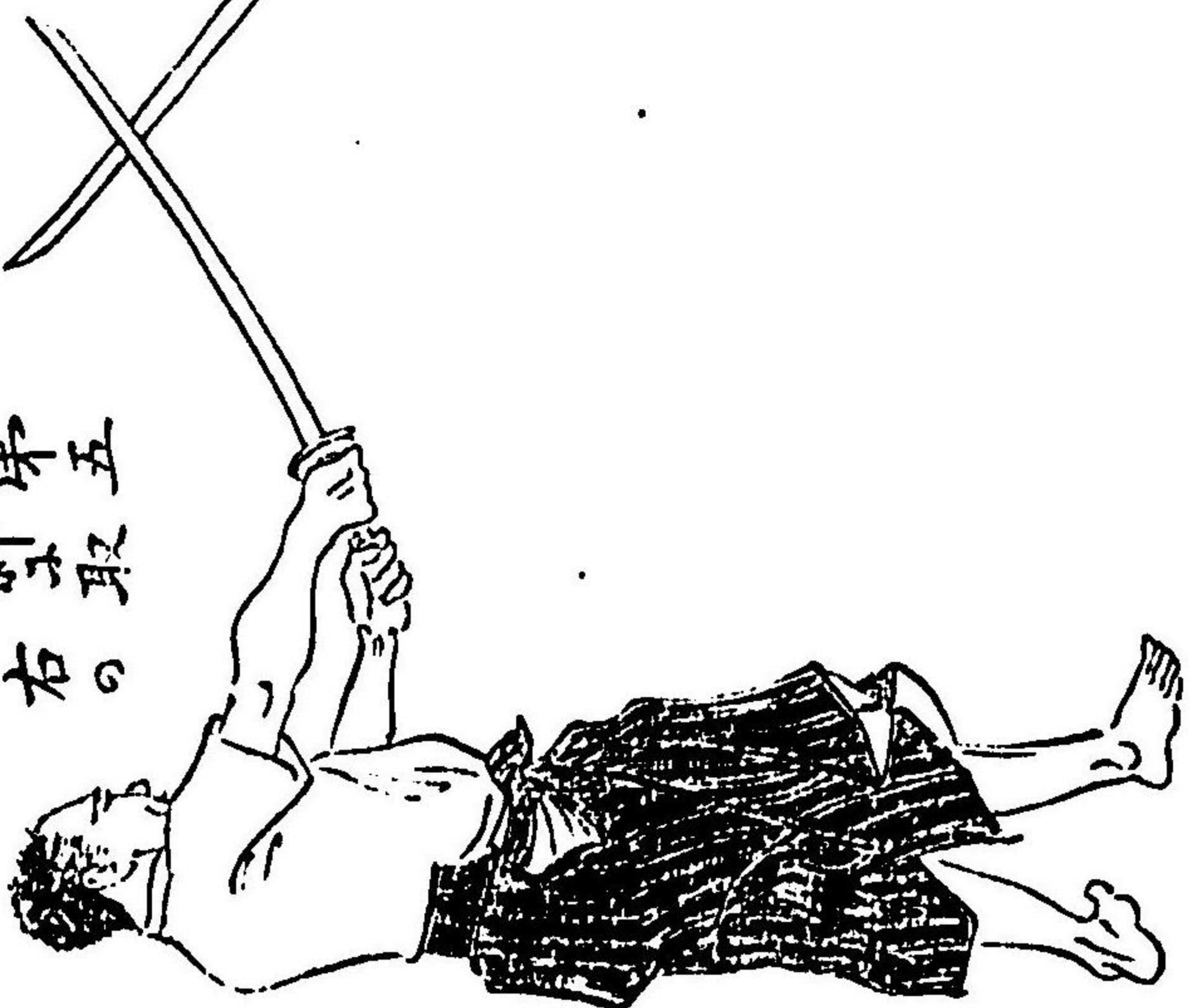
足を踏出

し左の

足へ揃へ

ならん精眼を付る

打太刀



及挽 三本目 第七圖

打太刀

む

と踏込

故右を左より右

氣相不勝る

を合せざる時又

打太刀ハ精眼

を取り直して

三足引で氣相

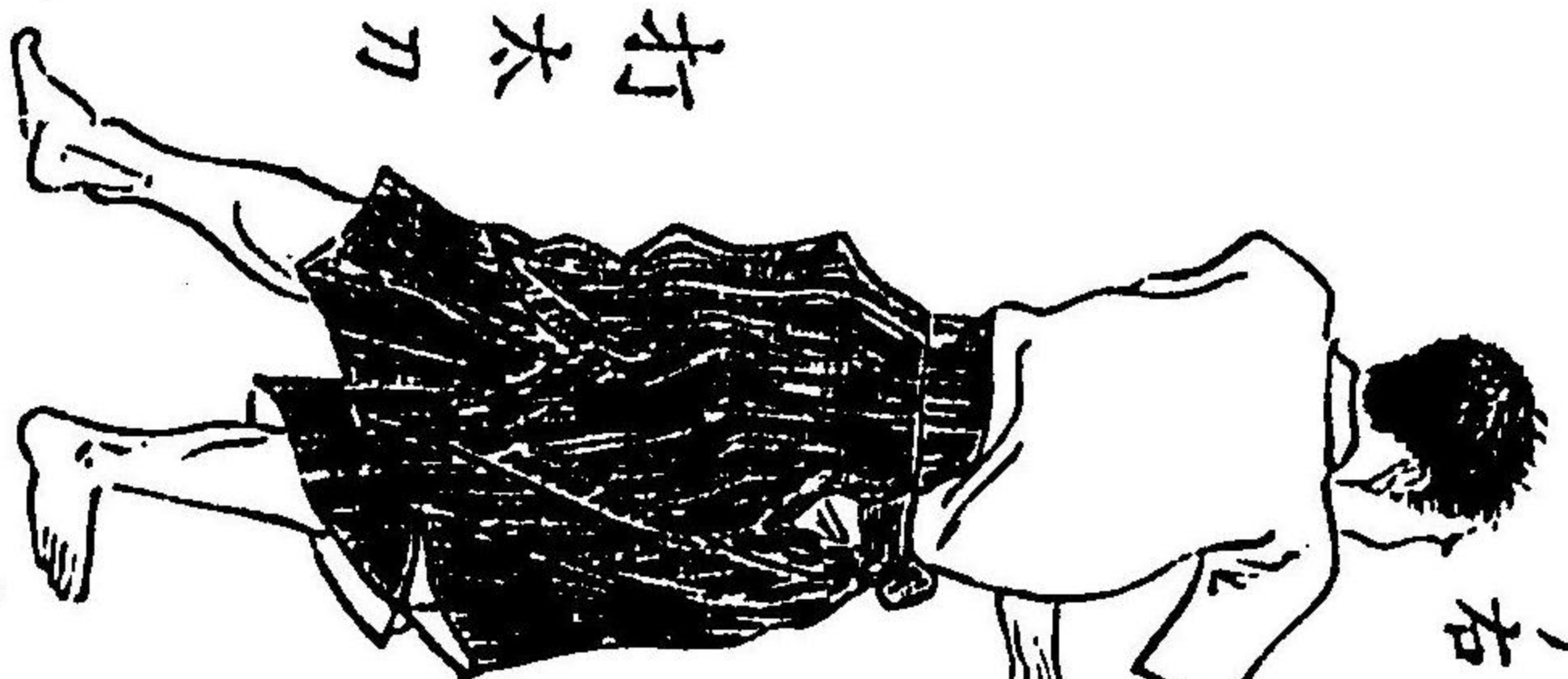
踏込は左より

を引右を

こめ右

左より踏

仕太刀ハ打太刀に右より踏込め左を引

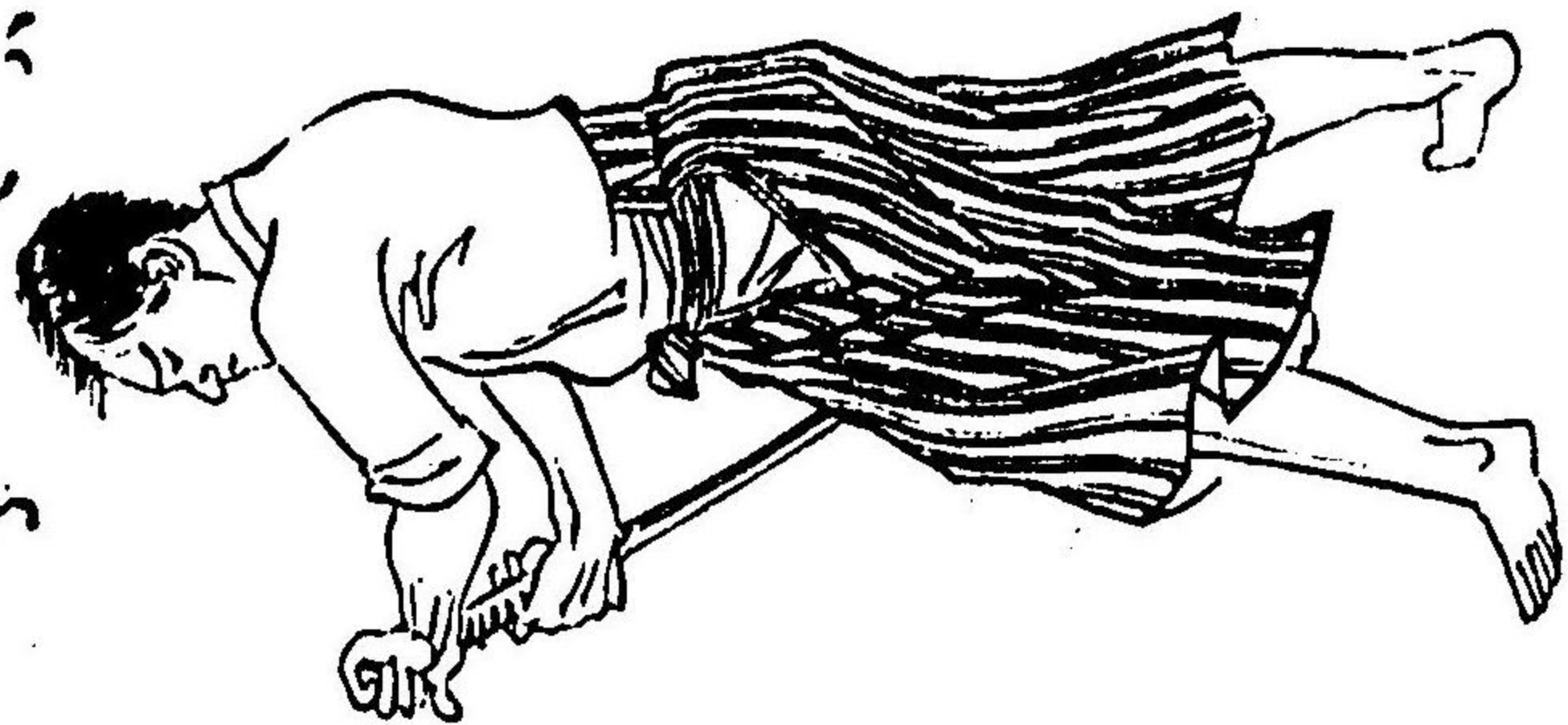


仕太刀

双挽三本目第八圖

仕太刀

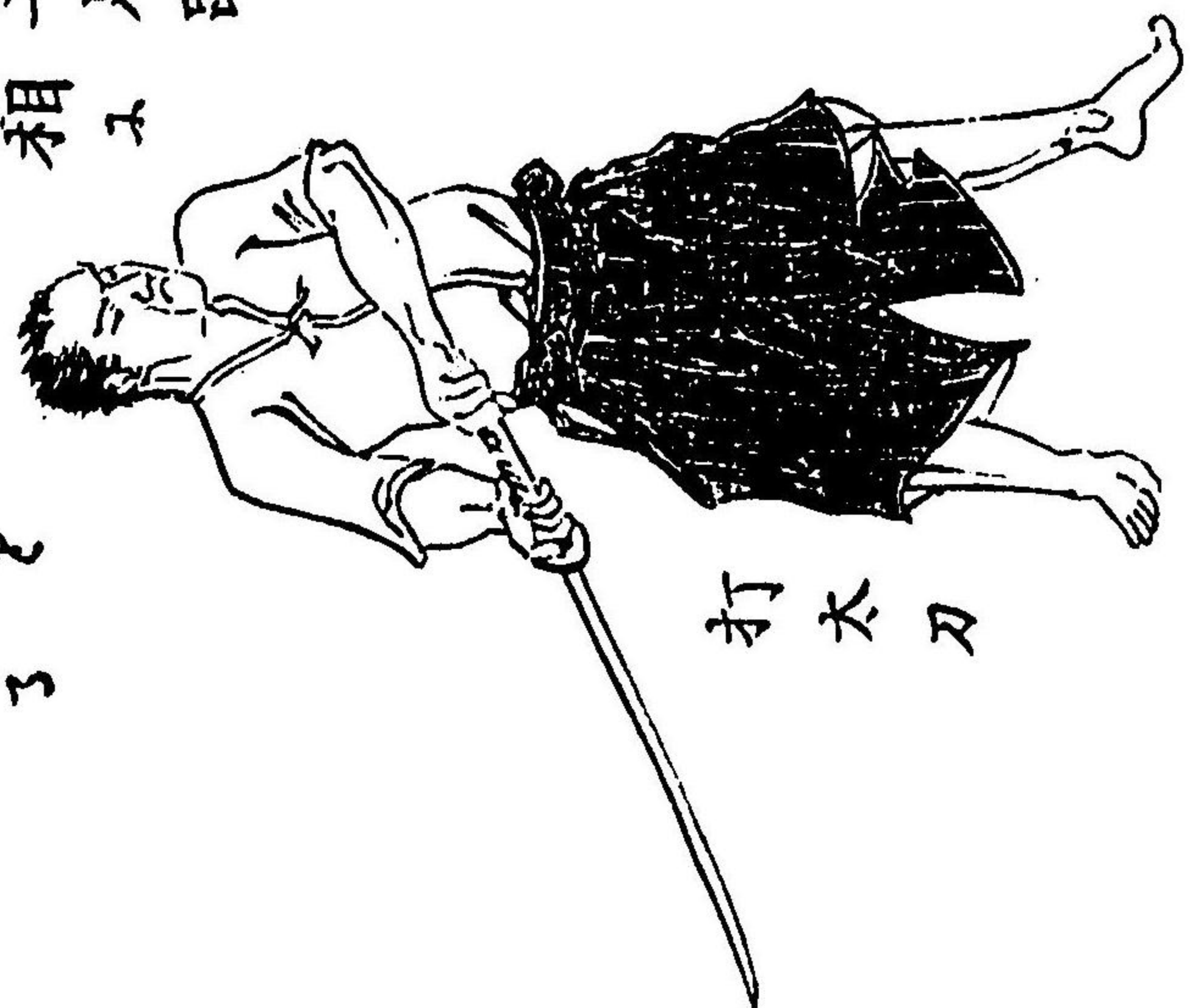
仕太刀ハ
左リヲ
踏込テ
斜ニ取リ



打太刀前圖

の如ク三足踏
込テ氣相
負右の
足を引
テ圖の
如ク刀を
斜ニ取リ

打太刀



双挽三本目第九圖

打太刀仕太刀の構

右の足
引テ

如圖の
如ク踏込

ハコソヤ

エヤ順

ニ打合

セ足ハ

卸ビテ

次返

打太刀



双挽三本目第十圖

仕太刀

(エヤ)と左
の足は
蹴り
逆ら
に
打
合
せ
足

上段次へ
却り刀を返して

打太刀

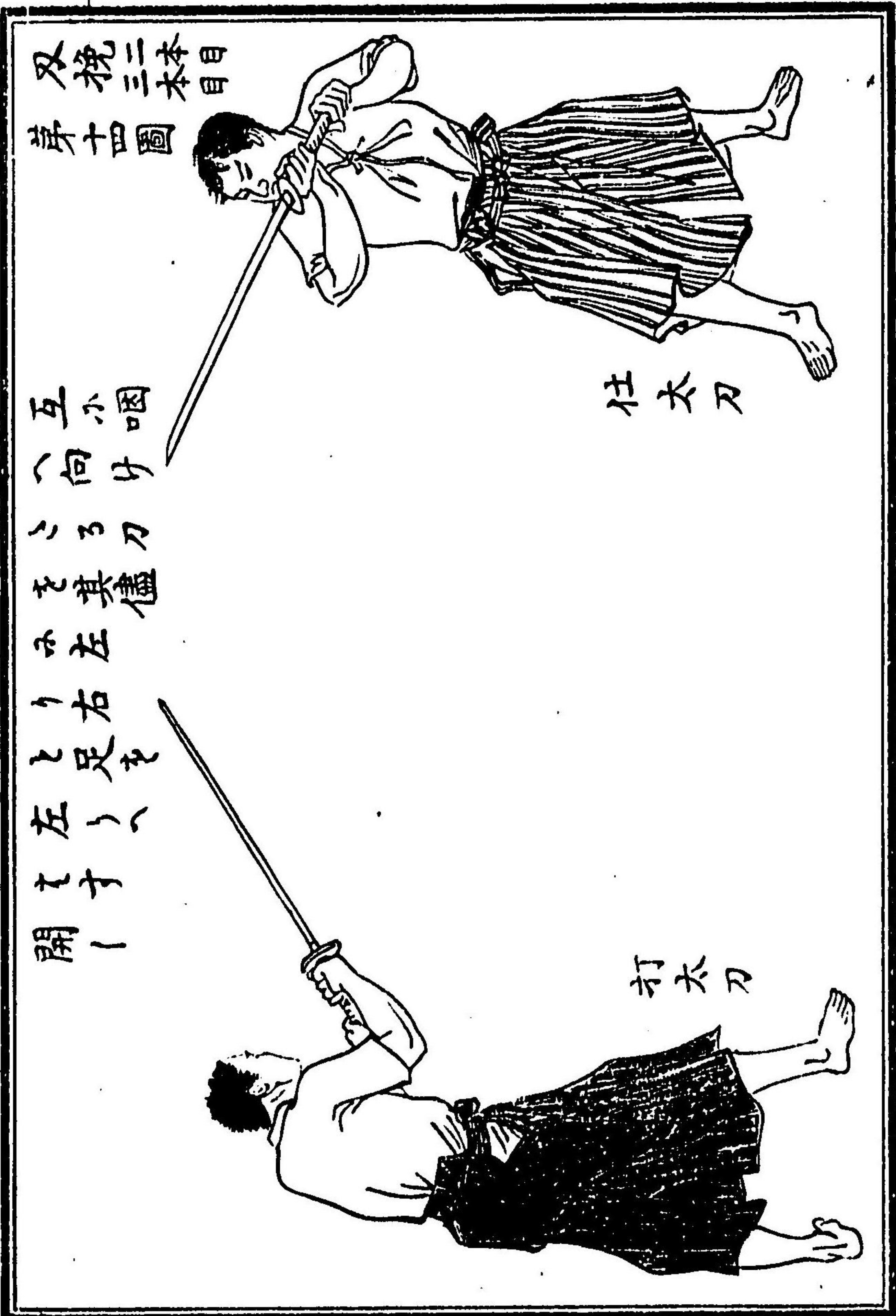


双挽三本目第十一圖

打太刀

次打順
に
蹴
り
合
せ
右
の
足
は
蹴
り
逆
ら
に
打
合
せ

仕太刀



目本三挽双

第十四圖

仕太刀

打太刀

互小咽

へ向け

ころ刀

を其儘

ひ左

り右

と足を

左へ

をす

開



双挽
二本目
第三十五圖

仕太刀

打太刀

打太刀も仕太刀も

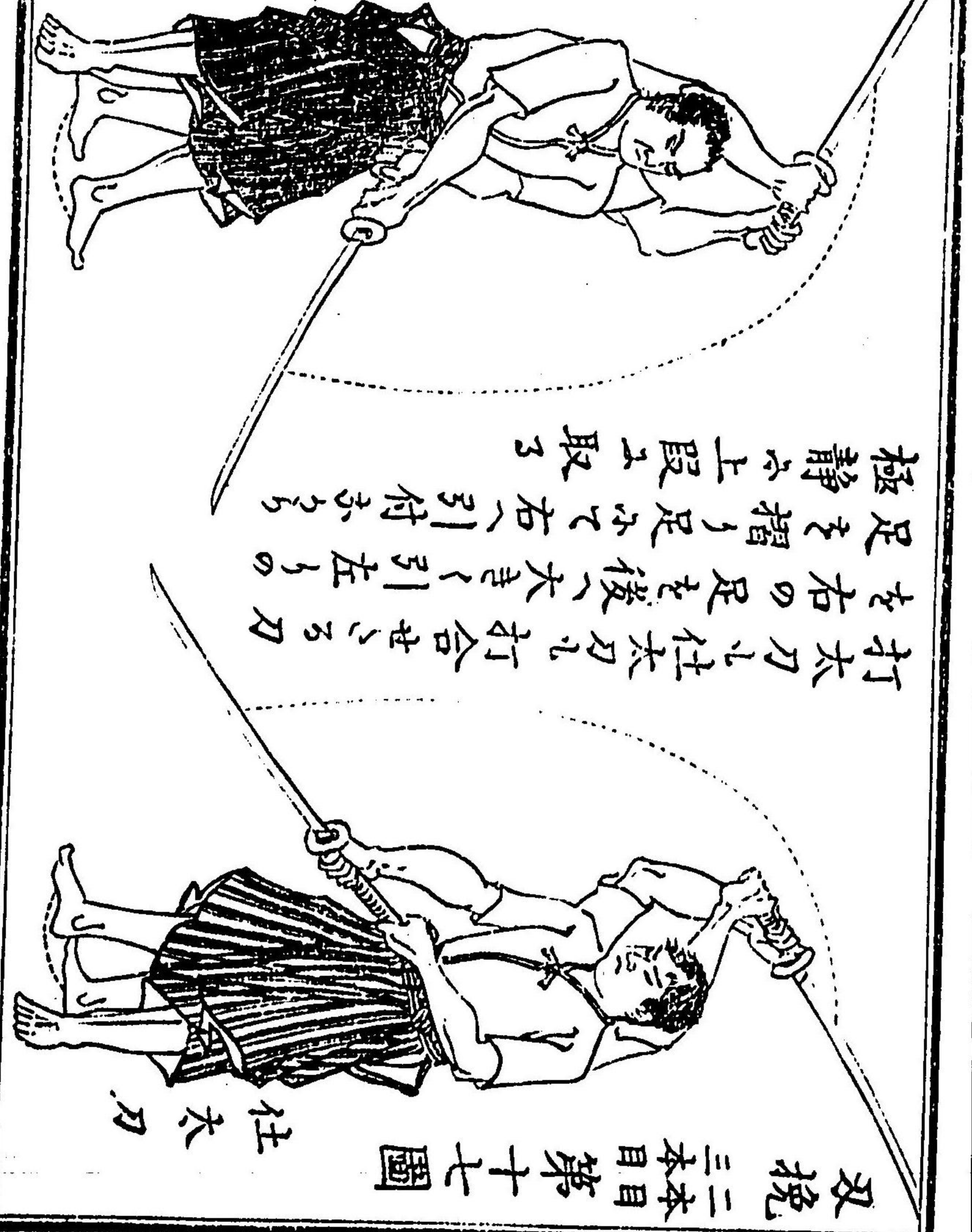
開きころ刀を上段

小取

双挽 三本目 第十六圖



打太刀



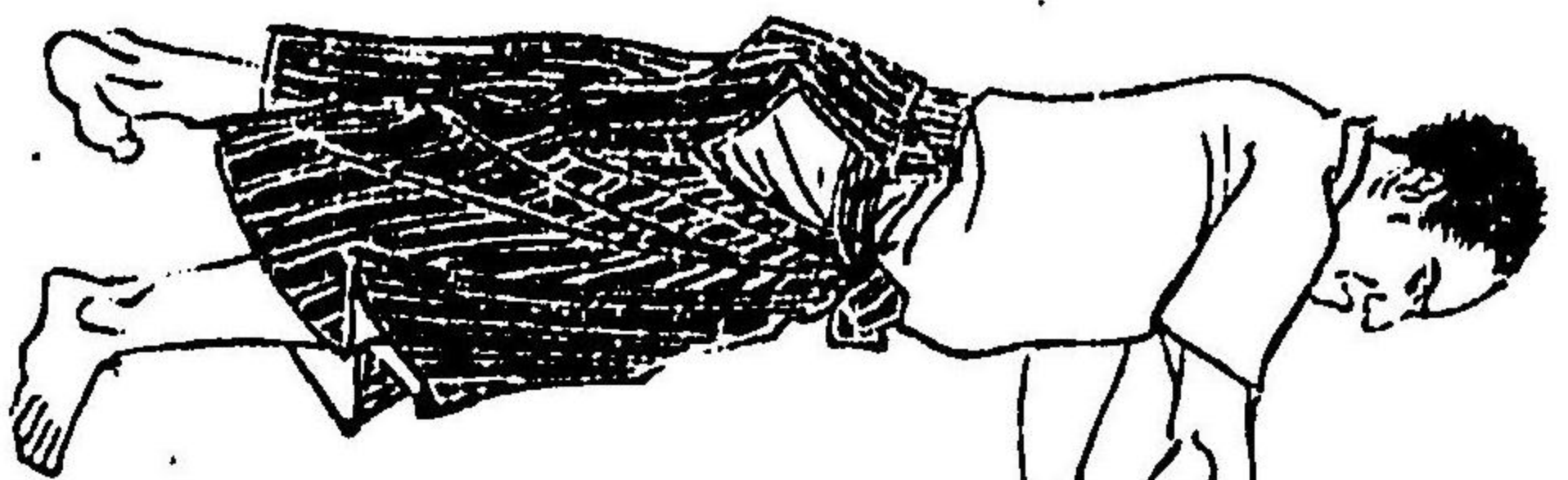
双挽三本目第十八圖

打太刀も仕太刀の上飯より左の足

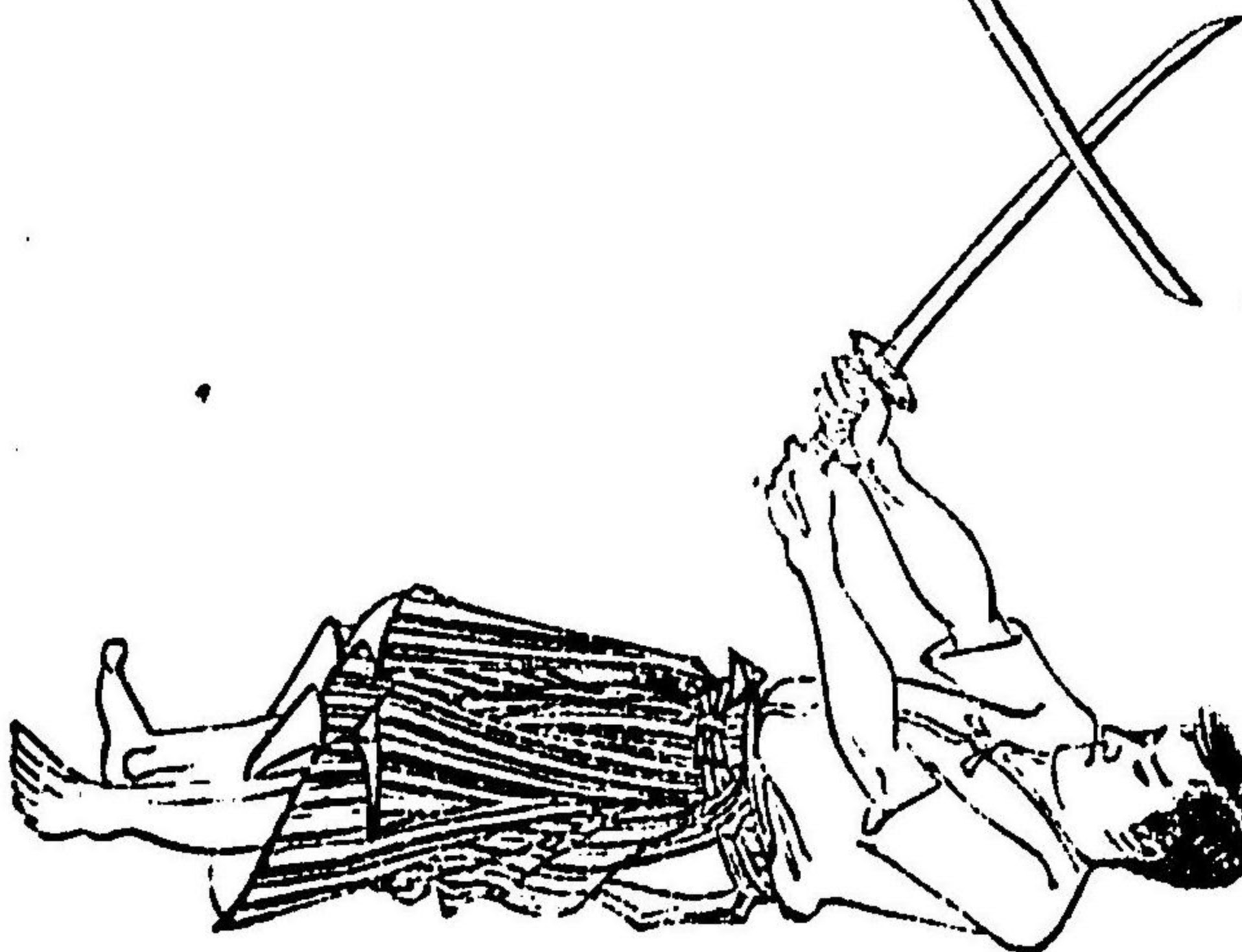


を摺り足を進めたり（おこし）と刀
を順に打合せから右の足まで蹴込

打太刀



打太刀
も仕太刀
刀もけ
こい
足を却
し打合
せころ
刀を精
眼お下
げる



仕太刀

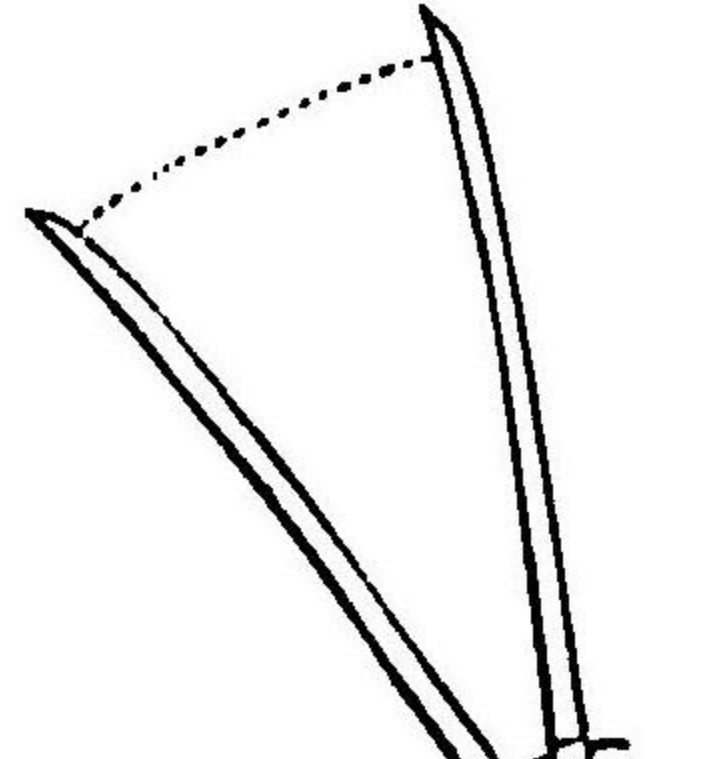
双挽三本目第十九圖

第二十圖 三本目 挽双

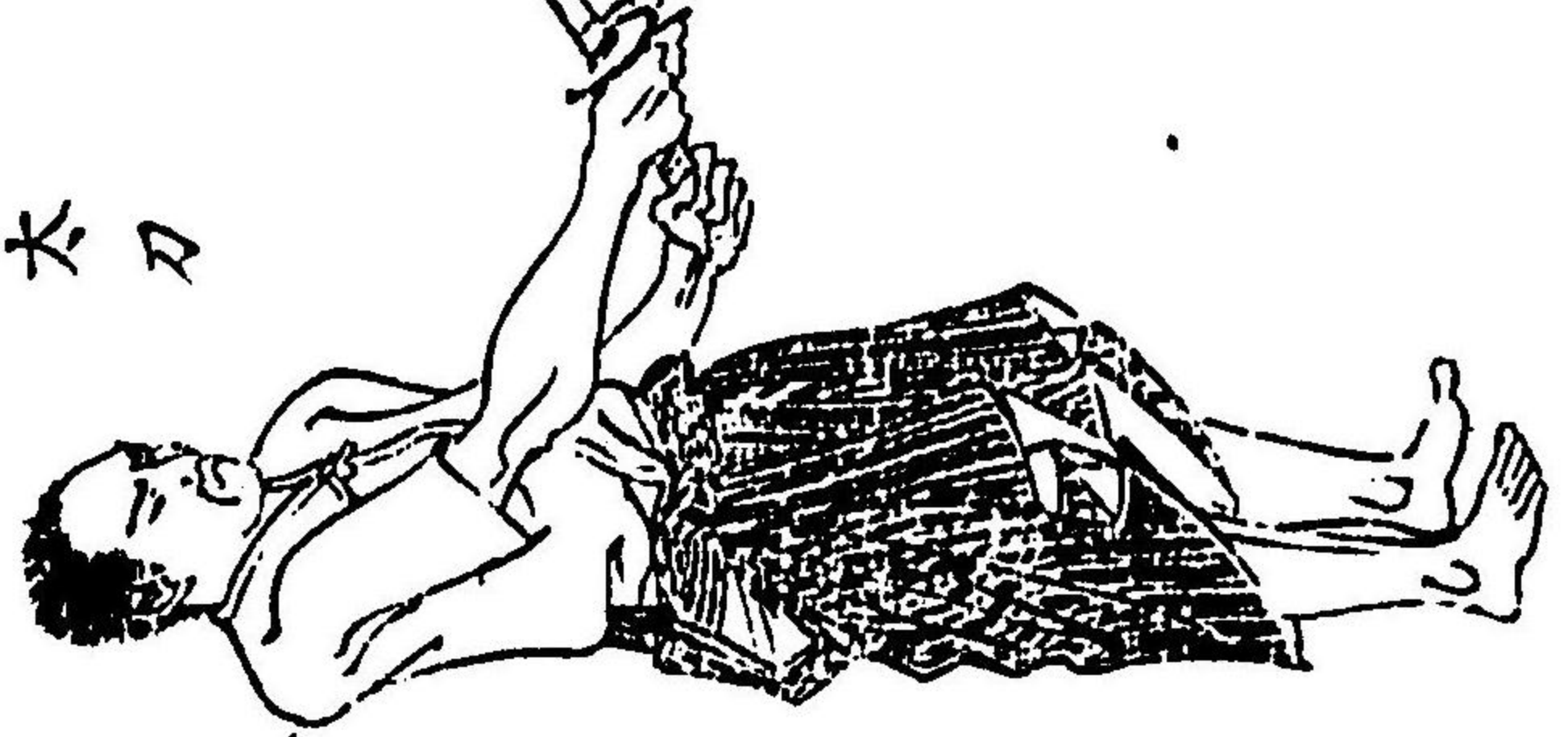


仕太刀

四本目第一圖示
 至らんたる前
 小精眼切先と
 敵の服部迄
 卸え



打太刀も
 仕太刀も
 元の位置
 小直る



打太刀

四本目

第一圖

打太刀も仕太
 刀も左より右と足
 を踏出し揃へて
 刀を上段に取る

仕太刀



打太刀



四本目 第二圖

仕太刀

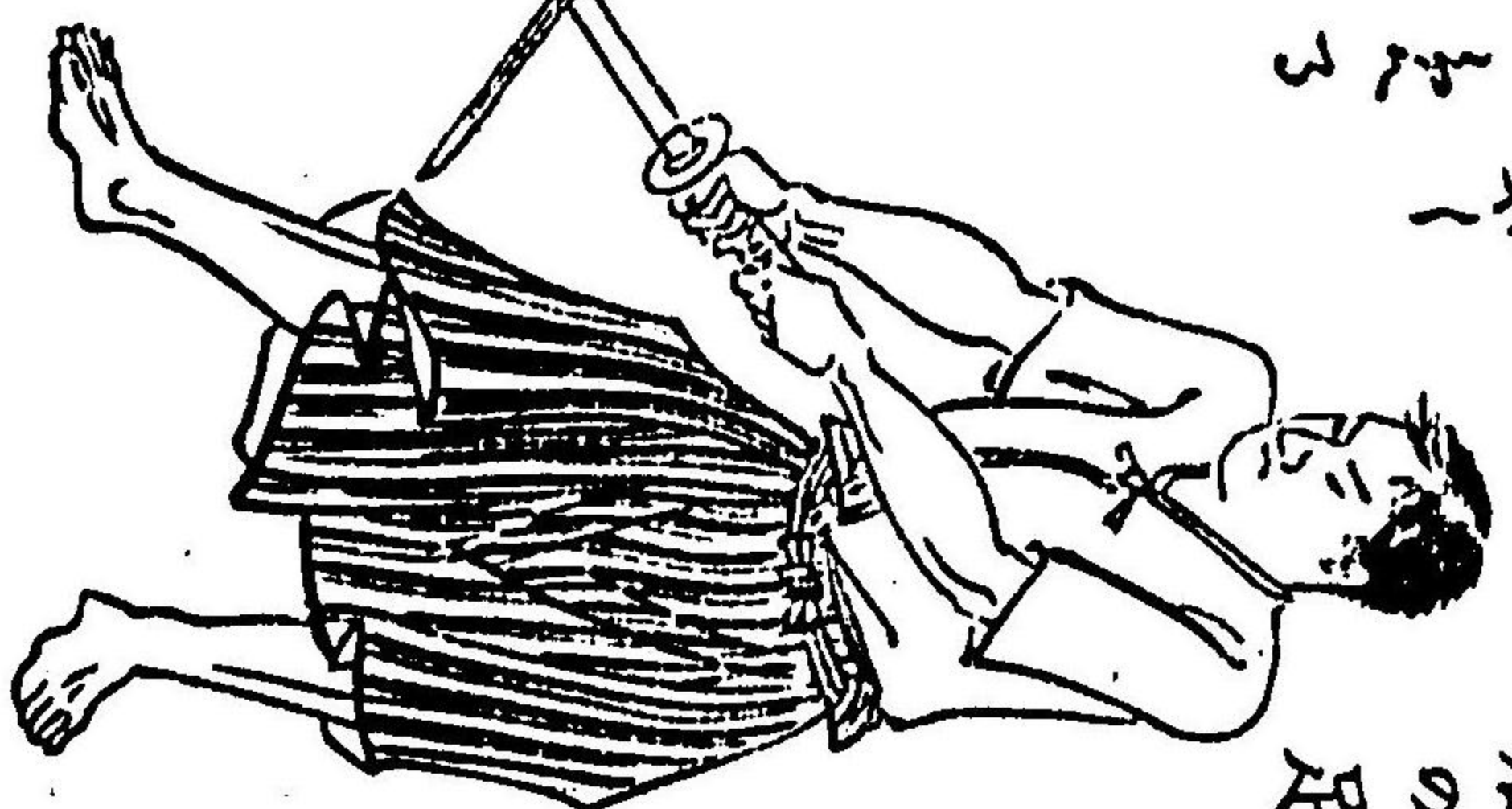


打太刀

打太刀
も仕太
刀も左
り足を
摺り足
み前へ
進めへ
やエヤ
と面上
を目掛
け刀を
打合せ
右の足
を蹴
込

四本目 第三圖

仕太刀



仕太刀ハ右の足を

卸し右の足

を後へ

引(エ)

と声掛

け圖の如

是を止

打太刀ハけこみ

くる右の足を踏

こみ仕

太刀左

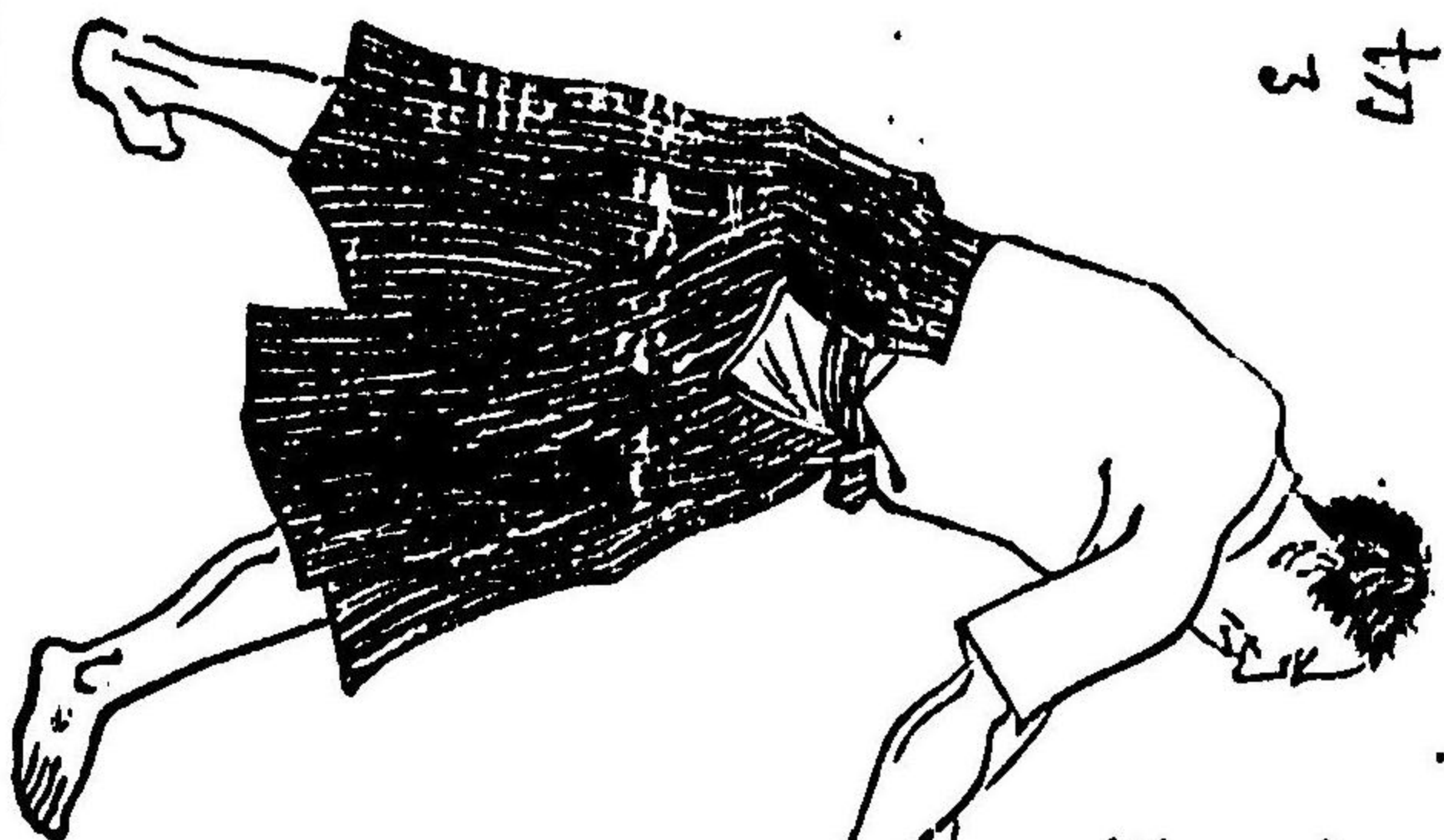
りの足を

(エ)と

声掛け

圖の如く切

打太刀



四本目第四圖

仕太刀、右の足を引打太刀の初

返に刀

を止

めぶら

ら左の足を

右引付きを圖

の如くの姿勢に至る



仕太刀

打太刀、左の

足を踏

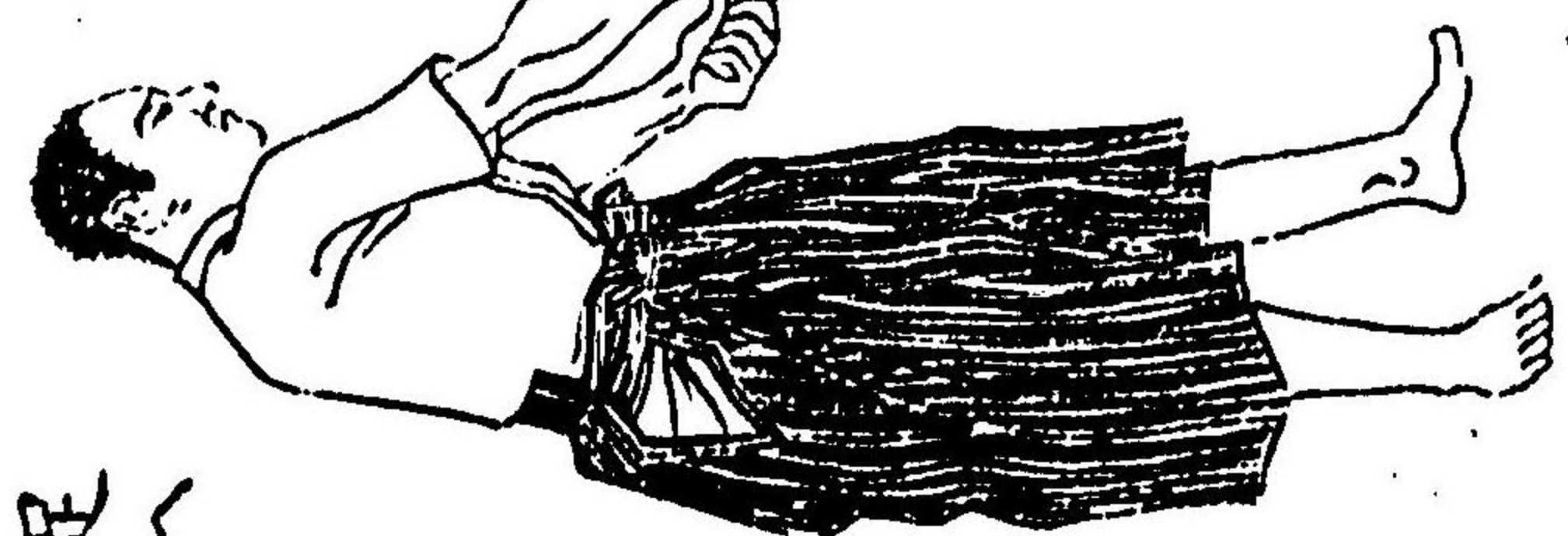
こみ

て仕

太刀

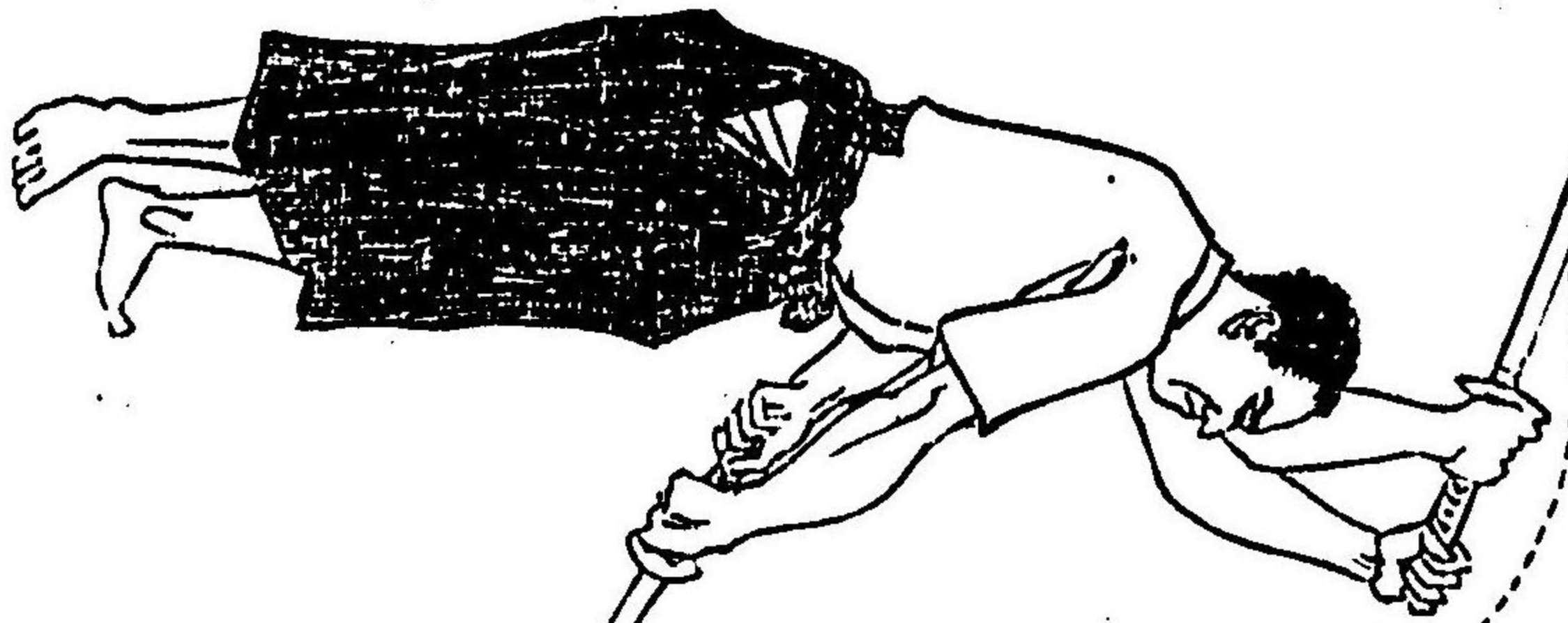
の右の足へ

切り返に



打太刀

打太刀



に至る

段を取き、圖の如くの姿勢

是より引付ながら極静ふ刀を上

へ大きく引左りの足踏足ゆて

打太刀、仕太刀の右の足を後



仕太刀

四本目第五圖

四本目第六圖



打太刀

仕太刀

仕太刀

心左

りの足を

摺り足ふ

前へ進

め圖の

の如く右

の足ふ

て蹴込

ふらら

刀を順

ふり(ヤ

エイト

打合す

打太刀

四本目第七圖



打太刀仕太刀

もけこみこる

足を卸しちが

ら刀を精眼小

下げす

打太刀

仕太刀



仕太刀

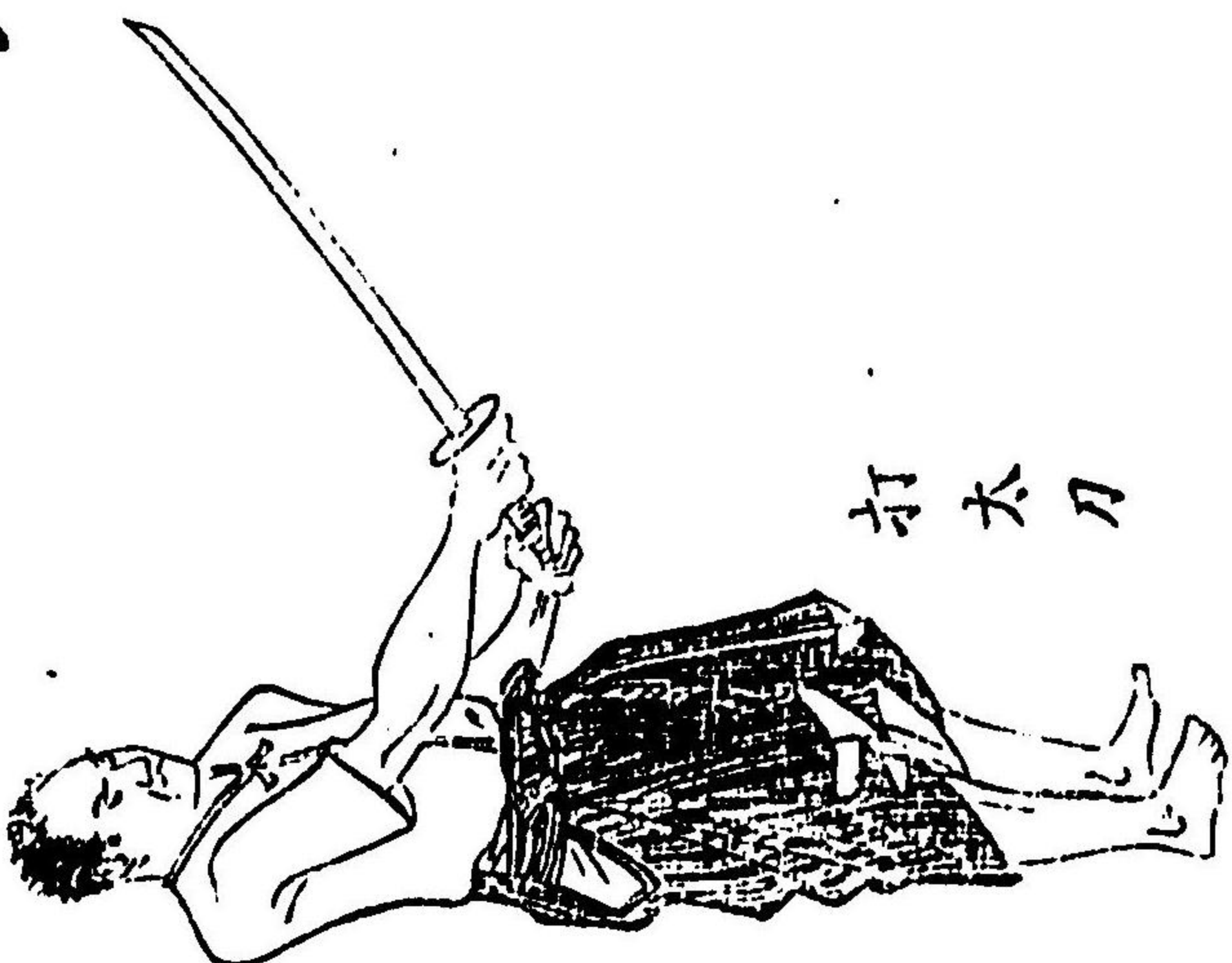
四本目
第八圖

打太刀ち

仕太刀も

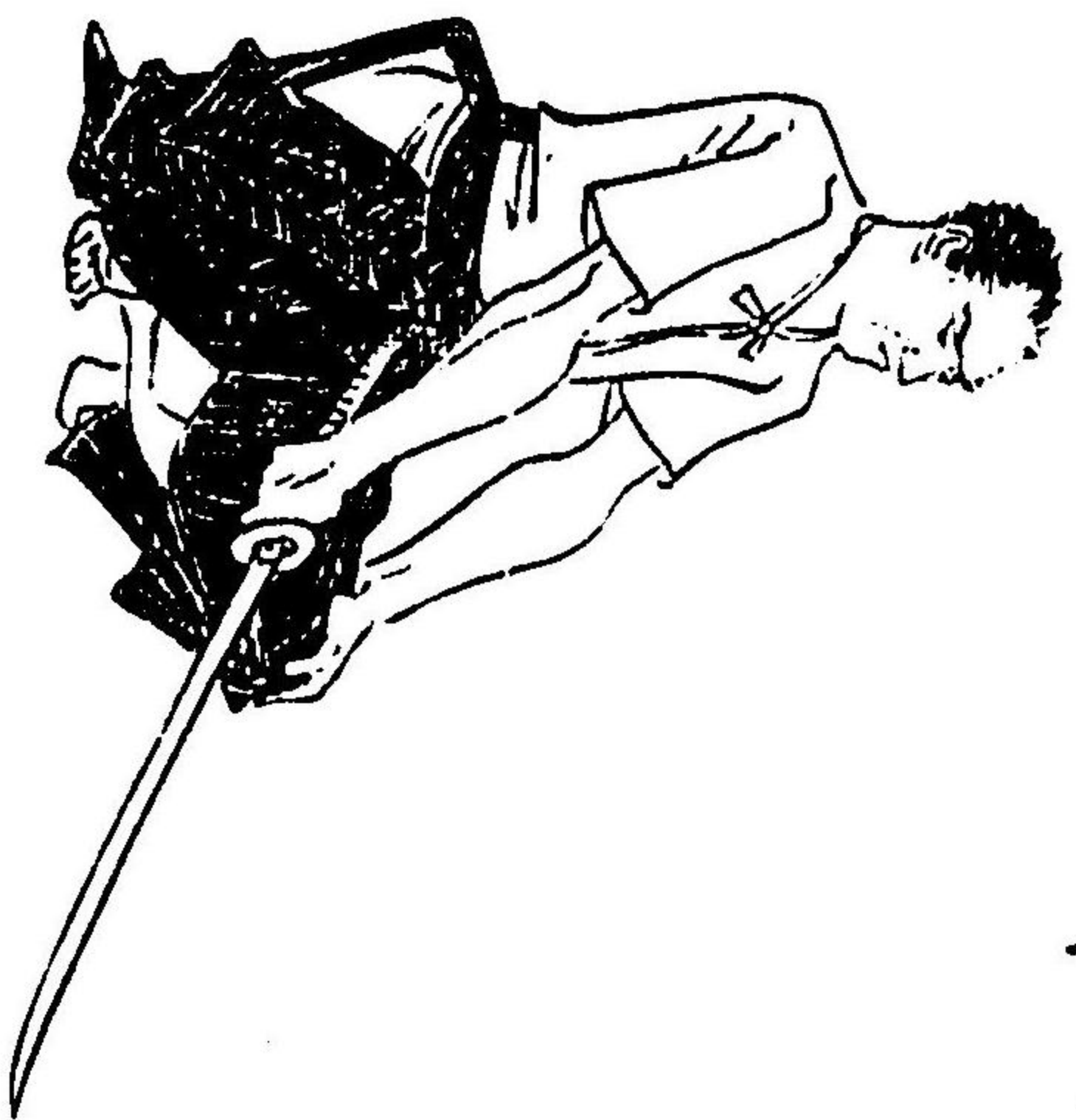
元の位地

小直る



打太刀

打太刀



を下お置く

右手みてか

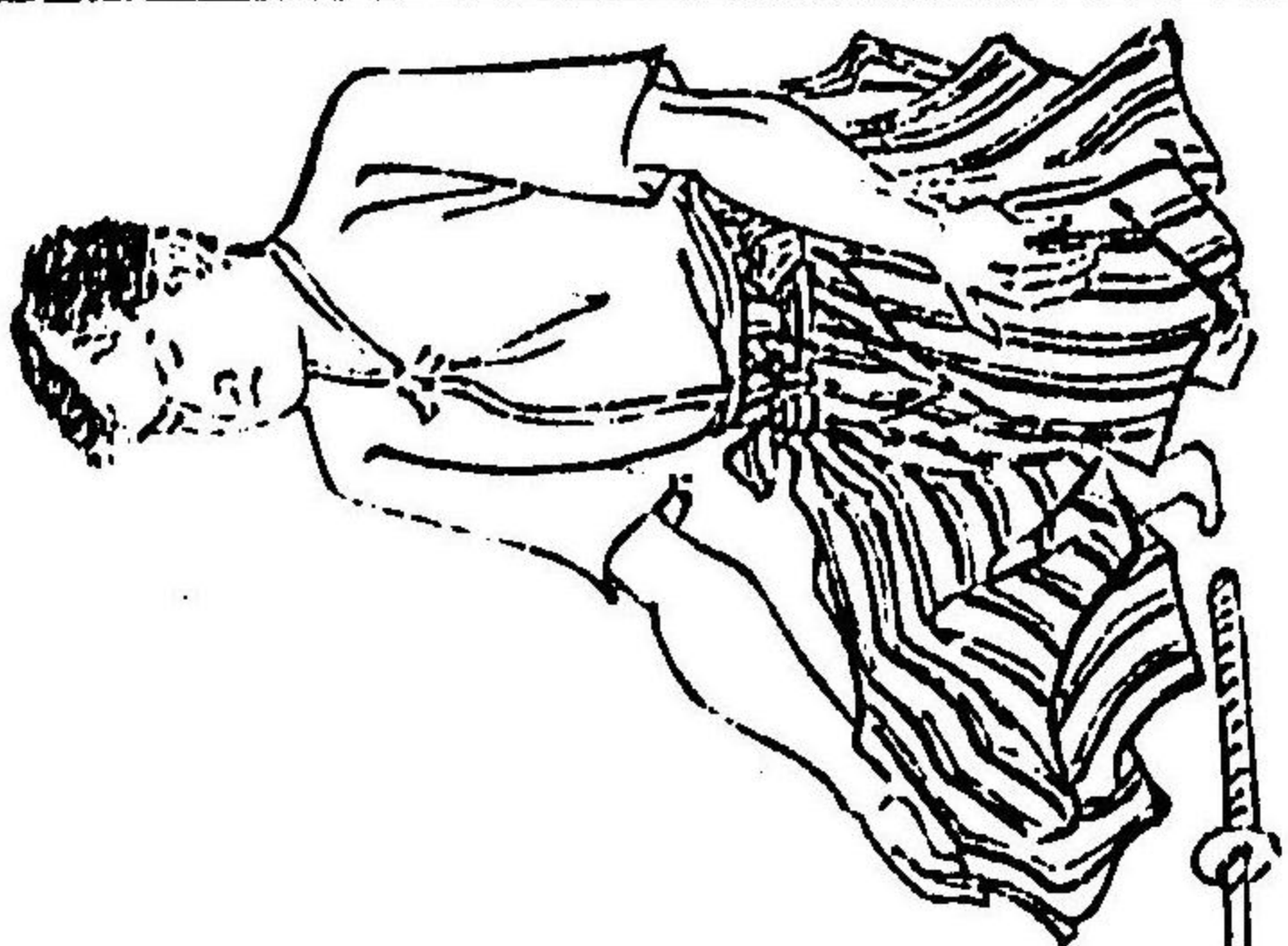
太刀もの圖の如し

打太刀も仕

仕太刀



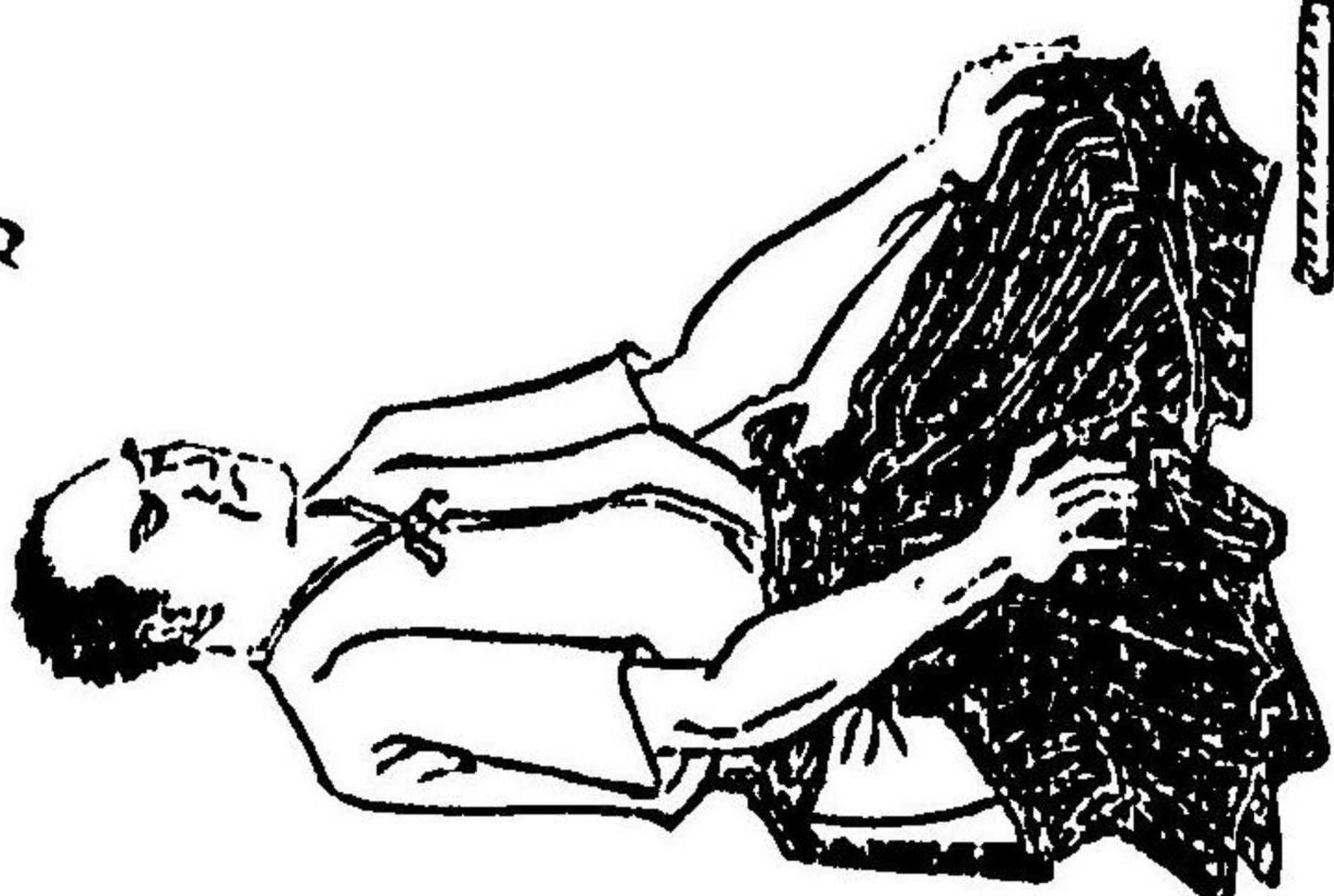
四本目
第九圖



仕太刀

四本目
第十圖

圖の如く
互は氣相
を取る



打太刀

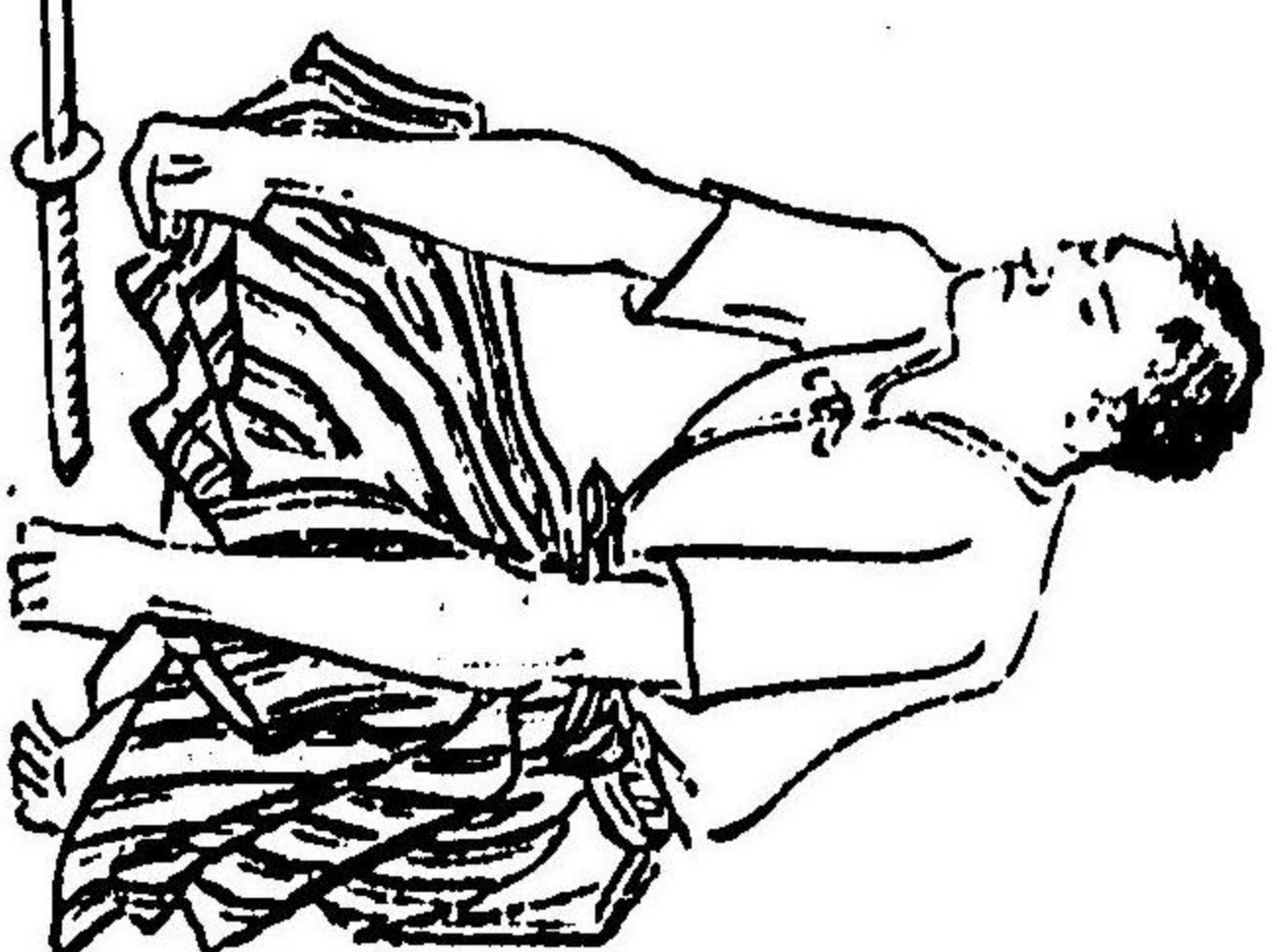


打太刀

圖の如く
互は一寸
會釋をな

仕太刀

四本目
第十一圖

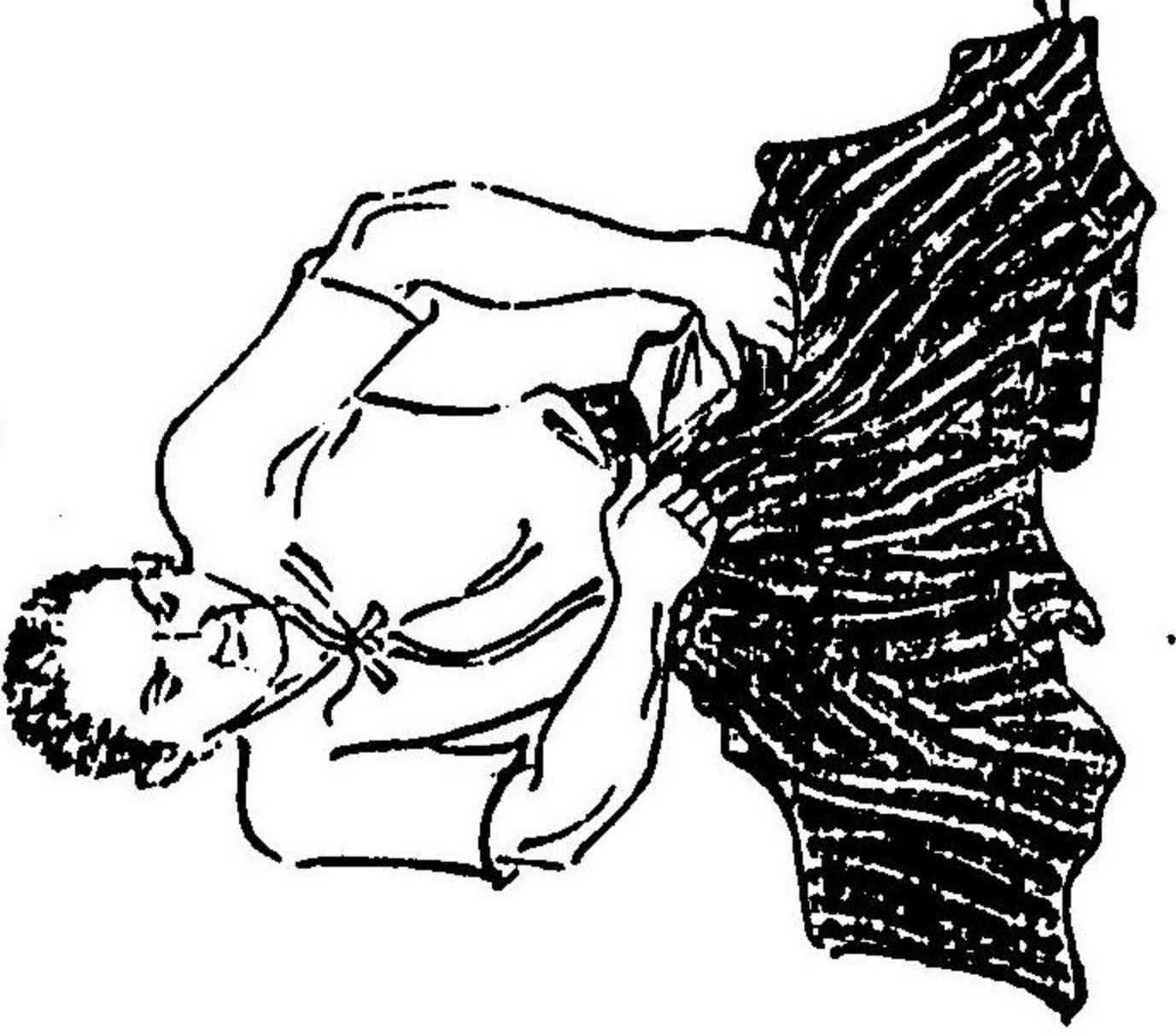




仕太刀

四本目第十二圖

互の如く
袴を向き
石を向
み石を向
のちだ
も、だ
卸に



打太刀

四本目第十三圖

仕太刀



圖の如く互

小己ッ刀の右

照み屈にて

一禮をか

終る

打太刀



跋

凡爲士者，不兼忠義勇之三德，不能立上流社會，欲兼此三德，先可研究武道，不然不能得此地位，世人或云：若有一旦緩急，則各執得手之武器，以臨戰場，攻城野戰，可唾手以奏偉功，何有平日委身於武術，廢事業理乎？予曰：否，不然，爲士者，當天下無事日，不修武道，臨事其心臆，而不能對敵致勇，自生未練柔弱心，不可建功勳，居治不忘亂，此之謂也。現今察宇內形勢，弱肉強食之競爭場裡，而西洋列國及亞細亞強國，窺窺四隅，縱一戰克清國，不可高枕安臥，彼雖弱國，嘗膽臥薪，不可謂無復讐念，當此時若有過一步，外對海外列國，內對四千萬國民，何顏得見之乎？故曰：一日不可忘武道。

也。依斯道修業之餘暇，閱係斯道之書，大概普通陳腐書，而拔彼書補此書，抄此書補彼書，綜合爲一篇冊子，只變換其標題，如新著，瞞世人，不過計一時利，茲以一讀則平々凡々，不堪讀，僅閱一頁，而放棄之，予常歎無斯道有益書久矣。然頃日井口松之助君，刊行一書，題曰劍術極意，斯道有志者必讀良書也。君之編成此書，不一朝苦心所致，以數年日月，附此書，抑直心影流十五代師家齋藤明信先生者，當今有名之大家，而我日本武術講習會之教師也。其爲技，琢磨鍛練，絕妙入神，世人無不歎賞，故所其教示，一々中肯綮，苟欲學武術者，一讀此書，在先生膝下，如受教授，遂達其技，所不容疑也。井口君編成此書，非無故，君以書籍刊行，爲本業，傍

學天神真揚流柔術，迨其技益進，又學諸流居合及劍舞劍棒，皆達其術。現今，在我教場，爲屈指教師，以所已欲施于人乎。從來刊行書籍，雖有巨多，係武道之書者，尤多，列舉其書目，柔術劍棒圖解，武道圖解秘訣，警視形拳法，教範圖解等，專行於世，良教書也。其他類之書，一々難揭載，君雖商賈，頗有慷慨氣象，刊行書冊，素不貪利，勉在欲益世人也。故其刊行之書，無不一而有益之書，編成此書也。齋藤先生感其篤志，發所不傳他人之秘訣，而授之，無一所隱秘，兩篇志家相待，而編成一編書，其爲良教書，不待言可知也。此書頒行于世，洛陽紙價頓貴，所預期也。予於兩君，有高誼，今此書成也，不能默，吐露衷情，題卷末云。

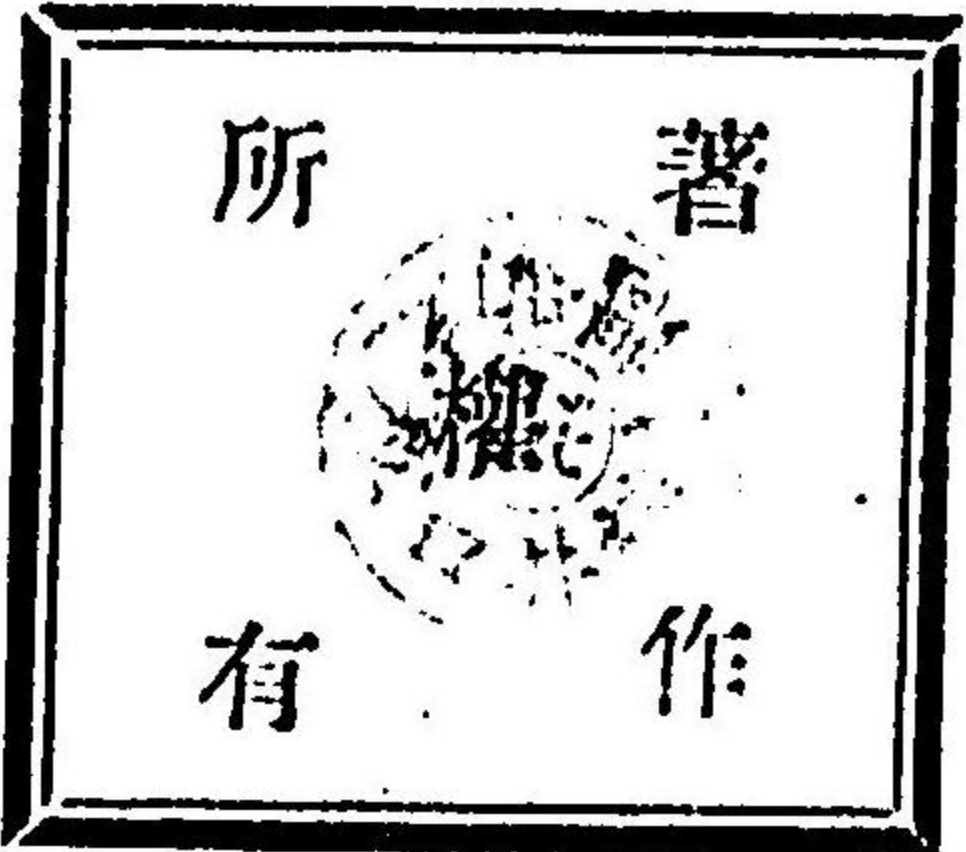
明治三十四年首夏

大日本武術講習會々長

津田官治朗撰

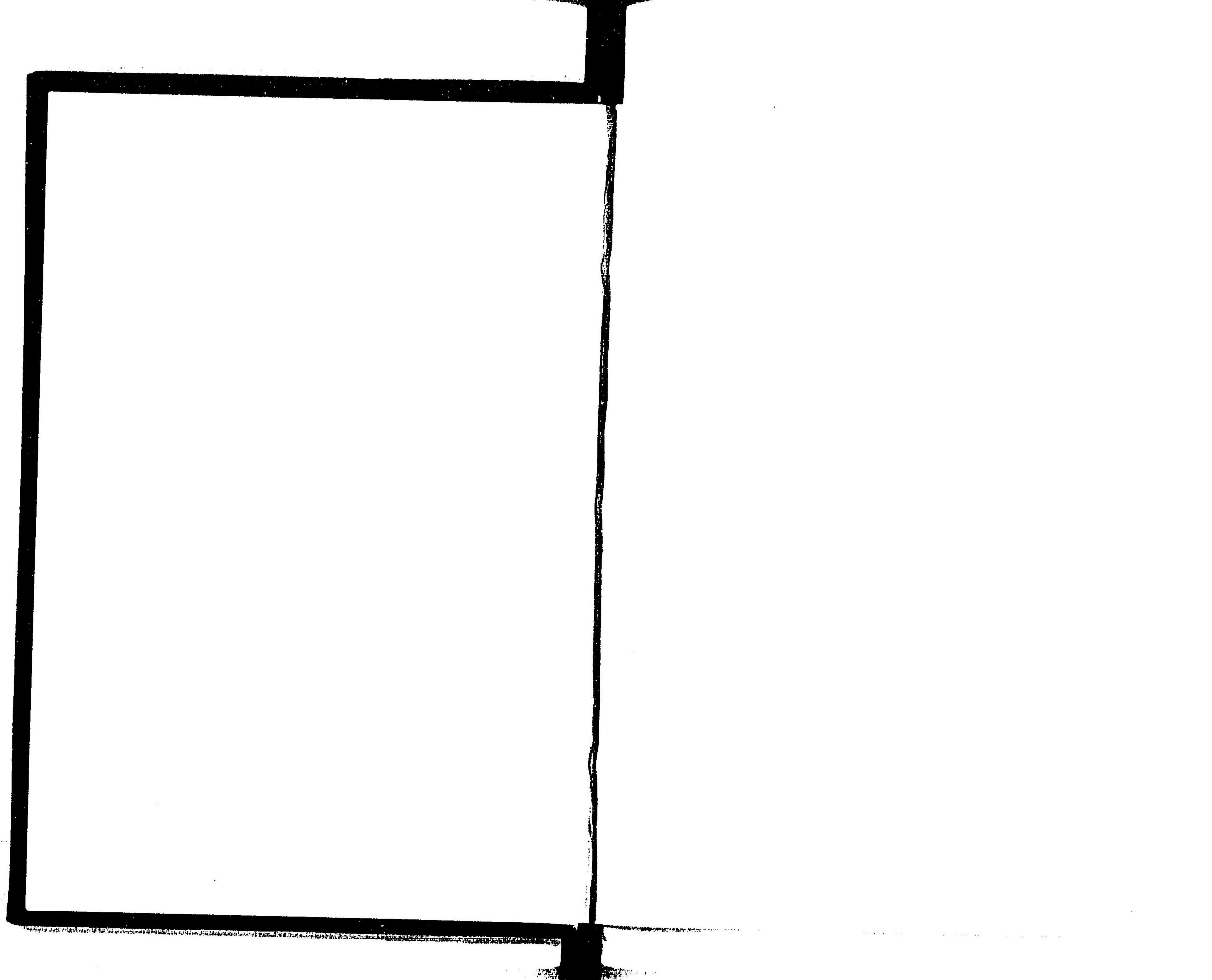
明治三十四年六月一日印刷
全三十四年六月八日發行

定價金壹圓



全	全	發	印	印	發	著
全	發	賣	刷	刷	行	者
所	所	所	者	者	者	者
青	青	井	嵩	青	井	齋
木	木	口	山	木	口	藤
嵩	嵩	魁	堂	恒	松	明
山	山	眞	印	三	之	信
堂	堂	書	刷	郎	助	
電話	電話	樓	所			
四	四					
東	東					
二	二					
五	五					
〇	〇					
番	番					

2-149





88
145

075259-000-0

88-145

直真影流劍術極意教授図解

斎藤 明信 / 著

M34

CEM-0169



